

東京大学 東洋文化研究所 活動報告書

2012 年度～ 2014 年度（平成 24 年度～ 26 年度）

東京大学
東洋文化研究所
活動報告書

2012 年度～2014 年度（平成 24 年度～26 年度）

目次

1. 2012年度から2014年度までの自己評価	1
(1) 人の移動と交流に関わる方策.....	1
(2) 情報の発信と共有に関わる方策.....	3
【新しい世界史／グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築】.....	3
【自己点検・自己評価】.....	4
2. 沿革	6
3. 組織	8
(1) 組織構成図.....	8
(2) 現教職員（2014年10月1日現在）.....	9
4. 研究活動	11
(1) 部門研究.....	11
(2) 研究テーマ（2014年度）.....	12
(3) 教員個人業績.....	14
① 汎アジア部門.....	14
② 東アジア部門（第一）.....	44
③ 東アジア部門（第二）.....	64
④ 南アジア部門.....	75
⑤ 西アジア部門.....	89
⑥ 新世代アジア部門.....	108
⑦ 国際学術交流室.....	132
⑧ 情報・広報室.....	146
(4) 班研究・研究協力者一覧（2014年現在）.....	149
(5) 定例研究会.....	159
(6) 東文研シンポジウム.....	159
(7) 東文研セミナー.....	160
(8) 最終研究発表会・離任研究会.....	163
(9) その他.....	164
5. 教育活動	164
(1) アジア諸大学との合同サマープログラムの実施.....	164
(2) プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト.....	165
(3) スーパーグローバル大学創成支援に係る戦略的パートナーシップ構築プロジェクト (シカゴ大学).....	167
(4) 大学院教育.....	170
(5) 学部担当.....	171

6. 国際学術交流	172
(1) 交流協定締結機関.....	172
(2) 復旦大学文史研究院・東京大学東洋文化研究所・プリンストン大学東アジア学部 (F-T-P) 学術交流コンソーシアム.....	172
(3) 台湾中央研究院社会学研究所との学術交流.....	180
(4) 北京大学歴史学系との学術交流.....	181
(5) 国際総合日本学ネットワーク (GJS : Global Japan Studies)	181
(6) フランス社会科学高等研究院 (EHESS) CNRS (フランス国立科学研究センター)	182
(7) 成均館大学校東アジア学術院・京都大学人文科学研究所・東京大学東洋文化研究所 共催学術シンポジウム.....	183
(8) 東大フォーラム 2013 への参加.....	185
(9) 外国人研究員等の受け入れ.....	188
7. 図書室	196
(1) 蔵書の沿革.....	196
(2) アジア研究図書館.....	196
(3) 貴重図書の保存・複製.....	196
(4) 図書の利用状況.....	198
◆蔵書数 (2015年3月現在)	198
◆受入数.....	199
◆本学オンライン蔵書目録 (OPAC) 言語別所蔵レコード数 (図書) (2015年3月現在)	199
◆本学オンライン蔵書目録 (OPAC) 言語別所蔵タイトル数 (雑誌) (2015年3月現在)	199
◆所蔵図書コレクションの追加.....	200
8. アウトリーチ活動	201
(1) 公開講座.....	201
(2) 1階ロビー展示.....	201
(3) 高校生のためのオープンキャンパス.....	202
(4) 東大の研究室をのぞいてみよう! ~多様な学生を東大に~.....	202
(5) コーヒーサロン.....	202
9. 東洋学研究情報センター	203
(1) 東洋学研究情報センターシンポジウム.....	204
(2) 東洋学研究情報センターセミナー.....	204
(3) 共同利用・共同研究拠点 共同研究課題 (公募) 採択一覧.....	204
10. 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET)	206

東文研・ASNET 共催セミナー	206
1 1. 日本学術振興会特別研究員の受け入れ	211
1 2. 財政	213
1 3. 情報・広報室（ネットワーク関係）	214
1 4. 画像技術室	214
1 5. 刊行物一覧	214
(1) 東洋文化研究所研究報告	214
(2) 東洋文化研究所叢刊	214
(3) 東アジア部門美術研究分野報告	215
(4) 東洋文化研究所紀要	215
(5) 東洋文化	217
(6) International Journal of Asian Studies	219
資 料	227
1. 主要所蔵図書コレクション	227
2. 主要所蔵資料	230
3. 歴代受賞者	232
(1) 文化勲章	232
(2) 文化功労者	232
(3) 学士院賞	232
4. 歴代所長	232
5. 名誉教授	234
6. 歴代事務長	235
7. 教職員の異動	235

1. 2012年度から2014年度までの自己評価

アジアに関わる多様な専門領域を持つ研究者が、自由な研究と相互の交流によって、分野横断的な新しい発想に基づく瑞々しい研究成果を生み出し、それぞれの立場から人類社会の発展に資することが、東洋文化研究所（以下「本研究所」という）の理想形態である。そこで、この理想形態を追及するために、次の2つの方向性のいずれかまたは双方を目指し、1) 人の移動と交流、2) 情報の発信と共有の2つの視点から諸点の実現に努めた。

- アジア諸地域を複数の角度から複数の方法によって研究し、人類と世界の過去と現在を理解する確かな手掛かりを得ること
- アジアに即した世界の過去と現在の理解に基づき、人類の課題解決に資する研究の体系を構築すること

本研究所が関わる国際研究ハブ拠点*は以下の5つである。

- (1) 所全体が東アジア歴史・文化研究拠点（継続的活動としては中国復旦大学文史研究院・米国プリンストン大学東アジア学部・研究所との学術交流コンソーシアム協定と韓国成均館大学校・京都大学人文科学研究所との三者共同シンポジウム）
- (2) 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）総長室直轄の部局横断型ネットワーク
- (3) 東洋学研究情報センター（共同利用・共同研究拠点と日本学術振興会アジア・アフリカ基盤形成事業「アジア比較社会研究のフロンティア」）
- (4) 国際総合日本学ネットワーク（本研究所（研究者ネットワークの形成と情報発信）と法学政治学研究科（横断型教育プログラム）が責任部局となり、国際本部が全面サポート）
- (5) 世界史／グローバルヒストリー共同研究拠点（プリンストン大学、フランス社会科学高等研究院、ドイツベルリン・フンボルト大学、ベルリン自由大学）（日本学術振興会研究拠点形成事業、平成26年度～30年度）

*「東京大学の行動シナリオ FOREST2015」（2010年策定の中期的ビジョン）の重点テーマ別行動シナリオとして掲げられたもので、「世界最高水準と認知されるハブ拠点」を50以上確保することを目標としている。

(1) 人の移動と交流に関わる方策

1) 研究所のミッション遂行に相応しい研究教育体制の追求

- 新世代アジア部門の設置とそれに伴う改組（2011.4.1）… アジア研究における新たな研

究対象、研究方法、研究分野を切り拓き、アジア研究の新たなビジョンを社会に向けて提示することを目的に、既存部門組織編成の見直しにより設置。当該部門の任期付教員はすべて国際公募でこれまで2名採用（2015.4.1採用予定1名）。

- 「国際学術交流室」の設置（2011.11）… 国際学術交流の促進のため、客員教授（1名）、准教授（1名）、助教（年俸制2名・特任1名）を配置。「行動シナリオ」に掲げた「国際研究ハブ拠点」を5拠点設置（東アジア歴史・文化研究拠点、日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）、東洋学研究情報センター、国際総合日本学ネットワーク、世界史／グローバルヒストリー共同研究拠点）し、国際学術交流室教員を中心に担当教員をそれぞれ配置。
- 「情報・広報室」の設置（2013.1）… 所内の情報システムの管理・運用、研究・教育情報の効果的発信のため、専任の助教（1名）を配置。
- 班研究の実施… 各専門分野の研究とネットワーク化を推進するため所外の研究者と共同研究を実施。

2）現行人事や教員評価制度の不断の見直し

- 自己評価・点検 … 教授昇任時の業績評価並びに昇任理由、教授55歳時点の業績の総括、自己点検・評価、評価委員会による評価をホームページに公開。

3）学内、国内外の優秀な研究者を一定期間受け入れ、自由な研究の場の保障と所員との交流による良質な学問的成果を生み出す環境の整備

- 「新世代アジア部門の設置に伴う著名外国人教員ポスト（恒久）」として教員人件費の措置を受け、2012年4月以降2名（英国東洋アフリカ研究所及び米国プリンストン大学東アジア学部）を新世代アジア部門に客員教員として招聘。
- 国際学術交流室の室員として外国人客員教授1名を採用し、年2回発行の国際学術雑誌「International Journal of Asian Studies」（英文）の編集・刊行を担当。

4）協定を締結している海外有力大学との国際シンポジウムの定期開催と成果の刊行、教員・研究員などの相互交流事業による連携強化

- 復旦大学文史研究院・プリンストン大学東アジア学部・研究所との学術交流コンソーシアム協定締結、合同国際シンポジウムを開催（2010年6月～4回）、プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクトによる学部生の教育交流（2013年度～）、フランス社会科学高等研究院（EHESS）及びハーバード Yenching Institute との教員交流（2014年度～）、成均館大学校・京都大学人文科学研究所共催合同シンポジウム（2010年度～5回）など。

5）ポストドク・レベルの若手研究者の育成

- 訪問研究員の受入れ（2012年度から2014年度108名）、アジア研究情報 Gateway において、研究エッセイ投稿呼びかけによる研究成果公開の機会提供

(2)情報の発信と共有に関わる方策

1) 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) との連携による学内におけるアジア研究の窓口機能と情報共有の場の提供

- アジア理解を深めるための部局横断的な大学院カリキュラム「日本・アジア学教育プログラム」(2010~2014年度平均:総合科目群 38科目、言語科目群 103科目)、学内外の研究者の分野間交流を進める ASNET 共催セミナー(2012年4月~2015年2月66回開催)、アジアに関連するシンポジウムや研究会の情報を紹介するメールマガジン(2005年1月から毎週金曜日発信。2015年3月現在 533回、登録者数 1,333名)、ウェブサイト(2015年3月現在アクセス数計 634,758回)の発信。

2) 東京大学における日本学研究ネットワークのハブ機能を果たし、国際日本学分野の構築推進をはかる。

- 学内外及び海外の日本学研究者間の情報共有ネットワーク「国際総合日本学ネットワーク」を構築、その研究部門を担い海外を含む学内外研究者による講演会を6回、セミナーを8回を2015年3月末までに開催、教育部門では、本学学部後期課程学生をメインとした部局横断型「国際総合日本学教育プログラム」の開設に尽力。

3) 共同利用・共同研究拠点としての東洋学研究情報センター事業の高度化と保有する各種情報の積極的な発信と有効活用

- 公募研究の実施(2010年度より12プロジェクトを採択、実施)、機関推進プロジェクトの実施(2009年度より25プロジェクトを採択、実施)、ニューズレター「明日の東洋学」、センター叢刊、Webマガジン「アジア研究情報 Gateway」(日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化、発信)。

4) アジア研究の拠点として、関連研究分野の文献・資料・データを安定的に収集して整理・保存・公開を進め、対外的な情報発信を積極的に進める

- アジア諸言語資料からなるコレクション収集等による蔵書の充実(図書 684,562冊(うちアジア諸言語資料は60%)、雑誌 9,879種類(うちアジア諸言語資料は46%)、両紅軒文庫(漢籍)など2009年以降8文庫の収集)、貴重資料に関する講演会・展示会の実施及び関連書籍の刊行、遡及的な目録電子化等による公開促進、漢籍整理長期研修の実施(1980年度から年1回)による全国の所蔵機関への支援を実施。

【新しい世界史／グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築】

日本学術振興会研究拠点形成事業の助成を受け、平成26年度から5年計画で、新しい世界史／グローバル・ヒストリーに関する国際的な教育研究ネットワークを構築する事業が開始された。本研究所は、このネットワークの日本における拠点となり、プリンストン大学、フランス社会科学高等研究院(EHESS)、ベルリン・フンボルト大学(ベルリン自由大学が協力機関となる)の海外3拠点と共同で、新しい世界史／グローバル・ヒストリーに関する

多彩な教育研究活動を国際的に展開していく。拠点の責任者は、羽田正教授で、黒田明伸教授、鍾以江准教授がメンバーとして参加している。

この事業の主要な活動を以下で紹介する。

1. 研究者の交流

4つの拠点に所属する研究者（PDを含む）が、他の拠点を訪れ、一定期間滞在し研究報告を行うなどして、研究交流を飛躍的に深化させる。平成26年度には、本拠点からプリンストン、パリ、ベルリンの3拠点に複数の研究者が訪れ、研究セミナーやワークショップを開催して交流を深めた。また、プリンストン大学、EHESSE、ベルリン・フンボルト大学の研究者が本研究所を訪れ、セミナーが開催された。

2. 大学院生の派遣と受入

4つの拠点に所属する大学院生を、一定期間（3ヶ月から1年程度）他の拠点に派遣しあっている。学生は他の拠点の授業に出席して関連する分野の教員による指導を受け、より広い視野から博士論文の執筆に取り組む。平成26年度には、ベルリン自由大学に学生を一人派遣し、プリンストン大学から3名、EHESSE、ベルリン・フンボルト大学から各2名の大学院生を受け入れた。これらの学生は、羽田正教授の大学院授業に出席して東京大学の大学院学生と交流し、彼らのために開催された研究セミナーで報告し、本拠点のメンバーから多くの有益なアドバイスを得た。

3. 合同研究セミナーの開催

4つの拠点の研究者が一堂に会し、新しい世界史／グローバル・ヒストリーの研究方法に関わる問題を討議するセミナーを開催した。平成26年度はベルリンで歴史研究者の立場や用いる言語に関するセミナーを開催した。平成27年度はパリで歴史研究における規模や尺度についての意見交換会を開催する予定である。

4. サマースクールの開催

4つの拠点の大学院生が、あらかじめ定められたテーマに関わる自らの研究の概要を説明し、その内容についてシニアの研究者を含む出席者が意見と情報の交換を行う。この企画は平成27年度から開始予定で、第1回のサマースクールは本研究所で開かれる。

以上の様々な活動は、本事業のウェブサイトですべて報告される：

<http://coretocore.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

【自己点検・自己評価】

本研究所の教授が55歳となった年度に、それまでの業績を総括し、今後の展望を語る会合を持ち、本人の自己点検・評価と評価委員会による評価を行なうことになっている。2012年度から2014年度にかけて行なわれた自己点検・評価セミナーは次の通りである。

黒田明伸教授（2012.12.13）「通貨と信用の代替性と補完性—中、日、英の比較史より（貨幣史研究の軌跡）」

高橋昭雄教授（2013.01.17）「キーワードから考えるミャンマー農村」

高見澤磨教授（2013.10.10）「中国法研究序説：紛争・法源・近代法史・入門」

大木康教授（2013.12.12）「中国明清時代における通俗文藝と知識人」

また、教授昇任に伴う評価は本研究所ホームページに掲載されている。

板倉聖哲准教授（2013.1.1 付）

名和克郎准教授（2013.10.16 付）

中島隆博准教授（2014.4.1 付）

佐藤仁准教授（2014.9.1 付）

2. 沿革

【研究部門】

本研究所は1941年11月26日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設された。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足した。1949年、新たに3部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の6部門に再編成した。同時に、本拠を文京区大塚町、外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかった。

ついで1951年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられた。これを契機として、従来の専門体系のみによる部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加えた8部門に再編成した。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960年には南アジア政治・経済部門、1964年には東北アジア部門、1968年には西アジア歴史・文化部門、1973年には東南アジア経済・社会部門、1978年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13部門を擁するにいたった。

その後、アジア地域全体が世界の中で占める重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となった。そこで、1981年に新しい構想に基づく大部門制を採用し、それまでの13部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の4部門に統合して再出発した。さらに、2011年にはアジア研究における新たな研究対象、研究方法、研究分野を切り拓き、アジア研究の新たなビジョンを社会に向けて提示することを目的に、新たに新世代アジア部門が設置された。

2011年には国際学術交流を促進するため、国際学術交流室が設置された。国際学術交流室の主な業務は、(1) 英文学術雑誌（*International Journal of Asian Studies*）の *managing editor* として、編集や英文校閲などの編集・刊行に関連する業務、(2) 研究所と学術交流協定等を締結している諸機関との全所的な交流推進に関して必要な業務、(3) 国際日本学分野の構築・推進に関して必要な業務などである。それらの業務を行うため、英文雑誌担当、交流推進担当、構築推進担当、学術交流担当が置かれた。

2013年には本研究所のコンピュータ・ネットワーク・システムを適切に管理・運用するとともに、本研究所の各種情報を効果的に発信するための広報活動に従事し、その発展に寄与することを目的として、情報・広報室が設置された。

【附属東洋学研究情報センター】

1999年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という2つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設された。1966年の設立以来、東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれている。また、本センターの新設に伴い、絵画・考古資料を対象とする造形資料学分野が設けられ、さらに2009年度からアジアの社会調査資料を対象とするアジア社会・情報分野が増設された。2009年6月には、本センターが文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、2010年度からは全国の関連研究者コミュニティに対してより開かれたセンターとしての活動を開始している。

【建物】

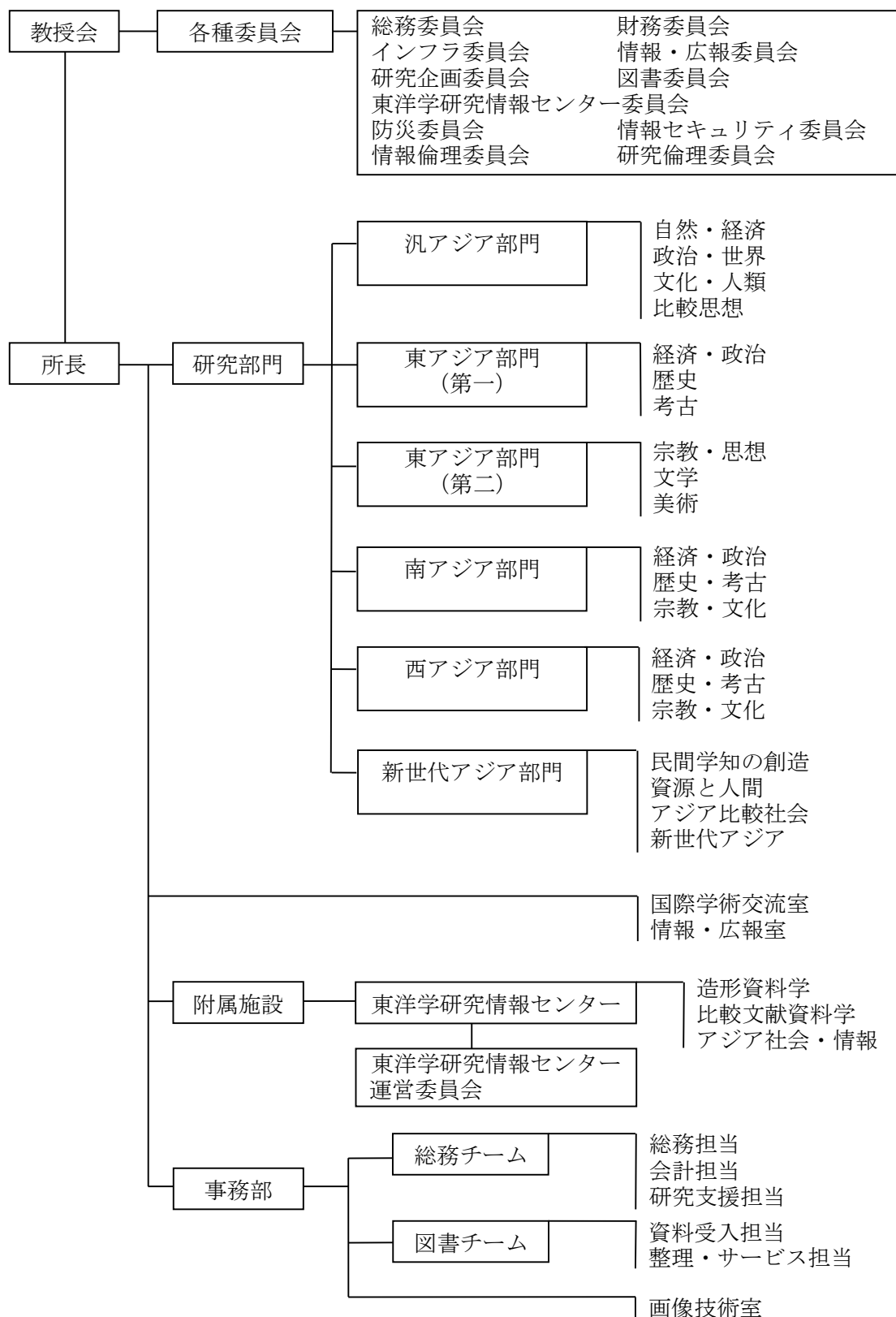
創立以来23年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままだったが、1967年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5階以上を本研究所が使用することになった。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などに伴い、狭隘な施設の改善、特に書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983年に至って総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになった。これに伴って全面的に改修工事を行い、1984年3月に工事が完成した。本研究所の建物は総面積6,577平方メートル、地下1階より地上8階までの9層からなる。

2006年2月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年7月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007年8月から耐震補強・改修工事を開始し、2008年3月に工事は完了した。

3. 組織

(1) 組織構成図



(2)現教職員 (2014年10月1日現在)

所長 高見澤磨

副所長 菅豊

汎アジア部門	自然・経済	教授	松井健
		教授	池本幸生
		講師 (兼)	卯田宗平
	政治・世界	委嘱教授	田中明彦
		教授 (兼)	松田康博
	文化・人類	教授	名和克郎
東アジア部門 (第一)	経済・政治	教授	高見澤磨
		教授	安富歩
	歴史	教授	黒田明伸
		教授 (兼)	真鍋祐子
	考古	教授 (兼)	平勢隆郎
		准教授	小寺敦
東アジア部門 (第二)	宗教・思想	教授	中島隆博
	文学	教授 (兼)	大木康
	美術	教授	板倉聖哲
南アジア部門	経済・政治	教授	高橋昭雄
		准教授	青山和佳
	歴史・考古	准教授	古井龍介
	宗教・文化	准教授	馬場紀寿
西アジア部門	経済・政治	教授	長澤榮治
	歴史・考古	教授	羽田正
		教授	榊屋友子
	宗教・文化	教授	鎌田繁
		准教授	森本一夫
新世代アジア部門	民間学知の創造	教授	菅豊
	資源と人間	教授	佐藤仁
	アジア比較社会	教授 (兼)	園田茂人
	新世代アジア	客員教授	Elman Benjamin Abraham
		准教授	Michael Schiltz
	准教授	李賢鮮	

東洋学研究情報センター

センター長 高見澤磨

副センター長 長澤榮治

造形資料学分野

教授

平勢隆郎

教授(兼)

板倉聖哲

比較文献資料学分野

教授

大木康

教授(兼)

高見澤磨

教授(兼)

長澤榮治

教授(兼)

名和克郎

アジア社会・情報分野

教授(兼)

園田茂人

教授(兼)

松田康博

国際学術交流室

客員教授

Chard Robert Lawrence

准教授

鍾以江

助教

後藤絵美

助教

張馨元

特任助教

井戸美里

情報・広報室

助教

藤岡洋

事務部門

事務長

松井潤一

副事務長(総務チームリーダー)

高橋博行

主査(図書チームリーダー)

石川一樹

総務チーム

— 総務担当

— 会計担当

— 研究支援担当

図書チーム

— 資料受入担当

— 整理・サービス担当

画像技術室

4. 研究活動

(1) 部門研究

汎アジア部門	アジア諸地域における社会・文化の変容過程
東アジア部門（第一）	東アジアにおける国家権力と社会経済構造
東アジア部門（第二）	東アジアにおける多元的文化の形成と展開
南アジア部門	環ベンガル湾地域における文明・文化の交錯
西アジア部門	西アジア文化の歴史的形成と現代的課題
新世代アジア部門	アジアに関する新たな研究領域の開拓
東洋学研究情報センター	アジア資料学の構築

(2) 研究テーマ (2014 年度)

部門	氏名	研究テーマ
汎アジア	松井健	文化としての自然
	池本幸生	アジアにおける貧困と不平等
	卯田宗平	アジアにおける自然と技術、現代中国論
	田中明彦	東アジアをめぐる主要国間の国際政治
	松田康博	中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論
	名和克郎	ネパールおよび南アジアの集団間関係
東アジア (第一)	高見澤磨	現代中国の法と社会
	安富歩	魂の脱植民地化
	黒田明伸	東アジア経済史
	真鍋祐子	朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム
	平勢隆郎	中国古代領域国家の形成
	小寺敦	中国古代家族史
東アジア (第二)	中島隆博	東アジアの比較哲学
	大木康	中国明清時代の文学
	板倉聖哲	宋元文人の絵画表象
南アジア	高橋昭雄	東南アジアの農村社会
	青山和佳	東南アジアの経済と宗教
	古井龍介	南アジア古代・中世初期史
	馬場紀寿	上座部仏教の思想と歴史
西アジア	長澤榮治	近代アラブ社会経済史
	羽田正	世界史の再構築
	梶屋友子	イスラーム地域における美術と社会
	鎌田繁	イスラーム宗教思想の構造と展開
	森本一夫	ムスリム諸社会の宗教社会史
新世代アジア	菅豊	東アジアの自然と文化
	佐藤仁	資源と人間
	園田茂人	「動くアジア」の比較社会学
	Elman Benjamin Abraham	東アジアにおける中国明清文化史
	Michael Schiltz	東アジアにおける第二次大戦前の為替銀行の役割
	李賢鮮	アジアの国際移動、社会福祉と市民社会
国際学術交流室	鍾以江	東アジアの宗教、自由主義とナショナリズム
	後藤絵美	現代におけるイスラームの理解と実践
	張馨元	中国の食糧需給と貿易体制の変化
	井戸美里	東アジアにおける美術と儀礼
	Chard Robert Lawrence	東アジア文化史

情報・広報室	藤岡洋	デジタルコンテンツの継承と展開
東洋学研究情報 センター	平勢隆郎	研究所蔵考古建築資料の整理と研究
	大木康	漢籍版本目録学の研究
	板倉聖哲	東アジア美術造形資料の研究
	高見澤磨	我妻榮氏関係資料の研究
	長澤榮治	アラビア語文献に関する歴史的考察
	名和克郎	ヒマラヤ地域の文献・口承
	園田茂人	アジア地域を対象にした比較社会学的研究
	松田康博	中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論

(3) 教員個人業績

① 汎アジア部門

松井健 MATSUI, Takeshi

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ 文化としての自然



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1972年 京都大学理学部卒業

1974年 京都大学大学院理学研究科動物学専攻修士課程修了

1976年 京都大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程退学

1980年 理学博士（京都大学）

【職歴】

1976年 京都大学人文科学研究所 助手

1983年 神戸学院大学教養部 助教授

1990年 神戸学院大学人文学部 助教授

1991年 神戸学院大学人文学部 教授

1992年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1994年～2015年 東京大学東洋文化研究所 教授

2015年 定年により退職

【受賞歴】

1984年 日本民族学復興会「第15回 渋沢賞」

II. 取り組んでいるテーマ

アジアの工芸の拡散と変容：商品ではあるが、あまり商品らしくない動きをする工芸を手がかりにして、経済の文化的側面を照明すると同時に、グローバル化とローカルなものとのかかわりを分析し、あわせて、工芸が地域社会においてもっていた意味を明らかにすることから、今後のポテンシャルについて考察する。

III. 班研究

- ・ サブシステム研究の可能性

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 「商品としての工芸の経済的転位と付加価値の研究」 (2013～2015 年度)
- ・ 基盤研究 (B) 「工芸の生産・流通・消費とグローバリゼーション--新しい「工芸の人類学」の構想」 (2009～2012 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本文化人類学会
- ・ 生態人類学会
- ・ 日本民族学会理事
- ・ 沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員
- ・ 国立地域研究企画交流センター共同研究員
- ・ 総合地球環境学研究所共同研究員
- ・ 国立民族学博物館研究協力者 (2004～2014 年度)
- ・ 日本学術振興会 (科学研究費委員会専門委員) (2013 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科地域文化研究専攻
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

松井健 『民藝の擁護』 里文出版、2014.

松井健 『金城次郎とヤチムン』 榕樹書林、2014.

【編著】

松井健 野林厚志 名和克郎 編 『生業と生産の社会的布置—グローバリゼーションの民族誌のために—』 国立民族学博物館論集 1、岩田書院、2011.

【学術論文】

- 松井健「ネパール・カトマンドゥ盆地の陶器焼成窯——その焼成窯進化上の位置をめぐって——」『アジア工芸の<現在>——工芸と人類学の基礎研究——』、東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター共同研究報告(2012)、44-50.
- 松井健「序章 『生業と生産の社会的布置』と民族誌という企図」『生業と生産の社会的布置——グローバリゼーションの民族誌のために——』、国立民族学博物館論文集 1、岩田書院(2012)、5-25.
- 松井健「スーヴニールの交錯とダイナミズム——アジア工芸の拡散変容の一側面——」『生業と生産の社会的布置——グローバリゼーションの民族誌のために——』、国立民族学博物館論文集 1、岩田書院 (2012)、239-268
- 松井健「パキスタン——民族の地政学——」『朝倉世界地理講座 4 南アジア』、朝倉書店 (2012)、242-251.
- 松井健「美しいものと宗教的なもの——プリミティブ/エスニック・アートから考える——」『信仰と美のかたち——可視化された神の像——』、里文出版 (2013)、18-34.
- 松井健「晩年の柳宗悦と古丹波——その『自然』をめぐる思索——」『紫明』、丹波古陶館第 35 号 (2013)、2-6.
- 松井健「書の工芸性についての補論」『民藝』第 745 号 (1 月号)、日本民藝協会 (2015)

【エッセイ・試論など】

- 松井健「民藝の未来形——試論と提案—— (上)」『民藝』第 712 号 (4 月号)、日本民藝協会 (2012)、57-61.
- 松井健「民藝の未来形——試論と提案—— (下)」『民藝』第 713 号 (5 月号)、日本民藝協会 (2012)、45-49.
- 松井健「アジアのなかの沖縄の工芸——焼物を手がかりに考える——」『人文・社会科学を主体とした先端的琉球・沖縄学の次世代研究者の育成・研究推進プロジェクト 成果報告』、琉球大学国際沖縄研究所 (2012)、323-364.
- 松井健「人類学とアフリカを『生きた』旅人」『生態人類学ニュースレター』第 20 号 別冊「特集：掛谷誠先生追悼」、生態人類学会 (2014)、2-3.

【報告・レポート・コメントなど】

- 松井健 窪田幸子 共編著『アジア工芸の<現在>——工芸と人類学の基礎研究——』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター共同研究報告 (2012)
- 松井健「旅苞がたり 連載第 1 回 『幸福のエチオピア』から」『目の眼』436 号(1 月号)、里文出版(2013)、58-61.
- 松井健「旅苞がたり 連載第 2 回 光と色のラージャスターン」『目の眼』437 号(2 月号)、

里文出版(2013)、62-65.

松井健「旅苞がたり 連載第3回 ラージャスターンの銀の装身具」『目の眼』438号(3月号)、里文出版(2013)、82-85.

松井健「旅苞がたり 連載第4回 民俗のヨーロッパ」『目の眼』439号(4月号)、株式会社目の眼(2013)、52-55.

松井健「旅苞がたり 連載第5回 つながりとしての沖縄民藝」『目の眼』440号(5月号)、株式会社目の眼(2013)、54-57.

松井健「旅苞がたり 連載第6回 バンコクに始まる」『目の眼』441号(6月号)、株式会社目の眼(2013)、48-51.

松井健「旅苞がたり 連載第7回 花綵のインドネシア」『目の眼』442号(7月号)、株式会社目の眼(2013)、62-65.

松井健「旅苞がたり 連載第8回 インテリアのレッスン」『目の眼』443号(8月号)、株式会社目の眼(2013)、58-61.

松井健「旅苞がたり 連載第9回 『物をぱくぱくと』」『目の眼』444号(9月号)、株式会社目の眼(2013)、56-59.

松井健「旅苞がたり 連載第10回 古物のワンダーランド」『目の眼』445号(10月号)、株式会社目の眼(2013)、62-65.

松井健「旅苞がたり 連載第11回 リチョウ?ノー・モア!」『目の眼』446号(11月号)、株式会社目の眼(2013)、74-77.

松井健「旅苞がたり 連載第12回 さらなる旅へ」『目の眼』447号(12月号)、株式会社目の眼(2013)、68-71.

松井健「生業、生産、労働」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』、丸善出版株式会社(2014)、400-401.

松井健「工芸と職人」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』、丸善出版株式会社(2014)、414-415.

【書評論文・書誌紹介】

松井健「書評 高倉浩樹・曾我亨共著『シベリアとアフリカの遊牧民—極北と砂漠で家畜とともに暮す—』」『図書新聞』第3080号(9月29日号)2012、第4面.

【事典等項目】

松井健「民芸」「民芸品」木村茂光ほか編『日本生活史辞典』、吉川弘文館、2014.

池本幸生 IKEMOTO, Yukio

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ アジアにおける貧困と不平等

個人ホームページ：<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto>



I. 略歴

【学歴】

1980年 京都大学経済学部経済学科卒業

1993年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

1980年～90年 アジア経済研究所 研究員

1990年～98年 京都大学東南アジア研究センター 助教授

1998年～2002年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2010年～現在 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク 副ネットワーク長

2011～2013年 東京大学東洋文化研究所 副所長

II. 取り組んでいるテーマ

アマルティア・センのケイパビリティ・アプローチの応用に関する研究：人の暮らしの良さは所得だけでは測れない。人が「何をできるか」「どんな状態になれるか」に着目するのが「ケイパビリティ・アプローチ」である。それを様々な分野で応用し、その有効性を示すことが現在の中心的な研究課題である。

応用分野：発展途上国の貧困問題、日本の不平等問題、貧困対策としての観光開発、サステナブル・コーヒーに関する研究

III. 班研究

- ・ アジアの貧困と不平等の再検討
- ・ アジアの食文化と開発と地域

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（C）「貧困削減における社会的企業のグローバルな役割：理論と実証」（2010～2012年度）
- ・ JSPS『アジア・アフリカ学術基盤形成事業』「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」（コーディネーター）（2011～2013年度）

- ・ グレーター東大塾『新しいアジアの形を構想する』（副塾長）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 国立民族学博物館 共同研究員（表象のポリティックス）2013～2015年度
- ・ 立命館大学先端総合学術研究科（論文審査委員）2012年度
- ・ 大阪府教育委員会（府立三国丘高等学校グローバルハイスクール運営指導委員会委員）2014～2017年度
- ・ 西大和学園中学校高等学校（グローバルハイスクール事業の事業協力委員）2014～2018年度
- ・ 高校生のためのオープンキャンパス 2012「コーヒーを通して世界を見よう！」2012年8月7日
- ・ 「学生向けコーヒーセミナー」2013年8月6日
- ・ 「東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～」2013年8月7日「アジアの経済と文化」、2013年12月21日 模擬講義担当
- ・ 高校生のためのオープンキャンパス 2013「コーヒーを通して世界を見よう！」2013年8月8日
- ・ 高校生のための東京大学オープンキャンパス 2014「ベトナム・コーヒーを飲もう！」2014年8月6日
- ・ コーヒーサロン：サステナブル・コーヒーを普及させるための一般向け講演会。2005年3月に開始し、10年目を迎え、42回開催した。この間、東大の他、福岡、神戸、金沢、各務原市（岐阜県）、名古屋、静岡市、札幌でも開催した。

(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto/sub3.htm>)

2012年度から2014年度までの開催は以下の通りである。

- 第28回「インスタントコーヒー—製造技術の秘密—」2012年6月16日 東京大学東洋文化研究所
- 第29回「ドリップの世界」2012年8月22日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室
- 第30回「アフリカ産の認証コーヒーの話」2012年9月24日 東京大学東洋文化研究所
- 第31回「手焙煎：「こつ」の科学」2012年12月2日 文京区 アカデミー向丘
- 第32回「ルワンダ・コーヒー：涙を越えて」2013年5月30日 JICA 関西講堂
- 第33回「ルワンダ・コーヒー：涙を越えて」2013年7月27日 JICA 東京国際センター講堂
- 第34回「コーヒーで世界は変えられる」2013年8月21日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室
- 第35回「ルワンダ・コーヒー：涙を越えて」2013年10月5日 JICA 中部/名古屋地球ひろば
- 第36回「コーヒーの残留農薬問題から見える日本の課題」2014年2月22日 東京大学東

洋文化研究所

- 第 37 回「コーヒーサロン in 福岡 一杯のコーヒーをサステイナブルに」2014 年 3 月 30 日 メディカルシティ天神ビル
- 第 38 回「コーヒーの遺伝子からみる Seed to Cup」2014 年 3 月 28 日 東京大学東洋文化研究所
- 第 39 回「タイのコーヒーをもっとおいしくしたい！」2014 年 6 月 28 日 東京大学東洋文化研究所
- 第 40 回「進化するコーヒーを語ろう ～ From Seed to Cup」2014 年 8 月 20 日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室
- 第 41 回「ルワンダ・コーヒー：涙を越えて」2014 年 10 月 4 日 アゴラ静岡 7 階 大会議室
- 第 42 回「みんなが知りたい、本当に美味しいコーヒー その真髄」2015 年 2 月 18 日 金沢市アートホール
- 第 43 回「コーヒーサロン in 北海道～ルワンダ・コーヒー、涙を越えて～」2015 年 3 月 21 日 札幌市教育文化会館

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ (協力講座) 農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻
- ・ (協力講座) 新領域創成科学研究科 国際協力学専攻
- ・ 「汎アジア経済論」(農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻) (夏冬)
- ・ 「地域間連関・交流論」(新領域創成科学研究科 国際協力学専攻) (夏)
- ・ 「開発経済学」(農学部) (冬)
- ・ 「アジアの経済開発」(工学部) (冬)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	8	7	9
博士課程	8	9	8
博士号取得者数			2

2. 本学以外での教育活動

- ・ 立命館大学文学部 (2009～2013 年度)「東南アジア特殊講義 I」(夏)

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

Rahman, Pk. Md. Motiur, Noriatsu Matsui and Ikemoto Yukio. *Dynamics of Poverty in Rural Bangladesh*: Springer, 2013.

【編著】

Ikemoto, Yukio, Koji Domon and Tran Dinh Lam, eds. *Small and Medium-sized Enterprises: The Way to Success*: VNU-HCM Publishing House, 2014.

【学術論文】

國分圭介・倉田正充・池本幸生 「世界の所得格差：国家間格差と国内格差」『統計』第 66 巻 第 2 号 (2015)、17-25.

Charoenphandhu, N. and Ikemoto, Y. "Income Inequality and Sustainability: A Case Study in the Northeast of Thailand." *The International Journal of Environmental, Cultural, Economic, and Social Sustainability*, 2014.

Ponluksanapimol, R. & Y. Ikemoto. "Development toward Sustainable Tourism: A Case Study of Nan Province, Thailand." *The International Journal of Social Sustainability in Economic, Social and Cultural Context* 9, no. 4, 2014.

Ponluksanapimol, R. & Y. Ikemoto. "The Effectiveness of Thailand's 7 Greens Initiative for Tourism Sustainability in Nan Province." *Journal of Tourism, Hospitality and Culinary Arts*, 5, no. 2 2014.

池本幸生 「ASEAN バロメーターと地域研究—総特集「ASEAN 諸国における健康と環境—草の根からの共同体実現にむけて」を読んで」『地域研究 総特集グローバル・スタディーズ』第 14 巻 第 1 号 京都大学地域研究統合情報センター (2014)、264-268.

Ikemoto, Yukio. "Roles of the SMEs in Japanese Development." *Small and Medium-sized Enterprises: The Way to Success*. Edited by Yukio Ikemoto, Koji Domon and Tran Dinh Lam: VNU-HCM Publishing House, 2014: 84-101.

Charoenphandhu, N. and Ikemoto, Y., "Income Distribution and Political Conflicts." *International Journal of Thai Studies*, 2013.

Yukio, Ikemoto. "Japan's Crisis from the Perspective of Amartya Sen's Idea of Justice." *East Asia in the Context of World/Global History* (2012): 439-440.

池本幸生 「アマルティア・センの『正義のアイデア』から見る日本の危機」『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』(2012)、262-271.

池本幸生 「从阿玛蒂亚·森的《正义的理念》看到的日本的危机」『世界史/全球史视野中的东亚』(2012)、159-167. (中国語)

Charoenphandhu, N. and Ikemoto, Y., "Income Distribution in Thailand: Decomposition Analysis of Regional Income Disparity." *Journal of Rural Economics* 2012: 387-394.

Kurata, Masamitsu and Yukio Ikemoto. "Decentralization and Economic Development in Thailand: Regional Disparity in Fiscal Capacity and Educational Decentralization." *Fiscal Decentralization and Development: Experiences of*

Three Developing Countries in Southeast Asia. Edited by Hiroko Uchimura:
PalgraveMacmillan, 2012: 171-201.

Pk.Md.Motiur Rahman, 松井範惇, 池本幸生 「Inter-Temporal Mobility of Poverty
Status in Rural Bangladesh」『帝京経済学研究』 第 45 卷 第 2 号 (2012)、67-83.
(英語)

倉田正充, 松井惇範, Rahman, Pk. Md. Motiur, 池本幸生 「バングラデシュ農村における多
元的貧困の動態」 『アジア経済』 第 53 卷 第 2 号 (2012)、2-20.

【新聞記事】

インタビュー「研究室散歩 @生産者の貧困問題」 『東京大学新聞』 2015 年 2 月 10
日、3、東京大学出版社.

池本幸生 「文匯学人: 理性民主的讨论是使社会趋近正义的有效手段」『文匯報』 2013 年 2
月 18 日、文匯新民联合报业集团.(中国語)

【事典等項目】

池本幸生 「連帯経済」 国立民族学博物館 編 『世界民族百科事典』丸善出版、2014、
606-607.

【口頭発表】

Ikemoto Yukio and Matsumoto Yuka. "The Role of Democracy in Local Autonomy:
Transcendental Institutionalism vs. Comparative Approach." Presented at the 1st
International Conference on Public Administration Khon Kaen University (KKU-
ICPA), Khon Kaen University, Thailand, August 28 2014.

Ikemoto Yukio. "Inequality in Japanese society." Presented at the UTokyo Forum 2013
Brazil, University of Sao Paulo, November 11 2013.

Ikemoto Yukio. "Economic Development and Conflicts in East Asia." Presented at the
UTokyo Forum 2013 Chile, Pontificia Universidad Catolica de Chile, November 8
2013.

Ikemoto Yukio. "ASEAN Economic Community (AEC) in a Wider Perspective." Presented
at the The Bank of Thailand, Northeastern Region Office, and Faculty of
Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University, Khon Kaen, Thailand,
June 13 2013.

池本幸生 「コメント: 小野寺史郎「近代中国における国恥概念」」東京大学東洋文化研究
所、京都大学人文科学研究所、成均館大学校学術院『アジアの「記憶」』東京大学東
洋文化研究所 2013 年 1 月 25 日.

池本幸生 「ベトナム・コーヒーは不味いのか？」東南アジア学会 (2012 年 6 月 3 日 京都

文教大学) パネル発表「お茶する」人々の文化誌

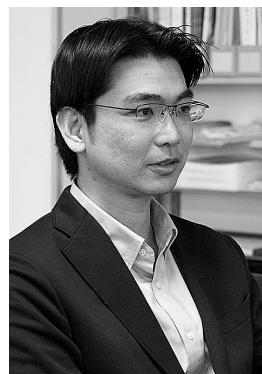
卯田宗平 UDA, Shuhei

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ アジアの自然と技術、現代中国論

個人ホームページ：

<http://homepage3.nifty.com/uda01/index.htm>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1998年 立命館大学産業社会学部産業社会学科卒業

2000年 立命館大学大学院理工学研究科修了

2000年 日本学術振興会特別研究員（DC1）

2003年 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻博士課程修了

2003年 博士（文学）（総合研究大学院大学）

【職歴】

2005年 日本学術振興会 海外特別研究員（海外 PD）

2005年～2010年 中央民族大学民族学社会学学院（中国） 滞在訪問学者

2008年 日本学術振興会 特別研究員（PD）

2011年～現在 東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET 機構）
東洋文化研究所（兼任） 特任講師

【受賞歴】

1998年 学部長表彰優秀賞卒業論文

2001年 日本造園学会発表論文優秀賞

2010年 日本文化人類学会奨励賞

II. 取り組んでいるテーマ

東アジアの自然と人間：人間普遍の行動パターン

東アジアのさまざまな環境条件あるいは社会的文脈に生きる人間集団を対象に、①自然や社会環境の変化と人びとの適応形態のダイナミズムを理解し、②複数の集団間でみられる普遍性やパターンを導き出すことを研究の目的としています。

現在は、中国大陸と日本列島を対象に、フィールド調査と空間情報技術を併用しながら、河川や湖沼、森林における環境の変化と在地の生業・健康転換のプロセスを研究しています。具体的には、自然や社会環境の変化が生活の現場にもたらしたインパクトと在地の人びとの対応の実際を村落と世帯レベルから検討しています。

これまでは、日本・琵琶湖における外来魚（オオクチバスやブルーギル）の移入と漁師たちの技術的な対応、高齢化が進む房総半島白浜の海女たちの生計のたて方、中国・海南島における焼畑禁止後のリー族の生活変容、漁場面積が季節的・時代的に大きく変化する江西省ポーヤン湖における鵜飼漁師たちの生計維持のメカニズムを事例として取り上げてきました。

今後は、地域や生業の違いを超えた比較的大きなスケールから各事例を捉えなおし、人びとの生き方の多様性や差異のなかにある普遍性や類似性を考察していきたいと考えています。このことではじめて、“人間とは何か”という人類学の問いに接近できると考えているからです。ただ、進むべき道は長いです。

【関連する業績】

- ・ "The Local Adaptation of Cormorant Fishers: A Case Study of Poyang Lake, China." *Japanese Review of Cultural Anthropology*
- ・ "The Behavior of Fishers after Implementation of the Project to Exterminate Nonindigenous Fish in Lake Biwa, Japan." *Human Ecology*
- ・ 「生業環境の変化への二重の対応-中国・ポーヤン湖における鵜飼漁師たちの事例から-」 『文化人類学』
- ・ 「湖水面積の季節的変動と鵜飼漁の存立メカニズム-中国江西省鄱陽湖における鵜飼漁の事例から-」 『日中社会学研究』
- ・ 「ヤマアテと GPS-技術を越境する漁師たち-」 『現代民俗誌の地平 1・越境』
- ・ 「イセエビ刺し網漁師の漁獲行動について」 『動物考古学』
- ・ 「琵琶湖における船上からの陸地景認識に関する研究」 『日本造園学会ランドスケープ研究』

【関連する講義科目】

教養学部：「人間と自然のこれから-アジアのフィールドから考える」（2011）

現代中国論：現代中国とは何か

現代中国をとらえる視点はさまざまなものがありますが、私は個々の生の営みに焦点をあて、そこから「現代中国とは何か」という問いを切り開いていきたいと考えています。個々の生の営みとは中国で農民や漁民として生きる人たちの生活や生業のことです。たとえば、中国で生業としておこなわれている鵜飼漁をみてみます。すると、鵜飼漁では一回の操業で多くの魚種が獲れますが、ほとんどの魚を市場で売り切ることができます。これは、内陸面積の広い中国において魚食文化（淡水魚を食べる文化）が発展しており、多くの魚種に商品価値があるからです。鵜飼漁という伝統的な生業は中国の魚食文化の裏打ちがなければ成立しません。

また、トナカイを飼養する人びとは、トナカイの角を販売することで生計を維持しています。これは、中国において漢方（中国では中薬と呼びます）文化が発展しており、角にもさ

さまざまな薬効があると考えられているからです。このように、ある生業を取りあげ、その生業が成り立つ背後にはどのような文化が存在するのかを考えています。

【関連する業績】

- ・「中国における環境史研究の可能性」『環境と歴史学』
- ・「村落の変化をどう捉えるか-中国・長江中流域の村落を中心としながら-」 『中国 21』
- ・「鵜飼い漁をめぐるポリティカル・エコロジー」 『国立歴史民俗博物館研究報告』
- ・「信息技术与环境问题研究-以 3S(GIS,GPS,RS) 技术与水环境问题为例」 『河海大学学报』
- ・「传统捕鱼法方式面临的挑战-以鸬鹚捕鱼为例」『我做田野 故我存在』

【関連する講義科目】

大学院総合文化研究科：「中国を見る眼」「現代中国論」

現代日本論：異文化を鏡にした自文化理解

人類学の目的のひとつに異文化を鏡にした自文化理解というのがあります。私たちにとって自文化はあまりにも当たり前すぎてなかなかその面白さや特異性に気付きません。

そうした私たちの自画像を他国の事例との相対化するという方法論によって描き出そうと考えています。

これまでは琵琶湖における生物多様性の問題、最近では長良川鵜飼いの事例や医療文化の事例を取りあげ、他国の事例と対比することで私たち日本人の自然に対する態度や行動規範を探っています。

【関連する業績】

- ・「地域環境問題と環境民俗学-「地域」環境問題から地域を読みなおす視点-」 『地域政策研究』
- ・「なぜ、いま環境史か?-魚と人をめぐる比較環境史-」『環境史研究の課題』
- ・「「両テンビン」世帯の人びと-とりまく資源に連関する複合性への志向-」 『国立歴史民俗博物館研究報告』
- ・「新・旧漁業技術の拮抗と融和」 『日本民俗学』

動物の馴致、それを裏打ちする文化

私たち人間は、原生野生種から特定の性質を意図的に選抜した家畜・家禽まで必要に応じて動物への関与に強弱をつけ、生業や生活の現場で活用しています。

例えば、海岸で捕獲した野生のウミウを使用する長良川鵜飼、人工の管理下で繁殖させたカワウを利用する中国の鵜飼い漁、貴族の娯楽・スポーツとして発展したヨーロッパの鵜飼、人間が繁殖には関与しないトナカイの飼養など。こうした動物と人間とのかかわり方は、その地域の動物相や生業形態、生活様式、利害関係などによって大きく規定されます。

今後は、アジア地域の動植物利用に関わる知識や技術（エスノ・サイエンス）を収集し、

人間と動植物の関係を裏打ちする社会経済的な背景を考察しています。また、アジアとヨーロッパの対比も視野に入れていきます。

【関連する業績】

- ・「この現代中国を、カワウと生きぬく」 『季刊民族学』
- ・「中国大陸の鵜飼い-漁撈技術の共通性と相違性-」 『日本民俗学』
- ・「ウを飼い馴らす技法-中国・鵜飼い漁におけるウの馴化の事例から-」 『日本民俗学』

Ⅲ. 班研究

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 若手研究 (B) 「中国大興安嶺における生業環境の変化とトナカイ飼養民の適応形態：1940-2010」 (2013～2015 年度)
- ・ 研究活動スタート支援 「中国二大淡水湖における生活・生業転換の同質性と異質性：1949-2010」 (2011～2012 年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 生態人類学会
- ・ 日本民俗学会
- ・ 文化人類学会
- ・ The Society for Human Ecology (SHE)
- ・ 生き物文化誌学会
- ・ 日本現代中国学会
- ・ 長良川鵜飼習俗総合調査専門委員会委員

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科 (『日本・アジア学』教育プログラム)
- ・ 「中国を見る眼 2014」 (2014 年)
- ・ 「アジアのフィールドワーク論」 (2014 年)
- ・ 「中国の環境と人類学 (言語：中国語)」 (2014 年)
- ・ 教養学部：「日本・アジア学概論」 (2014 年、現代中国論担当)
- ・ 医学部：「医療人類学」 (2014 年、分担)
- ・ 総合文化研究科：「現代中国論」 (2013 年)
- ・ 総合文化研究科：「アジアの環境研究の最前線」 (2011 年、2012 年)

・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

卯田宗平 『鵜飼いと現代中国—人と動物、国家のエスノグラフィー』 東京大学出版会、2014.

【編著】

古田元夫(監修) 卯田宗平 編 『アジアの環境研究入門—東京大学で学ぶ15講』 東京大学出版会、2014.

村木二郎・山田慎也・卯田宗平 編 『信仰と儀礼の歴史学:歴史研究の最前線』 国立歴史民俗博物館、2012.

【学術論文】

卯田宗平 「中国東北部・大興安嶺におけるトナカイ飼養の技法-エヴェンキ族の生業とその背景-」 『長期化する生態危機への社会対応とガバナンス研究報告』 アジア経済研究所 (2013)、111-128.

卯田宗平 「如何保护大自然—从外来鱼类问题思考自然与人类的关系」 『世界史/全球史视野中的东亚』 (2012)、69-76. (中国語)

卯田宗平 「どのように自然を守るのか—外来魚問題から考える自然と人間の関係-」 『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012)、203-210.

UDA, Shuhei. "How to Protect Nature? Reconsidering the Relationship Between Man and Nature: The Problem of Non-indigenous Fish Species." *East Asia in the Context of World/Global History* (2012): 359-360.

【口頭発表】

卯田宗平 「「ウミウ誕生」の意味—人と動物との関係から考える」 『ウミウの誕生からみる鵜飼の未来』 シンポジウム (主催: 公益社団法人宇治市観光協会、後援: 京都府・京都市・宇治商工会議所) 京都大学宇治おおばくプラザ・きはだホール, 2015年2月.

- 卯田宗平 「どの外来魚が資源か？ 琵琶湖有害外来魚駆除事業をめぐる事例から考える」
『東京大学アジア生物資源環境研究センター国際セミナー』 東京大学中島董一郎記念ホール（弥生キャンパス・フードサイエンス棟）, 2015年2月.
- 卯田宗平 「生き方に「東アジア的」はあるのか？ 東アジア概念を生態人類学の立場から考える」 『東アジアの思惟するー共通・差異、関係』 成均館大学東アジア学院・京都大学人文科学研究所・東京大学東洋文化研究所共同国際シンポジウム 成均館大学東アジア学院, 2015年1月.
- 卯田宗平 「飛ばねえカワウは、ただのカワウだー鵜飼い漁から現代中国をみてみよう」 第14回東京大学東洋文化研究所公開講座『アジアの眼』 東京大学東洋文化研究所, 2014年10月.
- 卯田宗平 「自然生態恢复事业难点解析-以日本琵琶湖外来鱼事业为例」 东京大学-天津市合作研究项目<城乡融合和可持续发展>10周年研讨会 天津津利华大酒店,中国天津市河西区, 2014年8月.
- 卯田宗平 「“野生性”を保持する一家畜化と反家畜化のリバランス論をめぐるー」 生き物文化誌学会第12回学術大会（東京大会）ミニシンポジウム, 東京大学弥生講堂一条ホール, 2014年8月.
- 卯田宗平 「人間と動物の関係論再考ー中国の鵜飼い漁における漁師とカワウの関係を手がかりにー」 第28回東京大学大学院人類生態学研究会, 東京大学大学院医学系研究科教育研究棟13階第5セミナー室, 2014年6月.
- 卯田宗平 「そうだったのか！ 中国の鵜飼い-小瀬鵜飼との対比から考える-」 『長良川文化フォーラム』, 主催:長良川伝統漁法保護事業実行委員会, 関市教育委員会, 岐阜県関市わかくさ・プラザ総合福祉会館3階会議室, 2013年12月.
- UDA, Shuhei. "Current Status of Biodiversity Issues in Japan - Relation with Subsistence Culture--." Presented at the *UTokyo Forum 2103 in Sao Paulo, Brasil*, Universidade de São Paulo, Brasil,, November 2013.
- UDA, Shuhei. "What kind of cultural difference were you surprised by at river? -- the case of Cormorant fishing in China and Japan --." Presented at the *River Culture Forum 2013 in Hwachen, Korea*, Hwachen city, Korea,, October 2013.
- 卯田宗平 「鵜飼いからみた中国と日本-技術・自然環境・食文化-」 第7回岐阜市市民講座, 長良川うかいミュージアム, 2013年10月.
- 卯田宗平 「若いカワウを飼い慣らすテクニック-中国の鵜飼い漁の事例から-」 日本鳥学会2013年度大会, 名城大学天白キャンパス, 2013年9月.
- 卯田宗平 「鵜飼い漁のカワウを飼い慣らす技法-中国の鵜飼い漁におけるカワウと漁師との関係-」 生き物文化誌学会第11回学術大会, 東京都星薬科大学, 2013年7月.
- 卯田宗平 「カワウの追随性の獲得-中国の鵜飼い漁におけるカワウと漁師の関係から-」 第18回生態人類学会学術大会, 徳島県勝浦郡, 2013年3月.

卯田宗平 「野生と家畜のバランス-中国の鵜飼い漁におけるカワウと人間-」 第 159 回東南アジアの自然と農業研究会, 京都市・京都大学稲盛財団記念館, 2013 年 2 月.

UDA, Shuhei. "the Biodiversity in Lake Biwa, Japan." Presented at the *the Asia-Africa Science Platform Program, Vietnam Conference*, The University of Social Sciences and Humanities(USSH), Vietnam,, January 2013.

UDA, Shuhei. "How to Protect Nature? Reconsidering the Relationship Between Man and Nature: The Problem of Non-indigenous Fish Species." Presented at the *East Asia in the Context of World/Global History*,, Shanghai, China,, December 2012.

UDA, Shuhei. "The Behavior of Fishers after Implementation of the Project to Exterminate Nonindigenous Fish in Lake Biwa, Japan." Presented at the *Annual World congress of Biodiversity-2012*,, Xian International Conference Center, Xian,China,, April 2012.

卯田宗平 「中国中流域・鄱陽湖の変化と鵜飼い漁師」 第 13 回東京大学水フォーラムセミナー, 東京都・東大本郷キャンパス工学部, 2012 年 4 月.

卯田宗平 「中国の鵜飼い」 長良川鵜飼習俗総合調査専門会議, 岐阜県・岐阜市役所, 2012 年 2 月.

卯田宗平 「環境の変化と適応-長江中流域・鄱陽湖における鵜飼い漁の事例」 仙人の会例会, 東京都・法政大学大学院棟, 2012 年 1 月.

【一般向け記事】

卯田宗平 「カワウと中国人、ウミウと日本人ー『鵜飼いと現代中国』のこぼれ話ー」 『UP』 東京大学出版会 (2015)、16-23.

卯田宗平 「“野生性”を保持する一家畜化と反家畜化のリバランス論をめぐってー」 『生き物文化誌学会第 12 回学術大会シンポジウム趣旨集』 生き物文化誌学会 (2014)、8-9.

卯田宗平 「トナカイ飼養と中薬文化ーポスト「北方の三位一体」を生きる大興安嶺のエヴェンキ族」 『アジ研ワールド・トレンド』 第 214 巻 (独) アジア経済研究所 (2013)、15-16.

卯田宗平 「この現代中国を、カワウと生きぬく」 『季刊民族学』 第 143 巻 国立民族学博物館 (2013)、39-56.

卯田宗平 「気鋭の若手研究者と学ぶアジアの環境研究の現在」 『東京大学環境報告書 Environmental Report2012』 2012 年 東京大学 (2012)、19.

卯田宗平 「『日本・アジア学』講義紹介「アジアの環境研究の最前線 2012」」 『東大内広報』 第 1427 巻 東京大学 (2012)、33.

卯田宗平 「9.6 パーセント」 『東大内広報』 第 1424 巻 東京大学 (2012)、68.

卯田宗平 「『日本・アジア学』講義紹介「アジア研究のフィールドワーク」」 『東大

内広報』 第 1422 卷 東京大学 (2012)、19.

【事典等項目】

卯田宗平 「動物と民俗」 『民俗学事典』 丸善出版、2014、150-151.

卯田宗平 「フィッシング」 『民俗学事典』 丸善出版、2014、692-693.

田中明彦 TANAKA, Akihiko

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ 東アジアをめぐる主要国間の国際政治

個人ホームページ : <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1977年 東京大学教養学部教養学科卒業

1981年 マサチューセッツ工科大学政治学部大学院博士課程修了

【職歴】

1981年 平和・安全保障研究所研究員

1983年 東京大学教養学部 助手

1984年 東京大学教養学部 助教授

1986年～1987年 ルール大学ボーフム客員教授

1990年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1994年～1995年 オックスフォード大学セントアントニーズカレッジ客員研究員

1998年 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年～2002年 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）

2002年～2006年 東京大学東洋文化研究所長

2006年～2012年 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）

2008年～2010年 東京大学国際連携本部長

2009年～2011年 東京大学理事・副学長

2011年～2012年 東京大学副学長

2012年～現在 独立行政法人国際協力機構理事長

2012年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授（委嘱）

【受賞歴】

1996年 サントリー学芸賞受賞 『新しい「中世」』 日本経済新聞社

2001年 読売・吉野作造賞受賞 『ワード・ポリティクス』 筑摩書房

2012年 紫綬褒章受章

II. 取り組んでいるテーマ

世界システムについての理論的・実証的な分析、現代東アジアの国際政治の分析、及び国際政治分析のためのデータベース作成ならびにコンピュータによる分析手法の開発を行って

いる。

Ⅲ. 班研究

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A) 「中国の台頭と東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程」 (2012～2014 年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

Ⅶ. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

ジョセフ・S・ナイ デイヴィッド・A・ウェルチ 『国際紛争: 理論と歴史 [原書第 9 版]』 田中明彦 村田晃嗣 訳 有斐閣、2013.

【学術論文】

田中明彦 「「民間外交」の役割とは何か」 工藤泰志 編 『言論外交 誰が東アジアの危機を解決するのか』 日中出版、2014、115-118.

田中明彦 「安全保障 - 人間・国家・国際社会」 大芝亮 編 『日本の外交 第 5 巻 対外政策 課題編』 岩波書店、2013、47-70.

田中明彦 「世界の中の日本 - 日本を目指す国際協力-」 『立教ビジネスレビュー』 Vol.6 有斐閣 (2013)、2-15.

田中明彦 「東西南北 アフリカの成長と日本」 『青淵』 第 771 号 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 (2013)、20-22.

田中明彦 「アフリカ - 日本外交にとっての課題」 『外交』 Vol.19 (2013)、10-16.

田中明彦 「「仕切り直し」で東アジア安定を」 『読売クォーター』 冬号 (2013)、50-55.

- 田中明彦 「世界の中の日本 日本の目指す国際協力」 『J2TOP』 2月号 (2013)、27-29.
- 田中明彦 「21世紀の世界システムと日本のODA」 『国際問題』 第616号 (2012年11月) 日本国際問題研究所 (2012)、1-5.

松田康博 MATSUDA, Yasuhiro

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ 中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論

個人ホームページ：<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

- 1988年 麗澤大学外国語学部中国語学科卒業
- 1990年 東京外国語大学大学院地域研究研究科地域研究専攻修士課程修了
- 1997年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学
- 2003年 博士（法学）（慶應義塾大学）

【職歴】

- 1992年 防衛庁防衛研究所助手
- 1999年 防衛庁防衛研究所主任研究官
- 1994年～1996年 在香港日本国総領事館専門調査員（香港）
- 2000年1月～6月 アジア太平洋安全保障研究センター客員研究員（米国ホノルル）
- 2000年6月～9月 ヘンリー・L・スティムソン・センター客員研究員（米国ワシントン DC）
- 2001年6月～8月 台湾綜合研究院第4（戦略・国際関係）研究所客員研究員（台湾台北）
- 2005年7月～8月 銘伝大学伝播学院にて共同研究（台湾台北）
- 2006年8月～9月 米国アジア協会にて客員研究（米国ワシントン DC）
- 2007年 防衛省防衛研究所主任研究官
- 2007年7月 復旦大学国際関係研究院日本研究センターにて訪問学者（中国上海）
- 2008年 東京大学東洋文化研究所 准教授
- 2010年8月～2011年8月 米国・コネティカット州：イェール大学にて客員研究（Today's Yale Initiative 派遣教員）
- 2011年12月～2012年3月 東京大学東洋文化研究所 教授
- 2012年4月～2015年3月 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）
- 2015年3月～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

- 2007年 「発展途上国研究奨励賞」（日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所）
（受賞対象：『台湾における一党独裁体制の成立』、慶應義塾大学出版会、2006年）
- 2007年 第2回「樫山純三賞」（樫山奨学財団）（受賞対象：同上）
- 2011年6月 第7回「中曽根康弘賞優秀賞」受賞

II. 取り組んでいるテーマ

アジア政治外交史研究、中国および台湾の政治・外交・安全保障、中台関係論、日本の外交・安全保障政策

III. 班研究

- ・ 中台関係の総合的研究
- ・ 東アジアの安全保障研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 「和解なき安定—民主成熟期台湾の国際政治経済学—」 (2013～2015 年度)
- ・ 基盤研究 (B) 「繁栄と自立のディレンマ - ポスト民主化台湾の国際政治経済学」 (2010～2012 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ アジア政経学会
- ・ 華僑華人学会
- ・ 慶應法学会
- ・ 国際安全保障学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本現代中国学会
- ・ 日本国際政治学会
- ・ 日本台湾学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ アジア政治外交史特殊研究 (Cross-Strait Relations)
- ・ 情報学環アジア情報社会コース (ITASIA101) Introduction to Asian Studies (アジア研究入門)
- ・ 情報学環アジア情報社会コース (ITASIA 142) Cross-Strait Relations (中台関係) (講義・セミナー)
- ・ 法学政治学研究科 「アジア政治外交史特殊研究 XI (近現代中国政治史)」 (セミナー)
- ・ 法学政治学研究科 「アジア政治外交史研究 XI (近現代中国政治史)」 (セミナー)
- ・ 全学自由研究ゼミナール 「古典と原典で読み解く現代中国」 (講義)
- ・ 教養学部 「特殊研究演習 XI(中国) (米中関係)」 (講義・セミナー)
- ・ 教養学部 「特殊研究演習 XI(中国) (台湾政治研究)」 (講義・セミナー)

- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅲ（東アジア地域研究演習）」「現代の日中関係」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅲ（東アジア地域研究演習）」「現代日台関係史」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅱ（日本研究・特殊研究演習Ⅸ）」「現代日中関係史」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 International Relations in East Asia, Programs in English at Komaba (PEAK)
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1	4	4
博士課程		1	2
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 上智大学外国語学部
- ・ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
- ・ 放送大学

VII. 過去3年間の研究業績

【編著】

家近亮子・松田康博・段瑞聡編『【改訂版】岐路に立つ日中関係—過去との対話・未来への模索—』、晃洋書房、2012年。

松田康博・蔡増家編『台湾民主化下の兩岸関係與台日関係』台北、国立政治大学当代日本研究中心、2013年。

【学術論文】

松田康博「第7章 馬英九政権下の米台関係」小笠原欣幸・佐藤幸人編『馬英九再選—2012年台湾総統選挙の結果とその影響—』日本貿易振興機構アジア経済研究所、2012年、pp. 109-123。

<<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Josei/018.html>>

松田康博「中国対台政策的戦略調整—胡錦濤的『交往與避險』政策如何被継承？—」陳徳昇主編『中共「十八大」菁英甄補—人事、政策與挑戰—』台北、INK 印刻文学生活雜誌出版有限公司、2012年、pp. 271-288。

Yasuhiro Matsuda, "Understanding Japan's Strategy toward China," Jung-Ho Bae and Jae H. Ku eds., *China's Domestic Politics and Foreign Policies and Major*

Countries' Strategies toward China, Seoul: Korea Institute for National Unification (KINU), 2012, pp.365-

391. <http://www.kinu.or.kr/eng/pub/pub_02_01.jsp?bid=DATA05&page=1&num=152&mode=view&category>

松田康博「胡錦濤政権の回顧と中国 18 全大会の注目点—外交・国防の領域に関して—」、東京財団現代中国プロジェクト、2012 年 9 月 6 日、

<<http://www.tkfd.or.jp/research/project/news.php?id=1016>>。

松田康博「台湾における憲政の展開過程概論—独裁か民主か？ 中華民国か台湾か？—」、『現代中国研究』（中国現代史研究会）第 31 号、2012 年 10 月 31 日、pp. 42-55。

Yasuhiro Matsuda, "Engagement and Hedging: Japan's Strategy toward China," *SAIS Review*, vol. XXXII, no. 2, Summer-Fall 2012, pp. 109-119.

松田康博「蒋介石と『大陸反攻』—1960 年代の対共産党軍事闘争の展開と終焉—」、山田辰雄・松重充浩編著『蒋介石研究—政治・戦争・日本—』東方書店、2013 年、pp. 337-361。

松田康博「中国と台湾の『共生』は可能か？」、今村弘子編『東アジア分断国家—中台・南北朝鮮の共生は可能か—』原書房、2013 年、pp. 25-57。

Yasuhiro Matsuda, "Foreign Relations of the Chinese People's Liberation Army: An Analysis Based on Series of China's Defense White Paper," Paper Presented for An Off-the Record Workshop on China's Foreign Relations and Role in Regional Security, Brookings Institution, Washington, D.C., February 11, 2013.

Yasuhiro Matsuda, "Japan-Taiwan Relations under DPJ and KMT Administrations in International Context," "Summary and Conclusion: Japanese Papers," in Ocean Policy Research Foundation and Prospect Foundation, Japan and Taiwan in a New Era: Possible Effects and Influences towards Its Relationship, Tokyo: Ocean Policy Research Foundation, 2013, pp. 118-136, 167-172.

<http://www.sof.or.jp/jp/report/pdf/201303_16.pdf>

松田康博「台湾をめぐる米中関係の変動要因とは何か？」、『東亜』No. 549、2013 年 3 月号、pp. 92-100。

松田康博「日本の対華戦略—面向穩定的日中関係—」、2013・中国太平洋論壇、北京、2013 年 10 月 24 日。

松田康博「馬英九政権下の中台関係（2008-2013）—経済的依存から政治的依存へ？—」、『東洋文化』（特集 繁栄と自立のディレンマ—ポスト民主化台湾の国際政治経済学—）、94 号、2014 年 3 月、pp. 205-233）。

松田康博「日台関係の新展開—東アジアの安全保障への影響—」、任耀庭主編『2014 亞洲新情勢』翰蘆圖書出版有限公司、2014 年、pp. 95-121。

Yasuhiro Matsuda, "Cross-Strait Relations under the Ma Ying-jeou Administration

(2008-2013): From Economic to Political Dependence?," Japanese Perspectives on China, Taiwan, and Cross-Strait Relations, The Freeman Chair in China Studies and the Japan Chair, Center for Strategic & International Studies (CSIS), Washington D.C., September 15, 2014. <<http://csis.org/multimedia/video-japanese-perspectives-china-taiwan-and-cross-strait-relations-panel2>>

Yasuhiro Matsuda, "How to Understand China's Assertiveness since 2009: Hypotheses and Policy Implications," Michael J. Green and Zack Cooper eds., Strategic Japan: New Approaches to Foreign Policy and the U.S.-Japan Alliance, Maryland: Rowman & Littlefield, 2015, pp. 7-33.

【書評論文・書誌紹介】

松田康博「秋山昌廣・朱鋒編著『日中安全保障・防衛交流の歴史・現状・展望』（亜紀書房、2011年11月、448頁）」『国際安全保障』第40巻1号、2012年6月、pp. 66-70。

松田康博「龍應台著、天野健太郎訳『台湾海峡一九四九』（白水社）—外省人2世 悲劇の記憶—」『富山新聞』2012年7月22日（共同通信社提供原稿）。

松田康博「菅野敦志『台湾の国家と文化—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」』—」『現代中国』vol. 86、2012年9月、pp. 177-181。

松田康博「日本の『開国』熱く論じる—『境界国家』論 小原雅博著—」『徳島新聞』2012年10月7日（共同通信社提供原稿）。

【口頭発表】

松田康博「日本の国家安全保障会議（NSC）はどうあるべきか？」（日本防衛学会平成25年度秋季研究大会・共通論題部会）2013年11月30日（報告記録：「日本の国家安全保障会議（NSC）はどうあるべきか？」、『防衛学研究』第50号、2014年3月、pp. 48-61）。

松田康博「蒋介石の『大陸反攻』政策と冷戦期の東アジア国際秩序」（2014年度アジア政経学会全国大会・共通論題2 蒋介石と戦後東アジア国際秩序の形成）2014年5月31日。

名和克郎 NAWA, Katsuo

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ ネパール、ヒマラヤ地域、および南アジアの人類学



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1990年 東京大学教養学部教養学科卒業

1992年 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻修士課程修了

1999年 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程修了

1999年 博士(学術)(東京大学)

【職歴】

1992年11月～1995年3月 Research Scholar, Centre for Nepal and Asian Studies, Tribhuvan University, Nepal

1996年4月～1998年3月 日本学術振興会特別研究員(DC2)

2000年1月～2000年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2000年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年9月～2003年8月 Visiting Fellow, Clare Hall, University of Cambridge

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2013年8月～2014年6月 Visiting Scholar, Harvard-Yenching Institute

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

2004年 第30回澁澤賞(公益信託澁澤民族学振興基金)

(受賞対象:『ネパール、ビャンスおよび周辺地域における儀礼と社会範疇に関する民族誌的研究-もう一つの<近代>の布置』、2002年、東京、三元社)

II. 取り組んでいるテーマ

学問的には(社会・文化)人類学、地域的にはネパールを中心とする南アジア及びヒマラヤ地域が専門。具体的には、極西部ネパール高地に位置するビャンス及び周辺地域におけるフィールドワークの成果を主たる基盤として、社会範疇(主に「民族」、「カースト」といった用語で論じられてきたもの)の構成、儀礼の変容過程とそれに対する慣習的行為や語られる規範の関係、多言語使用、翻訳、言語イデオロギーといった言語使用に関する問題系、等について、民族誌的、理論的な研究を行ってきた。抽象度を上げれば、主たる関心は規範と行為の関係性を巡る問題にある。

近年取り組んでいる具体的な課題は、(1)ビャンス及び周辺地域の生業と生産の変容に関する歴史的再構成、(2)主に 1990 年以降における、ネパール国家及び国内の様々なアクターによる、「グローバル」に流通する諸概念（例えば「人権」「民主主義」）の翻訳と受容の過程及びそうした概念の使用のもたらした影響、(3)1996 年以降マオイスト運動及びそれに関わる様々な動きがもたらしたネパール村落社会への影響、等である。

III. 班研究

- ・ 南アジア北部における人類学的研究の再検討
- ・ アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B)「体制転換期ネパールにおける「包摂」を巡る社会動態の展開に関する比較民族誌的研究」(2012～2014 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本文化人類学会 (理事 2008～2011 年度, 2014 年度～)
- ・ 日本南アジア学会 (理事 2004 年 10 月～2008 年 9 月, 2010 年 10 月～2014 年 9 月, 常務理事 2010 年 10 月～2012 年 9 月)
- ・ The Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland
- ・ American Anthropological Association
- ・ 国立民族学博物館共同研究員 (2004 年度, 2006 年 10 月～2010 年 3 月, 2011 年 10 月～)
- ・ Editorial Board Member, *International Journal of South Asian Studies* (2007～2012 年度)
- ・ Editorial Board Member, *Japanese Review of Cultural Anthropology* (2010～2013 年度)
- ・ Editorial Board Member, *HAU: Journal of Ethnographic Theory* (2011 年度～)
- ・ Co-Editor, *Asian Anthropology* (2012 年度～)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学コース (2000 年度～)
- ・ 教養学部教養学科超域文化科学科文化人類学学科 (非常勤講師, 2001 年度～)
- ・ 教養学部教養学科地域文化研究学科アジア地域文化研究学科 (非常勤講師, 2005～2009, 2011 年度～)

・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程	3	4	4
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科（2007, 2008, 2010, 2012 年度）
- ・ 慶應義塾大学文学部（2010～2013 年度）

VII. 過去 3 年間の研究業績

【編著】

名和克郎 編『東京大学東洋文化研究所所蔵 社団法人ネパール協会旧蔵資料目録』 東洋学研究情報センター叢刊 15 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2013.

【学術論文】

名和克郎 「ネパールの「デモクラシー」を巡って — 用語・歴史・現状」 『現代インド研究』 5 (2015)、69-87.

名和克郎 「ネパール領ビヤンスにおける「政治」の変遷 — 村、パンチャーヤト、議会政党、マオイスト」 南真木人 石井溥 編『現代ネパールの政治と社会 — 民主化とマオイストの影響の拡大』 明石書店、2015、175-206.

Nawa, Katsuo. "A Personal Account on the Status Quo of Sociocultural Anthropology in Japanese Language." *Alternative voices of anthropology: golden jubilee symposium*. Edited by Ajit K. Danda and Rajat K. Das. Kolkata: Indian Anthropological Society, 2012: 152-177.

【書評論文・書誌紹介】

名和克郎 「鈴木晋介『つながりのジャーティヤ — スリランカの民族とカースト』」 『文化人類学』 79(2) (2014)、179-182.

Nawa, Katsuo. "Review of *The Politics of Belonging in the Himalayas: Local Attachments and Boundary Dynamics*, by Joanna Pfaff-Czarnecka and Gerard Toffin (eds.); and *Hindu Kingship, Ethnic Revival and Maoist Rebellion in Nepal*, by Marie Lecomte-Tilouine. *Contributions to Indian Sociology*: vol.48, no. 2 (2014): 296-300.

名和克郎 「山本達也『舞台の上の難民 — チベット難民芸能集団の民族誌』」 『地域研究』 14(2) (2014)、254-257.

Nawa, Katsuo. Review of *Hyoushou no Minzokushi: Nepâru Senjuumin' Chepan' no Mikuro Sonzairon (An Ethnography of Representations: The Micro-Ontology of the Chepang, a Nepali Indigenous People)*, by Ken'ichi Tachibana; and *Hitsuji Kai no Minzokushi: Nepâru Iboku Shakai no Shigen Riyô to Shakai Kankei (Ethnographical Study of Sheep Herders: Resources Use and Social Relationships among Transhumant Society of Nepal)*. by Kazuyuki Watanabe. *Studies in Nepali History and Society*, vol.17, no. 1 (2012): 191-198.

【一般向け記事】

名和克郎 「ネパール、「包摂」、人類学 — 共同研究を終える前に」 『民博通信』 第 148 号 (2015).

名和克郎 「20 世紀中葉のネパールの変容を読む — 社団法人日本ネパール協会旧蔵資料から」 『明日の東洋学』 第 33 号 (2015).

名和克郎 「外から見なおした「我々」 — 海外在住ネパール人と「包摂」」 『民博通信』 第 144 号 (2014)、14-15.

名和克郎 「日本ネパール協会旧蔵資料について」 『日本ネパール協会 会報』 第 231 号 (2013)、10-11.

名和克郎 「「包摂」問題のネパール民族誌への包摂に向けて」 『民博通信』 第 140 号 (2013)、16-17.

名和克郎 「制憲議会解散後のネパールを「包摂」から考える」 『月刊みんぱく』 36(9) (2012)、10-11.

②東アジア部門（第一）

高見澤磨 TAKAMIZAWA, Osamu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 現代中国の法と社会



I. 略歴

【学歴】

1982年 東京大学法学部第一類卒業

1984年 東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻修士課程修了

1991年 東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻博士課程退学

1994年 博士（法学）（東京大学）

【職歴】

1993年 東京大学教養学部 助手

1994年 立命館大学国際関係学部 助教授

1997年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1998年 海外研修（北京外国語大学北京日本学研究中心主任教授補佐）

1999年 帰国

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 所長

II. 取り組んでいるテーマ

中華人民共和国における紛争と紛争解決、中華人民共和国における法源、中国法研究の作法、清末以降中華民国に至る中国近代法史を研究してきた。現在は、中国近代法史の通史的記述、中国近代における紛争解決、中華人民共和国刑法の動向、同民法の動向などを研究しつつ、本研究所内の未整理資料（多くは中国近現代に関係するもの）の整理を行っている。

III. 班研究

- ・ 中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 比較法学会
- ・ 法制史学会（理事 2003～2016 年度、企画委員長 2003～2004 年度）

- ・ 中国社会学文化学会（評議員 2009～2013 年度、理事 2013～2015 年度）
- ・ 日本現代中国学会（理事 2000 年 10 月～2016 年 10 月、副理事長 2010 年 10 月～2012 年 10 月、理事長 2012 年 10 月～2014 年 10 月）
- ・ アジア法学会（理事 2007～2015 年度、企画委員長 2011～2013 年度、企画委員 2013～2015 年度）
- ・ 日本学術会議連携会員(第 22 期 2011 年 10 月 1 日～2017 年 9 月 30 日)
- ・ 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター～研究員（2012 年 7 月 1 日～2013 年 3 月 31 日、2013 年 6 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「中国法」（演習）（大学院法学政治学研究科、総合法政専攻）
- ・ 「現代中国法」（講義）（大学院法学政治学研究科、法曹養成専攻）
- ・ 「中国法」（演習）（大学院法学政治学研究科、法曹養成専攻）
- ・ 「中国法」（講義）（法学部）
- ・ 「中国法」（演習）（法学部）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			1
博士課程	4	4	2
博士号取得者数		1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 大阪大学法学部（2004～2012 年度）
- ・ 名古屋大学法学部（2009 年度,2011 年度,2013 年度,2015 年度）
- ・ 東北大学法学部（2011 年度,2013 年度,2015 年度）
- ・ 日本大学法学研究科(2013 年度)
- ・ 慶應義塾大学法学部（2014 年度,2015 年度）

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

高見澤磨・鈴木賢 『中国法の歴史と現在（韓国語）』 ハンウル(日本語書の韓国語訳出版)、2013.

木間正道 鈴木賢 高見澤磨 宇田川幸則 『現代中国法入門（第 6 版）』 外国法入門双書 有斐閣、2012.

【学術論文】

- 高見澤磨 「我妻榮の中華民国民法典註解と「満州国」民法への言及 「発見」資料の紹介を中心に」 『中日民商法研究会第十三届（2014）年大会プログラム 論文集』 中日民商法研究会、2014、169-181.
- 高見澤磨 「第8講 法 中国法の枠組みと役立ち方」 高原明生・丸川知雄・伊藤亜聖 編 『東大塾 社会人のための現代中国講義』 東京大学出版会、2014、208-236.
- 高見澤磨 「中国における法形成」 長谷部恭男・佐伯仁志・荒木尚志・道垣内弘人・大村敦志・亀本洋 編 『岩波講座 現代法の動態 1 法の生成／創設』 岩波書店、2014、225-244.
- 高見澤磨 「我妻榮的中華民国民法典註解及対”満州国”民法的提及 以”發現”資料的介紹为中心」 『中日民商法研究会第十三届（2014）年大会プログラム 論文集』 中日民商法研究会、2014、182-191. (中国語)
- 高見澤磨 「我妻榮の中華民国民法典註解と満洲国民法への言及～「新発見」資料の紹介を中心に」 『名古屋大学法政論集』 第255号 (2014)、183-198.
- 高見澤磨 「中国の法学にとっての日本」 『法の支配』 第168号 財団法人 日本法律家協会 (2013).
- 高見澤磨 「中国の法学にとっての日本」 『法の支配』 第168号 (2013)、11-19.
- 高見澤磨 「辛亥革命から中国法史100年を考える」 『現代中国』 第86号 (2012)、39-41.
- 高見澤磨 「中国近代商事糾紛解決制度概観与今後之研究課題」 『中日民商法研究』 第11号 (2012)、351-358.

【書評論文・書誌紹介】

- 高見澤磨 「書評: 柳橋博之 イスラーム財産法」 『アジア経済』 第54巻 第4号 東京大学出版会 (2013)、193-196.
- 高見澤磨 「書評: 小野寺史郎 国旗・国歌・国慶～ナショナリズムとシンボルの中国近代史」 『法制史研究』 第62号 (2012)、240-244.

【事典等項目】

- 高見澤磨 「裁判と法」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』 めこん、2013、136.
- 高見澤磨 「憲法」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』 めこん、2013、106-107.

【口頭発表】

- 高見澤磨 「我妻榮的中華民国民法典註解及対「満州国」民法的提及 以”發現”資料的介紹为中心」 中日民商法研究会第十三届（2014）年大会 西南政法大学（中国・重慶） 2014年9月13日. (中国語)

安富歩 YASUTOMI, Ayumu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 魂の脱植民地化



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1986年 京都大学経済学部経済学科卒業

1991年 京都大学大学院経済学研究科経済政策学専攻修士課程修了

1997年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

1986年～1988年 株式会社住友銀行

1991年 京都大学人文科学研究所 助手

1996年～1997年 Visiting Research Associate, London School of Economics and Political Science, the University of London.

1997年 名古屋大学情報文化学部 助教授

2000年 東京大学大学院総合文化研究科 助教授

2003年 東京大学大学院情報学環 助教授

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2009年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1997年 第40回日経・経済図書文化賞（受賞対象：『「満洲国」の金融』（創文社、1997年））

II. 取り組んでいるテーマ

私は、経済学がなぜかくも非現実的なのか、という問から出発し、理論経済学・東アジア史・力学系・理論生物学・人類学・環境問題・黄土高原でのフィールドワークなどを遍歴し、その根源を探って来た。そのなかで、サイバネティックスと東洋思想との重要性とその本質的關係に気づいた。現在は、「社会生態学」と呼ぶ新たな学問の創設を目指している。それは、人々が生きるために、自らの魂を脱植民地化する上で役立つ学問である。

III. 班研究

- ・ 魂の脱植民地化～共生と創発の歴史的ダイナミクス～

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「中国社会の秩序生成原理の探求 ～場に立ち現れる「理」～」(2014～2016 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ NPO 法人 CREC 理事 (2011 年度～)
- ・ 株式会社粟島生活サービス顧問 (2013 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 大学院学際情報学府
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 大阪大学招へい教授 (2013 年度～)
- ・ 大谷大学文学部非常勤講師 (2014 年度～)

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

安富歩 『誰が星の王子さまを殺したのか——モラル・ハラスメントの罟』 明石書店、2014.

安富歩 『ジャパン・イズ・バック』 明石書店、2014.

安富歩 『「学歴エリート」は暴走する』 講談社+α 新書 講談社、2013.

安富歩 『合理的な神秘主義—生きるための思想史』 青灯社、2013.

安富歩 本多雅人 佐野明弘 『親鸞ルネサンス 他力による自立』 明石書店、2013.

安富歩(対談集) 小出裕章 中罵哲演 長谷川羽衣子 『原発ゼロをあきらめない反原発という生き方』 明石書店、2013.

安富歩 『もう「東大話法」にはだまされない 「立場主義」のエリートの欺瞞を見抜く』 講談社+α 新書 講談社、2012.

安富歩 『原発危機と「東大話法」傍観者の倫理・欺瞞の言語』 明石書店、2012.

安富歩 『生きるための論語』 ちくま新書 筑摩書房、2012.

安富歩 『超訳 論語』 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012.

安富歩 『幻影からの脱出 原発危機と東大話を越えて』 明石書店、2012.

【学術論文】

安富歩 「論語の秩序論」 『「論語」入門』 河出書房新社、2015、30 - 40.

安富歩 「無縁・マツコ・オタク」 『現代思想』 青土社、2014、112 - 125.

安富歩 「親鸞ルネサンスの構想 方便論的個人主義による学問」 安富信哉博士古稀記念論集
刊行会事務局 編 『仏教的伝統と人間の生』 「第一部 親鸞思想との対話」 法藏
館、2014、70 - 84.

安富歩 「親鸞ルネサンスの構想—方便論的個人主義による学問」 『安富信哉博士古稀記念
論集「仏教的伝統と人間の生」』 法藏館、2014、70-84.

安富歩 「早川由紀夫教授の福島第一原発事故に関するツイッターにおける発言についての
考察」 福島大学原発災害支援フォーラム[FGF]×東京大学原発災害支援フォーラム
[TGF] 編 『原発災害とアカデミズム 福島大・東大からの問いかけと行動』 合同
出版、2013、232~253.

安富歩 「「東大話法」と「虐殺の言語」 『一冊の本』 第17巻 第4号 朝日新聞出版
(2012)、24-26.

【書評論文・書誌紹介】

安富歩 「ヨアヒム・ラートカウ河の大氾濫—『自然と権力』という「生きるための歴史
学」 書評: ヨヒアム・ラートカウ 自然と権力 環境の世界史」 『Publisher's
Review みすず書房の本棚』 第3号 みすず書房 (2012)、1.

橋本治 「行雲流水録 書評: 安富歩 原発危機と東大話法」 『一冊の本』 第17巻 第3号
朝日新聞出版 (2012)、72-74.

【口頭発表】

安富歩 「近代史サマーフォーラム2013 記録 地域と時代を重ねる」 近代史サマーフォー
ラム2013 実行委員会 2014年.

親鸞聖人讃仰講演会 2013.11.26 「親鸞ルネサンスとは何か」 京都 2013年.

安富歩 「親鸞ルネサンスの提唱」 心 日曜講演会 講演集 2012年、59-81.

安富歩 「「満洲国」から原発危機へ：欺瞞言語の脅威」 星火方正 2012年、6-19.

【一般向け記事】

安富歩 「中山秀征の語り合いたい人 第30回」 『女性自身』 第58巻 第1号 光文社
(2015)、グラビア.

安富歩 「問答無用(ワイドインタビュー) 私が助走を始めた理由」 『週刊 エコノミス
ト』 第93巻 第1号 毎日新聞社 (2015)、58 - 61.

- 安富歩 「天安門から香港拠点へ」 『すばる』 集英社 (2015)、242 - 245.
- 安富歩 「王様は裸だ 第8回」 『ZAITEN』 第59巻 第4号 株式会社 財界展望新社 (2015)、56 - 57.
- 安富歩 「王様は裸だ 第6回」 『ZAITEN』 第59巻 第1号 株式会社 財界展望新社 (2015)、80 - 81.
- *及川健二 「大阪市長選で明らかになった橋下維新の落日」 『週刊金曜日』 第22巻 第16号 株式会社 金曜日 (2014)、35.
- *週刊現代 記者 「「東大までの人」と「東大からの人」 大切なのは「出身高校」というブランド」 『週刊現代』 第56巻 第10号 株式会社 講談社 (2014)、49、50.
- 安富歩 「安倍総理は「過ち」を認めよ」 『月刊日本』 第18巻 第10号 株式会社 K&K プレス (2014)、20 - 25.
- 安富歩 「「無縁の原理」を学ぶ」 『熊野寮 50周年記念誌 上巻』 株式会社 明光社 (2014)、354 - 356.
- 安富歩 「孔子とドラッガー、意外な共通項」 『Works 127』 第20巻 第5号 リクルートホールディングス リクルートワークス研究所 (2014)、56.
- 安富歩 「「公正さ」と「資金の有効な調達」が必要なインフラ資源だ」 『週刊 金曜日』 第22巻 第20号 株式会社 金曜日 (2014)、22-23.
- 安富歩 「安富 歩 ジャパン・イズ・バック 安倍政権にみる近代日本「立場主義」の矛盾」 『ZAITEN』 第58巻 第6号 株式会社 財界展望新社 (2014)、88-90.
- 安富歩 「「学歴とは何か？」学歴は「指標」だが、信じたいものを信じれば変えられる」 『AERA』 第27巻 第26号 朝日新聞出版 (2014)、23.
- 安富歩 「間違いだらけのアベノミクス！「アサッテ」の方角に放つ3本の矢」 『I. B 2014年夏期特集号』 株式会社 データーマックス (2014)、24-27.
- 安富歩 「王様は裸だ 第1回」 『ZAITEN』 第58巻 第10号 株式会社財界展望新社 (2014)、50-51.
- 安富歩 「若手の力を伸ばす 「論語」に学ぶ人材育成」 『DANA ダーナ』 第6巻 第5号 株式会社佼成出版社 (2014)、12 - 15.
- 平井康嗣 「編集長後記」 『週刊金曜日』 第22巻 第23号 株式会社 金曜日 (2014)、66.
- 取材：安富 歩 「「勉強はできるのに、仕事はできない人」の研究」 『週刊現代』 2月2日号 第55巻第4号 講談社 (2013)、182.
- 取材：安富 歩 「大研究 ああ、東京大学 東大に入っても不幸な人、東大出たのに不幸な人」 『週刊現代』 3月23日号 第55巻第10号 講談社 (2013)、172.
- 取材：安富 歩 「ヤワな時代でないから、この曲を聴こう」 『AERA』 '12.12.31-'13.1.7 Vol.26 No.1 朝日新聞出版 (2013)、53-54.
- 監修：安富 歩 「感じる論語 書きながら学ぶ「論語」教室」 『週刊朝日別冊 みんなの

- 漢字』 2013年3月10日発行(増刊)朝日新聞出版(2013)、44-47.
- 木村恵子 金城珠代 取材:安富歩「学歴レバレッジ幸福論」 『AERA』 '13.9.2 朝日新聞出版(2013)、10-15.
- 安富歩 「安富歩東京大学教授インタビュー 論語のテーマは「学習」の説び」 『未来共創新聞』 第13号 2013年9月30日 オフィス21(2013)、1-7.
- 安富歩 「現代社会の混迷打破へ～親鸞ルネサンス～上」 『築地本願寺新報』 2013年11月 築地本願寺・築地本願寺新報社(2013)、4-6.
- 安富歩 一楽真 清谷真澄 「今、親鸞に学ぶー「震災と原発」問題を通してー」 『教化研究』 第一五五号 真宗大谷派 教学研究所(2013)、117-145.
- 安富歩 「他力に生きる 東大話法を超えて～親鸞ルネサンス～下」 『築地本願寺新報』 2013年12月 築地本願寺・築地本願寺新報社(2013)、4-6.
- 安富歩 「第二回 Billie Jean:なぜマイケルは、ムーンウォークをしたのか?」 『雑誌「エリス」』 第2号 eris-media(2013)、23-59.
- 安富歩 「マイケル・ジャクソンの革命思想 子どものための社会へ」 『雑誌「エリス」』 第2号 eris-media(2013)、5-19.
- 安富歩 「『論語』とドラッカー」 『雑誌「Think!」』 No.45 東洋経済新報社(2013)、36-43.
- 安富歩 「先祖になれ! 倒錯のアベノミクスではなく真に生きるための政治信条」 『世界』 第845号 岩波書店,(2013)、91-98.
- 安富歩 「『幻影からの脱出』を書いた安富歩氏に聞く」 『週刊東洋経済』 第6415号 東洋経済新報社(2012)、148-149.
- 安富歩 「魂の脱植民地化-人間その問われるもの<後編>」 『同朋新聞』 第659号 真宗大谷派宗務所(2012)、2-3.
- 安富歩 「魂の脱植民地化-人間その問われるもの<前編>」 『同朋新聞』 第658号 真宗大谷派宗務所(2012)、2-3.
- 安富歩 「政治は今こそ次世代を守る視点に立つとき」 『第三文明』 第630号 第三文明社(2012)、30-32.
- 安富歩、宮台 真司 「東大話法が生んだ聖域とタブー」 『サイゾー』 第12巻 第5号 株式会社サイゾー(2012)、124-129.
- 安富歩 「ユーロ危機と通貨の階層性—中華帝国の貨幣史を踏まえて考える」 『atプラス』 第11号 太田出版(2012)、72-85.
- 安富歩 「論語とサイバネティクス」 『科学』 Vol.82 No.3 岩波書店(Mar.2012)、236-237.
- 安富歩 「“いじめ”が生まれる社会空間を読みかえる」 『第三文明』 第634号 第三文明社(2012)、68-70.
- 安富歩 「他力思想の射程-清沢満之の「如来」への信念」 『atプラス』 第13号 太田出

版 (2012)、40-52.

安富歩 「第一回"Jam"とは何か」 『雑誌「エリス」』 第1号 eris-media (2012)、49-74.

安富歩 「田中角栄主義と現代」 『アリーナ』 第13号 風媒社 (2012)、312-332.

徳丸威一郎 取材：安富歩「東大から起きた「原子カムラ」内部批判」 『サンデー毎日』
2012年3月4日号 毎日新聞社 (2012)、148-151.

徳丸威一郎 取材：安富歩「東電の「派遣教員」、東大教授「逆ギレ」、反論の東大話法」
『サンデー毎日』 2012年4月1日増大号 毎日新聞社 (2012)、28-29.

安富歩 「親鸞一人がための世界」 『名古屋 御坊』 第554号 2012年8月10日 真宗
大谷派名古屋別院 (2012)、1.

安富歩 「いのちの尊厳 メジロの体当たり」 『名古屋 御坊』 第555号 2012年9月
10日 真宗大谷派名古屋別院 (2012)、1.

安富歩 「脱出口はどこだ 『幻影からの脱出ー原発危機と東大話法を超えて』 刊行記念」
『書標 ほんのしるべ』 2012.9月号 ジュンク堂 (2012)、30.

安富歩 「原発事故を「論語」で読み解く」 『文藝春秋』 第90巻 第10号 文藝春秋
(2012)、204-212.

安富歩 「親鸞の「方便論的个人主義」による学問の再編(上)」 『南御堂』 第603号
2012年9月1日 真宗大谷派難波別院 (2012)、1.

安富歩 「親鸞の「方便論的个人主義」による学問の再編(下)」 『南御堂』 第604号
2012年10月1日 真宗大谷派難波別院 (2012)、1.

安富歩 「東大から起きた「原子カムラ」内部批判」 『サンデー毎日』 毎日新聞社
(2012)、148-151.

安富歩 「平気で人を騙す「東大の先生たち、この気持ち悪い感じ」」 『週刊現代』 第
54巻 第13号 株式会社 講談社 (2012)、54-57.

【新聞記事】

安富歩 「安倍首相なぜ断言する？ 幻想 国民が期待している」 『朝日新聞』 2014年6
月13日 朝刊、39、朝日新聞大阪本社.

安富歩 「2012年3月29日から・・・デモ100回 日常的な声になった」 『東京新聞』
2014年5月3日、30.

安富歩 「読書：「母という病」 親子関係の苦悩に深く切り込む」 『公明新聞』 2014年
3月17日、4、公明党機関紙委員会.

小倉貞俊 林啓太 佐藤圭 取材：安富歩「こちら特報部 「霞が関文学」の危険性」 『東京
新聞』 2013年10月25日 朝刊12版、27面、中日新聞東京本社.

「本 「親鸞ルネサンス」 安富歩・本多雅人・佐野明弘共著」 『東京新聞』 2013年7月
20日 朝刊12版、13面、中日新聞東京本社.

安富歩 「「立場主義」脱却訴え 経済停滞感打破で持論」 『茨城新聞』 2013年6月13

- 日、21.
- 川戸和史 取材：安富歩「窓 満州国と安倍バブル」 『朝日新聞』 2013年3月18日 夕刊
4版、2面、朝日新聞東京本社.
- 安富歩 「安富歩さんが語る孔子の論語」 『中日新聞』 2013年2月5日 朝刊12版、15
面、中日新聞社.
- 安富歩 「魂の脱植民地化 人間その問われるもの 〈後編〉」 『同朋新聞』 2012年10月
1日、2-3.
- 上田千秋 新井六貴 取材：安富歩「こちら特報部 「青い鳥」 求める国民 民・自イヤ「救
世主」 夢想」 『東京新聞』 2012年9月8日 朝刊12版、29面、中日新聞東京本
社.
- 安富歩 「命の尊厳: 親鸞一人がための世界」 『なごやごぼう』 2012年8月10日、1.
- 安富歩 「「満洲」、原発 棄民の荒野」 『日本で中国』 2012年7月15日、4.
- 安富歩 「ヨアヒム・ラートカウ河の大氾濫」 『Publisher's Review』 2012年6月15
日、1.
- 安富歩 「「人知の闇」を超える(下)」 『東京新聞』 2012年5月19日 朝刊12版、19
面、中日新聞東京本社.
- 安富歩 「「人知の闇」を超える(下)」 『中日新聞』 2012年5月19日 朝刊12版、17
面、中日新聞社.
- 安富歩 「「人知の闇」を超える(上)」 『中日新聞』 2012年5月12日 朝刊12版、17
面、中日新聞社.
- 安富歩 「「人知の闇」を超える(上)」 『東京新聞』 2012年5月12日 朝刊12版、13
面、中日新聞東京本社.
- 安富歩 「科学者の役割と責任④」 『東京大学新聞』 2012年5月2日、3面、東京大学
新聞社.
- 上田千秋 小坂井文彦 取材：安富歩「無謀な原発再稼働」 『東京新聞』 2012年3月27日
朝刊12版、28-29、中日新聞東京本社.
- 佐藤圭 中山洋子 取材：安富歩「こちら特報部 「参院選 自民原発推進」 例えると」
『東京新聞』 2012年3月27日 朝刊12版、28-29、中日新聞東京本社.
- 安富歩 「特集ワイド 東大話法のトリック」 『毎日新聞』 2012年3月23日 夕刊3
版、6面、毎日新聞東京本社.
- 安富歩 「こちら特報部 安富歩・東大教授に聞く 原子カムラでまん延「東大話法」」
『東京新聞』 2012年2月25日 朝刊11版、28-29、中日新聞東京本社.
- 安富歩 「連続インタビュー 科学者の役割と責任④ 「東大話法」って？」 『週刊東京大
学新聞』 2012年2月7日、3、東京大学新聞社.

黒田明伸 KURODA, Akinobu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 東アジア経済史



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

- 1980年 京都大学文学部史学科卒業
- 1982年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 1985年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学
- 1995年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

- 1986年 京都大学文学部 助手
- 1987年 大阪教育大学教育学部 講師
- 1989年 名古屋大学教養部 助教授
- 1993年 名古屋大学情報文化学部 助教授
- 1997年 東京大学東洋文化研究所 助教授
- 2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

- 1994年 第16回サントリー学芸賞 政治経済部門（サントリー文化財団）

II. 取り組んでいるテーマ

貨幣の本質は、貨幣そのものにあるのではなく、貨幣を使用する人々の循環的なつながり、すなわち回路にこそある。そのつながりには、匿名的に流通する通貨を介する場合と、貨幣単位で記帳しながら指名的な債権債務をつらねた信用の連鎖の場合とがあるが、弾力性に富むが滞留しやすい前者と確定的だが伸縮性に欠ける後者は補完的に働いている。その組み合わせのあり方の世界史大の比較を、国際的かつ学際的な協同により行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（B）「貨幣の多元性についての国際共同研究：世界史における貨幣間分業とその比較」（2014～2018年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ Editor, International Journal of Asian Studies (Cambridge UP) 2012年～
- ・ 社会経済史学会理事 2009年～2014年
- ・ 史学会評議員 2007年～

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 人文社会系研究科 1997年～
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

黒田明伸『貨幣システムの世界史 非対称性をよむ 増補新版』岩波書店、2014年

【学術論文】

黒田明伸「唯錫史観—なぜ精錢を供給しつづけられなかったの」飯沼・平尾編『大航海時代の日本と金属交易』思文閣出版、2014、18-20

Kuroda, Akinobu. “Anonymous Currencies or Named Debts?: Comparison of Currencies, Local Credits and Units of Account between China, Japan and England in the Pre-industrial Era”, *Socio Economic Review* 11-1, (Oxford UP), 2013, 57-80,

真鍋祐子 MANABE, Yuko

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム



I. 略歴

【学歴】

- 1986年 奈良教育大学教育学部卒業
- 1989年 筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了
- 1996年 筑波大学大学院社会科学研究科博士課程修了
- 1996年 博士（社会学）（筑波大学）
- 1987年～1998年 慶熙大学校大学院碩士課程国文科研究生

【職歴】

- 1991年～1993年 啓明大学校外国学大学日本学科客員専任講師
- 1996年～1998年 日本学術振興会特別研究員
- 1998年 秋田大学教育文化学部 助教授
- 2002年 国士舘大学 21世紀アジア学部 助教授
- 2006年 東京大学東洋文化研究所 助教授
- 2007年 同 准教授
- 2010年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

朝鮮文化の宗教的エトスと現代韓国社会の動態性にかかわる実証的研究を、社会運動論と関連づけながら行なっている。東アジアのグローバル化を念頭におきながら、現代韓国におけるナショナリズムとツ～リズムのかかわりに関心をもつ。「在日」知識人における知の構築とこれが韓国民民主化運動に与えたインパクトについて、また日本の学術や言論で影響力をもつ「在日」知識人の「独自の普遍」という問題に関心をもつ。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（C）「ポストコロニアル状況における「在日」の知の現在-その「独自の普遍」を問う」（2012～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本社会学会
- ・ 日本文化人類学会
- ・ 「宗教と社会」学会
- ・ 日本口承文芸学会
- ・ 韓国・朝鮮文化研究会
- ・ 現代韓国朝鮮学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

真鍋祐子 『自閉症者の魂の軌跡～東アジアの「余白」を生きる』 青灯社、2014.

【編著】

真鍋祐子 新井芳廣 池澤優ほか 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012.

【学術論文】

真鍋祐子 「歴史意識の詩学～「セオウル号の惨事」に寄せて」 『学環』 第87巻
(2014)、i-iv.

真鍋祐子 「韓国宗教概説」 真鍋祐子 新井芳廣 池澤優ほか 編 『世界宗教百科事典』 丸
善出版、2012、442-445.

真鍋祐子 「封殺された〈言葉〉を解き放つ～ 코리아研究がはらむハラズメント性につい
て」 『東洋文化』 第92巻 (2012).

【書評論文・書誌紹介】

真鍋祐子 「大畑裕嗣『現代韓国の市民社会論と社会運動』」、『社会学評論』63(3) 日本
社会学会、(2014)、469-470.

真鍋祐子 「岩本通弥編著『世界遺産時代の民俗学—グローバル・スタンダードの受容の日韓比較』」、『日本民俗学』277 日本民俗学会、(2014)、252.

【講演】

真鍋祐子 「東アジアの「余白」を生きる—キリスト者として、研究者として」、呉在植氏自叙伝『わたしの人生のテーマは「現場」』出版記念講演会、西片町教会（東京）、2015年3月22日

真鍋祐子 「「魂の脱植民地化」理論から読む発達障害者の社会化」、上智大学公開講座（コミュニティカレッジ）『死ぬ意味と生きる意味』、2013年6月12日

【口頭発表】

真鍋祐子 主催

国際シンポジウム「コリアン・ディアスポラの記憶を手繰る—『犠牲の状況』を超えて」主催：東京大学東北アジア研究会、後援：東京大学東洋文化研究所・ASNET、協力：多摩美術大学美術館、東京大学、2012年3月3日

真鍋祐子 「韓国現代史と「記念日」の創造」、東京大学東洋文化研究所・京都大学人文科学研究所・成均館大学校合同シンポジウム「東アジアの〈記憶〉」、東京大学東洋文化研究所、2013年1月25日

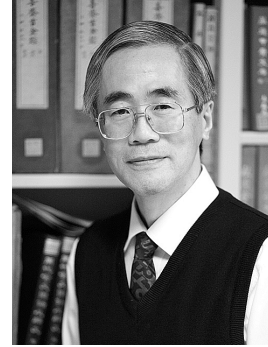
Yuko Manabe, "Thinking on the Cultural Conceptualization of 'Cancer' in Korea", 日本学術振興財団二国間交流事業共同研究（東京大学先端科学技術研究センター・赤座英之研究室、Yonsei University, College of Medicine, Prof. Jae Kyung ROH）「がんをめぐる日韓学際研究の検討」、Yonsei University, Seoul, Korea, 2014.2.21

Yuko Manabe, "Contemporary Korean History and the Establishment of 'Memorial Days'", Social Movements and the Production of Knowledge: Politics, Identity and Social Change in East Asia", Minpaku Core Research Project 'The Anthropology of Care and Education for Life', Suita, Osaka, 2014.2.23

平勢隆郎 HIRASE, Takao

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 中国古代領域国家の形成



I. 略歴

【学歴】

1979年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1981年 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専門課程修士課程修了

【職歴】

1992年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1999年 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年 大学院情報学環 教授・東京大学東洋文化研究所 教授

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

中国史上の大変革期である春秋戦国時代の歴史的性格は何かを一貫して追求してきている。この時代は、史料批判が他の時代に比較してより特殊な位置づけをもつので、考古史料の活用が不可欠となる。

III. 班研究

- ・ 中国出土文字史料とその歴史的背景

IV. 外部資金による研究

- ・ 人間文化研究機構 「日本関連在外資料調査研究事業近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究」(2010～2015年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 九州史学会
- ・ 史学会
- ・ 社会文化学会
- ・ 中国出土資料学会
- ・ 東方学会
- ・ 東洋史研究会

- ・ 日本甲骨学会
- ・ 日本中国考古学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 人文社会系研究科（通年・月曜2限）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	2	1	1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

田良島哲・平勢隆郎・三輪紫都香『東京国立博物館所蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 18、2015.

平勢隆郎・関紀子・野久保雅嗣『東方文化学院旧蔵建築写真目録』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 17、2014.

平勢隆郎・塩沢裕仁『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』東京大学東洋文化研究所、2014.

平勢隆郎 監修『あらすじとイラストでわかる 秦の始皇帝』宝島社、2014.（同社別冊宝島同名書 2013 を改訂文庫化）

平勢隆郎・塩沢裕仁『関野貞大陸調査と現在』東京大学東洋文化研究所、2012.

平勢隆郎『「八紘」とは何か』東文研紀要別冊 東京大学東洋文化研究所・汲古書院、2012.

【編著】

濱下武志 平勢隆郎 編『中国の歴史－東アジアの周縁から考える』有斐閣アルマ、2015.

【論文】

平勢隆郎「精華『繫年』に関する若干の話題」『出土文献と秦楚文化』8、2015.

小寺敦 KOTERA, Atsushi

所属部門 東アジア部門（第一）

研究領域 中国古代家族史



I. 略歴

【学歴】

1996年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1998年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2000年～2002年 遼寧大学歴史系高級進修生

2003年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程修了

2003年 博士(文学)(東京大学)

【職歴】

2003年～2006年 日本学術振興会特別研究員(PD)

2004～2005年 北京大学考古文博学院訪問学者

2006～2007年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2007年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2006年10月 海外研修(復旦大学文物与博物館学系訪問学者)

2011年9月 海外研修(復旦大学文史研究院訪問学者)

2014年6月 海外研修(北京大学歴史学系訪問学者)

II. 取り組んでいるテーマ

中心テーマは先秦時代の家族。中でも所謂「周代宗法制」の成立と展開について興味を持っている。従来はその研究を進める上での基礎的作業として、関係する伝世文献の史料的性格に関する検討を主に行ってきた。最近では、新出土資料である郭店楚簡などについても、上記基礎的作業と関連づけながら研究を進めている。

III. 班研究

- ・ 中国古代文献の成立に関する多角的研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究(C)「伝世・出土文献所見の系譜関係資料による先秦家族史の再構築」(2014～2016年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 中国出土資料学会(理事)
- ・ 史学会
- ・ 東方学会
- ・ 東洋史研究会
- ・ 日本秦漢史学会
- ・ 歴史学研究会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「中国古代史料研究」（大学院人文社会系研究科、アジア文化研究専攻）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1		
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 法政大学(2009～2014年度)

VII. 過去3年間の研究業績

【学術論文】

小寺敦 「「家族」のあり方」 『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国—』
東方書店 (2014)、44-51.

名和敏光 小寺敦 宮本徹 「清華簡『傳説之命』譯注」 『出土文獻と秦楚文化』 第7号 日
本女子大学文学部谷中研究室 (2014)、73-98.

小寺敦 「地域・文化概念としての楚の成立—清華簡を手掛かりとして—」 『中國新出土資
料學の展開』 汲古書院 (2013)、97-109.

小寺敦 「地域、文化概念”楚”的成立—以清華簡作為綫索」 『國際東方學者會議紀要』 第
57号 (2013)、137-138.

小寺敦 「本学会機関誌『中国出土資料研究』の文字コードについて」 『中國出土資料學會
會報』 第51号 (2012)、2-3.

小寺敦 「先秦時代系譜編纂の成立過程とその意義」 『歴史学研究』 第898号 (2012)、
34-43.

小寺敦 「清華簡『楚居』譯注」 『出土文獻と秦楚文化』 第6号 日本女子大学文学部谷中
研究室 (2012)、126-153.

【書評論文・書誌紹介】

小寺敦 「新刊紹介: 西信康 郭店楚簡『五行』と伝世文献」 『中國出土資料學會會報』 第 57 号 (2014)、13-14.

小寺敦 「新刊紹介: 大野裕司 戦国秦漢出土術数文献の基礎的研究」 『中國出土資料學會會報』 第 57 号 (2014)、13-14.

Kotera, Atsushi. "Book Review: The Embodied Text: Establishing Textual Identity in Chinese Manuscripts. By Matthias L. Richter." *International Journal of Asian Studies* 11, no. 1 2014: 111-112.

小寺敦 「新刊紹介: 陳偉 楚簡册概論」 『中國出土資料學會會報』 第 53 号 (2013)、2-2.

小寺敦 「新刊紹介: 李天虹 楚國銅器與竹簡文字研究」 『中國出土資料學會會報』 第 53 号 (2013)、2-2.

小寺敦 「書評: 鈴木直美 中国古代家族史研究—秦律・漢律にみる家族形態と家族観—」 『歴史学研究』 第 907 号 (2013)、50-52.

小寺敦 「新刊紹介: 王中江 簡帛文明与古代思想世界」 『中國出土資料學會會報』 第 47 号 (2012)、7-7.

小寺敦 「新刊紹介: 陳偉 里耶秦簡 (壹)・里耶秦簡牘校积 (第一卷)」 『中國出土資料學會會報』 第 47 号 (2012)、10-10.

③東アジア部門（第二）

中島隆博 NAKAJIMA, Takahiro

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 東アジアの比較哲学

個人ホームページ：<http://cpag.ioc.u-tokyo.ac.jp/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1987年 東京大学法学部第三類(政治コース)卒業

1989年 東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻修士課程修了（文学修士）

1991年 東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻博士課程 単位取得退学

2009年 博士（学術）（東京大学）

【職歴】

1991年 東京大学文学部 助手

1996年 立命館大学文学部 専任講師

1997年 立命館大学文学部 助教授

2000年 東京大学大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・表象文化論 准教授

2002年4月～5月 パリ第7大学 客員教授

2004年8月～2005年8月 ハーヴァード大学イエンチン研究所 客員研究員

2009年3月 パリ第8大学 客員教授

2009年9月～12月 ニューヨーク大学 客員教授

2012年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2013年4月～7月 エアランゲン大学 IKGF 客員研究員

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1993年 第一回中村元賞

2013年 第二十五回和辻哲郎文化賞

II. 取り組んでいるテーマ

東アジア哲学を問－東アジアさらには西洋哲学との比較において考える。

III. 班研究

- ・ 中国学における概念マップの再構築

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A)「グローバル化時代における現代思想—概念マップの再構築」(2012～2014年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本中国学会
- ・ 東方学会
- ・ 中国社会文化学会
- ・ 表象文化論学会
- ・ 国際日本文化研究センター (共同研究員) (2013,2014年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース
- ・ 教養学部超域文化科学専攻現代思想コース
- ・ 人文社会系研究科中国思想文化学専攻
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	2	1	1
博士課程	2	2	2
博士号取得者数	1		2

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東海大学
- ・ 立教大学
- ・ 東京女子大学
- ・ 専修大学
- ・ 慶應義塾大学

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

中島隆博 『悪の哲学—中国哲学の想像力』 筑摩書房、2012.

【編著】

中島隆博・馬場智一 編 『グローバル化時代における現代思想 香港会議』 CPAGブックレット VOL.1 CPAG、2014.

【学術論文】

中島隆博 「儒教、近代、市民的スピリチュアリティ」 『現代思想』 第 42 卷 (2014).

中島隆博 「靈魂的存在與國家的道德——中江兆民、井上圓了、南方熊楠」 『UTCP-Uehiro Booklet』 第 4 号 (2014). (中国語)

中島隆博 「近代東亞哲學話語中被附加了條件的普遍性與世界史」 『澳門理工學報』 第 17 卷 第 3 号 澳門理工學院 (2014). (中国語)

中島隆博 「儒教と民主主義——トーマス・フレーリッヒとハイナー・レッツ論文をめぐって」 『中国——社会と文化』 第 29 号 中国社会文化学会 (2014).

中島隆博 「教養としての中国——規範の鑑と蔑視の対象の間で」 『内と外——対外観と自己像の形成』 岩波書店、2014、123-150.

中島隆博 「現代中国における儒学復興の意義」 『學校』 史跡足利学校「研究紀要」 (2013).

中島隆博 「科学と宗教——中国と日本における近代哲学の葛藤」 『知は東から——西洋近代哲学とアジア』 明治書院、2013、189-214.

中島隆博 「對「古」的態度: 論求荻生徂來」, 林永強、張政遠編『東亞視野下的日本哲學——傳統、現代與轉化』, 臺大出版中心, 2013、1-10

中島隆博 《内藤湖南的史学: 如何摆脱对“统”的追求》, 《民族认同与历史意识: 审视近现代日本与中国的历史学与现代性》, 复旦大学文史研究院编, 中华书局, 2013, 43-51

中島隆博 「中国における「哲学の起源」——抑圧された胡適の老子起源説」 『at プラス』 第 15 号 (2012).

中島隆博 「中国における他者——他者への二重の態度」 宮本久雄 武田なほみ 編『あなたの隣人はだれか 現代における共生の行方』 日本キリスト教団出版局、2012、281-302.

大木康 OKI, Yasushi

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 中国明清時代の文学



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1981年 東京大学文学部第三類(語学文学)卒業

1983年 東京大学大学院人文科学研究科中国語中国文学専門課程修士課程修了

1984年～1985年 復旦大学(中国・上海)留学

1986年 東京大学大学院人文科学研究科中国語中国文学専門課程博士課程単位取得退学

1998年 博士(文学)(東京大学)

【職歴】

1986年 東洋文化研究所 助手

1988年 広島大学文学部 講師

1989年 広島大学文学部 助教授

1991年 東京大学文学部 助教授

1995年 東京大学大学院人文社会系研究科 助教授

1999年～2000年 Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar

2001年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2006年～2007年 台湾国立中央大学中文系客員 教授

2009年～2011年 東京大学東洋文化研究所 副所長

2011年～2012年 香港嶺南大学中文系客員 教授

2012年～2014年 東京大学東洋文化研究 所長

【受賞歴】

2000年 「東方学会賞」(東方学会)

(受賞対象:「黄牡丹詩会—明末清初江南文人点描—」、『東方学』第99輯 2000年)

II. 取り組んでいるテーマ

・中国明末江南の文人と文学 今からおよそ400年前、明代末期の中国江南地方、そこには優雅な文化の花が咲き誇った。通俗文学の旗手とされる馮(ふう)夢龍(ぼうれい) (1574～1646年)、過ぎ去った時代の美しき思い出に生きる冒(ぼう)襄(じょう) (1611～1693年)の二人を手がかりに、この時代の社会と文化をさぐる。

・馮夢龍の文学 1992年に中国で出版された『馮夢龍全集』は、全部で43冊。馮夢龍には、経書、史書から通俗歌謡、通俗小説にまで及ぶ数多くの著作がある。これを研究し尽くすのが生涯の仕事。これまでは、江戸時代の上田秋成『雨月物語』などにも影響を与えた短篇白話小説集「三言」、そして蘇州の民間歌謡を当時の方言のまま収録した『山歌』が中心。

・明末江南の出版文化 現在だれもが読んでいる『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などのテキストは、明代末期に成立し刊行されたものである。こうした通俗小説が爆発的に流行したのはなぜか？ それに対する答えの一つとして、当時の出版文化一般の隆盛を考えた。中国で書物の印刷がはじまるのは唐宋のことだが、印刷された書物が広く流通し、書物を通じた知識の普及が本格的にはじまったのは、明末のことであった。これについては最新刊の『中国明末のメディア革命』（刀水書房 2009年）もある。

・明末の青楼文化 明末の南京秦淮の色街（青楼）には、数多くの名妓が登場した。彼女たちは、歌舞音曲はもとより、書画や詩作にも通じた当代一流の文化人であった。明末という時代は、名妓と文人たちとの交際が、文壇の佳話としてとりざたされた時代であった。『中国遊里空間 明清秦淮妓女の世界』では、明末江南文化を理解するための重要項目である青楼世界の再現を試みた。

・冒襄と『影梅庵憶語』 冒襄の『影梅庵憶語』は、もと南京秦淮の妓女であり、後に冒襄の側室となった董小宛が若くして亡くなった後、その思い出を克明に綴った回想録である。明末青楼研究の資料としてこの作品を手にとったのだが、一読、その行文の美しさ哀しさに心を奪われた。冒襄には、生涯の間に師友たちとの間でやりとりした詩文を集めた『同人集』という珍しい文集もあり、これによって、名園とされた水絵園などを舞台に行われた優雅な交遊のさまがうかがわれる。『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』は、東洋文化研究所紀要別冊として2010年に刊行された。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「中国近世の歌唱をめぐる社会文化史的研究」 (2013～2015年度)
- ・ 基盤研究 (C) 「明清の王朝交替と杜詩学」 (2010～2012年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 中国社会文化学会 (理事長)
- ・ 日本中国学会 (評議員)
- ・ 東方学会 (学術委員)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 中国語学中国文学特殊講義（文学部）
- ・ 中国語中国文学特殊研究（大学院人文社会系研究科）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1		1
博士課程	6	5	5
博士号取得者数	1	2	

2. 本学以外での教育活動

Ⅶ. 過去3年間の研究業績

【著書】

- 大木康 『明末江南の出版文化』 周保雄 訳 上海古籍出版社、2014. (中国語)
- 大木康 『중국명말의미디어혁명 -서민이책을읽다- (中国明末のメディア革命 -庶民が本を読む-)] 高仁徳 訳 延世大学校 大学出版文化院、2013. (韓国語)
- 大木康 『冒襄和影梅庵憶語』 里仁書局、2013. (中国語)

【編著】

- 大木康 監修 『東京大学東洋文化研究所蔵 程乙本紅樓夢（上）（下）・嬌紅記』 汲古書院、2014.
- 大木康 監修 『東京大学東洋文化研究所蔵 程甲本紅樓夢（上）（下）』 汲古書院、2013.

【学術論文】

- 大木康 「「夷」の国の学問—漢学と国学」 田中優子 編 『日本人は日本をどうみてきたか 江戸から見る自意識の変遷』 笠間書院、2015、13-23.
- 大木康 「宋真宗の「勸学文」について」 『大東文化大學漢學會誌』 第53号 (2014)、235-255.
- 大木康 「關於彭劍南的戲曲《影梅庵》與《香畹樓》」 『融通與新變:世變下的中國知識分子與文化』 華藝學術出版、2013、387-414. (中国語)
- 大木康 「明清时期书籍的流通」 复旦大学文史研究院·中华书局编辑部 編 『牖戶明』 中华书局、2013、1-27. (中国語)
- 大木康 「彭劍南の戲曲『影梅庵』『香畹樓』とその時代」 『東洋文化研究所紀要』 第161冊 東京大学東洋文化研究所 (2012)、1-85

【新聞記事】

- 大木康 「清代举子之旅：从广东到北京 —大木康在复旦大学的讲演」 『文汇报』 2014年

6月30日 文汇报 (2014)、1-2. (中国語)

大木康 「インタビュー 研究人生を決めた“事件”「国際関係が悪い時こそ」 『U7』
No.54 学士会 (2014)、10-19.

【書評論文・書誌紹介】

大木康 「住吉朋彦著『中世日本漢学の基礎研究 韻類編』」 國語と國文學 (2013)、
undefined.

【その他記事】

インタビュー 王敏 「與明清文學結下不解之緣—專訪大木康教授」 『國學新視野』 2013
年 夏季號 中國文化院 (2013)、20-29. (中国語)

インタビュー 黄堯峰 「大木康談明清江南文人生活」 『東方早報·上海書評』 2013年2月3
日

板倉聖哲 ITAKURA, Masaaki

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 宋元文人の絵画表象

個人ホームページ：<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>



I. 略歴

【学歴】

1988年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1991年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程修了

1992年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程退学

【職歴】

1992年 東京大学文学部 助手（美術史学研究室）

1995年 台湾大学芸術史研究所訪問学者

1996年 財団法人大和文華館学芸部部員

1999年 東京大学東洋文化研究所 助教授（東洋学研究情報センター [造形資料学分野]）

2001年 11月～2002年 3月 台湾・故宮博物院客員研究員

2002年 4月～2002年 9月 コロンビア大学美術史考古学部客員研究員

2004年 東京大学東洋文化研究所 助教授（東アジア美術部門に配置換）

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2009年 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター兼任

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

研究領域は中国を中心にした東アジア絵画史。東アジアの文化圏においてイメージがどのように共有され（「漢画」文化圏）、また、差異化されたかを比較・検討して、イメージの生成・伝播・受容の過程を追究。個別の作品論としては特に南宋時代の画院画家たちの作品を継続して研究。

III. 班研究

- ・ 現存する中国絵画の包括的再検討
- ・ 仏教美術に関する資料収集と比較研究

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 美術史学会書学
- ・ 書道史学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本学術会議連携委員（2006～2014 年度）
- ・ 美術史学会委嘱委員（2012 年度）
- ・ 美術史学会常任委員（2013～2014 年度）
- ・ 国際東方会議運営委員（2013～2014 年度）
- ・ 三井記念美術館特別展企画委員（2013～2014 年度）
- ・ 根津美術館理事（2014 年度）
- ・ 國華社國華賞選衝委員（2014 年度）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 文学部美術史学科
- ・ 大学院人文科学研究科
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程		1	1
博士課程		1	1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 学習院大学文学部哲学科（2001・2003・2005・2007・2009・2011・2014 年度）
- ・ 上智大学文学部史学科（2004～2012 年度）
- ・ 成城大学文学部藝術学科（2006～2014 年度）
- ・ 早稲田大学文学部（2014 年度）

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

板倉聖哲 『雅 宋代文化の真髄』 瀬津雅陶堂、2014.

板倉聖哲 『NHK スペシャル 故宮 流転の名品を知る・美を見極める』 NHK 出版、2014.

板倉聖哲 『描かれた都—開封・杭州・京都・江戸』 東京大学出版会、2013.

板倉聖哲 『雅 元一禅僧と文人』 瀬津雅陶堂、2012.

【学術論文】

- 板倉聖哲 「沈周早期の作画における倣古意識—「九段錦画冊」(京都国立博物館)を中心に」 『美術史論叢』 第30号(2014)、23-37.
- 板倉聖哲 「王鐸—「弑臣」として、書家・画家として」 『王鐸』 謙慎書道会、2014.
- 板倉聖哲 「東山御物の美—中国絵画を中心として」 『東山御物の美—足利將軍家の至宝』 三井記念美術館、2014.
- 板倉聖哲 「東アジアにおける草虫図—常州草虫画の起点にして」 『東亜大学校石堂博物館所蔵品図録 山水畫・花鳥畫』 東亜大学校石堂博物館、2014.
- 板倉聖哲 「15世紀寧波が見た東アジア絵画—金湜をめぐる」 静永健 編 『東アジア海域に漕ぎだす6 海がはぐくむ日本文化』 東京大学出版会、2014.
- 板倉聖哲 「浦上玉堂と東アジア絵画—前期作品を中心に」 『玉堂片影—シンポジウム浦上玉堂2013』 浦上家史編纂委員会、2014.
- 板倉聖哲 「谷文晁、東アジアへの眼差し」 『日本学』 (2013).
- 板倉聖哲 「沈周早期絵画制作之仿古意識—以『九段錦画冊』(京都国立博物館)為中心」 『蘇州文博』 (2013). (中国語)
- 板倉聖哲 「東アジアにおける蘭亭曲水宴図像の展開」 『美術史論叢』 第29号(2013)、1-25.
- 板倉聖哲 「仏教絵画と宮廷—南宋・馬遠「禪宗祖師図」を中心に」 『シリーズ大乘仏教10 大乘仏教のアジア』 春秋社、2013.
- 板倉聖哲 「「描かれた都」展(於大倉集古館)への誘い」 『UP』、2013、12-17.
- 板倉聖哲 「谷文晁、古画への眼差し—東アジア絵画を中心に」 『生誕250周年 谷文晁』 サントリー美術館、2013.
- 板倉聖哲 「幕末期における東アジア絵画コレクションの史的 position—谷文晁の視点から」 『美術史論叢』 第28号(2012)、27-44.
- 板倉聖哲 「「桃鳩」イメージの変容—王権の表象から平和の象徴へ」 『アジア遊学 東アジアの王権と宗教』 第151号(2012)、196-207.
- 板倉聖哲 「明代前期画壇与雪舟」 浙江省博物館 編 『明代浙派絵画国際學術研討会論文集』 浙江人民美術出版社、2012. (中国語)

【一般向け記事】

- 板倉聖哲 「美意識としての東山御物—中国絵画を中心として」 『聚美』 13号 青月社(2014)、10-23.
- 板倉聖哲 「宗達、わたしの見方 馬脚を現さないひと」 『芸術新潮 特集『風神雷神図』に見る宗達のすべて』 新潮社(2014).
- 板倉聖哲 「国立故宮博物院」 『BT 別冊』 美術出版社(2014).
- 板倉聖哲 「春草画に見る中国的要素」 『別冊太陽 菱田春草』 平凡社(2014).
- 板倉聖哲 「義満の絵画コレクション」 『週刊 新発見!日本の歴史 室町時代2』 第23号

朝日新聞社 (2013).

板倉聖哲 「ボストン美術館の中国美術—岡倉の中国への眼差し」 『別冊太陽 岡倉天心
近代美術の師』 平凡社 (2013).

板倉聖哲 「水墨画」 『PEN 日本美術をめぐる旅』 第 341 号 CCC メディアハウス
(2013).

板倉聖哲 「描かれた妖怪—その祖型をめぐる 辻惟雄氏と対談」 『妖怪萬画上巻 妖怪た
ちの競演編』 青幻舎 (2012).

板倉聖哲 「「中国近代絵画と日本」展を見て」 『京都国立博物館だより 7・8・9月号』 第
175号 京都国立博物館 (2012).

【事典等項目】

板倉聖哲 『世界人名辞典』 岩波書店、2013.

板倉聖哲 『中国文化史辞典』 大修館書店、2013.

【講演】

東京国立博物館特別展「北京故宫博物院 200 選」開催記念国際シンポ ジウム 『清明上河
図』の魅力に迫る—東アジア文化史のなかの『清明上河図』 「北宋絵画としての『清
明上河図』」 2012年1月7日

④南アジア部門

高橋昭雄 TAKAHASHI, Akio

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 東南アジアの農村社会



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1981年 京都大学経済学部経済学科卒業

1993年 博士（経済学）（京都大学）

1986年～1988年 ランゲーン外国語学院留学

【職歴】

1981年 アジア経済研究所入所

1993年～1995年 ミャンマー農業省農業計画局上級研究員

1996年 アジア経済研究所退職

1996年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1993年 発展途上国研究奨励賞

2002年 大平正芳記念賞

II. 取り組んでいるテーマ

ミャンマーの農村地域を中心に社会経済の歴史と現状に関する研究を行ってきた。現在は特に、経済体制の転換と農村社会経済の変容との関係、及びその地域的差異について、文献資料の分析と実態調査の二つの方向から研究を進めている。また、ミャンマーについては「東南アジアの村とは何か」について日本との比較研究を行っている。

III. 班研究

- ・ ミャンマー近現代史における「国」と「民」
- ・ 東南アジア近現代史像の再検討

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（B）「インドシナ稲作・精米・米輸出の150年と世界米市場」（2012～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ アジア政経学会
- ・ 東南アジア史学会
- ・ 棚田学会
- ・ 日本村落研究学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 経済学研究科現代経済専攻
- ・ 総合文化研究科地域文化専攻
- ・ 総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程		1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

高橋昭雄 『ミャンマーの国と民—日緬比較村落社会論の試み—』 明石書店、2012.

【学術論文】

高橋昭雄 「『鎖国』と経済制裁—周回遅れの開発主義—」 田村克己、松田 正彦 編 『ミャンマーを知るための60章』 明石書店、2013、299-303.

高橋昭雄 「ミャンマー・パテインの精米所経営と市場」 『東洋文化研究所紀要』第167冊
2015年3月、504(1)-467(38).

高橋昭雄 「比較の中のミャンマー村落社会論——日本、タイ、そしてミャンマー」 『東南アジア歴史と文化(東南アジア学会誌)』2015年6月、5-26.

【一般向け記事】

高橋昭雄 「ミャンマーの民主化と自由化を再考する（巻頭エッセイ）」 『アジ研ワールドトレンド』第220号 アジア経済研究所(2014)、1.

【口頭発表】

高橋昭雄 「ミャンマー村落社会論構築の試み」 東南アジア学会関東例会 東京外国語大学
本郷サテライト 2014年4月26日.

高橋昭雄 「比較の中のミャンマー村落社会論—日本、タイ、そしてミャンマー」 東南アジア
学会 立教大学 2014年12月20日.

【新聞記事】

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 内戦直前のコーカンの山村にて (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑮)」 『東京ビジネスアイ』 2015年5月1日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: パラウンの村にも経済変容の波 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑭)」 『東京ビジネスアイ』 2015年3月20日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 現代史生きたチツマイン長老 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑬)」 『東京ビジネスアイ』 2015年1月23日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 村長と僧院長、全額自費で訪日 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑫)」 『東京ビジネスアイ』 2014年12月19日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: NLD村長が招いた大騒動 (高橋昭雄東大教授の農村見
聞録⑪)」 『東京ビジネスアイ』 2014年11月21日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 西瓜ブームと土地騰貴 (高橋昭雄東大教授の農村見聞録
⑩)」 『東京ビジネスアイ』 2014年10月5日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 古本商、ジャパングーの死を悼む (高橋昭雄東大教授の
農村見聞録⑨)」 『東京ビジネスアイ』 2014年8月1日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 村の組織はうたかたのごとし (高橋昭雄東大教授の農村
見聞録⑧)」 『東京ビジネスアイ』 2014年7月18日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 仏教徒慣習法に反して… (高橋昭雄東大教授の農村見聞
録⑦)」 『東京ビジネスアイ』 2014年6月20日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 財産分与は生前に (高橋昭雄東大教授の農村見聞録
⑥)」 『東京ビジネスアイ』 2014年6月13日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 門前町の繁栄で発生した金融講 (高橋昭雄東大教授の
農村見聞録⑤)」 『東京ビジネスアイ』 2014年5月9日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 経済効果享受の村民は半分 (高橋昭雄東大教授の農村
見聞録④)」 『東京ビジネスアイ』 2014年4月4日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: パヤーが生み出す新しい職業 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録③)」 『東京ビジネスアイ』 2014年3月28日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 社会の変化を映すパヤー (高橋昭雄東大教授の農村見
聞録②)」 『東京ビジネスアイ』 2014年3月21日 朝刊、?、産経新聞社.

高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: ミャンマーの米価の決まり方 (高橋昭雄東大教授の農

村見聞録⑪)』 『東京ビジネスアイ』 2014年2月14日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 種子から始まるよいコメづくり (高橋昭雄東大教授の
農村見聞録⑩)』 『東京ビジネスアイ』 2014年1月3日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 加速化する電化と情報化 (高橋昭雄東大教授の農村見
聞録⑨)』 『東京ビジネスアイ』 2013年11月15日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「シャン高原のタンデー村」 『アジア研ワールドトレンド』 2013年11月8日、
33-36、アジア経済研究所.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: “多就業”とモータリゼーション (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑧)』 『東京ビジネスアイ』 2013年11月8日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 急速に進む地方の“脱農化” (高橋昭雄東大教授の農村見
聞録⑦)』 『東京ビジネスアイ』 2013年10月24日 朝刊、26、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: コメ輸出復活 精米所にも活気 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑥)』 『東京ビジネスアイ』 2013年9月20日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 病魔が奪った大規模農家の座 (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録⑤)』 『東京ビジネスアイ』 2013年7月19日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 農地配分で村一番の大農家に (高橋昭雄東大教授の農
村見聞録④)』 『東京ビジネスアイ』 2013年7月12日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 農業の近代化と農村社会の変化 (高橋昭雄東大教授の
農村見聞録③)』 『東京ビジネスアイ』 2013年6月14日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 輸出急増 コメの国復活 (高橋昭雄東大教授の農村見聞
録②)』 『東京ビジネスアイ』 2013年5月10日 朝刊、?、産経新聞社.
高橋昭雄 「飛び立つミャンマー: 農地を持たない世帯が半数 高い流動性 (高橋昭雄東
大教授の農村見聞録①)』 『東京ビジネスアイ』 2013年4月12日 朝刊、?、産
経新聞社.

青山和佳 AOYAMA, Waka

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 東南アジアの経済と宗教



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1991年 慶應義塾大学商学部商学科卒業

1994年 慶應義塾大学大学院商学研究科経営学・会計学専攻修士課程修了

2001年 東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻博士課程単位取得退学

2002年 博士（経済学）（東京大学）

【職歴】

1997年～1999年 Visiting Scholar, Institute of Philippine Culture, Ateneo de Manila University

2001年 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 助手

2004年 和洋女子大学人文学部 助教授

2007年 日本大学生物資源学部 准教授

2009年 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授

2013年～2014年 Visiting Scholar, Harvard-Yenching Institute

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

【受賞歴】

2001年「沖永賞」（受賞対象：「リーディング日本の労働」シリーズ（旧）日本労働研究機構の編著者全体として）

2002年「第2回井植記念アジア研究賞」（受賞対象：東京大学大学院経済学研究科提出博士学位論文）

2007年「第23回大平正芳記念賞」（受賞対象：『貧困の民族誌—フィリピン・ダバオ市のサマの生活』東京大学出版会、2006年）

2007年「国際開発学会優秀賞」（受賞対象：同上）

2008年 日本大学生物資源科学部学部長賞（受賞対象：大平賞受賞、国際開発学会優秀賞受賞）

2012年「第8回日本学術振興会賞」（受賞対象：フィリピンのサマ・バジャウ研究）

2013年 北海道大学教育総長賞（受賞対象：全学教育科目英語Ⅰの授業評価）

2014年 北海道大学教育総長賞（受賞対象：全学教育科目英語Ⅰの授業評価）

2014年 北海道大学グランド・エクセレント・ティーチャー（受賞対象：教育総長賞2年連続受賞）

II. 取り組んでいるテーマ

東南アジアの経済発展と人びとの暮らしの変化について民族誌的手法により研究してきた。特に、国民国家の「周縁部」とされる地域やエスニック集団の動態に注目している。メインとしている調査地は、フィリピンのミンダナオ島ダバオ市。現在は、サマ系住民のキリスト教の受容と実践についてフィールドワークを行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（C）「ペンテコステ派とパール行商——サマが経験する21世紀の仕事と祈り」（2014～2017年度）
- ・ 基盤研究（C）「都市に生きるサマの民族誌——生業と信仰をめぐる選択の過程」（2011～2014年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 東南アジア学会
- ・ アジア政経学会
- ・ Association of Asian Studies

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「国際経済特論」（大学院経済学研究科）
- ・ 「地域文化研究特殊研究」（大学院総合文化研究科）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

Ⅶ. 過去3年間の研究業績

【編著】

山本博之 青山和佳 編『台風ヨランダはフィリピン社会をどう変えるかー地域に根ざした支援と復興の可能性を探る』（フィリピン台風災害に関する緊急研究集会報告書）京都大学地域研究統合情報センター(CIAS Discussion Paper No. 45), 2014.

【学術論文】

Aoyama, Waka. "Living in the City as the Sama-Bajau: A Case Study of Biraiya's Family." *Hakusan jinruigaku (Hakusan Journal of Anthropology, printing)* 18 2015. (printing)

Aoyama, Waka. "To Become "Christian Bajau": The Sama Dilaut's Conversion to Pentecostal Christianity in Davao City, Philippines." *Harvard-Yenching Institute Working Paper Series* 2014.

Aoyama, Waka. "Living in the City as the Sama-Bajau: A Case Study of Guwapo's Family." *Hakusan jinruigaku (Hakusan Journal of Anthropology)* 17 2014: 31-58.

青山和佳 「書評 日下渉.『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』 『アジア・アフリカ地域研究』 第13号 (2013)、52-56

青山和佳 「未来を投企するフィリピン人：国内初の保健協同組合創設者の語りより」 『東南アジア研究』 第50巻 第1号 (2012)、39-71.

Aoyama, Waka. "Social Inequality among Sama-Bajau Migrants in Urban Settlements: A Case from Davao City." *Hakusan jinruigaku (Hakusan Journal of Anthropology)*, no. 15 2012: 7-44.

【報告書】

山本博之・*青山和佳*編著『台風ヨランダはフィリピン社会をどう変えるかー地域に根ざした支援と復興の可能性を探る』（フィリピン台風災害に関する緊急研究集会報告書）京都大学地域研究統合情報センター(CIAS Discussion Paper No. 45). 2014年4月.

古井龍介 FURUI, Ryosuke

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 南アジア古代・中世初期史



I. 略歴

【学歴】

1998年 東京大学文学部歴史文化学科東洋史学専修課程卒業

2000年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2006年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程単位取得退学

2007年12月 Ph.D. (Jawaharlal Nehru University)

【職歴】

2000年4月～2001年12月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2007年4月～2008年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2008年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年3月～2011年3月 ベルリン自由大学南アジア言語・文化研究所客員研究員

II. 取り組んでいるテーマ

専門は南アジア古代・中世初期史。碑文、特に銅板文書を始めとするサンスクリット史料の読解を通して農村社会とそこにおける権力関係を研究する。ベンガルを主な対象地域として、各地の碑文史料の収集も行なっている。

III. 班研究

- ・ 南アジア農村社会の歴史的研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 若手研究 (A) 「中世初期東インドにおける武力と武装集団：その性格と農村権力関係との関わり」 (2014～2017年度)
- ・ 若手研究 (B) 「中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と諸社会集団間の交渉」 (2010～2013年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本南アジア学会
- ・ インド考古研究会

- ・ 特定非営利活動法人南アジア文化遺産センター理事
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (2012～2014 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 特殊研究「南アジア前近代史における諸問題」 (人文社会系研究科 2012 年度)
- ・ 特殊研究「南アジア前近代史における諸問題」 (人文社会系研究科 2013 年度)
- ・ 特殊研究「南アジア前近代史の諸問題」 (人文社会系研究科 2014 年度)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去 3 年間の研究業績

【学術論文】

古井龍介 「インド亜大陸の社会と仏教」 新川登亀男 編 『仏教文明と世俗秩序：国家・社会・聖地の形成』 勉誠出版、2015、3-27.

Furui, Ryosuke. "Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the Fifth to the Seventh Century." *Interrogating Political Systems: Integrative Processes and States in Pre-modern India*. Edited by Bhairabi Prasad Sahu and Hermann Kulke. New Delhi: Manohar, 2015: 255-273.

古井龍介 「ベンガル社会の形成—中世初期におけるその萌芽—」 『南アジア研究』 第 25 卷 (2013)、45-53.

Furui, Ryosuke. "Agrarian Expansion and Local Power Relation in the Seventh and Eighth Century Eastern Bengal: A Study on Copper Plate Inscriptions." *Urbanity and Economy: The Pre Modern Dynamics in Eastern India*. Edited by Ratnabali Chatterjee. Kolkata: Setu Prakashani, 2014: 96-110.

Furui, Ryosuke. "Chaprakot Stone Inscription of the Time of Gopāla IV, Year 9. " *Centenary Commemorative Volume (1913-2013)*. Dhaka: Bangladesh National Museum, 2013: 110-117.

Furui, Ryosuke. "The Kotalipada Copperplate Inscription of the Time of Dvādaśāditya, Year 14." *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series 4* 2013: 89-98.

Furui, Ryosuke. "Finding Tensions in the Social Order: a Reading of the Varṇasaṃkara

Section of the Br̥haddharmapurāṇa." *Revisiting Early India: Essays in Honour of D. C. Sircar*. Edited by Suchandra Ghosh et al. Kolkata: R. N. Bhattacharya, 2013: 203-218.

Furui, Ryosuke. "Br̥hmaṇas in Early Medieval Bengal: Construction of their Identity, Networks and Authority." *Indian Historical Review* 40, no. 2 2013: 223-248.

Furui, Ryosuke. "Merchant groups in early medieval Bengal: with special reference to the Rajbhita stone inscription of the time of Mahīpāla I, Year 33." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 76, no. 3 2013: 391-412.

【書評論文・書誌紹介】

Furui, Ryosuke. Review of *Hāth-Kāghaz: History of Handmade Paper in South Asia*, by Masatoshi A. Konishi. *The International Journal of Asian Studies* 12, no. 1 (2015): 118-120.

【口頭発表】

Furui, Ryosuke. "Characteristics of *Kaivarta* Rebellion Delineated from the *Rāmacarita*." Presented at the *Section I: Ancient India, December 29, 2014 of Indian History Congress 75th Session, held at Jawaharlal Nehru University, 28-30 December 2014*, New Delhi, 2014.

Furui, Ryosuke. "Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the 5th to the 7th Century." Presented at the *Session 3: Formation of State and Society during the Period of the 5th-14th Centuries, March 9, 2014 of The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks, State Formation and Social Integration in Pre-Modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, held by Toyo Bunko, March 8-9, 2014*, Tokyo, 2014.

Furui, Ryosuke. "Inscribed Powers: Copper Plate Inscriptions of Eastern India and their Changing Forms." Presented at the *Session Material II (Others), November 15, 2013 of CSMC Conference on "Manuscripts and Epigraphy", held by Centre for the Study of Manuscript Cultures, Universität Hamburg, November 14-16, 2013*, Hamburg, 2013.

Furui, Ryosuke. "Bangladesh National Museum Vase Inscription of the Time of Devātideva and its Implications for the Early History of Harikela." Presented at the *Session 7: History, July 9, 2013 of Centenary Celebration of Bangladesh National Museum 1913-2013 International Seminar, held by Bangladesh National Museum, July 8-9, 2013*, Dhaka, 2013.

【事典等項目】

古井龍介 「アショーカ, ウィマ・カドフィセス, ガウタミープトラ・サータカルニ, カニシュカ1世, クジューラ・カドフィセス, サムドラグプタ, チャンドラグプタ, チャンドラグプタ2世, ビンビサーラ, プリトヴィーラージャ3世, メナンドロス」 岩波書店辞典編集部 編 『岩波世界人名大辞典』岩波書店、2013.

馬場紀寿 BABA, Norihisa

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 上座部仏教の思想と歴史



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

2000年 東京大学文学部思想文化学科卒業

2002年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2006年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程修了

2006年 博士(文学)(東京大学)

【職歴】

2006年 東京大学東洋文化研究所 助手

2007年 東京大学東洋文化研究所 助教

2006年10月 Research Associate, Darwin College, University of Cambridge

2009年4月 Visiting Research Fellow, HCBSS, Stanford University

2010年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

【受賞歴】

2009年 日本南アジア学会賞 (日本南アジア学会)

(受賞対象:『上座部仏教の思想形成—ブッダからブッダゴーサへ』春秋社、2008年)

2011年 日本印度学仏教学会賞 (日本印度学仏教学会)

II. 取り組んでいるテーマ

研究領域は古代インド仏教と上座部仏教。パーリ文献とサンスクリット文献・漢訳文献・チベット訳文献とを比較して、インド仏教史を解明することを目指している。特に、スリランカと東南アジア大陸部に広まる上座部仏教が成立する過程を研究している。

III. 班研究

- ・ 中国禅宗語録の研究
- ・ 上座部文献の研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 若手研究 (B) 「初期仏典伝承史の研究: パーリ経典の様式分析と北伝資料との比較に基

づいて」(2012～2015年度)

V. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本南アジア学会
- ・ 日本印度学仏教学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本宗教学会
- ・ パーリ学仏教文化学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程		1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【学術論文】

馬場紀寿 「『宝篋印経』の伝播と展開—スリランカの大乗と不空、延寿、重源、慶派—」

『仏教学』第54号, 2013年.

馬場紀寿 「パーリ仏典圏の形成—スリランカから東南アジアへ」, 新川登亀男編『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』, 弁性出版, 2015年.

【海外での口頭発表、講演】

“Sri Lankan Impacts on East Asian Buddhism: Transmission of a Dhāraṇī sutra”,
Buddhism Without Borders: An International Conference on Globalized Buddhism,
Bumthang, Bhutan, May 2012.

“The Making of the Chinese Ekottarikāgama 49.5”, Seventh Biennial International
Conference on Buddhist Texts: Critical Edition, Transliteration and Translation,
Somajya Vidyavihar, Mumbai, India, December 2012.

“Rethinking Canonicity within Theravāda in the Light of Sarvāstivāda Scriptures”, 17th
Congress of International Association of Buddhist Studies, University of Vienna, 23
August 2014.

“Beyond the Pali Texts: Shaku Sōen’s Three Years in Ceylon,” Workshop on Religion and Modernity in the Context of East Asian Philosophy, 2015 年 1 月 11 日, 台湾政治大学.

⑤西アジア部門

長澤榮治 NAGASAWA, Eiji

所属部門 西アジア部門

研究テーマ 近代アラブ社会経済史



I. 略歴

【学歴】

1976年 東京大学経済学部経済学科卒業

【職歴】

1976年 特殊法人アジア経済研究所入所

1981年2月～1983年6月 エジプト・カイロ大学文学部大学院にて海外派遣として在外研究に従事

1983年6月 帰国、同研究所調査研究部に配属

1992年2月 地域研究部副主任調査研究員

1995年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1998年～1999年 日本学術振興会カイロ研究連絡センター長

1998年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2002年～2005年 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 主任

2008年～2009年 東京大学東洋文化研究所副所長

2013年～2014年 東京大学東洋文化研究所副所長

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター副センター長

II. 取り組んでいるテーマ

近代エジプト社会経済史を中心にして、中東地域研究に取り組んでいる。現在、主要な研究課題として取り組んでいるのは、2011年に始まるアラブ革命と中東政治の構造変容について、エジプトの事例を中心にその動向を把握し、その歴史的な位置づけについての考察する研究である。また、エジプト社会研究に関して、これまで行ってきた家族をめぐる問題群に関する研究をまとめるため、その総括的な考察を準備している。この研究に関連して、エジプト社会学者の自伝（サイイド・オウエイヌ『私が背負った歴史』）の翻訳を継続して行っている。

III. 班研究

- ・ 中東の社会変容と思想運動

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A) 「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究 (2012～2015 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本イスラム協会
- ・ オリエント学会
- ・ 日本中東学会 (理事) (2012～14 年度) 会長 (2009～10 年度)
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (海外拠点専門委員会委員) (2010～2015 年度)
- ・ 人間文化研究機構 (地域研究推進委員会イスラーム地域部会専門委員) (2012～2014 年度)
- ・ 公益財団法人日本国際問題研究所 (「グローバル戦略課題としての中東-2030 年の見通しと対応」研究会主査) (2013～14 年度)
- ・ 早稲田大学イスラーム地域研究機構 (共同利用・共同研究拠点運営委員会) (2013～14 年度)
- ・ 一橋大学大学院経済学研究科 (博士学位申請論文審査員) (2014 年度)
- ・ 日本貿易振興機構アジア経済研究所 (第 35 回「発展途上国研究奨励賞」選考委員長) (2014 年度)
- ・ 日本貿易振興機構アジア経済研究所 (第 36 回「発展途上国研究奨励賞」選考委員長) (2015 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	1	1	
博士課程	3	3	3
博士号取得者数	1	1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 上智大学 (2014 年度前期)
- 山梨県立大学 (2014 年度後期)

VII. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

長澤榮治 『エジプトの自画像 ナイルの思想と地域研究(東洋文化研究所叢刊第 27 輯)』 平

凡社、2013.

長澤榮治 『エジプト革命 アラブ世界変動の行方(平凡社新書)』 平凡社、2012.

長澤榮治 『アラブ革命の遺産 エジプトのエダヤ系マルクス主義者とシオニズム』 平凡社、2012.

【学術論文】

Nagasawa, Eiji. "Historical Dynamism of the Arab Revolution." *The Middle East Turmoil and Japanese Response - For a Sustainable Regional Peacekeeping System -*. Edited by Hitoshi Suzuki. Chiba: Institute of Developing Economies, 2013: 104-122.

長澤榮治 「革命とセクハラ—エジプト映画『678』をめぐって」 『地域研究』 第13巻 第2号 (2013)、399-404.

長澤榮治 「アラブ革命と地域研究—特集I 「中東から変わる世界」を読んで」 『地域研究』 第13巻 第1号 (2013)、203-207.

Nagasawa, Eiji. "Comparing Two Egyptian Revolutions." *Mediterranean World*, no. 21 2012: 267-81.

長澤榮治 「大統領選後のエジプト」 『学士会報』 第897巻 (2012)、27-31.

長澤榮治 「アラブ革命の構想—グローバル化と社会運動—」 『歴史学研究』 増刊号 898 (2012)、12-20.

長澤榮治 「2つのナショナリズム—ワタニーヤとカウミーヤ—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60章』 明石書店、2012、88-91.

長澤榮治 「生命の絆を結ぶ大河—ナイル川—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60章』 明石書店、2012、34-37.

長澤榮治 「革命を引き継ぐ者たち—民衆蜂起を支える学生運動—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60章』 明石書店、2012、130-134.

羽田正 HANEDA, Masashi

所属部門 西アジア部門

研究テーマ 世界史の再構築

個人ホームページ : <http://haneda.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.html>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1976年 京都大学文学部史学科卒業

1978年 京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程修了

1983年 イラン学第3期博士 (パリ第3大学)

【職歴】

1984年 日本学術振興会奨励研究員

1985年 日本学術振興会特別研究員

1986年 京都橘女子大学文学部助教授

1989年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1996年 ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員

1997年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年 フランス CNRS 客員研究員

2002年 ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員

2004年～2006年 東京大学東洋文化研究所副所長

2009年～2012年 東京大学東洋文化研究所所長

2012年～2014年 東京大学副学長・国際本部長

【受賞歴】

・1988年 日本オリエント学会奨励賞

・2002年 毎日出版文化賞 (受賞対象『イスラーム辞典』)

・2006年 アジア太平洋賞特別賞 (受賞対象『イスラーム世界の創造』)

・2010年 アジア太平洋出版協会出版賞学術書部門銀賞 (アジア太平洋出版協会)

(受賞対象: Haneda Masashi ed., *Asian Port Cities 1600-1800. Local and Foreign Cultural Interactions* (Kyoto University Press & National University of Singapore Press, 2009))

・2010年 ファーラービー国際賞 (受賞対象: 『イスラーム世界の創造』)

II. 取り組んでいるテーマ

歴史認識と世界史理解は、時代に応じて変化してゆく。その意味で、私たちの世界史理解

は常に問い直されねばならない。現代にふさわしい新たな世界史をどのように理解しどう描けばよいただろう。これはまず哲学的な問いであるが、同時に従来型の歴史学の研究方法への挑戦でもある。「ヨーロッパ」「イスラーム世界」「中国」など、これまでの歴史叙述の枠組みとなった概念や世界史を語る際の基本用語（国家、宗教、民衆、奴隷など）を国際的な場で再検討することからはじめ、世界史理解と叙述の全面的刷新、さらには文系学問の再構築をも視野に入れた研究活動を展開してゆきたい。

Ⅲ. 班研究

- ・ 都市社会と宗教施設
- ・ 比較歴史学の課題と方法

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」(2009～2013 年度)
- ・ 日本学術振興会 研究拠点形成事業 A.先端拠点形成型 「新しい世界史／グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築」(2014～2018 年度)

Ⅴ. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本中東学会(評議員)
- ・ 史学会
- ・ 東洋史研究会
- ・ 西南アジア研究会
- ・ Association pour l'avancement des études iraniennes
- ・ 三島海雲記念財団(評議員)(2008～2015 年度)
- ・ 日本学術振興会(特別研究員等審査会専門委員)(2004～2006,2014 年度)
- ・ 日本学術振興会(特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員)(2011,2012 年度)
- ・ 日本学術振興会(科研費委員会審査・評価第1部会委員)(2012,2013 年度)
- ・ 日本学術振興会(「課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業」事業委員会委員)(2013～2015 年度)
- ・ 日本学術会議(連携会員)(2008～2013 年度)
- ・ 日本創生委員会(日本創生委員会委員)(2012～2014 年度)
- ・ 日本創生委員会(日本創生委員会タスクフォース「グローバル人材育成 Table 委員」)(2012～2014 年度)
- ・ 人間文化研究機構(総合研究推進委員会委員)(2012～2015 年度)
- ・ 京都大学地域研究統合情報センター(共同研究課題選考委員会委員)(2012～2013 年度)
- ・ 奈良県(「日本と東アジアの未来を考える委員会」委員)(2012 年度)
- ・ 文部科学省(科学官)(2012～2014 年度)

- ・ 公益財団法人日本国際教育支援協会（理事）（2013～2015年度）
- ・ 公益財団法人経団連国際教育交流財団（理事）（2013～2015年度）
- ・ 国立教育政策研究所（高等学校学習指導要綱実施調査外部審査委員会委員）（2014年度）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科地域文化研究専攻
- ・ 人文社会系研究科アジア史専攻
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	5	5	6
博士号取得者数	1	1	

2. 本学以外での教育活動

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

- 羽田正 『新しい世界史へ(韓国語)』 李秀烈訳 Sunin 出版、2014.
- 羽田正 『“イスラーム世界“概念的形成』 劉麗嬌 朱莉麗 訳 上海古籍出版社、2012. (中国語)
- 羽田正 『東インド会社とアジアの海 (韓国語)』 李秀烈 具知瑛 訳 Sunin 出版、2012.

【編著】

- 羽田正 編 『海から見た歴史』 東京大学出版会、2013.

【学術論文】

- 羽田正 「東亜與世界史」 第17巻 『人文社会科学版』 澳門理工学報、2014、181-184.
- 羽田正 「Global History, グローバルヒストリーと日本史」 第20巻 『岩波講座日本歴史月報11』 岩波書店、2014、1-4.
- 羽田正 「空間概念の歴史の意味とイスラームの東方への伝播」 国際歴史学韓国委員会 編 『世界史の中のイスラーム』 日韓文化交流基金、2014、138-142.
- 羽田正 「グローバル化社会と教養」 『教育研究』 第1343号 不昧堂出版 (2014)、14-17.
- 羽田正 「外向きの若者たち」 『月刊経団連 2013年3月号』 日本経済団体連合会 (2013)、49.
- 羽田正 「東大教師が新入生にすすめる本」 『UP』 第486号 東京大学出版会 (2013)、16-17.

羽田正 「「新しい世界史」とジェンダー史」 『ジェンダー史学』 第8号 ジェンダー史学会 (2012)、163-164.

【口頭発表】

Haneda, Masashi. "Japanese Perspectives on Global History." Presented at the *Colloquium Global History*, Berlin Free University, December 8 2014.

Haneda, Masashi. "History of Japanese Historiography and “Global History”." Presented at the *Workshop “Is Global History Truly Global: Positionality of Historians”*, Humboldt University Berlin, December 5 2014.

羽田正 「最近の中東・アフリカ情勢—イスラーム世界の内部分裂？」 TM研究会 三井住友銀行呉羽橋クラブ 2014年10月9日.

羽田正 「現代世界と新しい世界史 地域世界概念は新しい世界史に有効か？」 平成26年度第49回徳島県高等学校教育研究大会 地歴学会 徳島県立小松島高等学校 2014年8月22日.

羽田正 「三木史学をめぐる—新しい世界史を中心に」 UTCMES 公開シンポジウム『悪としての世界史：三木亘の中東地域文化論』 東京大学駒場キャンパス 2014年4月20日.

羽田正 「世界史と西アジア史」 新学術領域研究「西アジア文明」研究会 筑波大学東京 2014年3月9日.

羽田正 「東アジアと世界史」 3研究所合同シンポジウム『東アジアから世界史を見る/考える』 京都大学人文科学研究所 2014年1月24日.

Haneda, Masashi. "Education of World/Global History in Japan and Japanese Scholarship." Presented at the *Graduate Conference on World/Global History*, Princeton University, December 19 2013.

羽田正 「東アジアと世界史」 第3回復旦・プリンストン・東大国際学術会議「せめぎあう「世界史」：中国、日本、アメリカの視点から」 プリンストン大学 2013年12月16日.

羽田正 「空間概念の歴史の意味とイスラームの東方伝播」 第13回日韓歴史家会議「世界史の中のイスラーム」 東北亜歴史財団（ソウル） 2013年10月26日.

Haneda, Masashi. "Age of Global Humanities." Presented at the *The 2013 ACHRC Annual Meeting, Spaces and Networks in Humanities*, The University of Western Australia, July 9 2013.

Haneda, Masashi. "Is the Framework of East Asia Effective in Designing New World/Global History?" Presented at the *Workshop East Asia in World History: Dialectics Between the National and Global*, Berlin Free University, June 22 2013.

羽田正 「未来のための世界史」 中国社会科学院世界歴史研究所 2013年4月9日.

Haneda, Masashi. "Towards a History of the World for Global Citizens." Presented at the *Workshop on Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History*, Indian Ocean World Centre, McGill University, February 17 2013.

羽田正 「招待講演. 新しい世界史へとその後.」 愛知県世界史教育研究会第30回記念大会. 愛知県世界史教育研究会 名古屋経済大学サテライトキャンパス 2012年12月26日.

Haneda, Masashi 「Comments to Professor Conrad's presentation」 *Global History: Promises, Challenges and Limits*, 科研費共同研究「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」 東京大学東洋文化研究所 2012年10月6日.(英語)

羽田正 「招待講演. 新しい世界史へ.」 北海道世界史教育研究会年次大会. 北海道世界史教育研究会 札幌大学 2012年9月29日.

羽田正 「招待講演. 「新しい世界史へ」という運動.」 大阪大学歴史教育研究会特別例会. 大阪大学歴史教育研究会 大阪大学文学部本館 2012年4月7日.

【新聞記事】

羽田正 「インタビュー. 羽田正談新世界史構想」 『東方早報・上海書評』 2012年7月1日.

羽田正 「「共生の世界史」の創造へ」 『聖教新聞』 2012年5月2日.

梶屋友子 MASUYA, Tomoko

所属部門 西アジア部門

研究領域 イスラーム地域における美術と社会



I. 略歴

【学歴】

1986年 東京大学文学部美術史学専修課程卒業

1989年 ニューヨーク大学大学院美術研究所修士課程修了

1990年 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻修士課程修了

1997年 ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程修了

【職歴】

1992年～94年 メトロポリタン美術館イスラーム部ハゴップ・ケヴォルキアン学芸研究員

1997年～99年 国立民族学博物館第2研究部（のち博物館民族学研究部）助手

1999年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2007年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

西アジア、中央アジア、北アフリカにおけるイスラーム時代の美術史を、物質資料及び文字資料に基づいて研究・調査を行っている。特に13～14世紀のモンゴル時代における文化の東西交流に関心を持つ。

III. 班研究

- ・ イスラーム美術の諸相

IV. 外部資金による研究

日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費学術図書（2013年度、『イスラームの写本絵画』）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本中東学会
- ・ 日本オリエント学会（理事2010年4月～2014年5月；監事2014年5月～）
- ・ 美術史学会
- ・ Historians of Islamic Art Association
- ・ 東洋陶磁学会

- ・ 岡山市立オリエント美術館との研究協力協定（2007年2月～）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「イスラーム美術史」（大学院人文社会研究科基礎文化研究専攻美術史学専門分野、文学部美術史学専修課程共通）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	1		
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東京外国語大学（2004～2006, 2013年度）

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

榊屋友子 『イスラームの写本絵画』 名古屋大学出版会、2014.

フェアチャイルド・ラッグルズ 『図説イスラーム庭園』 木村高子 訳 榊屋友子 監修 原書房、2012.

【学術論文】

榊屋友子 「スルターン・アフマド・ジャラーイル詩集の彩飾画」 『國華』 第1428巻 國華社（2014）、9-21.

榊屋友子 「ラスター彩とイスラームの美術 ほかに4項目」 『INAX ライブミュージアム「世界のタイル博物館」コレクション、ラスター彩タイル：天地水土の輝き』 INAX ライブミュージアム（2013）、2-16.

Masuya, Tomoko. "Seasonal Capitals with Permanent Buildings in the Mongol Empire." *Turco-Mongol Rulers, Cities and City Life*. Edited by D. Durand-Guédy. Leiden: Leiden, 2013: 223-56.

榊屋友子 「アブー・ナスル・アル＝バスリー作押し型装飾鉛釉断片」 『國華』 第1416巻 國華社（2013）、35-37.

榊屋友子 「アラビア文字とイスラーム美術」 須藤寛史 編 『銘文に秘められたオリエントの世界』 岡山市立オリエント博物館、2012、28-29.

榊屋友子 「獨門焼—イスラームの神秘虹彩：中東と近東の虹彩陶器史」 嚴雅美 訳 『典藏』（2012）.

【口頭発表】

梶屋友子 「児島虎次郎とフーケ・コレクションのイスラーム陶器片」 特別展「児島虎次郎は見た！ オリエント文化 東西の架け橋」 関連シンポジウム「児島虎次郎の見た世界」 2014年12月20日.

梶屋友子 「大モンゴル『シャーナーメ』写本の挿絵を読む」 復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部、東京大学東洋文化研究所共催 「宗教、文学と画像 国際シンポジウム」 2014年12月15日.

Masuya, Tomoko. "Images of Iranian Kingship on the Ilkhanid Tiles." Presented at the *The Idea of Iran: post-Mongol polities and the reinvention of Iranian identities*, SOAS, University of London, November 22 2014.

梶屋友子 「陶器の華：イズニクの器とタイル」 さくら一れ（日本トルコ女性交流会） 2014年11月2日.

梶屋友子 「イスラーム宗教建築とその周辺」 平成26年度京都国立博物館第81回夏期講座 京都国立博物館 2014年8月1日.

梶屋友子 「エジプトのイスラーム美術：魅力と重要性」 第1回エジプト・コプト&イスラーム物質文化研究会 2014年5月14日.

梶屋友子 「イスラーム美術とラスター彩タイルの魅力」 INAX ライブミュージアム 2013年11月16日.

梶屋友子 「大原美術館所蔵フーケ・コレクションのイスラーム陶片について」 シンポジウム「大原美術館古代エジプト・西アジア関係資料について考える」 大原美術館 2013年9月22日.

Tomoko, Masuya. "The Study of Islamic Art in Japan." Presented at the *WIAS International Seminar "Islamic Art in East and Southeast Asia"*, WASEDA University, January 12 2013.

梶屋友子 「文系研究者という仕事」 豊島岡女子学園 2013年3月16日.

梶屋友子 「アラビア文字とイスラーム美術」 「銘文に秘められたオリエントの世界」 特別講演会 岡山市立オリエント美術館 2012年12月15日.

梶屋友子 「イラン的な場面が描かれた刺繍ショールについて」 第3回シルクロード研究会 2012年12月8日.

梶屋友子 「关于伊斯兰写本绘画：鉴赏的趣味（曾诚訳）」 外国国情研究系列学术講座3 華中科技大学外国語学院 2012年4月1日.

【一般向け記事】

梶屋友子 「読書案内：イスラーム美術」 『歴史と地理』 第669巻 山川出版社（2013）、33-36.

牧野洋子 梶屋友子 監修「コーヒーと世界遺産4：贅の限りを尽くした、コーヒーカップ受

け。トプカプ宮殿博物館」梶屋友子 監修 『コーヒーブレーク』 2013年8月。
梶屋友子 協力「イスラムとは何か。」 『pen Books』 (2013)、82-93。
梶屋友子 協力「完全保存版 いまこそ知りたい、イスラム」 『pen plus』 阪急コミュニケーションズ (2012)、94-98。
梶屋友子 「イスラーム陶器史研究におけるデータ収集」 『明日の東洋学』 第28号 東洋文化研究所 (2012)、2-5。
梶屋友子 監修「ダマスカス国立博物館」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 朝日新聞出版 (2012)、24。

【新聞記事】

梶屋友子 「日本で見るとペルシャの美（「4で知るアート」、4回連載）」 『朝日新聞』 2014年。
梶屋友子 「イスラムの天空世界（12回連載）」 『時事通信社』（『河北新報』ほか） 2014年。
梶屋友子 「杯 鎖帷子を着た十字軍兵士（地中海の息吹—ルーヴル美術館展から—4）」 『日本経済新聞』 2013年8月。
梶屋友子 「イスラムの動物十選（10回連載）」 『日本経済新聞』 2012年。

【その他】

INAX ライブミュージアム 『ラスター彩タイル—天地水土の輝き』展 監修、2013年。

鎌田 繁 KAMADA, Shigeru

所属部門 西アジア部門

研究テーマ イスラーム宗教思想の構造と展開



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1974年 東京大学文学部第一類(文化学)卒業

1976年 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専門課程修士課程修了

1977年～1982年 マッギル大学イスラーム学研究所留学

【職歴】

1982年～1984年 東京大学文学部 助手

1984年 東京外国語大学非常勤講師

1984年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1989年～1990年 日本学術振興会カイロ研究センター派遣

1995年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年～2001年 ハーヴァード大学近東言語文明学科客員研究員

2006年～2008年 東京大学東洋文化研究所副所長

【受賞歴】

1983年 第5回日本オリエント学会奨励賞（社団法人日本オリエント学会）

1984年 第17回流沙海西奨学会賞（流沙海西奨学会）

II. 取り組んでいるテーマ

シーア派の神秘思想を中心にイスラームの思想を研究してきた。神秘思想（イルファーン）の世界観・人間（靈魂）観を、主にアラビア語の文献資料に基づいて考察している。クルアーン解釈と思想表現がどのように結びついているかにも関心をもつ。

具体的な課題

- (1) モッター・サドラーのクルアーン解釈の方法と特徴の解明
- (2) モッター・サドラーの人間理解の思想的、比較思想的探求
- (3) イスラームの思想を統合的に把握するための視点の構築
- (4) イスラームの思想的テキストの翻訳

Ⅲ. 班研究

- ・ イスラーム思想の文献学的研究

Ⅳ. 外部資金による研究

Ⅴ. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本オリエント学会（会長） 2012～2016 年度
- ・ 日本宗教学会（評議員・理事）
- ・ 日本イスラム協会（評議員）
- ・ 西南アジア研究会
- ・ 比較思想学会
- ・ 井筒ライブラリー編集委員

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 人文社会系研究科アジア文化研究イスラム学（1985-2014 年度）
- ・ 文学部宗教学・宗教史学（2008, 2012 年度）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 長崎大学歯学部（2004-2015 年度）
- ・ 京都大学文学研究科・文学部（2014 年度）
- ・ 東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科（2002, 04, 06, 08, 10, 12 年度）

Ⅶ. 過去 3 年間の研究業績

【学術論文】

鎌田繁 「イスラームと仏教」 『東洋学術研究』 53-2 東洋哲学研究所（2014）、25-51.

鎌田繁 「イスラーム思想と井筒「東洋哲学」」 『宗教研究』 87 別冊 日本宗教学会（2014）、36-37.

鎌田繁 「イスラーム神秘主義と流出論」 市川裕 編 『世界の宗教といかに向き合うか（月本昭男先生退職記念献呈論文集第 1 巻）』 聖公会出版、2014、103-119.

鎌田繁 「他者との共生とイスラーム」 『国際哲学研究』 別冊 3 東洋大学国際哲学研究セ

ンター (2013)、101-112.

鎌田繁 「聖典解釈と哲学 イスラーム神秘思想の営み」 『比較思想研究』 第39巻 比較思想学会 (2012)、143-148.

鎌田繁 「マハディーとマイトレーヤ (弥勒仏) - イスラームと仏教における救済者 -」 『一神教学際研究』 第8巻 同志社大学一神教学際研究センター (2012)、63-79.

Kamada, Shigeru. "Mahdi and Maitreya (Miroku): Saviors in Islam and Buddhism." *Journal of the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions*, Kyoto: Center for the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions, Doshisha University 8 2012: 59-76.

鎌田繁 『『存在認識の道』一井筒東洋哲学を支えるもの』 坂本勉 松原秀一 編 『井筒俊彦とイスラーム』 慶應義塾大学出版会、2012、379-388.

【事典等項目】

鎌田繁 「イスラーム概説」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、162-165.

鎌田繁 「シーア派」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、182-185.

鎌田繁 「イスラーム文化圏」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、629.

森本一夫 MORIMOTO, Kazuo

所属部門 西アジア部門

研究領域 ムスリム諸社会の宗教社会史

個人ホームページ：<http://homepage3.nifty.com/morikazu/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1992年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1995年 東京大学大学院人文社会系研究科東洋史学専攻修士課程修了

1996年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程退学

1996年9月～1998年9月 文部省アジア諸国等派遣留学生（受入：テヘラン大学人文学部）

2004年 博士（文学）（東京大学）

【職歴】

1996年 東京大学東洋文化研究所 助手

2001年 北海道大学大学院文学研究科 助教授

2004年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年1月 プリンストン大学近東学部 Visiting Fellow

【受賞歴】

2008年 イラン政府、第一回ファーラービー国際賞

（受賞対象：『サイド・系譜学者・ナキーブ』東京大学博士学位論文、2004）

II. 取り組んでいるテーマ

「ライフ・ワーク」としているのは、イスラーム教の預言者ムハンマドの一族とされる人々、すなわち「サイド」「シャリーフ」などと呼ばれる人々に関する研究である。彼らの姿を解明することを通して、イスラーム教という可変的な宗教伝統がとってきた多様なあり方や、人間社会において血統という観念が受けてきた扱いについて、よりよく理解したいと思っている。

また、主にアラブの侵入とモンゴル侵入に挟まれた時期のイラン高原の宗教社会史・文化史にも関心がある。

現在取り組んでいる具体的な課題：

- ・9世紀後半から15世紀の中東地域におけるサイド／シャリーフ系譜学に関する社会史的研究。

- ・サイイド／シャリーフの特殊性を説く「美質もの」文献を通した、彼らをめぐる言説の研究。
- ・サイイド／シャリーフ研究のよりよいあり方に関する模索。
- ・ペルシア語が話されていた 12 世紀後半の東イランでアラビア語の素養が帯びていた意義についての研究。

Ⅲ. 班研究

- ・ ペルシア語文化圏研究

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「イスラーム法から見たムハンマド一族」(2012～2014 年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 史学会
- ・ 日本オリエント学会 (理事・編集委員長)
- ・ 日本中東学会 (理事)
- ・ 日本イスラム協会 (監事)
- ・ The International Society for Iranian Studies
- ・ Middle East Studies Association of North America
- ・ 上智大学アジア文化研究所共同研究所員 (2008 年度より)
- ・ 慶應義塾大学言語文化研究所共同研究所員 (2010～13 年度)

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 大学院人文社会系研究科アジア史専攻
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	2	1	
博士課程	1	2	2
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 九州大学大学院人文科学府 (2014 年度)

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

近藤和彦ほか 11 名 森本一夫含む『世界の歴史 (81 山川世 A308)』 山川出版社、2014.

【編著】

Morimoto, Kazuo, ed. *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: Living Links to the Prophet*. Abingdon, Oxon: Routledge, 2012.

【学術論文】

Kazuo Morimoto, "Ketāb al-naqz," in Ehsan Yarshater ed., *Encyclopaedia Iranica* (online), 2015.

森本一夫 「ティムール家のアリー裔血統主張に関する新証拠」 『オリエント』 第 57 巻 第 2 号 (2015): 77-90.

Morimoto, Kazuo. "The Prophet's Family as the Perennial Source of Sainly Scholars: Al-Samhudi on 'Ilm and Nasab." *Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World*. Edited by Catherine Mayeur-Jaouen and Alexandre Papas: Berlin: Klaus Schwarz Verlag and École des Hautes Études en Sciences Sociales, 2014: 106-124.

Morimoto, Kazuo. "Keeping the Prophet's Family Alive: Profile of a Genealogical Discipline." *Genealogy and Knowledge in Muslim Societies: Understanding the Past*. Edited by Sarah Bowen Savant and Helena de Felipe: Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014: 11-23.

森本一夫 「ナーセル・ホスロウとその《旅行記》：屋上に牛はいたのか」 長谷部史彦 編 『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』 慶應義塾大学出版会、2014、237-256.

'Abd Allah b. Muhammad Ibn Katila Husayni; Kazuo Morimoto, ed. "Bayan al-Ad'iyā'" *Jashn-namah-i Ustad Sayyid Ahmad Ishkiwari*. Edited by Rasul Ja'fariyan: Tehran: Nashr-i 'Ilm, Qom: Kitabkhanah-i Takhassusi-i Tarikh-i Islam wa Iran and [Tehran:] Khanah-i Kitab-i Tihran, 2013: 959-1004.

Morimoto, Kazuo. "The Hui People and the Muslim World: A Study of an Arabic Inscription Text in Henan Province." *East Asia in the Context of World/Global History*, 2012: 391-392.

森本一夫 「回民和伊斯兰世界：从河南省某阿拉伯语碑文说起」『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012)、98-105. (中国語)

森本一夫 「回民とイスラーム世界：河南省のあるアラビア語碑文の検討から」『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012)、219-227.

Morimoto, Kazuo. "Introduction." *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living*

Links to the Prophet. Edited by Kazuo Morimoto: London and New York: Routledge, 2012: 1-12.

Morimoto, Kazuo. "How to Behave toward Sayyids and Sharīfs: A Trans-sectarian Tradition of Dream Accounts." *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*. Edited by Kazuo Morimoto: London and New York: Routledge, 2012: 15-36.

中西竜也, 森本一夫, 黒岩高 「17・18世紀交替期の中国古行派イスラーム: 開封・朱仙鎮のアラビア語碑文の検討から」 『東洋文化研究所紀要』 第162巻(2012)、120(223)-55(288).

森本一夫 「ムハンマド一族の研究」 『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』 第82巻(2012)、119-123.

森本一夫 「「イスラームを知る」という隘路」 福井憲彦, 田尻信壹 編 『歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン: 思考力・判断力・表現力の育て方』 明治図書出版、2012、37-42.

【書評論文・書誌紹介】

Morimoto, Kazuo. "Arnold E. Franklin, *This Noble House: Jewish Descendants of King David in the Medieval Islamic East*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2013, xv + 297 pp." *International Journal of Asian Studies* 11, no. 2 (2104): 211-213.

Morimoto, Kazuo. "Stephennie Mulder, *The Shrines of the ‘Alids in Medieval Syria: Sunnis, Shi‘is and the Architecture of Coexistence*, Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014, xiv, 297 pp." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 77, no. 3 (2014): 577-579.

森本一夫 「新刊紹介: 堀池信夫(総編集), 堀川徹(編)『知の継承と展開: イスラームの東と西』知のユーラシア2, 明治書院, 2014年」 『オリエント』 第57巻 第1号(2014)、95-96.

⑥新世代アジア部門

菅 豊 SUGA, Yutaka

所属部門 新世代アジア部門

研究領域 東アジアの自然と文化

個人ホームページ：<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~suga/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1986年 筑波大学第一学群人文学類卒業

1989年 修士（文学）（筑波大学）

1991年 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科退学

1998年 博士（文学）（筑波大学）

【職歴】

1991年4月 国立歴史民俗博物館研究部 助手

1996年1月 文部省在外研究員（華東師範大学中文系(中国)）

1996年10月 北海道大学文学部 助教授

1999年10月 東京大学東洋文化研究所 助教授

2001年1月 中央民族大学民族学與社会学学院客員教授（中国）

2002年7月 ハーバード大学イェンチン研究所 Visiting Scholar（アメリカ）

2006年12月 復旦大学芸術人類学與民間文学研究中心特邀研究員（中国）

2007年4月 東京大学東洋文化研究所 准教授

2007年9月～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2012年11月 山東大学文化遺産研究院流動崗 教授（中国）

2014年4月～現在 東京大学東洋文化研究所副所長

2014年12月 復旦大学文史研究院訪問学者（中国）

【受賞歴】

1993年 第13回日本民俗学会研究奨励賞受賞（日本民俗学会）

II. 取り組んでいるテーマ

日本と中国をフィールドに、地域社会における自然資源や文化資源の利用や管理のあり方、コモンズ論、無形文化遺産の管理論、伝統文化のトランス・ナショナリズムなどについて民俗学の方面から研究している。また、日本における公共民俗学の創出に関する理論的研究も行っている。

具体的課題

- 「闘牛—人間幸福のための文化資源の順応的管理に関する研究」
- 「錦鯉—日本の伝統文化の創造と全球的拡散、トランス・ナショナリズムに関する動態的研究」
- 「中国における創られた動物に関する研究—あるべき自然が投影された動物たち—」
- 「根芸—人為と非人為の狭間に生まれる文化・花鳥魚虫文化の本質と構築に関する研究」
- 「『奇』の文化誌的研究」
- 「闘コオロギに見る中国漢人の自然観の研究」
- 「日本のサケ民俗と北方文化とのシンクレティズムの研究」
- 「宗教者、とくに修験道と民俗文化の関連性の研究」
- 「河川漁撈技術と環境に関する研究」
- 「『水辺』の環境民俗学的研究」
- 「コモنزとしての『水辺』の研究」
- 「総有制—日本的コモنز理論的研究」
- 「中国の土地資源利用と所有に関する研究」
- 「民俗学の実践—公共民俗学の可能性と課題に関する研究」

Ⅲ. 班研究

- ・ 東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B)「現代市民社会における「公共民俗学」の応用に関する研究—「新しい野の学問」の構築—」(2013～2015年度)
- ・ 基盤研究 (B)「現代市民社会に対応する公共民俗学創成のための基礎研究」(2010～2012年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本学術会議 (連携会員 2014～2020年)
- ・ 日本民俗学会 (理事・評議員 2004～2006年、2010～2012年)
- ・ American Folklore Society
- ・ 中国民俗学会 (China Folklore Society)
- ・ 現代民俗学会 (運営委員 2008～2012年、2014～2016年)
- ・ 日本民具学会
- ・ 生き物文化誌学会 (評議員 2009～2015年)
- ・ 日本応用動物行動学会 (評議員 2002～2013年)
- ・ ヒトと動物の関係学会

- ・ 在来家畜研究会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 通文化研究基礎論（大学院総合文化研究科地域文化研究専攻）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1	1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

お茶の水女子大学非常勤講師（2013年）

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

菅豊 『「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために—』 岩波書店、2013.

福田アジオ、菅豊、塚原伸治 『「二〇世紀民俗学」を乗り越える—私たちは福田アジオとの討論から何を学ぶか』 岩田書院、2012.

【編著】

岩本通弥、菅豊、中村淳 編 『民俗学の可能性を拓く—「野の学問」とアカデミズム—』 青弓社、2012.

【学術論文】

菅豊 「自然資源は誰のものか？—コモンズの思想」 福田アジオ編『知って役立つ民俗学—現代社会への40の扉』 ミネルヴァ書房、2015、132-137.

菅豊 「フィールドワークから現実ができる」 床呂郁哉編『人はなぜフィールドに行くのか—フィールドワークへの誘い—』 東京外国語大学出版会、2015、188-207.

菅豊 「地域資源與歴史的な正統性—從伝説到歴史」『民族藝術』2014年5期 広西民族文化藝術研究院(2014)、22-25.(中国語)

張曉鷗・菅豊 「《地域資源與歴史的な正統性—從伝説到歴史》問答、評議與討論」『民族藝術』2014年5期 広西民族文化藝術研究院(2014)、26-29.(中国語)

菅豊 「日本の鮭文化」 『EPTA』 第66号 エプタ編集室 (2014)、49-54.

菅豊 「跨越 “錯誤的の二元論 (mistaken dichotomy)”」 『民間文化論壇』 2014年第2期

- (総第 225 期) 中国文学芸術界聯合会 (2014)、20-23. (中国語)
- 菅豊 「前沿話題・為了從中国的非物質文化遺產保護中學習」 『民間文化論壇』 2014 年第 2 期 (総第 225 期) 中国文学芸術界聯合会 (2014)、20-23. (中国語)
- 菅豊 「文化遺産時代の民俗学—「間違った二元論 (mistaken dichotomy)」を乗り越える」 『日本民俗学』 第 279 号 日本民俗学会 (2014)、33-41.
- 菅豊 「ガバナンス時代のcommons論—社会的弱者を包括する社会制度の構築—」 三俣学編 『エコロジーとcommons—環境ガバナンスと地域自立の思想—』 晃洋書房、2014、233-252.
- Suga, Yutaka 「The Substituted Forest: Political and Social Effects on Japan's Spaces of Worship」 『東京大学東洋文化研究所紀要』 第 164 号 東京大学東洋文化研究所 (2013)、1-20. (英語)
- Suga, Yutaka. "The Tragedy of the Conceptual Expansion of the Commons." *Local Commons and Democratic Environmental Governance*. Edited by Takeshi Murota and Ken Takeshita: Tokyo: United Nations University Press, 2013: 3-18.
- 菅豊 「特集にあたって—日本の民俗学を世界から孤立させないために」 『日本民俗学』 第 273 号 日本民俗学会 (2013)、1-8.
- 菅豊 「「現代的commonsに内在する排除性の問題」 『大原社会問題研究所雑誌』 第 655 号 法政大学大原社会問題研究所 (2013)、19-32.
- 菅豊 「自然世界と民俗世界—自然と人間との「不完全」な関係性の再評価—」 鳥越皓之編 『環境の日本史 5 自然利用と破壊—近現代と民俗—』 吉川弘文館、2013、150-174.
- 菅豊 「民俗学の喜劇—「新しい野の学問」世界に向けて—」 『東洋文化』 第 93 号 東京大学東洋文化研究所 (2012)、219-243.
- 菅豊 「民俗学の悲劇—アカデミック民俗学の世界史的展望から—」 『東洋文化』 第 93 号 東京大学東洋文化研究所 (2012)、3-53.
- 菅豊 「日本節日文化的現代形態—以日本都市的元旦文化改編為題材」 『温州大学学报』 第 25 卷第 4 期 温州大学 (2012)、3-9. (中国語)
- 菅豊 「公共民俗学の可能性」 岩本通弥、菅豊、中村淳 編 『民俗学の可能性を拓く』 青弓社、2012、83-140.
- 菅豊 「反・供養論—動物を「殺す」ことは罪か？」 秋道智彌 編 『日本の環境思想の基層』 岩波書店、2012、225-248.
- 菅豊 「グローバル時代を生きる錦鯉—日本文化の拡散と脱国籍化、現地化—」 松井健、野林厚志、名和克郎 編 『生業と生産の社会的布置—グローバリゼーションの民俗誌のために—』 岩田書院、2012、269-298.
- 菅豊 「日本のcommons—生活の安全保障の視点から—」 柳澤悠・栗田禎子 編 『持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から 第 4 巻アジア・中東—共同体・環境・現代の貧

困』 勁草書房、2012、13-35.

【新聞記事】

- 菅豊 「現代日本人へ向けた警醒の書—岡本雅享著『民族の創出』 『公明新聞』 2014年11月24日、書評.
- 菅豊 「苦闘し獲得した日本人に学ぶ—吉見義明著『焼跡からのデモクラシー〈上・下〉』 『公明新聞』 2014年6月16日、書評.
- 菅豊 「鳥越皓之著『琉球国の滅亡とハワイ移民』 『沖縄タイムス』 2014年3月29日朝刊、書評.
- 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会実践をつなぐために 今週の本棚・本と人 被災地と研究者の関係を問う」 『毎日新聞』 2013年8月18日、朝刊.
- 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会実践をつなぐために 民俗学への根源的な問い直し」 『佐賀新聞』 2013年7月28日、共同通信社.
- 菅豊 「この人と一牛と人間 共感する人生」 『読賣新聞』 2013年7月28日、朝刊、新潟南.
- 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会実践をつなぐために 民俗学への根源的な問い直し」 『京都新聞』 2013年7月21日、共同通信社.

【口頭発表】

- 菅豊 「民俗行政のコラボラティブ・ガバナンス」 日本民俗学会第66回年会 岩手県立大学・滝沢市 2014年10月12日.
- 菅豊 「日本文化のトランスナショナリズム—グローバル化時代における文化研究のひとつの方法—：招待講演」 タイ・チュラーロンコーン大学主催『タイ国日本研究国際シンポジウム2014』 タイ・バンコク 2014年8月26日.
- 菅豊 「民俗学における多様なエスノグラフィーへの挑戦：パネリスト」 現代民俗学会2014年度年次大会シンポジウム『民俗誌はもういない？—現代民俗学のエスノグラフィー論—』 お茶の水女子大学、東京 2014年5月18日.
- 菅豊 「多様化的民族志方法與民俗学：招待講演」 中国民俗学会主催、日本民俗学会協力「首届中日民俗学高層論壇」 貴州民族大学、中国貴陽市 2014年4月19日.
- 菅豊 「public folklore から公共民俗学へ—人びとの、人びとによる、人びとのための知識生産と社会実践」 日本文化人類学会課題研究懇談会、現代民俗学会第21回研究会、東アジア人類学研究会、「新しい野の学問」研究会共催『パブリック民俗学とパブリック人類学の対話可能性』 東京・東京大学 2013年12月15日.
- 菅豊 「中国の無形文化遺産から学ぶために」 日本民俗学会第65回年会国際シンポジウム『無形文化遺産政策のホットスポット・中国—中国民俗学の経験から学ぶ—』 新潟

大学、新潟市 2013 年 10 月 13 日.

菅豊 「研究者・専門家の実践をとらえなおす—菅豊著『新しい野学問』時代へ知識 生産と
社会実践をつなぐために』を題材に：招待講演」 STS Network Japan 夏の学校
2013 静岡県静岡市旅館伯梁、静岡市 2013 年 8 月 30 日.

菅豊 「知識生産と社会実践のガバナンス-菅豊『「新しい野の学問」の時代へ』をめぐっ
て：基調講演」 環境社会学会例会、追手門学院大学地域文化創造機構主催「文化復
興と芸術創造に関する総合的研究」第 1 回公開フォーラム 追手門学院大阪梅田サテ
ライト、大阪市 2013 年 8 月 10 日.

菅豊 「面向“新的在野之学”的時代—日本民俗学的一种選択」 中国民俗学会成立 30 周年
記念大会暨學術報告会 中国・北京市・中国社会科学院社科会堂 2013 年 5 月 30 日.
(中国語)

菅豊 「錦鯉の歴史と系統観」 生き物文化誌学会第 51 回例会「金魚と錦鯉—その美の系譜
—」東京・東京農大 2013 年 4 月 20 日.

菅豊 「小千谷の地域文化の昔といま—外とのつながりから考える—：文化講演会」 越後お
ぢや農業協同組合主催、小千谷闘牛振興協議会、社団法人新潟県錦鯉協議会協賛、
小千谷市・小千谷市教育委員会、小千谷観光協会、新潟日報社、小千谷新聞社後援
小千谷市 2013 年 4 月 14 日.

Suga, Yutaka 「Into the Bullring: The Significance of "Empathy."」 American Folklore
Society 2012 Annual Meeting New Orleans, Louisiana, USA 2012.10.27.

菅豊 「奇美拉（喀迈拉、嵌合体、chimera）化的古镇文化—以民間工芸的地方性展開為中
心—」 2012 年中国藝術人類学会年会 中国・フフホト市 2012 年 7 月 20 日.

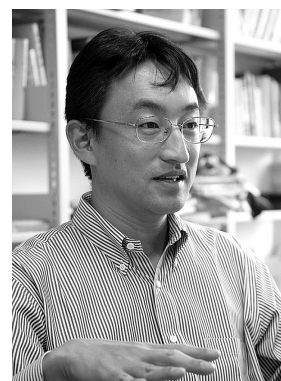
菅豊 「アメリカ民俗学の日本研究のアウトライン」 第 863 回日本民俗学会談話会・国際交
流関係シンポジウム「海外研究者がみた日本というフィールド—アメリカ研究者編
—」 東京 2012 年 7 月 8 日.

佐藤仁 SATO, Jin

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ 資源と人間

個人ホームページ : <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/satoj/index.html>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1992年 東京大学教養学部教養学科卒業

1994年 ハーバード大学ケネディ行政学大学院修士課程修了（公共政策）

1995年 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻修士課程修了（学術）

1998年 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻博士課程修了、博士（学術）

1998年 博士（学術）東京大学

【職歴】

1995年8月 Regional Community Forestry Training Center（タイ）客員研究員

1998年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）

1998年9月 イエール大学 Agrarian Studies Program ポスドク・フェロー

1999年 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻 助手

2000年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教授

2004年 タイ国天然資源環境省政策アドバイザー（JICA 専門家）

2007年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授

2009年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年8月 プリンストン大学 Democracy and Development Fellow（フルブライト研究員）

2011年9月 東京大学東洋文化研究所に復帰

2014年2月～6月 プリンストン大学東アジア学部客員准教授

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2015年2月～6月 プリンストン大学ウッドローウィルソン公共政策大学院客員教授

【受賞歴】

1993年 第16回国際協力推進協会論文コンテスト奨励賞（国際協力推進協会）（授賞対象：論文「Development, Culture, and the Standard of Living」）

1994年 国際協力研究誌20周年記念論文コンテスト1等（国際協力事業団）（授賞対象：論文「開発と環境の二者択一パラダイムを超えて」）

2003年 国際開発学会学会賞・著作部門（国際開発学会）（授賞対象：『援助と社会関係

- 資本』2002年, 共著, アジア経済研究所)
- 2003年 国際開発学会学会賞・著作部門(国際開発学会)(いずれも授賞対象: 『稀少資源のポリティクス: タイ農村にみる開発と環境のはざま』2002年, 東京大学出版会)
- 2003年 第24回発展途上国研究奨励賞(アジア経済研究所)
- 2013年 国際開発学会奨励賞(授賞対象: "Emerging Donors from a Recipient Perspective: Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia" 2011年, 共著, World Development.)
- 2013年 第10回日本学術振興会賞(授賞対象: 『資源』の認識と分配に着目した国際協力研究)
- 2014年 第10回日本学士院学術奨励賞

II. 取り組んでいるテーマ

「そこに見出されるもの」としての「資源」、「よそから持ち込まれるもの」としての「援助」。それぞれをめぐる統治と両者の組み合わせのあり方を東南アジアの文脈で研究している。

・具体的な課題:

- 1) 東南アジアにおける民衆による資源利用知と国家への抵抗戦略の解明
- 2) 東南アジアにおける資源・環境行政の発展と国家・社会関係の形成過程
- 3) 対外援助の地政学と日本のODAの在り方

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究(B) 東南アジアの資源をめぐる国家・社会関係に関する比較研究(2013~2015年度)

V. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 国際開発学会(理事)
- ・ 環境社会学会
- ・ アジア政経学会
- ・ 日本タイ学会
- ・ Society of Policy Scientists
- ・ Associations for Asian Studies
- ・ 中東欧環境センター(REC)日本代表理事(2009年度~2013年度)
- ・ Forest Policy and Economics 編集委員(2013年度~)
- ・ British Journal of Interdisciplinary Study 編集委員(2014年9月~)
- ・ Sustainability Science 編集委員(2012年4月~)
- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所研究会委員(2011年度~2014年度)

- ・ 総合地球環境学研究所共同研究員 (2011,2012 年度)
- ・ 外務省大臣官房総務課 ODA 評価室評価主任 (2011,2013 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 開発研究 (公共政策大学院・新領域創成科学研究科合併)
- ・ Natural Resource Politics and Policy (公共政策大学院)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	7	7	4
博士課程	4	3	2
博士号取得者数	1	1	2

2. 本学以外での教育活動

- ・ Dilemmas of Development in Asia (Princeton University, 2014 Spring)
- ・ Dilemmas of Environment and Development in Asia (Princeton University, 2015 Spring)
- ・ Development Disasters: Unintended Consequences of Development and Foreign Aid (Princeton University, 2015 Spring)
- ・ お茶ノ水女子大学文教育学部 「地域開発論」 (2014 年冬)
- ・ プリンストン大学東アジア学部 客員准教授 (2014 年度)
- ・ プリンストン大学ウッドロー・ウィルソン公共・国際政策大学院 客員教授 (2015 年度)

VII. 過去 3 年間の研究業績

【編著】

Sato, Jin, ed. *Governance of Natural Resources: Uncovering the Social Purpose of Materials in Nature*. United Nations University Press, 2013.

Sato, Jin and Yasutami Shimomura, eds. *The Rise of Asian Donors: Japan's Impact on the Evolution of Emerging Donors*. Routledge-GRIPS Development Forum Studies, 2012.

【翻訳】

ジェームズ・C・スコット 著, 佐藤仁 監訳 『ゾミア—脱国家の世界史』 みすず書房、2013.

【報告書】

Sato, Jin. *Triangular Cooperation: in East Asia: Challenges and Opportunities for Japanese Official Development Assistance*: UN ESCAP, 2014.

【学術論文】

Sato, Jin. "Benefits of Unification Failure: Re-examining the Evolution of Economic Cooperation in Japan." *JICA-RI Working Paper No.87*.

Dina, Thol and Jin Sato. "Is Greater Fishery Access Better for the Poor? Explaining De-Territorialisation of the Tonle Sap, Cambodia." *Journal of Development Studies* Vol.50, no. 7 2014: 962-976.

Dina, Thol and Jin Sato. "The Cost of Dividing the Commons: Overlapping Property Systems in Tonle Sap, Cambodia." *International Journal of the Commons* 2015: forthcoming.

Sato, Jin. "Social Resilience in Post-Tsunami Japan: Diversity and Security after March 11th 2011." *International Encyclopedia of Social and Behavioral Sciences*. 2nd ed: Elsevier, 2015.

Sato, Jin. "Resource Politics and State-Society Relations: Why are certain states more inclusive than others?" *Comparative Studies in Society and History*. Vol. 56. no. 3, 2014: 746-777.

佐藤仁 「環境統治の時代—アジアにおける天然資源管理と国家・社会関係」 『学術の動向』 第19巻 第10号 (2014)、74-77.

佐藤仁 「自然の支配はいかに人間の支配へと転ずるか—コモンズの政治学序説」 秋道智彌編 『日本のコモンズ思想』 岩波書店、2014、176-194.

佐藤仁 「危機と分業—E.アッカーマンに学ぶ国土資源への総合的接近」 『政策・経営研究』 第1巻 (2014)、1-15.

佐藤仁 「近代化と統治の文化—明治日本とシャムの天然資源管理—」 平野健一郎 土田哲夫 川村陶子 古田和子 編 『国際文化関係史研究』 東京大学出版会、2013、171-192.

佐藤仁 「内なる国際化—東京大学にみる国際化の140年」 『Proceedings of The Third Annual Joint Fudan-Princeton-Tokyo University International Conference on Contested World Histories: Global History in the Eyes of China, Japan, and the U.S., December 16-19, 2013, Princeton, NJ, USA. (英訳、中国語訳あり)』 (2013).

近藤久洋 小林誉明 志賀裕朗 佐藤仁 「「新興ドナー」の多様性と起源」 『国際開発研究』 第21巻 第1・2号 (2012)、89-102.

佐藤仁 「「自然対人間」の二項対立を超えて—自由を回復するための道具」 『科学』 第

82 卷 第 1 号 (2012)、100-105.

佐藤仁 「戦後日本の対外経済協力と国内事情—原料確保をめぐる国内政策と対外政策の連続と不連続」 『アジア経済』 第 53 卷 第 4 号 (2012)、94-112.

【書評論文・書誌紹介】

佐藤仁 「地域史の先にある未来—化石資源文明からの卒業シナリオ—」 『東南アジア研究』 第 51 卷 第 1 号 (2013)、162-167.

佐藤仁 「小さき民に学ぶ意味—あとがきに代えて—」 『ゾミア—脱国家の世界史』 みすず書房 (2013)、351-363.

佐藤仁 「北原淳著 『タイ近代土地・森林政策史研究』」 『史学雑誌』 第 122 編 第 8 号 (2013)、94-103.

【一般向け記事】

ジェームズ・C・スコット 聞き手 佐藤仁 「地域研究のアイデア—新著『ゾミア—脱国家の世界史』に至る着想のプロセス—」 『みすず』 (2013)、6-19.

園田茂人 SONODA, Shigeto

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ 「動くアジア」の比較社会学

個人ホームページ：<http://shigetosonoda.net/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1984年 東京大学文学部社会学科卒業

1986年 東京大学大学院社会学研究科社会学（A）コース修士課程修了

1987年 中国・南開大学社会学系高級進修生（中国政府奨学生）

1988年 東京大学大学院社会学研究科社会学（A）コース博士課程退学

【職歴】

1988年 東京大学文学部社会学科 助手

1990年 中央大学文学部社会学科 専任講師

1992年 中央大学文学部社会学科 助教授

1997年 中央大学文学部社会学科 教授

2005年 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授

2009年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授、大学院情報学環 教授（流動教員）

【受賞歴】

2008年 第20回アジア太平洋賞特別賞（受賞対象作品『不平等国家 中国』（中公新書））

2010年 科学研究費補助金審査委員表彰者（日本学術振興会）

2011年 F. Hilary Conroy Award (Association for Asian Studies)

II. 取り組んでいるテーマ

グローバル化のインパクトを受けながら、中国圏の社会がどのように変化しているか。こうした視点から、中国に進出した外資系企業や、中国における階層構造を対象に、一次データをもとに調査研究を進めていきました。その結果、『証言・日中合弁』『中国人の心理と行動』『現代中国の階層変動』『不平等国家 中国』『中国社会はどこへ行くか』といった編著書が生まれることになりました。

しかし、中国を見る際に、いつも他国、とりわけ他のアジアとの異同が気になっていました。比較なしに、中国の「独自性」や「独特さ」を理解することができないからです。『アジアからの視線』『日本企業アジアへ』『東アジアの階層比較』といった研究群は、動くアジアを比較するといった企図によってなされた社会学的研究の成果です。

最近では、中国の変化を平易に読者に伝える作業を行うことが求められることが多く、『日中関係史 1972-2012 III・IV』『中国問題』『初めて出会う中国』などの本も編集・刊行しています。

2015年1月時点で進めている／参加しているプロジェクトには、以下の4つがありますが、これらの作業を通じて、西欧中心の社会学を脱構築・再構築するとともに、アジアにおける相互理解を進めたいと考えています。

「時系列データの蓄積から社会変動モデルの構築へ：中国第三次四都市調査の挑戦」（2013-16年）

「政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐる国際共同研究」（2013-14年、代表：加茂具樹：東洋学研究情報センター共同利用共同研究拠点プロジェクト）

「アジア学生調査第2波調査の実施」（2013-15年、機関推進プロジェクト）

「中国脅威論を超えて：『中国の台頭』をめぐる海外中国研究者との対話」（2014-15年）

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（A）「時系列データの蓄積から社会変動モデルの構築へ：中国第三次四都市調査の挑戦」（2013～2016年度）
- ・ 基盤研究（B）「『中国』と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究」（2009～2012年度）
- ・ サントリー文化財団「中国脅威論を超えて：『中国の台頭』をめぐる海外中国研究者との対話」（2014～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本学術会議（連携会員）
- ・ アジア政経学会（国際活動担当理事）
- ・ 中国社会文化学会（理事）
- ・ アジア調査会アジア研究委員会（委員）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ ITASIA 129 “Understanding Asia and Japan through Hong Kong”（2013年～）大学院学際情報学府アジア情報社会コース／サマープログラム：2014年はPEAKプログラムと合同）
- ・ ITASIA147 “Understanding Taiwan in Global Settings”（2012年～）大学院学際情報学府アジア情報社会コース／サマープログラム

- ・ ITASIA301/302 “Introduction to Social Research (Lecture & Workshop)” (2009 年～)
大学院学際情報学府アジア情報社会コース
- ・ 社会情報学国際共同演習 I (2012, 13 年) 大学院学際情報学府
- ・ 「現代中国の政治と社会」教養学部 (2012 年)
- ・ グローバリゼーションの社会学/アジア比較研究のフロンティア／一歩先の調査研究へ／社会学と国際関係論の間／一歩先の調査研究へ／人文社会系研究科社会文化研究専攻社会学専門分野 (2010～2014 年)
- ・ ASNET 講座「日中関係の多面的な相貌 アジア経済」経済学研究科 (2010 年～)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	2	2	5
博士課程	4	5	4
博士号取得者数		1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 名古屋大学文学部非常勤講師 (2014 年)

Ⅶ. 過去 3 年間の研究業績

【著書】

園田茂人 『日中関係 40 年史 (1972-2012) Ⅲ社会・文化巻』 马静 周颖昕 訳 社会科学文献出版社、2014.

園田茂人 『日中関係 40 年史 (1972-2012) Ⅳ民間巻』 王禹 周颖昕 訳 社会科学文献出版社、2014.

【編著】

園田茂人 編 『連携と離反の東アジア：アジア比較社会研究のフロンティアⅢ』 勁草書房、2015.

園田茂人 編 『日中関係史 1972-2012 Ⅳ 民間』 東京大学出版会、2014.

園田茂人 編 『リスクの中の東アジア：アジア比較社会研究のフロンティアⅡ』 勁草書房、2013.

園田茂人 編 『はじめて出会う中国』 有斐閣、2013.

園田茂人 編 『日中関係史 1972-2012 Ⅲ 社会・文化』 東京大学出版会、2012.

園田茂人 編 『勃興する東アジアの中産階級：アジア比較社会研究のフロンティアⅠ』 勁草書房、2012.

毛里和子 園田茂人 編 『中国問題：キーワードで読み解く』 東京大学出版会、2012

【報告書】

園田茂人「台頭する中国市場への異なる対応？：派遣駐在員の「関係」構築にみる日韓比較」「ポスト世界金融危機の北東アジアと日韓関係」報告書、2014

(http://www.kikou.waseda.ac.jp/asia/uploadfile/oshirase/00330/JPN/第6章園田_20140122100647_80rulrk223vku3vdi4scca44i7.pdf)

園田茂人『「中国」と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究（平成21年度～平成24年度科学研究費補助金（基盤研究（B）海外学術調査）成果報告書）』、2013.

【学術論文】

園田茂人「中国人エリート学生の意識調査にみる『中国』 『東亜』2月号（2015）、2-3.

園田茂人「燕京学堂と百賢亜洲研究院」 『東亜』8月号（2014）、2-3.

Sonoda, Shigeto, Hong-Keun Jang and Joon-Shik Park. "A Comparative Fieldwork Study on the Korean, Japanese, and Taiwanese Multinational Managers as a Significant Factor of Global Corporate Competition in China." *Korean Regional Sociology* 15, no. 3 2014: 155-195.

園田茂人「『中国をどう見るか』という重要な課題」 『東亜』11月号（2014）、2-3.

園田茂人「社会の変化：和諧社会実現の理想と現実」 高原明生 丸川知雄 伊藤亜聖 編『東大塾 社会人のための現代中国講義』 東京大学出版会、2014、237-261.

園田茂人「台頭する中国市場への異なる対応？：派遣駐在員の「関係」構築にみる日韓比較」 『ポスト世界金融危機の北東アジアと日韓関係』（2014）.

園田茂人「中国の台頭はアジアに何をもたらしたか—アジア学生調査第2波調査・概要報告」 『アジア時報』4月号（2014）、36-57.

園田茂人「中国の台頭をめぐる内外の温度差」 『東亜』5月号（2014）、2-3.

Sonoda, Shigeto. "Can Singapore Model be a Model for China? Some Insights from the Data Analysis of the AsiaBarometer Survey." *Society Building: A China Model of Social Development*. Edited by Xiangqun Chang: Cambridge Scholars Publishing, 2014: 81-90.

園田茂人「アジアの『アジア認識図』」 『アジア研究』第59巻1・2（2014）、23-27.

園田茂人「『社会爆発仮説』をめぐって」 『東亜』2月号（2014）、2-3.

園田茂人「ニュースの本棚：中国の今後」 『朝日新聞』（2013）.

Sonoda, Shigeto. "The Emergence of Middle Classes in Today's Urban China: Will They Contribute to Democratization in China?" *Chinese Middle Classes: China, Taiwan, Macao and Hong Kong*. Edited by Michael Hsiao Hsin-Huang: Routledge, 2013: 234-248.

園田茂人「佐々木先生、中国研究、そして社会学——ある共同研究者による追憶」 『社会

学雑誌』 第 30 卷 (2013)、22-36.

園田茂人 「常識を抉る方法としての比較：現代中国を眺めながら」 山本泰 佐藤健二 佐藤俊樹 編 『社会学ワンダーランド』 新世社、2013、147-170.

園田茂人 岸保行 「アジア日系企業における現地従業員の『まなざし』：時系列分析による知見から」 『組織科学』 第 46 卷 第 4 号 (2013)、19-28.

園田茂人 「グローバリゼーションからアジア社会学へ」 宮島喬 船橋晴俊 友枝敏雄 遠藤薫 編 『グローバリゼーションと社会学—モダニティ・グローバリティ・社会的公正』 ミネルヴァ書房、2013、77-90.

園田茂人 「まだ来ぬ政治の時代と中国理解」 『書齋の窓』 10 月号 (2013)、75-79.

園田茂人 「新しいアジア像構築の試み—アジア・バロメーターの再分析プロジェクト」 『{明日の東洋学}』 30 号 (2013)、8-10.

園田茂人 「対中ビジネス人材の戦略を問う(2)：日本人駐在員育成の理想と現実」 『日中経協ジャーナル』 1 月号 (2013)、24-27.

園田茂人 「対中ビジネス人材の戦略を問う(1)：現地人管理職の力を引き出すために」 『日中経協ジャーナル』 12 月号 (2012)、24-27.

園田茂人 「海図なき日中関係の時代にあって」 『パブリッシャーズ・レビュー』 10 号 (2012)、6 面.

園田茂人 「『文化イベント』にみる日中関係四〇年」 『UP』 11 月号 (2012)、28-34.

園田茂人 「中華、華僑、文化大革命」 大澤真幸 編 『現代社会学大事典』 弘文堂、2012.

園田茂人 「社会——調和社会建設の試みとその帰結」 『国際問題』 2 月号 (2012)、27-37.

末廣昭 園田茂人 「日本社会のガラパゴス化を考える」 『学術の動向』 第 17 卷 第 2 号 (2012)、60-65.

【書評論文・書誌紹介】

Sonoda, Shigeto. Review of *Tiger Girls: Women and Enterprises in the People's Republic of China*, by Chen Minglu. *The China Journal*, no. 72 (2014): 164-165.

園田茂人 「書評：毛里和子・松戸庸子編 陳情：中国社会の底辺から」 『週刊読書人』 (2012)、8 面.

【口頭発表】

園田茂人 「中国の台頭は脅威か、チャンスか：アジア学生調査第 2 波調査の結果を読み解く」 関西大学経済・政治研究所第 204 回公開講座 2015 年 1 月 10 日

Sonoda, Shigeto. "Asian Youth and China's Rise: A Threat or an Opportunity? - Commenting the Results of the «Asian Student Survey 2013»", Institut national des langues et civilisations orientales, February 18, 2015.

- Sonoda, Shigeto. "GUANXI Politics and Its Management: A Comparison of Japanese, Korean, and Taiwanese Companies in China.", Institute of Sociology, Academia Sinica, December 22 2014.
- Sonoda, Shigeto. "The Rise of China and Importance of Perception: Missions of Our Collaborative Research.", Institute of Sociology, Academia Sinica, December 22 2014.
- 園田茂人 「アジア的価値観・再訪」 青山学院大学アジアセンター 2014年12月20日.
- Sonoda, Shigeto. "Analyzing Japan-China Relations from Socio-cultural Perspectives : My experience of editing A History of Japan-China Relations, 1972-2012 III&IV.", Center for China Studies, University of Sydney, December 3 2014.
- 園田茂人 「中国・社会爆発仮説再訪」 京都大学経済研究所 2014年11月21日.
- Sonoda, Shigeto. "Is Rise of China a Threat or a Chance?: Analysis of 2nd Wave Asian Student Survey.", University of Freiburg, August 10 2014.
- Sonoda, Shigeto. "Is Rise of China a Threat or a Chance? : A Comparative Analysis of Determinant of Perception on China in Korea, Japan, and Taiwan.", Yokohama Minato Mirai, July 16 2014.
- Sonoda, Shigeto 「Political Risk and Human Mobility: Chronology of 30-years of Japanese Multinationals in China」 慶応大学 SFC 2014年6月1日. (英語)
- Sonoda, Shigeto. "IASA as a Geisha House: How we deal with Interdisciplinary Studies.", Asia Center, Seoul National University, March 20 2014.
- Sonoda, Shigeto 「Cancer Care as a Regional Issue: Insights from AsiaBarometer」 Yonsei University 2014年2月22日. (英語)
- 園田茂人 「中国人の心理と行動：『関係』の作り方」 キャナルシティ博多 2014年2月14日.
- Sonoda, Shigeto 「Reexamining Myth of the Social Volcano: Challenges and Attainments of Chinese Four-city Survey, 1997-2006」 東洋文化研究所 2014年1月24日. (英語)
- 園田茂人 「中国における階層変動と社会意識：ベトナムにおける社会意識研究への含意」 アジア経済研究所 2013年10月28日.
- Sonoda, Shigeto 「Comparing Citizen's Evaluation toward Environment Issues in Asian 13 Mega Cities: Some Research Findings of AsiaBarometer 2003-08」 清華大学社会科学学院 2013年9月29日. (英語)
- 園田茂人 「中国・アジア市場の特徴と拠点としての香港」 2013年9月17日.
- 園田茂人 「アジアのアジア認識図」 アジア政経学会設立60周年記念シンポジウム：アジア研究における「ボーダー」の意味とその変化 2013年6月15日.
- Sonoda, Shigeto. "Is Asian Sociology Possible? : Challenges and Attainment of Three-

year Project 'Frontier of Comparative Studies of Asian Societies'(FY2010-2012).",
Seoul National University, Asia Center, May 7 2013.

Sonoda, Shigeto 「Comparing East Asian Multinationals in China」 東洋文化研究所
2013年3月1日.(英語)

Sonoda, Shigeto 「Contrasting Attitude toward Emerging Chinese Market?: A
Comparative Analysis of Expatriate Management of Korean and Japanese
Multinationals」 ソウル市中央郵便局 23 階会議室 2012年11月24日.(英語)

Sonoda, Shigeto 「Globalization and Social Inequality in Sociological Textbooks: Views
from East Asia」 札幌学院大学 2012年11月3日.(英語)

園田茂人 「アジア・エリート大学生の意識調査を通じた留学事情」 青山学院大学アジアセ
ンター 2012年10月25日.

園田茂人 「現地化戦略の異なるタイプ? : 中国進出企業の日韓比較が示唆する現実」 新潟
大学経済学部 2012年10月15日.

園田茂人 「中国人の心理と行動: 広東ビジネスに深く入り込むために」 ホテルオークラ
曙の間 2012年9月5日.

Sonoda, Shigeto. "Utilizing Different Social Capital in Different Social Settings:
Comparative Analysis of Localization Process of Japanese, Korean, and
Taiwanese Multinationals in mainland China, 2001-2010.", Asia Center, Seoul
National University, April 17 2012.

園田茂人 「国際社会学の観点からみたアジアビジネス展開の課題とその対応」 リーガロイ
ヤル NBC 2012年3月23日.

Sonoda, Shigeto. "Is Grassroots Election A School for Democracy?: Chronological
Analysis of Tianjin City Survey 2001-2010.", March 19 2012.

園田茂人 「アジア・エリート大学生の『夢』: グローバル時代の留学と就労」 スルガ銀行
d-labo 2012年3月13日.

園田茂人 「アジア 13 メガ都市を比較する: アジア・バロメーター2003-08 の知見」 東京
大学生産研究所 2012年2月4日.

【新聞記事】

園田茂人 「注目される『動く中国人』の役割」 『毎日新聞』 2014年2月10日.

シルツ, ミヒャエル Schiltz, Michael

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ 東アジアにおける第二次大戦前の為替銀行の役割

個人ホームページ : <http://www.cookingthebooks.be/>



Place and Date of Birth Genk (Belgium); November 30 1972

Longer research grants, jobs

October 1998- September 2002: doctoral fellowship of the Fund for Scientific Research (Flanders) for the completion of a doctoral dissertation. [January 2004- September 2007: working as a postdoctoral fellow on a research project at the University of Leuven]

October 2007- September 2010: postdoctoral fellowship of the Fund for Scientific Research (Flanders); research theme 'The Money Doctors from Japan' (research completed)

e

2009-2014: Starting Grant for young researchers of the European Research Council

October 2011-...: Associate professor at the Institute for Advanced Studies on Asia (University of Tokyo)

Higher Education Graduate (1994):

Japanese Studies at the Katholieke Universiteit Leuven, Belgium –graduated magna cum laude Postgraduate: Ph.D: Power and Paradox – A Systems Theoretical Sociology of Japanese Defense Policy. –「権力とパラドックス・戦後日本防衛政策の社会学—システム論の視点から」 graduated maxima cum laude; Ph. D. defense: September 24 2002. Defended at the Katholieke Universiteit Leuven

Scholarships, grants for stays in Japan and other countries

1994-1996: Scholarship of the Japanese Ministry of Education, Monbusho 文部省

1998: 1 month study stay at the Rijksuniversiteit Leiden (Holland) with the exchange program 'Vlaams-Nederlandse Samenwerking in de Taal- en Cultuurwetenschappen van het FWO en NWO'.

1998: Grant received from the European Science Foundation to cover the expenses of a study stay plus conference in Zushi 逗子, Japan.

1998-1999: Doctoral fellowship of the Japan Foundation 国際交流基金; one-year study stay at Aoyama Gakuin University 青山学院大学(Tokyo); Waseda University 早稲田大学 (Tokyo) 2000: grant from Fund for Scientific Research (Flanders) to conduct a one month study-stay at the Center of International Media and Communication, Hokkaido University 北海道大学, Sapporo 札幌, Japan.

2002: grant from the KULeuven-Kansai University Exchange Program to conduct a 2-month study stay at Kansai-university 関西大学, in order to finish a Ph.D.-project.

2003: grant received from the Italian Ministry of Foreign Affairs (Ministero degli Affari Esteri) for an eight month postdoctoral stay at the university of Lecce, Italy: Centro di Studi sul Rischio [center for the sociology of risk]

2004: grant received from the Japan Society for the Promotion of Science to conduct a short-term postdoctoral stay at the Graduate School of Economics and Business Administration at Hokkaidō University

2007: awarded a 3 month Kluge fellowship for continuing use of collections in the Library of Congress (Washington DC): period October - December 2007.

2010: awarded a 6 month Kluge fellowship for continuing use of collections in the Library of Congress (Washington DC)

Language proficiency

Dutch: Mother tongue

Japanese: Excellent spoken and written

English: Excellent spoken and written (Ph.D. dissertation in English)

French: Excellent spoken, very good written

German: Very good spoken; moderate written

Italian: Very good spoken

Experience abroad

Living in Japan: 1994-1996 and 1998-1999

Research stay in Italy: January 2003-August 2003

Research stays at the Kluge Center of the Library of Congress, Washington DC: April-December 2007 (9 months), grants from Fund for Scientific Research (Flanders) / Kluge Fellowship (LOC); October 2010 – April 2011, Kluge fellowship for shorter research stays, see 'scholarships'

Scientific Awards, Prizes...

1993: Winner of the 2nd Speech Contest of the Japanese Language in Belgium

2005: Winner of the 2005 World Society Foundation Award for: Magnolo, Stefano / Schiltz, Michael / Verschraegen Gert, "Associative Self-governance: Democratic Accountability, Open Access and Creative Commons in an Organizational World Society"

2007: Awarded the biennial prize of the European Association for Banking History for young researchers (announced in June 2007)

2007: Awarded a Kluge Fellowship for use of the collections of the Library of Congress

2010: Awarded a second Kluge Fellowship (LOC); October 2010 – April 2011

Partner of International Research Networks

active member of DAMIN La Dépréciation de l'Argent Monétaire et les relations Internationales - Silver monetary depreciation and international relations (led by prof. dr. Georges Depeyrot, Centre National de la Recherche Scientifique)

Editorships: Other relevant qualifications/responsibilities

managing editor for the International Journal of Asian Studies
review editor for Economic History Services (EH.net)

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

Schiltz, Michael. *The Money Doctors from Japan: Finance, Imperialism, and the Building of the Yen Bloc, 1895-1937 (Harvard East Asian Monographs)*: Harvard University Asia Center, 2012.

【学術論文】

Schiltz, Michael. "Mark Metzler. Capital as Will and Imagination: Schumpeter's Guide to the Postwar Japanese Miracle." *The American Historical Review*: Oxford University Press 119, no. 3 2014: 876-877.

Schiltz, Michael. "Shizuya Nishimura, Toshio Suzuki and Ranald C. Michie, The Origins of International Banking in Asia: The Nineteenth and Twentieth Centuries (Oxford: Oxford University Press, 2012, 264 pp., ISBN 978-0-19-964632-6)." *Financial History Review*: Cambridge University Press 21, no. 02 2014: 220-223.

Schiltz, Michael. "Brokers of Empire: Japanese Settler Colonialism in Korea, 1876-1945. By Uchida. Cambridge, Mass.: Harvard University Asia Center, 2011. Pp. 481. ISBN 10: 080144926X; 13: 978-0801449260." *International Journal of Asian*

Studies: Cambridge University Press 10, no. 01 2013: 112-113.

Schiltz, Michael. "Money on the road to empire: Japan's adoption of gold monometallism, 1873--971." *The Economic History Review*: Blackwell Publishing Ltd 65, no. 3 2012: 1147-1168.

李 賢鮮 Lee, Hyun Sun

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ アジアの国際移動、社会福祉と市民社会



I. 略歴

【学歴】

1998年～1999年 筑波大学交換留学

2001年 ソウル国立大学社会科学大学社会学科卒業

2003年 University of Oxford, MPhil. in Sociology 修了

2009年 University of Oxford, DPhil.(Ph.D) in Sociology 修了

【職歴】

2005年～2007年 立命館大学客員研究員

2009年～2012年 東北大学文学研究科 助教

2012年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2013年～2014年 ソウル大学アジア研究所客員研究員

II. 取り組んでいるテーマ

Political Risk and Human Mobility: International Collaborative Research on the Rise of China

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本社会学会
- ・ 韓国社会学会
- ・ 韓国移民学会
- ・ Japan Anthropology Workshop(JAWS)
- ・ Executive editor (Book review), The International Journal of Asian Studies

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ ITASIA “Assimilation and nationalism” 大学院学際情報学府アジア情報社会コース
- ・ 全学自由研究ゼミナール（教養学部）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

Ⅶ. 過去3年間の研究業績

【著書】

Lee, Hyun Sun. *Japanese Social Welfare: The Development of Diversity*. London: Routledge, 2013.

【学術論文】

Lee, Hyun Sun & Park Joon-shik. "Perceptions of Korean Big Business on the Emergence of China", *アジア研究*, vol 60, No.3, 2014.

【口頭発表】

Lee, Hyun Sun. "Migrants' acculturation and welfare state", 第2回定例研究会, 東洋文化研究所 2012年7月12日

⑦国際学術交流室

鍾 以江 Zhong, Yijiang

所属部門 国際学術交流室

研究テーマ 東アジアの宗教、自由主義とナショナリズム



I. 略歴

【学歴】

1993年 北京第二外国語学院英文学科(中国)卒業

2002年 トロント大学大学院東アジア研究科東アジア研究専攻修士課程(カナダ)修了

2011年 シカゴ大学大学院東アジア言語と文化研究科日本史専攻(アメリカ)博士課程修了

【職歴】

1993年～1999年 中国国際航空会社乗務員

2007年～2008年 立命館大学文学部客員研究員

2011年 シンガポール国立大学アジア研究所ポスドック研究員

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

II. 取り組んでいるテーマ

基本的な問題関心は二つあります。一つは宗教と世俗性と近現代国家の関係、もう一つは自由思想とナショナリズムの歴史的関係です。これらの問題を日本それから東アジアのコンテキストの中で、理論的思考と実証的研究を結びつけた形で考えていきたいです。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 国際日本文化研究センター共同研究員（2014年3月～）
- ・ 同志社大学一神教学際研究センターリサーチフェロー（2013年4月～）
- ・ アジア研究学会（Association for Asian Studies）（2008年8月～）
- ・ アメリカ歴史学会（American Historical Association）（2008年8月～）
- ・ アメリカ宗教学会（American Academy of Religion）（2008年9月～）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ Japan in East Asia (PEAK)
- ・ 全学自由研究ゼミ(教養学部)
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 同志社大学神学部嘱託講師 (2013～2014年度)
- ・ シンガポール国立大学ゲストレクチャー (2013年4月)

VII. 過去3年間の研究業績

【翻訳】

Junichi, Isomae. Translated by Yijiang Zhong. *Reimagining Early Modern Japan: Beyond the Invented/Imagined Modern Nation*. Brill, 2015.

Hardacre, Helen 著, Yijiang Zhong 訳 『ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所』 国際日本文化研究センター、2014.

Duara, Prasenjit 著, Yijiang Zhong 訳 『変わりつつある人文社会科学の役割とアジア研究のアジェンダ』 国際日本文化研究センター、2014.

【学術論文】

Yijiang, Zhong 「宗教、自由と公共性—靖国参拝違憲訴訟を考える」 K. Satofumi 編 『他者論的転回—宗教と公共空間』 なかにしや、2015.

Yijiang, Zhong. "Freedom, Religion and the Making of the Modern State in Japan, 1868-89." *Asian Studies Review* 38, no. 1 2013: 53-70.

鍾以江 「神無月—近世期における神道と権威構築」 『現代思想』 第41巻 第15号 (2013)、174-197.

Yijiang, Zhong. "Formation of History as a Modern Discipline in Meiji Japan." *Working Paper Series, Asia Research Institute, National University of Singapore*, no. 191 2012: 1-20.

Yijiang, Zhong. "Month without the Gods: Shinto and Authority Construction in Early Modern Japan." *The Religion and Culture Web Forum, Divinity School, University of Chicago* 2012.

【書評論文・書誌紹介】

Yijiang, Zhong. Review of The "Greatest Problem": *Religion and State Formation in Meiji Japan*, by Trent Maxey. *International Journal of Asian Studies* 12 (2015).

Yijiang, Zhong. Review of *In a Sea of Bitterness: Refugees during the Sino-Japanese War*, by Keith R. Shoppa. *Asian Journal of Social Science* 41, no. 4 (2013).

後藤絵美 GOTO, Emi

所属部門 国際学術交流室

研究テーマ 現代におけるイスラームの理解と実践



I. 略歴

【学歴】

2000年 東京外国語大学南・西アジア課程ペルシア語学科卒業

2002年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程修了

2008年 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程単位取得退学

2011年 博士(学術)(東京大学)

【職歴】

2003年～2005年 エジプト カイロ・アメリカ大学女性・ジェンダー研究所 研究員

2007年 日本学術振興会 特別研究員(DC2)

2008年 日本学術振興会 特別研究員(PD)

2012年 東京大学附属図書館 特任研究員

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET 機構) 兼任 助教

II. 取り組んでいるテーマ

現代イスラーム研究：イスラーム理解の多様性と可変性

現在、世界人口に占めるムスリム(イスラーム教徒)の割合は、20%とも25%とも言われている。西アジアや中央アジア、東南アジア、その他各地で、ムスリムと呼ばれる人々は、多様な暮らしを営み、多様な考えを抱いている。

人々のイスラームに対する理解の仕方や実践のあり方も一つではない。「イスラーム」とは神に帰依し、その教えに従うという意味だとされるが、何が「神の教え」なのか、何をすることが「神に帰依すること」なのかという問いの答えは、人によって、あるいは同じ人でも時や場合によって異なることがある。

私が研究の中で取り組んでいるのは、こうしたイスラームの理解や実践の多様性や可変性を具体的なかたちで描き出すことであり、その多様性や可変性がどこから来るのかを考えることである。近年、ムスリムの間でも、それ以外の人々の間でも、「イスラームとはこういうものである」という規範的な捉え方が広がっており、結果として、さまざまな摩擦が生まれている。それとは異なる「イスラームの捉え方」があることを、説得力をもったかたちで提示していきたいと思っている。

※ サブテーマ 女性、装い、イスラーム主義など

Ⅲ. 班研究

- ・ 中東の社会変容と思想運動

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 早稲田大学イスラーム地域研究機構（2007～2013年、研究協力者）
- ・ 科学研究費基盤研究（B）「アラブの春」の社会史
（代表：大稔哲也、2012～2015年、研究協力者）
- ・ 笹川平和財団共同研究会「イスラームと価値の多様性 - ジェンダーの視点から」（2014年）

Ⅴ. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本中東学会
- ・ 国際服飾学会
- ・ オリエント学会

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 教養学部 中東地域研究演習Ⅰ（2012年夏学期）
- ・ 教養学部 中東地域文化研究『中東地域研究とイスラーム理解』（2013年冬学期）
- ・ 教養学部 特殊研究演習Ⅳ [アジア・日本研究コース]『現代西アジア・中東地域における宗教と国家』（2014年冬学期）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 聖心女子大学 西アジア文化史：衣服に見る歴史と文化（2013年、2014年 通年）
- ・ 和洋女子大学 イスラム社会論：イスラム理解の多様性と現代社会（2013年、2014年 夏学期）
- ・ 放送大学 イスラーム諸国の過去と現在（2013年夏学期、2014年夏学期）
- ・ 放送大学 初めてのアラビア語：文化編（2013年夏学期、2014年夏学期・冬学期）

Ⅶ. 過去3年間の研究業績

【著書】

後藤絵美 『神のためにまとうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』
中央公論新社、2014.

【学術論文】

後藤絵美 「イスラーム国家における「シャリーア」と「自由」——現代エジプトのヴェール裁判にみる政教一致体制」 孝忠延夫・高見澤磨・堀井聡江編『現代のイスラーム法』
成文堂、2015年9月刊行予定.

後藤絵美 「「近代」に生きた女性たち——新しい知識・思想と家庭生活のはざまで言葉を紡ぐ」 松井洋子・伏見岳志・杉浦未樹・水井万里子編『アジア遊学 187号
「女性のライフサイクルから見る世界史」』 勉誠出版、2015年5月刊行予定.

後藤絵美 「イスラーム理解の画一性と多様性のあいだ——「イスラーム主義」概念を再考する」『共同研究プロジェクト成果報告書「イスラームと価値の多様性——ジェンダーの視点から」』 2014年度笹川平和財団中東イスラム基金事業、2015、40-54.

GOTO, Emi. "Reading Discourses on "the Role of Women": The Case of Twentieth Century Egypt." *Proceedings of NIHU Program for Islamic Area Studies Fourth International Conference 2013: New Horizons in Islamic Area Studies Encounters, Reflections, and Collaborations* (Lahore, Pakistan), 163-174.

【書評論文・書誌紹介】

後藤絵美 「大川玲子著『イスラーム化する世界——グローバリゼーション時代の宗教』 平凡社新書、2013年、206頁、定価760円(税別)(新刊紹介)」 『オリエント』 第57巻 第1号 日本オリエント学会 (2014)、100-101.

GOTO, Emi. "Comment for Concealment and Revealment: the Muslim Veil in Context by Anjum Alvi." *Current Anthropology* 54, no. 2 (2013): 193-194.

【口頭発表】

後藤絵美 「現代のイスラーム運動における「信仰」——宗教復興と学問の脱宗教化の〈間にあるもの〉」 ワークショップ〈間にあるもの〉の現代史——ロシア・中東・東アジアにおける仲介人と境界人 埼玉大学 2015年3月10日.

後藤絵美 「水谷周氏の著作紹介——二人の「アミーナ」の魅力」 中東政治におけるリベラリズム再考シンポジウム (科研費基盤研究Aアラブ革命と中東政治の構造変容に関する基礎研究) 東京大学 2015年2月20日.

後藤絵美 「偶然か、必然か——現代エジプトにおける女性たちの「宗教体験」」 地域研究コンソーシアム 次世代ワークショップ企画 東京大学 2015年2月18日.

- 後藤絵美 「ヴェール着用を支えた「人」「もの」「声」——現代エジプトにおける
イスラーム内部の変化について」 日本ムスリム協会 2015年2月1日.
- 後藤絵美 「アジアの切り分け方——西アジア研究の蓄積から考える」 成均館大学
東アジア学術院、京都大学人文科学研究所、東京大学東洋文化研究所シンポジウム
成均館大学 2015年1月23日.
- GOTO, Emi. "Area Studies in Japan: Its History, Challenges, and Prospects."
Presented at the *Colloque Aires Culturelles* 2014, CNRS (Paris), November 6,
2014.
- 後藤絵美 「地域の研究と「地域研究」——東京大学におけるその誕生と今後のゆくえ」 東
文研・ASNET 共催セミナー 東洋文化研究所 2014年11月13日.
- 後藤絵美 「ファッションはどうつくられたのか——20世紀エジプトのイスラーム運動を
中心に」 糸・布・衣の循環史研究会 東洋文化研究所 2014年10月25日.
- GOTO, Emi. "Reading Discourses on "the Role of Women": The Case of Twentieth
Century Egypt." Presented at the *NIHU Program for Islamic Area Studies:
Fourth International Conference 2013*, Lahore University of Management
Science, November 3, 2013.
- GOTO, Emi. "'Islamism' Revisited." Presented at the *Tobunken Symposium: Beyond
Established Categories in World Historical Studies*, July 24, 2013.
- GOTO, Emi. "Tears and Veils: Representation of "Faith" in the Contemporary Islamic
Movements." Presented at the *International Workshop: Mutual Influences
between Economic Development and 'Moderate Islamism' in the Non-Oil
Producing Middle Eastern Countries*, Feb 15, 2013.
- GOTO, Emi. "'Thoughts, Moments, and 'Repentant Artists': Expansion of Religious
Experiences and the Role of Knowledge in Contemporary Egypt". Presented at
the *Tobunken Symposium: New Approaches to Islamic History, Theory and
Practice: Graduate Workshop with Professor Michael A. Cook*, May 22, 2013.
- GOTO, Emi. "'Application of Article 2 of the Egyptian Constitution and Definition of
"Sharia": Analysis of Two Court Cases on the Veil". Presented at the *Japanese
Society of Asian Law 10th Anniversary Project: Shari'a in the Contemporary
World in the Contemporary World*, June 22, 2013.
- 後藤絵美 「「宗教国家」の内側で——ヴェールをめぐる裁判にみるエジプトの政教関係」 東
文研・ASNET 共催セミナー 東洋文化研究所 2013年9月12日.
- 後藤絵美 「二つの裁判のあいだ——エジプトにおける憲法第二条の実践と「シャリーア」」
日本中東学会 第28回年次大会 東洋大学 2012年5月13日.
- 後藤絵美 「イスラームの言説と性——20世紀のエジプトにおける「女性の役割」をめぐる
議論から」 日本オリエント学会 第54回大会 東海大学 2012年11月25日.

【一般向け記事】

後藤絵美 「ヴェールをめぐる様々な聖典解釈」『季刊アラブ』 第 151 号 日本アラブ協会 (2014)、9-10 頁.

後藤絵美 「エジプト——二つの「婚活」物語にみる現代の結婚難」アジ研ワールド・トレンド (2014 年 8 月号 特集：途上国の出会いと結婚)』 第 226 号 IDE-JETRO (2014)、32-35 頁.

後藤絵美 「ヴェールのファッション化と宗教言説の変容——「ヘガーブ・アラ・モーダ」の誕生」『 α -Synodos』 シノドス (2014).

後藤絵美 「時とともに変化、模索する女性のあり方」 『Pen BOOKS：イスラムとは何か。』 阪急コミュニケーションズ (2013)、132-141 頁.

後藤絵美 「アラブ映画にみる女性と社会 1『エジプトの二人の娘』結婚への希望と絶望」 『Asahi 中東マガジン』 朝日新聞社 (2013).

後藤絵美 「「イスラーム国家」エジプトのゆくえ——ヴェール姿の女性アナウンサーの 登場から考える」 『Asahi 中東マガジン』 朝日新聞社 (2013).

後藤絵美 「「衣」——伝統服とスーツの語りに耳を傾ける」『現代アラブを知るための 56 章』 明石書店 (2013)、56-60 頁.

後藤絵美 「肉のある贅沢、肉のない贅沢：多様な食文化を継承するエジプト料理」 『現代エジプトを知るための 60 章』 明石書店 (2012)、207-211 頁.

後藤絵美 「ヴェールの流行と宗教言説の変容：現代ファッション事情」『現代エジプトを知るための 60 章』 明石書店 (2012)、212-216 頁.

後藤絵美 「「結婚したい」「離婚したい」女性たち——社会通念・宗教・国家制度のはざままで」『現代エジプトを知るための 60 章』 明石書店 (2012)、226-231 頁.

後藤絵美 「ムスリム女性はなぜヴェールをまとうのか (世界史の研究 231)」 『歴史と地理』 山川出版社 (2012)、52-56 頁.

張馨元 ZHANG, Xin Yuan

所属部門 国際学術交流室

研究テーマ 中国の食糧需給と貿易体制の変化

Structural Changes in China's Grain Economy



I. 略歴

【学歴】

2006年 名古屋市立大学経済学部経済学科卒業

2008年 東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻修士課程修了

2012年 東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻博士課程修了

2013年 博士（経済学）（東京大学）

【職歴】

2009年 東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点リサーチ・アシスタント

2012年～2013年 東京大学社会科学研究所特任研究員（東京大学附属図書館特任研究員兼任）

2013年 東京大学東洋文化研究所特任研究員

2013年 東京大学東洋文化研究所 助教

II. 取り組んでいるテーマ

専門は中国経済、アジア経済。

・これまではトウモロコシ産業と豆類産業を中心に、中国の地域経済とアグロインダストリーの発展について研究してきた。東北地方の農村を七年間通い、農家、仲買人、地方政府、農産物加工企業を対象にインタビュー及びアンケート調査を実施した。アグロインダストリーの発展がどのようなメカニズムによって地域経済とりわけ農民の生活に影響を与えているかを究明することが目的である。

・2014年度に開始した新たな研究プロジェクト

(1) 国際的フードレジームと中国の食糧需給

(2) 中国計画経済期の食糧調達

いずれもまとまった統計が少ない分野であるが、現時点では現地調査と資料収集を行いながら研究を進めている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 科研費：若手研究（B）「中国の食料需給とアグリビジネスの役割」（2014～2016年度）
- ・ 東洋文化研究所東洋学研究情報センター機関推進プロジェクト：「中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理」（2014～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ アジア政経学会 2008年度～
- ・ 現代中国学会 2008年度～
- ・ Association for Asian Studies（アメリカ）2014年度～

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 横浜国立大学（国際社会科学府博士前期・後期課程、2013年度～）
Asian and African Economies(in English)
農業政策、現代農業政策研究

VII. 過去3年間の研究業績

【著書】

- 張馨元 『中国トウモロコシ産業の展開過程』 現代中国地域研究叢書 勁草書房、2014.
田島俊雄 張馨元編著 『中国雑豆研究報告：全国・東北篇』 現代中国研究拠点研究シリーズ 東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点、2013.

【学術論文】

- 張馨元 「中国のインゲン貿易と産地の状況」 『中国研究月報』 第68巻 第6号 中国研究所 (2014).
Zhang, Xin Yuan 「China's Exports of Dry Beans: The Reverse Side of the Domestic Grain Market」 『Journal of Social Science』 第66巻 第1号 (2014). (英語)
張馨元 「吉林省におけるトウモロコシの生産、流通と加工の変化」 『農村と都市をむすぶ』 第63巻 第10号 全農林労働組合・農村と都市をむすぶ編集部 (2013).

【書評論文・書誌紹介】

張馨元 「書評: 池上彰英著 中国の食糧流通システム」 『アジア研究』 第58巻 第3号
アジア政経学会 (2012).

【一般向け記事】

張馨元 「拡大する中国のトウモロコシ需要」 『デーリイマン』 2012年 1月号.

張馨元 「拡大する世界のエネルギー需要と再生可能エネルギー」 『デーリイマン』
2012年 10月号.

張馨元 「世界の農協」 『デーリイマン』 2012年 12月号.

井戸美里 IDO, Misato

所属部門 国際学術交流室

研究テーマ 東アジアにおける美術と儀礼



I. 略歴

【学歴】

2003年 学習院大学文学部哲学科日本美術史専攻卒業

2005年 東京大学総合文化研究科超域文化科学専攻（表象文化論）修士課程修了

2008年 東京大学総合文化研究科超域文化科学専攻（表象文化論）博士課程単位取得退学

2011年 博士（学術）（東京大学）

【職歴】

2006年 東京大学（21世紀COE「共生のための国際哲学交流センター」）研究拠点形成アシスタント

2008年 東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」特任研究員

2009年 ハーバード・イェンチン研究所客員研究員

2011年～2012年12月 日本学術振興会特別研究員PD

2012年 ハーバード大学（Department of East Asian Languages and Civilizations）ポスドク研究員

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 特任助教

II. 取り組んでいるテーマ

日本中世の美術を中心に、同時代の東アジアにおいて共有される図像がそれぞれの地域でいかに変容し、享受されてきたのかを、歴史、文学、芸能など、横断的に考察することを目指している。同時に、屏風、障子、掛け幅、絵巻物など、西欧の壁掛けの絵画（タブロー）とは異なる形態や機能を持つこれらの絵画作品が、誰のために制作され、どのように鑑賞されていたのか、ということを経験された場に焦点を当てて研究を行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 研究活動スタート支援「屏風絵と儀礼に関する空間的研究—東アジア的視点から—」（2013～2014年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 青山学院大学（2010～2014年度）
- ・ 早稲田大学（2014年度～）

VII. 過去3年間の研究業績

【学術論文】

井戸美里 「一高絵画コレクションの概要——高の教育理念と「歴史画」をめぐる」
『BI』 第7号（2014）.

【口頭発表】

Ido, Misato. "Art and Rituals: Temporality and Liminality in Japanese Art." Presented at the Symposium on '*Co-existence in Asian Thought*, University of Yangon, Myanmar, 2014.

Ido, Misato. "Decorating Space: Shogon and the Gilded Folding Screen." Presented at the *l'École Internationale de Printemps*, Tokyo National Museum, 2014.

Ido, Misato. "Pictorializing Kōwaka in Elite Social Spaces: Folding-screen Adaptations of The Tale of the Soga Brothers." Presented at the *The 14th International Conference of European Association for Japanese Studies*, University of Ljubljana, Slovenia, 2014.

井戸美里 「「耕織図」の日本における展開と受容の場をめぐる」 東洋学研究情報センターシンポジウム「東アジア絵画史の可能性——朝鮮王朝の絵画を起点として」 東京大学 2014年.

Ido, Misato. "Visualizing National History in Meiji Period Japan: the Collection from Komaba Museum, University of Tokyo," University of Wisconsin, Madison, USA, 2013.

井戸美里 「屏風絵にみる〈波〉の風景」 第13回東京大学東洋文化研究所 公開講座「アジ

アの流」 東京大学 2013 年.

井戸美里 「「歴史画」の誕生—明治期における「日本史」の発見と叙述」 復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部・東京大学東洋文化研究所合同国際会議 プリンストン大学 2013 年.

Ido, Misato. "Visualizing War Chronicles: Space of Geino and Gilded Folding Screens." Presented at the *Association for Asian Studies Annual Meeting*, San Diego, USA, 2013.

井戸美里 「東京大学駒場博物館所蔵の一高絵画資料の概要—明治期の「歴史画」と一高の倫理教育理念—」 東文研シンポジウム「近代東アジア美術コレクションをめぐる諸問題」 東京大学 2013 年.

井戸美里 「日本中世の風俗画における図像の引用と変容——「月次風俗画」のイコノロジー」 東文研・ASNET 共催セミナー／着任研究会 東京大学 2013 年.

Ido, Misato. "Chant for the Land: Local Memories in the Tauesoshi [Ballade of Transplanting of Rice Seedling]." Presented at the *Workshop on the Rumours and Secretes in Japanese Art and Visual Culture*, Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, Norwich, UK, 2012.

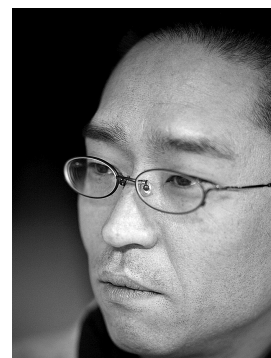
Ido, Misato. "Transcending Borders: Farming Landscape Screens in the Late Medieval Japan." Presented at the *Workshop on the Power, Status and Space in East Asian Art*, Harvard University, USA, 2012.

⑧情報・広報室

藤岡洋 HUJIOKA, Hiroshi

所属部門 情報・広報室

研究テーマ デジタルコンテンツの継承と展開



I. 略歴

【学歴】

1994年3月 立正大学文学部哲学科卒業

1997年3月 立正大学大学院文学研究科（哲学専攻）修士課程修了

2003年3月 立正大学大学院文学研究科（哲学専攻）博士後期過程単位取得退学

【職歴】

2002年4月～2006年3月 東京大学大学院人文社会学系研究科(COE 象形文化研究拠点)
学術研究支援員

2006年4月～2010年6月 国立西洋美術館 技術補佐員

2010年7月～2013年3月 東京大学東洋文化研究所 技術補佐員

2013年4月～2013年9月 東京大学東洋文化研究所 特任研究員

2013年10月～現在 東京大学東洋文化研究所 助教

II. 取り組んでいるテーマ

2002年頃から学術データベースの構築に関わってきた。

大型科研などを利用してこの時期多くのデジタルデータベースが作られてきたが、2015年現在ではその保存・利用・継承が大きな問題となっている。「保存」に対する誤解、「利用」に関する見込み違いが当時あったことは明らかで、その原因を整理・究明するのが研究テーマの一つである。

この保存・利用の問題に対するアプローチとして、統一的なデータベースフォーマットを考案し、新規データベースはそれらのフォーマットに載せ、従来のデータベースにはデータの再布置を求める動きがある。しかし、このアプローチは学術データベース界隈では古くからあるものの、10年以上たってもそのフォーマットは定まっていない上、一部では特定機関の権威を利用してのあまり実りのないゲートキーピングをめぐる争いの様相すら呈している。

むしろ、別のアプローチから、特にここ10年の間に学術的データベースはその在り方を変化させることができるのではないかと考えている。データベースは利用されている期間だけ保存されるという基本的なスタンスは保持しつつも、制作・改良されている期間のみ利用されているといえるのではないかと仮説の下、データベース発のデータベース構築のアプ

ローチを探る。

そのために、1.公開には必ずしもとられずに学術データベースを一つの世界観として研究者間ネットワークを作る手助けをしつつ 2.研究者が容易に自身のための新たな研究用データベースを作るためのツールの紹介、利用補助、必要となれば開発を行う。この試みを行いつつ、2005年以降に浸透した web2.0 の思想を元に主に、メディアミックス論あるいは物語消費論を基にした理論基盤を探るのがもう一つの研究テーマである。

Ⅲ. 班研究

Ⅳ. 外部資金による研究

Ⅴ. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 科学基礎論学会
- ・ 日本アーカイブズ学会（2011～2014）
- ・ アート・ドキュメンテーション学会
- ・ 国際日本文化研究センター 共同研究員（2014～）

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 帝京平成大学 2008～2012年度
- ・ 群馬県立女子大学（芸術プログラム）2014～

Ⅶ. 過去3年間の研究業績

【学術論文】

藤岡洋 「データベース活用におけるバザール型コミュニティ形成について」 『人文科学とデータベース論文集』 人文系データベース協議会（2013）.

【口頭発表】

藤岡洋 「劣化からみるデジタルコンテンツ」 東京大学東洋文化研究所着任研究会 東京大

学東洋文化研究所 2014年7月24日.

藤岡洋 「データベース活用におけるバザール型コミュニティ形成について」 人文系データベース協議会 立命館大学 2013年11月30日.

藤岡洋 「リックライダーの夢は現在…」 東文研・ASNETセミナー 東京大学 2013年5月23日.

(4)班研究・研究協力者一覧(2014年現在)

P-1 「南アジア北部における人類学的研究の再検討」

主任	名和克郎	極西部ネパール、ビャンスの社会
研究協力者	上杉妙子	グルカ兵をめぐる multi-sited anthropology
	小西公大	インド西部、ビール社会をめぐる社会空間の変容
	小牧幸代	北インドおよびパキスタンのイスラーム実践
	佐藤齊華	中部ネパール、ヨルモの社会
	田辺明生	インド・オリッサの社会
	外川昌彦	ベンガルの宗教と社会
	藤倉達郎	西ネパール丘陵部および平野部における社会変容
	マハラジャン,ケシャブ・ラル	ネワールの社会
	三尾稔	インド西部、都市の社会変容
	南真木人	中部ネパール、マガールの社会
	森本泉	カトマンドウのツーリストエリアとガンダルバ
	安野早己	西ネパール、シジャ地方のカースト社会

P-2 「アジアの貧困と不平等の再検討」

主任	池本幸生	ケイパビリティ概念について
研究協力者	松井範惇	貧困、飢餓、飢饉の政治経済学
	馬場紀寿	仏教と平等
	平位匡	人間開発と幸福
	金氣興	社会的企業と有機農業
	濱島敦博	中国における貧困と不平等
	石井香代子	タイにおけるマイノリティの生存戦略
	坪井ひろみ	バングラデシュのマイクロ・クレジットと開発
	倉田正充	バングラデシュ農村における貧困と格差

P-3 「サブシステム研究の可能性」

主任	松井健	西南アジア・サブシステム研究の総括
研究協力者	菅豊	中国・農牧・サブシステムと資源管理
	飯田卓	アフリカ漁業・サブシステムとメディア
	遠藤仁	西南アジアにおける先史時代の生業と物質文化
	太田至	アフリカ・遊牧民・家畜をめぐる諸制度
	大村敬一	極北・先住民・知識と言語とサブシステム
	大山修一	アフリカと南アメリカ・牧畜・サブシステムと生態
	落合雪野	東南アジア・少数民族・サブシステムとエスノ・バイ

	オロジー
河合香吏	アフリカ・遊牧民・サブシステムと空間
栗本英世	アフリカ・紛争とサブシステム
窪田幸子	オーストラリア・先住民族のサブシステムの変容
小磯学	南アジアにおける先史時代の生業
小長谷有紀	モンゴル・遊牧・サブシステム変容と現在
末原達郎	アフリカと日本・農業・サブシステムと食糧生産
杉島敬志	東南アジア・サブシステムと土地制度
杉藤重信	オーストラリア・サブシステムのデータベース化
須藤健一	オセアニア・サブシステムと社会制度
曾我亨	アフリカ・牧畜・サブシステムと社会制度
高倉浩樹	北東アジア・牧畜・サブシステムと国家制度
野林厚志	中国・農牧・サブシステムと技術・技法
松田素二	アフリカ・都市民・貧困、サバイバル、サブシステム
家中茂	日本・サブシステムと環境
李應喆	韓国におけるサブシステムの現況

P・4 「アジアの食文化と開発と地域」

主任	池本幸生	コーヒーの飲まれ方と経済格差
研究協力者	羽田正	食文化とグローバリゼーション
	梅崎昌裕	野生動植物の食利用
	菅豊	芸術としての中華料理
	渡辺知保	バングラデシュのカレーとヒ素
	松井健	インド・パキスタンの調理法
	名和克郎	ネパールにおける食文化の変容
	落合雪野	茶外の茶の民族植物学

P・5 「中台関係の総合的研究」

主任	松田康博	中台関係
研究協力者	若林正丈	台湾近現代史・現代台湾政治史
	高原明生	現代中国政治
	家永真幸	中台関係
	石川誠人	米中台関係
	伊藤剛	日米中関係
	伊藤信悟	中国・台湾の経済
	小笠原欣幸	台湾政治研究

佐藤幸人	台湾経済研究
福田円	米中台関係
松本充豊	台湾政治研究
林成蔚	東アジアをめぐる比較政治
黄偉修	台湾の大陸政策決定過程
岩谷將	中国政治外交史

P-6 「アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究」

主任	名和克郎	
研究協力者	岩月純一	ベトナムの多言語状況と言語政策史
	大川謙作	チベットの多言語状況と言語政策史
	名和克郎	ネパールの多言語状況と言語政策史
	フフバートル	モンゴル民族の多言語状況と言語政策史
	吉川雅之	中国南部と香港・澳門の多言語状況と言語政策史
	渡邊日日	ロシアの多言語状況と言語政策史

P-7 「東アジアの安全保障研究」

主任	松田康博	中台関係
研究協力者	杉浦康之	現代中国外交史
	山口信治	中国政治・安全保障
	福田円	米中台関係
	手賀裕輔	アメリカ外交
	吉田真吾	日米同盟

E1-1 「中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法 研究の総合の試み」

主任	高見澤磨	中国近代法史、現代法
研究協力者	松原健太郎	中国法制史
	赤城美恵子	中国法制史
	李英美	朝鮮・韓国近現代法
	鹿嶋瑛	現代中国法
	加藤雄三	中国法制史、中国近代法史
	川村康	中国法制史
	陶安あんど	中国法制史
	鈴木秀光	中国法制史
	高遠拓児	中国法制史
	中村正人	中国法制史

娜鶴雅	中国近代法史
西英昭	中国近代法史
森川伸吾	現代中国法
西田真之	日本・中国・タイ近代法史

E1-2 「魂の脱植民地化～共生と創発の歴史的ダイナミクス～」

主任	安富歩	創発と共生の理論、呪縛なき秩序の思想
研究協力者	辻明日香	コプト教徒の魂の遍歴
	深尾葉子	呪縛と環境破壊
	富田啓一	呪縛と環境破壊
	井上正夫	貨幣の共生的側面の史的研究
	李昌平	中国郷村社会の自由と創発
	翟学偉	関係と人情のダイナミクス
	富樫智	内モンゴル阿拉善における創発的草原回復の研究
	包茂紅	魂の脱植民地化と環境破壊との歴史的研究
	竹端寛	支援における共生的価値創出の方法論樹立の研究
	中西康信	東アジアの歴史から近代の経済・経営を捉え直す

E1-3 「中国古代文献の成立に関する多角的研究」

主任	小寺敦	テキストの成立と「家族」
研究協力者	池澤優	儀礼文献の成立と展開—『儀禮』を中心に
	海老根量介	楚国在地性資料の分析
	大西克也	出土文献における文字と言語
	末永高康	出土文字資料による先秦思想史の再検討
	戸内俊介	出土文字資料を用いた上古中国語研究
	名和敏光	馬王堆帛書方術関係文献研究
	丹羽崇史	先秦期における青銅器の研究
	宮本徹	出土文献の音韻学的検討
	谷中信一	中国先秦時代地域文化の研究

E1-4 「親鸞ルネサンス～親鸞で研究する学問の創出をめざして～」

主任	安富歩	親鸞思想による学問の基礎概念の構築
研究協力者	阪上雅昭	自然科学の再編成
	山本伸裕	清沢満之の親鸞ルネサンスとその影響
	大平泰男	企業経営と親鸞
	村上信明	日蓮と親鸞との思想比較

E2-1 「現存する中国絵画の包括的再検討」

主任	板倉聖哲
研究協力者	井手誠之輔
	藤田伸也
	救仁郷秀明
	伊藤大輔
	増記隆介
	竹浪遠
	塚本麿充
	呉孟晋
	植松瑞希
	田中伝

E2-2 「仏教美術に関する資料収集と比較研究」

主任	板倉聖哲	南宋画壇における仏教絵画の位置
研究協力者	内藤榮	中国における仏教工芸
	伊東哲夫	正倉院を中心にした中国工芸
	稲本泰生	中国仏教彫刻史
	榎本渉	入宋僧、入元僧と文物の交流
	高橋範子	中世日本禅宗画に見る日中関係
	高橋照彦	宗教儀礼に用いられた日中陶磁
	井手誠之輔	仏教絵画における中国・韓国・日本
	安田治樹	アジアにおける法華経信仰と美術
	馬場紀寿	上座部仏教とその文化的影響

E2-3 「中国学における概念マップの再構築」

主任	中島隆博	中国哲学
研究協力者	井戸美里	日本美学、中国美学
	伊東貴之	中国哲学、中国文学
	上田望	中国文学
	内山直樹	中国哲学
	笠井直美	中国文学
	齋藤希史	中国文学
	志野好伸	中国哲学
	土屋昌明	中国哲学
	林 文 孝	中国哲学 中国宗教 中国美学

廣瀬玲子	中国文学、中国美学
本間次彦	中国哲学、中国文学
廖肇亨	中国文芸思潮
渡邊義浩	中国史、中国哲学
石井剛	中国哲学
橋本悟	中国文学・比較文学
盧詩霖	科学技術社会論

S-1 「ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任	高橋昭雄	農業政策と農民の歴史
研究協力者	根本敬	独立運動史
	工藤年博	現代ミャンマーの政治経済
	谷祐可子	林業と山地民の歴史
	池田一人	ミャンマー連邦におけるカレン民族史

S-2 「南アジア農村社会の歴史的研究」

主任	古井龍介	東インド中世初期農村社会の権力関係
研究協力者	太田信宏	南インド・カルナータカ地方における『村役人』
	小川道大	18-19世紀インド西部の農村社会と国家の関係
	木村真希子	インド北東部における民族的アイデンティティと農村社会間の関係
	小嶋常喜	植民地期インドにおける農村社会の変容と社会運動
	小西公大	現代インドにおける集村および散村の流動性と社会関係
	中溝和弥	現代農村社会の権力関係
	名和克郎	極西部ネパール、ビャンス社会の現代における変容
	野村親義	近・現代インド工業化と農村社会
	舟橋健太	現代インドの農村社会における社会変容
	三田昌彦	西インド中世農村社会と都市

S-3 「東南アジア近現代史像の再検討」

主任	高橋昭雄	ビルマ式社会主義と農民の対応
研究協力者	浅見靖仁	情報化時代の東南アジア研究
	土佐弘之	東南アジアの政治発展とマイノリティー
	中西徹	フィリピンの労働移動と都市スラム
	藤原帰一	フィリピンの政治変動と民主化

宮脇聡史	カトリック教会とフィリピン・ナショナリズム
高地薫	インドネシアの政党政治と国民統合
古田元夫	インドシナの社会主義とエスニシティー
白石昌也	ベトナムの民族形成と対日関係
伊藤正子	ベトナムの少数民族政策と民族意識
岩月純一	近代ベトナムの国語政策
小泉順子	タイの国家形成と徴税制度
末廣昭	タイの経済発展と企業グループ

S - 4 「中国禅宗語録の研究」

主任	馬場紀寿	仏教の禅
研究協力者	橋本秀美	経学と宗教
	小川隆	中国禅思想史
	衣川賢次	唐代文学と禅
	末木文美士	中国禅と浄土思想
	前川亨	中国近代思想と仏教
	喬志航	清末思想と禅
	土屋太祐	宋代禅の形成
	泉経武	上座部仏教の瞑想法
	呉真	禅思想と道教
	若林晴子	日本中世における十王信仰と禅宗の葬送儀礼との関係

S - 5 「上座部文献の研究」

主任	馬場紀寿	三蔵から註釈文献への思想的展開
研究協力者	青野道彦	律蔵注釈文献の研究
	林隆嗣	パーリ注釈文献の思想研究
	種村隆元	東南アジアの密教
	片岡啓	ブラフマニズムと仏教
	田中公明	スリランカの大乗・密教

W - 1 「都市社会と宗教施設」

主任	羽田正	イランにおける宗教施設
研究協力者	藤井恵介	日本における宗教施設
	私市正年	マダガスカルにおける宗教施設
	小松久男	中央アジアにおける宗教施設
	林佳世子	トルコにおける宗教施設

三浦徹	アラブにおける宗教施設
深見奈緒子	イスラム宗教建築のデザインと技法
山中由里子	アラブ・ペルシア文学における都市と宗教施設
森本一夫	サイイドの系譜
梶屋友子	イスラム宗教建築の装飾
大田省一	東南アジアの宗教施設の研究

W・2 「中東の社会変容と思想運動」

主任	長澤榮治	現代アラブの社会変容と思想運動
研究協力者	池田美佐子	近代エジプトの社会問題論争
	岩崎えり奈	エジプトにおける中央地方関係の変容と地域社会
	臼杵陽	パレスチナと東洋系ユダヤ人社会
	岡野内正	クルド民族運動と国際経済ネットワーク
	栗田禎子	近代スーダン社会の変容と思想運動
	後藤絵美	イスラーム主義概念に関する研究
	齋藤久美子	オスマン帝国の法制資料と官報の比較研究
	鈴木恵美	エジプトの議会政治エリートの変容
	長谷部圭彦	オスマン帝国の法制資料の相互連関に関する基礎的研究
	福田安志	湾岸地域における社会変容と思想運動
	堀井聡江	イスラーム法とアラブ諸国の近現代法をめぐる問題
	松本弘	近代イエメン社会の変容と政治運動
	森まり子	イスラエル建国史における民族分離思想と対アラブ政策の関係

W・3 「イスラーム思想の文献学的研究」

主任	鎌田繁	シーア・イスラーム思想
研究協力者	小林春夫	中世イスラーム哲学
	杉田英明	アラブ文学
	東長靖	イスラーム神秘主義
	中田考	イスラーム政治思想
	野元晋	イスマーイル派・イスラーム思想
	藤井守男	ペルシア神秘主義文学
	菊地達也	ファーティマ朝思想
	吉田京子	十二イマーム派教義論
	高橋英海	シリア語・アラビア語文献学

仁子寿晴	イスラーム論理学・中国イスラーム思想
青木健	イスラーム期ゾロアスター教
堀江聡	新プラトン主義研究

W-4 「ペルシア語文化圏研究」

主任	森本一夫	ペルシア語文化圏におけるアラビア語使用
研究協力者	大塚修	ペルシア語文化圏における歴史記述の展開
	熊倉和歌子	簿記術から見たペルシア語文化圏
	近藤信彰	詩人伝から見るペルシア語文化圏
	菅原睦	テュルク系諸文章語とペルシア語との相互関係
	山岸智子	シーア派ネットワークとペルシア語文化
	中西竜也	中国のムスリム社会におけるペルシア語文化
	真下裕之	南アジアにおけるペルシア語文化
	前田弘毅	コーカサスにおけるペルシア語文化
	山口昭彦	アナトリアにおけるペルシア語文化
	森山央朗	アラビア語圏との対比

W-5 「イスラーム美術の諸相」

主任	梶屋友子	陶器・絵画
研究協力者	深見奈緒子	建築
	真道洋子	ガラス器
	小林一枝	絵画
	阿部克彦	陶器
	山下王世	建築
	鎌田由美子	絨毯
	林則仁	絵画
	神田惟	陶器

W-6 「比較歴史学の課題と方法」

主任	羽田正	西アジア史
研究協力者	伊藤幸司	日本史
	藤田明良	日本史
	村井章介	日本史
	森平雅彦	朝鮮史
	高津孝	中国史
	中島楽章	中国史

四日市康博	ユーラシア文化交流史
深沢克己	西洋史

N-1 「東アジアにおける「民俗学」の方法的課題」

主任	菅豊	表象としての日本・中国「民俗学」
研究協力者	南根祐	韓国「民俗学」と植民地主義および民族主義
	中野泰	ポストコロニアル時代の韓国「民俗学」発展史
	岩本通弥	表象としての日本・韓国「民俗学」
	周星	中国「民俗学」の形成史
	田村和彦	中国「民俗学」と国家の関係
	門田岳久	ヨーロッパ「民俗学」のアジアへの影響
	陳志勤	中国「民俗学」と文化政策
	西村真志葉	中国「民俗学」の方法
	小長谷英代	アメリカ「民俗学」における東アジア研究
	平山美雪	アメリカ「民俗学」におけるアジア文化の表象

C-1 「中国出土文字史料とその歴史的背景」

主任	平勢隆郎	六国文字と戦国社会
研究協力者	竹内康浩	金文史料と周代社会
	呂静	竹簡史料から見た春秋社会
	影山輝国	漢代帛書に関する思想史的考察
	鶴間和幸	秦始皇刻石史料の検討
	工藤元男	秦簡日書の研究
	谷豊信	考古史料から見た漢代社会
	飯尾秀幸	雲夢秦簡と秦代社会
	吉開将人	金石史料から見た東周秦漢社会
	熊谷滋三	石刻史料から見た漢代社会
	近藤浩之	簡帛史料中の易について
	甘懐真	石刻史料から見た随唐社会
	池田知正	突厥の国際関係
	徐蘇斌	関野貞の中国建築研究
	佐川英治	石刻史料から見た六朝社会
	塩沢裕仁	中国環境考古学と関野貞

(5)定例研究会

2012 年度

- 2012.06.14 第 1 回定例研究会 (R. チャード准教授)
- 2012.07.12 第 2 回定例研究会"Migrants' acculturation and welfare state"(李賢鮮准教授)
- 2012.09.13 第 3 回定例研究会「イスラーム絵画における空間表現」(梶屋友子教授)
- 2012.11.01 第 4 回定例研究会「近現代東アジアにおける道徳と宗教」(中島隆博准教授)

2013 年度

- 2013.07.18 第 1 回定例研究会「時空間の民族誌的研究における言語情報の扱いについて -ネパール、ビャンスの事例から」(名和克郎准教授)
- 2013.11.14 第 2 回定例研究会「『新しい野の学問』とはなにか?—研究者と社会とのつながり方—」(菅豊教授)
- 2014.01.16 第 3 回定例研究会「エジプト社会の家族的構成—ナギーブ・マハフーズ『バイナルカスライン』を素材にして—」(長澤榮治教授)

2014 年度

- 2014.07.03 第 1 回定例研究会「「宗教」から国民的歴史を考える—靖国参拝違憲訴訟とフランスでのヒジャーブ法律を比較して」(鍾以江准教授)
- 2014.12.11 第 2 回定例研究会「都市を生きる海の民—サマのキリスト教の受容と実践」(青山和佳准教授)
- 2015.01.15 第 3 回定例研究会「一本の手稿本から広がる世界：私と 15 世紀イラクのある手控帳とのつきあい」(森本一夫准教授)
- 2015.02.19 第 4 回定例研究会「先秦血縁集団の研究と出土資料」(小寺敦准教授)

(6)東文研シンポジウム

2012 年度

- 2012.06.21 「中世日本美術をめぐる諸問題—東アジアの視点から」

2013 年度

- 2013.05.22 "New Approaches to Islamic History, Theory and Practice: Graduate Workshop with Professor Michael A. Cook"
- 2013.06.13 「近代東アジア美術コレクションをめぐる諸問題」
- 2013.07.23 「新憲法の制定と政教関係のゆくえ／Making a New Constitution and State-Religion Relations」
- 2013.07.24 "Beyond Established Categories in World Historical Studies"

2014.01.06 「南宋時代仏教絵画の諸問題」

2014.02.01 「清代経済史の諸問題」

2014 年度

2014.07.19 「エジプト、コプト・イスラーム物質文化研究会&中世建築研究会」

2015.02.20 「中東政治におけるリベラリズム再考」－水谷周氏著『20世紀エジプト思想におけるリベラリズム』刊行を機に

(7) 東文研セミナー

2012 年度

2012.04.02 「LT 貿易協定と廖承志訪日に対する中華民国の対策（1962－1973）」

2012.05.23 「Interpreting “Those in Authority”: The Hermeneutics of Medieval Qur’ānic Commentary」

2012.06.05 「マムルーク絨毯に見られるトルコ民族の文化的影響」

2012.06.09 (緬甸勉強会) 「変貌するミャンマーの政治・経済・国際関係と今後」

2012.06.23 「歴史／民俗 “編さん” を読み直す－実践としての郷土誌／自治体誌」

2012.06.27 "THE OTTOMAN EMPIRE and THE CAUCASUS in WWI"

2012.06.28 「魚のとむらい：日本における人と魚の関わりと生命観の変遷」

2012.07.12 「"Zotero" --文献の効果的な整理・活用法について-- II」

2012.09.12 "The sources for utkrānti in Tantric Buddhism"

2012.09.18 "Abhidharma Works of the Yogācāras and Their Practical Uses"

2012.09.26 “Religio-political crises and cultural creativity during the Later Middle Period of Islamic history”

2012.09.26 「初期中世インドにおける変化の性質」(Nature of Change in Early Medieval India)

2012.10.04 "Rewriting the National Past: Germany and Japan after World War II"

2012.10.25 「李星明先生、孫英剛先生（復旦大学文史研究院）」

2012.10.29 "On the Problems Surrounding the Bhikṣuṇī Prātimokṣa Traditions Preserved in Tibetan: Pelliot tibétain 891 and 892 (*Ārya-sarvāstivādi-mūla-bhikṣuṇī-prātimokṣa-sūtra)"

2012.11.16 "How Do We Issue Fatwas?"

2012.11.23 緬甸(ミャンマー) 勉強会

2012.11.25 「仏教儀礼の成立と展開に関する総合的研究（科研費(A)）」研究会

2012.11.27 "Re-entering the World? Rituals and Decisions to Leave the Sangha in Theravāda Communities"

2012.12.27 "Visions of Muhammad in Bukhara and Tabaristan: Dreams and Their Uses"

in Persian Local Histories"

2013.01.17 "The PLA and Regional Security under the New Leadership "

2013.03.16 「東アジアにおける『民俗学』の方法的課題」

2013.03.16 「北宋の禅と詩」

2013.03.26 "Progressive Teachings in the Pāli Nikāyas" (Francesco Sferra 教授：ナポリ東洋大学)

2013 年度

2013.05.15 「イスラーム法学の養成、教育分野学と現代の諸問題に対応したその最新の成果」

2013.05.22 "The Long-term Geopolitics of the Pre-modern Middle East" (Michael A. Cook 教授, Princeton University)

2013.06.03 「中国新疆ウイグル自治区におけるイスラーム教管理」

2013.06.20 「中国の人民調解制度の起源及び研究の現状」

2013.06.22 「『新しい野の学問』の時代へー民俗学が進みゆく潮流のひとつ」(第1回「新しい野の学問」研究会)

2013.06.28-2013.06.30 「柳宗悦のいう『自然』について」(日本民藝協会主催の2013年度民藝夏期学校(沖縄)ヤンバル会場)

2013.06.29 緬甸(ミャンマー)勉強会

2013.06.29 「禅僧、永明延寿の『法華経』信仰」

2013.07.11 「中日親属容隠法の変遷の比較研究」

2013.09.28 「商店街は減びるのか？ーポスト・「三丁目の夕日」時代のアクチュアリティー」

2013.10.02 「ペルシャ文学の様々な時代における社会的、精神的な美」/ 「イスラーム書道」

2013.10.15 「ECFA が台湾経済に与える影響ー中台サービス貿易協定締結を踏まえてー」(日本台湾学会定例研究会(歴史・政治・経済部会)第85回)

2013.10.19 緬甸(ミャンマー)勉強会

2013.11.09 (ギュンター・ペルトナー教授講演会) <見えること>の奇跡～中世における<美しさ>についての思索

2013.11.16 「生活環境主義とは何か？ー民俗学を問い直す」

2013.11.28 "Persian styles of seeing European ways of painting: the Morgan Bible in Safavid Iran"

2013.11.28 「劉震先生(復旦大学文史研究院)をお迎えして」

2013.12.11 "A Legal Compendium for Ming Princes: The Zongfan tiaoli 宗藩條例 (1565). Its Genesis, Objectives, Contents and Legacy"

2013.12.15 「パブリック民俗学とパブリック人類学の対話可能性」

2013.12.19 「現代中国の国家と社会ー広東省の社会組織管理改革の事例研究ー」

2014.01.24 国際ワークショップ "Middle Class and Social Change in Contemporary China"

- 2014.01.30 「鄧 菲先生（復旦大学文史研究院）をお迎えして」
- 2014.03.06 「蜂起の空間的実践—「アラブの春」の抗議行動にみる広場と国家の関係性／
Spatial Practices of Revolt : Square-state relations during the Arab Spring protests」

2014 年度

- 2014.04.12 「胡平生教授が語る出土資料研究の動向」
- 2014.04.25 (GHC: Global History Collaborative 第1回セミナー) "Encountering the 'Non-European' and Defining 'Europeanness'"
- 2014.05.24 「非発掘簡」を扱うために / For dealing with "unofficially excavated materials"
- 2014.06.04 「インドシナ稲作研究会」
- 2014.06.16 「「二元制衡」—唐・宋交代の際における田土立法方式」
- 2014.06.26 「熊本の藩校 時習館における釋奠の問題」(ジェームズ・マクマレン氏)
- 2014.06.28 「清華簡『皇門』を読む」
- 2014.06.28 「第 39 回コーヒーサロンタイのコーヒーをもっとおいしくしたい！～王室プロジェクトをサポートする日本人専門家の取り組み～」
- 2014.06.29 「宋～元代の『尚書』研究と中井履軒『雕題畧』(書)、「雕題附言」: 18 世紀日本・中国における『尚書』の考証学的研究に鑑みながら」FF
- 2014.07.02 「インドシナ稲作研究会」
- 2014.07.08 「アフタンディル・エルキノフ教授(タシュケント国立東洋学研究所)「ナヴァーイー著『両言語間の裁定』およびチャガタイ・トルコ語とペルシア語との関係」
- 2014.07.10 "The DAMIN program and the problem of gold and silver between USA, Europe and Asia (c.1860-1900)"
- 2014.07.12 緬甸(ミャンマー)勉強会
- 2014.07.13 "Some of the New Indicators of the Second Constituent Assembly Election of 2013, and Future Consequences"
- 2014.07.14 「M. H. モフベル師を囲む懇談会」
- 2014.07.16 「The 'King of Islam': An Idea and Its Typological Significance (Said Amir Arjomand)」
- 2014.07.19 「清華簡『皇門』を読む(下)」
- 2014.07.20 「ヨーロッパ日本研究協会」2014 年度大会報告にむけて
- 2014.07.26 「何ができて、何ができないのか—『無形民俗文化財が被災するということ』からつかみとる課題」
- 2014.07.31 日本台湾学会定例研究会(歴史・政治・経済部会)第93回
- 2014.09.08 「10 世紀エジプトの修道院における生活/Life in a 10th-century Egyptian Monastery and the Scribal Practices at the Monastery of St. John the Little」

- 2014.09.10 「フィリピンにおける資源ガバナンスとネオ・リベラリズムおよび日常的抵抗の政治 / Neoliberalism, Resource Governance and the Everyday Politics of Protests in the Philippines」
- 2014.09.16 「英国における開発学の現状と課題/The State of Development Studies in the UK: Challenges and Opportunities for Development Researchers」
- 2014.09.20 緬甸(ミャンマー)勉強会
- 2014.09.27 「1. 北京大学・清華大学所蔵簡牘調査報告 / 2. 『淮南子』道應訓所引『老子』テキストの性格—馬王堆『老子』並びに北大漢簡『老子』と比較して—」のご案内
- 2014.09.28 「民俗学の論点 2014 —いま民俗学が論じ、取り組むべきこと—」
- 2014.10.09 Benjamin Elman 客員教授着任研究会 "A Late Chosŏn Korean Polymath: Kim Chŏng-hŭi 金正喜 (1786-1856) and Qing Dynasty Qianlong --Jiaqing Era Scholarship (朝鮮鴻儒 -- 金正喜與清朝乾嘉學術)"
- 2014.10.19 "Garments and Maoists in Nepal: The ethnic politics of class movement confronting market failure and national transition"
- 2014.11.08 「第3回コプト・イスラーム物質文化研究会」
- 2014.11.22 第二回研究フォーラム「井筒・東洋哲学の比較宗教学的検討」
- 2014.11.29 「清華簡『繫年』第2~4章を読む」
- 2014.12.04 「Xavier PAULES 先生 (フランス社会科学高等研究院) をお迎えして」
- 2014.12.08 「フランス社会科学高等研究院の Xavier PAULES 先生をお迎えして (連続セミナー)」
- 2014.12.12 "Global History Collaborative/日本学術振興会研究拠点形成事業「新しい世界史／グローバルヒストリー共同研究拠点の構築」第2回セミナー"
- 2014.12.21 「二つのミンゾク学から世界民俗学、そしてその先—グローバルでローカルで複数のフォークロア研究へ—」
- 2015.01.07 「演劇の中の庭園：明末庭園のジェンダー空間とその伝奇劇中における表現」
- 2015.01.08 「張佳先生、段志強先生 (復旦大学文史研究院) をお迎えして」
- 2015.02.06 「Buddhism, Social Justice and the Status of the Caṇḍāla 」
- 2015.02.20 「合理的思考の要素：『清浄道論』(Visuddhimagga) における「想」の説明について」
- 2015.02.20 (GHC / GJS 共催セミナー) "A Shared Modernity: Writing Meiji History in a Global Perspective"
- 2015.02.21 「(座談会) 植木行宣先生がみた民俗文化財保護の軌跡—京都府を中心として—」
- 2015.03.21 "Early Islamic Kings: When, Where and Why Did Kings First Appear in the Early Islamic World?"

(8)最終研究発表会・離任研究会

- 2013.03.14 永ノ尾信悟教授 最終研究発表会「CARD：ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資

料」

- 2013.03.14 小川裕充教授 最終研究発表会「郭熙筆 早春図」
- 2013.02.21 安田佳代助教 離任研究会（第65回東文研・ASNET 共催セミナー）「東洋文化研究所・ASNET での3年間を振り返って」
- 2013.02.21 大野公賀准教授 離任研究会「竹久夢二へのまなざし——周作人と豊子愷」
- 2015.03.12 松井健教授 最終研究発表会 「『自然』を中心テーマとする人類学の四十年」

(9)その他

2012年度

- 2012.03.30 アジア社会学コンソーシアムによるスピーチ
- 2012.03.27 香港大学社会学系で合同ワークショップ
- 2012.03.28 <「魂の脱植民地化」を考えるコンポジウム>「原発事故で何が吹き飛んだか？～日本社会の隠蔽構造とその露呈～」
- 2012.09.14-17 ヴィクトリアシーラ・ワークショップ連続講演会
- 2012.09.28-29 イェール大学にて東アジア経済史・世界貨幣史のコンファレンス開催
- 2012.10.20 講演会「仏教の誕生：ブッダの言葉を解説する」
- 2012.12.06 「Vampire Bats and a "Monster Disease"」
- 2013.03.01-2013.03.02 IOS-IASA 4th Joint Workshop and AsiaBarometer Workshop 2013
- 2013.03.15 東大・復旦大若手人文学者研究交流集会

2013年度

- 2013.08.27 関野貞プロジェクト国際会議「龍門石窟と関野貞」
- 2013.12.06 パリで貨幣・貨幣史研究の国際ワークショップを開催
- 2013.12.07 日本漢籍集散の文化史的研究 合同成果報告会
- 2014.02.23 CPAG 若手研究者ワークショップ 「「ヨーロッパ」とその他者」

2014年度

- 2014.05.14 エジプト・コプト&イスラーム物質文化研究会
- 2014.05.21 班研究共催「映画から見る中東社会の変容（『友だちのうちはどこ？』）」
- 2014.06.27-2014.06.28 CPAG/ICCT 国際シンポジウム「“現場”の挑戦と文学の営み」
- 2014.09.19 国立大学共同利用・共同研究拠点協議会主催第36回知の拠点セミナー「アラブ革命の時代」

5. 教育活動

(1)アジア諸大学との合同サマープログラムの実施

本研究所は、国際本部が主導する合同サマープログラムの作成と実施に大きく貢献している。2012年度には台湾大学（2012年8月10日～17日、2013年8月21日～30日、2014年8月15日～9月3日）、2013年度には香港大学（2013年8月1日～13日、2014年8月2日～13日）といったアジアの有力大学をパートナーに、それぞれ合同サマープログラムを実施し、園田茂人教授を中心にプログラムが策定・実施されてきた。2015年度には、新たに北京大学とソウル大学がこれに加わり、国際本部が主管する「作りこみ型」サマープログラムは4つになる。

「合同サマープログラム」とは、パートナーとなる大学と丁寧な摺合せを行い、双方の学生が協働で学ぶ、新しいタイプのプログラムである。大学本部が学生への参加公募を行い、担当教員が参加学生を絞り込んだ上で、双方の学生が授業やフィールドトリップ、インタビュー調査などを合同で行うことを主な内容とする。最終的な成果は、双方の学生がグループワークの成果を英語で報告し、フロアからの質問を受ける形で実施されるが、国際本部内での検討では、こうした新しい学びのスタイルは今後本学が積極的に進めるべきだとされ、本研究所が実施してきた合同サマープログラムはモデルケースとして扱われている。

合同サマープログラムの実施にあたって、本学から参加する学生を対象にした最初のキックオフ会合は、本研究所の大会議室を利用して実施されている。また、2014年度の台湾大学との合同サマープログラムからは、本学での学びを内容とした東京ラウンドも併設されることになり、その際の活動拠点として本研究所が重要な役割を果たした。

台湾大学、香港大学の両方のプログラムに共通しているのは、本学学生に現地社会の事情理解を深めてもらい、現地の本学出身者との交流も含め、ダイナミックに動くアジアの様子を理解してもらおうとしている点にある。また両プログラムとも、最初は総長裁量経費を用いてのスタートだったのが、現地でのドナーが現れ、学生の経済的な負担が低い中でプログラムの実施が可能になってきている点がある。

（文責 園田茂人）

（2）プリンストン大学との共同研究・教育プロジェクト

2013年に締結された本学とプリンストン大学による「戦略的な提携に係る覚書」に基づいて、本研究所の佐藤仁教授とプリンストン大学東アジア学部デイビット・レヘニー教授は、共同で互いの大学の学部教育の充実のために、双方の教員・学生を長期で交換するプログラム *Towards Immersive Asian Studies* を提案し、人文社会科学系では唯一の案件として採択された。

この提案が採択された背景には、前年の2012年6月から7月にかけて本研究所を受け入れ機関として実施したプリンストン大学グローバル・セミナーがあった。このセミナーでは、14名のプリンストン学部生が参加し、日本の歴史、文化、政治などについて広く知見を深めただけでなく、毎朝1時間の特訓の成果もあって、日本語を上達させることもできた。講義や映画上映とは別に、国会議事堂、日光東照宮、靖国神社などにエクスカッションでか

ける機会もあったが、なんといっても学生たちを深く印象づけたのは、東北の被災地だったようだ。現地では「難民を助ける会」のスタッフの皆さまの献身的な努力のおかげで、ボランティア体験をすることもできた。各地で温かいおもてなしをいただき、思い出に残る旅となった。

こうして緊密化した両校の関係を受けて翌年の 2013 年に採択された **Toward Immersive Asian Studies: A Collaborative Undergraduate Exchange Program for the Todai-Princeton Partnership** とは、従来の大学の国際交流が日本から学生や教員を送り、かつ、教員は「客員」として先方の教育には関わらないという前提で行われていたことが多かったことに対する反省から、双方の教員が互いの教育に関与し、なおかつ学生も互いの大学の授業に参加できるように設計された。主眼は、本研究所とプリンストン大学東アジア学部で双方におけるアジア研究の蓄積を互いに有効利用できるようにすることであり、政治や文化、歴史や美術に至るアジアの様々な側面に関する教育と研究を充実させることである。

2013 年 2 月からのプリンストン大学の春学期には、佐藤仁准教授がレヘニー教授と共同で **Dilemmas of Development in Asia** という授業を東アジア学部用の科目として開講し、プリンストン大学から 50 名の受講生を集めることに成功した。授業ではアジアの経済発展が生み出した諸側面を批判的に検討し、公害や東日本大震災を含めた日本の教訓についても議論した。2013 年の 6 月にはデイビット・レヘニー教授が来日し「日本の政治」というタイトルで東京大学駒場キャンパスの **PEAK** で集中講義を行い、こちらも多くの学生を集める人気講義となった。

研究面では、井戸美里特任助教が 2015 年 2 月から 3 ヶ月の予定でプリンストン大学に滞在し、本学における国際総合日本学推進のために必要な海外における日本研究の動向をリアルタイムで把握すると同時に、ハーバード大学での日本中世仏教に関する資料調査及びワークショップ、スーパーグローバル大学創成支援事業でのシカゴ大学との大学院生主催のワークショップ引率、さらにはボードイン大学ではゲスト・レクチャーをこなすなど、精力的な研究交流を行ってきた。

2015 年 2 月からは 6 週間にかけて、本学で選抜された 5 名の学生がプリンストン大学に派遣され、通常の学部生と同じように学内の寮で生活を共にしながらそれぞれの関心に沿って授業を聴講したり、課外活動に参加した。2015 年 3 月 24 日には、帰国を前にした本学生によるプリンストン大学体験報告会を実施し、本学とプリンストン大学の教育環境の比較や本学側の改善点などについて積極的な意見が出た。同年 6 月には、プリンストン側で選抜された学生 5 名が本学の駒場キャンパスで、「戦争と記憶」というテーマで個人研究を実施するために来日する予定である。また、2015 年 9 月からは本研究所の中島隆博教授がプリンストン大学東アジア学部で 1 学期間のセミナーを担当することになっている。

本学—プリンストン大学戦略協定に基づく共同教育プログラムは、従来の一方向的な国際交流を超えて、教員にとっても学生にとっても真に双方向的な事業を目指して走り始めている。これらの機会が、双方の大学の教員と学生にとって有意義なものになるよう、担当者一

同、これからも努力していく所存である。

(文責 佐藤仁)

プリンストン大学で行われた本学生による最終報告会の様子 (2015.3.24)



(3) スーパーグローバル大学創成支援に係る戦略的パートナーシップ構築プロジェクト(シカゴ大学)

シカゴ大学と本研究所の間の戦略的パートナーシップ構築の一環として、2015年3月30日にシカゴ大学で、本学・シカゴ大学合同で大学院生主体のワークショップ「東京大学とシカゴ大学における日本研究」が行われた。このパートナーシップ・プログラムでは、シカゴ大学において日本研究に従事する大学院生、教員と本研究所の国際総合日本学(GJS)研究プログラムが母体となり3年にわたり交流が行われる。2014年度は東京大学からは新居洋子氏(本研究所・特任研究員)及びRyu Chung-hee氏(本学総合文化研究科・博士後期課程)が参加し、シカゴ大学からも3名の大学院生の発表があった。シカゴ大学では大学院生が主体となってワークショップを企画・運営する伝統があり、発表者同志が積極的に意見を交わしながら、時間が足りなくなるまで活発な議論が続いた。本パートナーシップによる大学院生合同ワークショップは、2015年10月にはシカゴ大学で、翌年度には本学で開催される予定である。プログラムは以下の通り。

Japan Studies at the University of Chicago and the University of Tokyo
A Joint Workshop

Date: March 30, 2015, 9:00-11:30 a.m.

Venue: Social Sciences Building, John Hope Franklin Room, The University of Chicago

Schedule

9:00-9:15 : Opening Remarks

9:15-10:00 Graduate Student Presentations I

Robert Greenlee (Divinity School, University of Chicago) “Tokugawa Religion and Law”

Ryu Chung-hee (University of Tokyo) “Yun Chi-ho’s Enlightenment Thought and Christian Liberty: in Comparison with Fukuzawa Yukichi’s View of Liberty and Religion”

Ryan Yokota (History, University of Chicago) “Okinawa: Autonomy and Sovereignty”

10:00-10:20 Break

10:20- 11:50 Graduate Student Presentations II

Nii Yoko (University of Tokyo) “Jesuits’ Interpretation of Ancient China within the Context of Premodern East Asian Thought”

Ishikawa Tadashi (EALC, University of Chicago) “Colonial Taiwan: Family, Discourse and Law”

10:50-11:30 Open Discussion



シカゴ大学での合同ワークショップの様子



ワークショップ終了後にシカゴ大学のキャンパスにて撮影

(4)大学院教育

協力講座

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化研究 南アジア社会文化研究、西アジア社会文化研究
法学政治学	総合法政	学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	産業社会史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学	国際協力学	地域間連関・交流学
学際情報学府	学際情報学	(講座制をとっていないため協力講座なし)
公共政策学	公共政策学	学際公共政策講座

授業担当数

研究科	年度	2012	2013	2014
	人文社会系		22	18
法学政治学		5	6	3
経済学		1	1	2
総合文化		19	19	23
農学生命学		4	4	4
新領域創成科学		2	2	3
学際情報学府		9	14	9
公共政策学		2	2	1
(ASNET)				

指導学生数

研究科	年度	2012			2013			2014		
		修士	博士	研究生	修士	博士	研究生	修士	博士	研究生
人文社会系		7	16	2	2	15	1	4	13	1
法学政治学		2	5	1	1	4	1	2	2	
経済学		1			1			2		
総合文化			9		1	11		2	12	1
農学生命学		2	2		2	3		4	2	
新領域創成科学		18	14		14	12	1	8	10	1
学際情報学府		4	6	2	5	5	1	5	7	1
公共政策学										
(ASNET)										

※公共政策学大学院は、専門職学位課程のため指導教員制はとっておらず指導学生はなし

(5)学部担当

学部	2012	2013	2014
法	2	2	1
工	1	1	1
文	8	7	8
農	1	1	1
経	1		
教養	8	5	5
全学	21	16	16

6. 国際学術交流

(1) 交流協定締結機関

- (中国) 復旦大学文史研究院
北京大学歴史学系
- (シンガポール) シンガポール国立大学人文・社会科学部
- (アメリカ) プリンストン大学東アジア研究プログラム
- (フランス) フランス高等研究院
フランス社会科学高等研究院
- (ブルネイ) ダルサラーム大学人文・社会科学部
- (台湾) 中央研究院社会学研究所・人文社会科学研究センター
- (イタリア) ナポリ東洋大学

(2) 復旦大学文史研究院・東京大学東洋文化研究所・プリンストン大学東アジア学部 (F-T-P) 学術交流コンソーシアム

本研究所は、復旦大学文史研究院及びプリンストン大学東アジア学部との学術交流コンソーシアム覚書に基づき、共催国際学術会議を開催している。2011年に第1回共催国際学術会議「世界史／グローバル・ヒストリーの文脈における地域史：文化史における事例研究」を開催し、2012年以降の内容は以下の通りである。

第2回「世界史／グローバル・ヒストリーにおける東アジア」

日時：2012年12月17日・18日

会場：復旦大学文史研究院光華楼西主楼 28階 2801室

テーマ：“世界史/全球史視野中的东亚”

East Asia in the Context of World/Global History

世界史／グローバル・ヒストリーにおける東アジア

【参加者】

東洋文化研究所：

羽田正 教授

大木康 教授

池本幸生 教授

森本一夫 准教授

大野公賀 准教授（代読による報告）

卯田宗平 特任講師

安田佳代 助教

プリンストン大学東アジア学部：

Benjamin Elman / Chair, Professor of East Asian Studies and Chinese History

Sheldon Garon / Professor of Japanese History and East Asian Studies

Atsuko Ueda / Associate Professor of Japanese Literature

Pieter Keulemans / Assistant Professor of Chinese Literature

Federico Marcon / Assistant Professor of East Asian Studies and Japanese History

Mathias Vigouroux / Post-doctoral Fellow, 2011-2013, East Asian Studies Department

Jie Li / Post-doctoral Fellow, 2012-2015, Society of Fellows, Humanities Council

復旦大学文史研究院：

葛兆光（教授、院長）

王振忠（教授）

董少新（副研究員、副院長）

徐静波（日本研究中心教授）

朱莉麗（助理研究員）

王鑫磊（助理研究員）

【プログラム】

12月17日 (Dec 17)

光华楼西主楼 2801 (2801 West Guanghua Building)

9:00—9:30 开幕式(Opening Ceremony) 主持人：董少新

复旦大学杨玉良校长致辞

普林斯顿大学东亚系艾尔曼教授致辞

东京大学东洋文化研究所大木康教授致辞

复旦大学文史研究院葛兆光教授致辞

9:30—10:00 合影茶歇(Coffee break)

10:00—11:00 第一场：东亚的知识传递与国际秩序 / 主持人：艾尔曼(Benjamin Elman)

发言人：(每人发言 15 分钟, 15'every speaker)

朱莉丽(Zhu Lili) 室町时代日本禅僧日记中的中国情报——僧侣、商人与东亚的信息传递

(Monks, Merchants, and the Flow of Information in East Asia: Information about China recorded in the Diaries of Japanese Monks in the Muromachi Period)

Paize Keulemans Opening China to the World: The Fall of the Ming in Two Dutch Tragedies of the Seventeenth Century (向世界打开中国：17 世纪两部荷兰悲剧里的明朝之亡)

Mathias Vigouroux Exotic Therapies as the New Hope: Moxibustion and Acupuncture in Eighteenth and Nineteenth Century France (作为新希望的异国疗法：十八至十九世

纪初法国的艾灸治疗)

和田佳代(Yasuda Kayo) 戦間期東アジアにおける国際衛生事業：地域内国際秩序と国際協力事業（战争期间的东亚国际卫生事业——地区内国际秩序和国际合作事业）

11:00—12:00 讨论 (Discussion)

12:00—13:30 午餐、休息 (lunch)

13:30—14:30 第二场：东亚的近代化与新知识 / 主持人：羽田正(Haneda Masashi)

发言人：

徐静波(Xu Jingbo) 在西力东渐的背景下近代日本人对上海认识的演进（1862~1911）
(Japan's Developing Understandings of Shanghai in the Penetration of the West in Asia, 1862-1911)

Federico Marcon Illustrations and Knowledge in Early Modern Natural History: A Comparative View（近代早期自然历史中的插图与知识：一个比较的视野）

Sheldon Garon The Home Front and Food Insecurity in Wartime Japan（战时日本的大后方与粮食不安全问题）

卯田宗平(Uda Shuhei) どのように自然を守るのか -外来魚問題から考える自然と人間の関係-（如何保护大自然——从外来鱼类问题思考自然与人类的关系）

14:30—15:30 讨论 (Discussion)

15:30—15:45 茶歇(Coffee break)

15:45—16:30 第三场：东亚的历史与文献 / 主持人：大木康(Oki Yasushi)

发言人：

王振忠(Wang Zhenzhong) 清代前期对江南海外贸易中海商水手的管理——以日本长崎唐通事相关文献为中心（The Regulation of Sailors in the Maritime Trade between Jiangnan and Nagasaki in Early Qing China）

李洁(Li Jie) Phantasmagoric Manchukuo: Documentaries Produced by South Manchurian Railway Company, 1932-1940（幻影重重的满洲国——以南满铁路株式会社（1932-1940）制作的纪录片为研究中心）

森本一夫(Morimoto Kazuo) 回民とイスラーム世界：河南省のあるアラビア語碑文の検討から（回民和伊斯兰世界：从河南省某阿拉伯语碑文说起）

16:30—17:15 讨论 (Discussion)

12月18日 (Dec 18)

光华楼西主楼 2801 (2801 West Guanghua Building)

8:30—9:15 第四场：东亚的政治与文化交涉 / 主持人：王振忠

发言人：

王鑫磊(Wang Xinlei) “由东极抵交南”：古代朝鲜人赵完璧的安南之行——兼谈全球史视野下的亚洲区域史（From Korea to Annam: Cho Wan-pyōk's Travel and its Significance in

Asian History)

Atsuko Ueda Competing “Languages”：“Sound” in the Orthographic Reforms of Early Meiji Japan (互相竞争的“语言”：论明治早期规范字改革中的“声音”)

大野公賀(Ōno Kimika) 豊子愷の戦争漫画について (关于丰子愷的战争漫画)

9:15—10:00 讨论 (Discussion)

10:00—10:15 茶歇(Coffee break)

10:15—11:00 第五场：方法论：世界史中的东亚 / 主持人：葛兆光(Ge Zhaoguang)

发言人：

董少新(Dong Shaoxin) 从“东亚”到“东亚海域”：历史世界的构建及其利弊 (From “East Asia” to “East Asian Maritime Worlds:” The Construction of Historical World and Its Pros and Cons)

Benjamin A. Elman A Jointly Regional-Global Approach to Early Modern East Asian History (从区域与全球的视角看前近代东亚史)

池本幸生(Ikemoto Yukio) アマルティア・センの『正義のアイデア』から見る日本の危機 (从阿玛蒂亚·森的《正义的理念》看到的日本的危机)

11:00—11:45 讨论 (Discussion)

11:45—12:15 简短闭幕式暨“复旦文史丛刊第十种发布会”

第3回「せめぎあう「世界史」—中国、日本、アメリカの視点から」

Schedule 议程

Sunday, 12/15/13 Arrivals & Welcoming Reception (6:30 PM) and Dinner (7:30 PM)

抵达普林斯顿大学; 入住 Palmer House 还是 Nassau Inn

欢迎晚宴在 Palmer House, Reception (6:30-7:30 PM) and Dinner (7:30 PM)

Monday, 12/16/13 9:00 - 9:30 AM PALMER HOUSE Opening Ceremonies 简短开幕式

Introducer/主持人：**Benjamin Elman** 艾尔曼, Princeton University

- 1) President **Christopher EISGRUBER** (Princeton University)
- 2) Vice-President **HANEDA, Masashi** 羽田正 (The University of Tokyo)
- 3) Director **ŌKI, Yasushi** 大木康 (The University of Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia)
- 4) Director **YANG, Zhigang** 杨志刚 (Fudan, Director, Humanities Institute)
- 5) Chair **Martin KERN** (Princeton, East Asian Studies Department)

12/16/13 9:45 – 10:45 AM – Plenary Session/全體會議 :

Introducer/主持人 : ŌKI, Yasushi 大木康 (Tokyo, Director, Institute for Advanced Studies on Asia)

- **HANEDA, Masashi** 羽田正 (Vice-President, The University of Tokyo): “East Asia and World/Global History” 「東アジアと世界史」
- **GE Zhaoguang** 葛兆光 (Fudan University, Founding Director, Humanities Institute 复旦大学文史研究院 创始主任院长 教授) : “The International Turn in Intellectual History and East Asian or Chinese Intellectual History—A Response to Prof. David Armitage” “思想史国际转向”与东亚或中国思想史研究——对 David Armitage 教授《思想史的国际转向》一文的回应
- **Benjamin ELMAN** (Princeton, EAS/History): “Misrepresentations of Chinese Regional History in Light of Global History”

12/16/13 11:00 AM – 12:30 PM -- Session 1/第一场 : Internationalization’s Scope

Introducer/主持人 : Thomas Conlan (Princeton, EAS/History)

- **SATŌ, Jin** 佐藤仁 (Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia): “120 Years of Internationalization at the University of Tokyo” : 「東京（帝国）大学における国際化の120年」
- **GU, Yunshen** 顾云深 (Fudan, History 复旦大学历史系 教授): “The Study of Global History in China” 全球史研究在中国
- **David LEHENY (Princeton, EAS)**: “Japan as the Other Vietnam: Transnational History and National Mirrors”
- Discussion followed by lunch 12:30-2:00 PM

12/16/13 2:00 – 3:30 PM -- Session 2/第二场 : Globalized Literature and the Arts

Introducer/主持人 : Federico Marcon (Princeton, History/EAS)

- **ŌKI, Yasushi** 大木康 (Tokyo, Director, Institute for Advanced Studies on Asia): “Literature in the World of the 16th and 17th Centuries”: 16, 17世紀の世界の文学
- **Atsuko UEDA** (Princeton, EAS): “Sound, Scripts, and Styles: *Kanbun Kundokutai* and The National Language Reforms of 1880s Japan”

- **IDO, Misato** 井戸美里 (Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia):
“Painting as Writing: Discovering National History in Meiji Period Japan”:
「歴史画」の誕生—明治期における「日本史」の発見と叙述」
- Discussion followed by a reception (5:30-6:30 PM) and dinner (6:30 PM)

Tuesday 12/17/13 – PALMER HOUSE

12/17/13 9:30 – 11:00 PM -- Session 3/第三场 : Comparative History in East Asia

Introducer/主持人: DONG Shaoxin (Fudan, Humanities Institute)

- **SUN, Yinggang** 孙英刚 (Fudan, Humanities 复旦大学文史研究院 研究员):
“Empress Wu’s Seven Treasures: The reception of the Cakravartin Ideal in Chinese Buddhist Political Ideologies” 转轮王与天子：佛教对中古君主概念的影响
- **Thomas CONLAN** (Princeton, EAS/History): “The Age of Yamaguchi (1465-1551): Toward a New Understanding of Japanese History” 山口時代 (1465-1551) -- 日本歴史の新しい枠組みへ
- **WANG, Xinlei** 王鑫磊 (Fudan, Humanities 复旦大学文史研究院 助理研究员):
“The Korean Responses to Xue Xuan’s Enshrinement in Ming Confucian Temples” 足征难循：朝鲜王朝对明朝薛瑄从祀的反应
- Discussion followed by **coffee break**

12/17/13 11:15 – 12:30 PM -- Session 4/第四场 : Western Approaches to East Asia

Introducer/主持人 : **Satō, Jin** 佐藤仁 (Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia):

- **Tineke M.V. D'HAESELEER** (Princeton, Society of Fellows) “Global History and Tang China”
- **NAKAJIMA, Takahiro** 中島隆博 (Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia) : “Conditional Universality and World History in Modern Philosophy in East Asia” 「東アジア近代哲学における条件付けられた普遍性と世界史」
- **Amy BOROVOY** (Princeton, EAS/Anthropology) “Japanese ‘Village Studies’: Occupation-Era Anthropology and the Problem of Modernity”
- Discussion followed by lunch 12:30-2:00 PM

12/17/13 2:00 – 3:30 PM -- Session 5/第五场 : The Scope of Cultural History

Introducer/主持人：David Leheny (Princeton, EAS)

- **Frederico MARCON** (Princeton, EAS/History): “Is a World History of Ideas Possible?”
- **DONG, Shaoxin** 董少新 (Fudan, Humanities 复旦大学文史研究院 研究员): “Some Thoughts about Global History” 对全球史的几点思考
- **YANG, Zhigang** 杨志刚 (Fudan, Humanities 复旦大学文史研究院 院长 教授): “The Fate of Confucian Temples over the last 100 years and their New Spatial Uses” 百年来中国孔庙的命运与空间再利用
- Discussion followed by **coffee break**

12/17/13 3:45 – 4:30 PM, Conference Final Remarks 简短闭幕式, 会议结束

Moderator/主持人: Benjamin Elman

Final Comments:

- Director **Ōki Yasushi** (Tokyo, Institute for Advanced Studies on Asia)
- Director, **Yang Zhigang** (Fudan, Humanities Institute)

=====

Wednesday, 12/18/13 – Day Visit to Philadelphia

=====

GRADUATE STUDENT WORKSHOP: Thursday, 12/19/13 -- PALMER HOUSE

Symposium on World History and *Worlds Together, Worlds Apart* (3rd edition, Norton, 2011), organized by Haneda Masashi (Tokyo) and Jerry Adelman (Princeton).

Part 1: 9:30 AM – 11:00 AM, The Historiography of World History

Introducer/主持人：Professor Haneda Masashi

- **Uchida, Chikara** (The University of Tokyo) “The Historiography of World History in 20th Century Japan”
- **Discussant: Elijah Greenstein** (Princeton University, EAS)

Part 2: 11:15 AM – 12:30 PM, Concepts and Categories in World History

Introducer/ 主持人：Director Jeremy Adelman (Princeton, History/Council for International Teaching and Research)

- **Ozawa, Ichiro** (The University of Tokyo) “Europe and the Islamic World as Concepts for Historical Description”
- **Terada, Yuki** (The University of Tokyo) “Historical Agency Reconsidered: Towards the Recognition of Our History”
- Discussant: **Kjell Erickson** (Princeton University, EAS, ABD)

Part 3: 2:00 PM – 3:30 PM, Between Regional and World History

Introducer/主持人： Benjamin Elman (Princeton, EAS/History)

- **Saji, Natsuko** (The University of Tokyo) “How to Describe World History from a Regional Perspective?”
- **Katakura, Shizuo** (The University of Tokyo) “How to Describe Regional History from a World History Perspective?”
- Discussant: **Daniel Barish** (Princeton University, History ABD)

第4回「宗教、文学と画像」

【日時】：2014年12月15日・16日

【会場】：東京大学・山上会館

【プログラム】（日本語、英語、中国語（同時通訳あり））

12月15日 9:00~17:40

開会辞

第一部 司会：葛兆光

Thomas Hare：Text and Image in Chan and Zen Portraiture

鄧菲：形式と含意の多元化——両宋考古資料中の十二支像の分析

コメンテーター：Brian Steininger

第二部 司会：Benjamin Elman

Brian Steininger: “Vernacular” Poetry in Heian Japan

梶屋友子：大モンゴル「シャーナーメ」写本の挿絵を読む

コメンテーター：鄧菲

第三部 司会：羽田正

李星明：墓中の仏塔——六朝時代における死後の世界観の転換

張佳：礼制と葬俗の相互作用——明代壁画墓衰退の原因

板倉聖哲：「文姫帰漢図」の変容——画とテキストの関連から

コメンテーター：平勢隆郎

12月16日 9:10~11:20

第四部 司会：楊志剛

Martin Kern: Made by the Empire: Wang Xizhi's Xingrangtie

大木康：画像資料から考える中国明清の歌唱文化

コメンテーター：李星明

閉会辞

(3)台湾中央研究院社会学研究所との学術交流

2010年2月22日、大木康副所長（当時）が訪台し、本研究所と台湾・中央研究院社会学研究所及び中央研究院人文社会科学研究中心・アジア太平洋地域研究中心の三者間での調印式に臨んだ。5年に及ぶ部局間協定の開始である。同日、ポスドクや博士後期課程の学生を中心に、日本と台湾の若手研究者22名がワークショップに参加し、それぞれの報告をめぐって活発な議論が行われた。

その後、JSPSアジアアフリカ学術基盤形成事業に園田茂人教授が提案した「アジア比較社会研究のフロンティア」が採択されたことにより、このスキームを利用した交流が活発に行われるようになる。

2010年12月17日、18日は、韓国・高麗大学で「アジア比較社会研究のフロンティア」の事業の一環として、アジアにおける社会学を巡るシニア研究者のワークショップと若手研究者によるアジアバロメーターの成果をめぐる報告会が実施された。また、2011年2月21日から22日にかけて、今度は、中央研究院社会学研究所の研究者を招聘して、本研究所で合同ワークショップが実施された。社会学研究所からは、蕭新煌所長と王甫昌副所長が研究員を代表し、9名のポスドク／博士課程学生を引率された。本学からは8名が論文を提出し、合計17名がそれぞれの研究成果報告を行った。

2011年の12月16日、17日の両日には、再び中央研究院社会学研究所を舞台に、「アジア社会の異質化と同質化：理論的・実証的視点」と「アジアバロメーターワークショップ2011」が実施された。また2013年3月1日、2日の2日間、本研究所で第4回合同ワークショップが行われ、「アジア社会の変化を捉える」というテーマのもと、研究報告会が開かれた。中央研究院社会学研究所から4名の研究者が参加した以外に、高麗大学から2名、中国社会科学院社会学研究所から2名、復旦大学社会学系から1名が、それぞれ参加した。

その後、園田茂人教授が、本研究所附属東洋学研究情報センターの公募プロジェクトのスキームを利用し、2013年4月から、慶應義塾大学の加茂具樹教授らと連携しながら、中央研究院社会学研究所との2年に及ぶ共同研究を着手することになった。「政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐり国際共同研究」と題された共同研究では、中央研究院社会学研究所からは、蕭新煌所長、吳介民副研究員、陳志柔副研究員の3名が参加され、2年で4度の研

研究会・報告会を実施。特に 2014 年 12 月 22 日に中央研究院社会学研究所で実施された国際会議”International Conference on Political Risks and Foreign Business in China: Japan, Taiwan and South Korea in Comparison”には 30 名を超す参加者が集まり、共同研究の成果報告に耳を傾けた。

もともと本研究所との部局間協定には、人文社会科学研究センターとアジア太平洋地域研究センターの 2 つの機関も参加していたが、実際には社会学研究所のみが積極的に関与したため、2015 年 3 月に更新された協定では、同所のみがパートナーとなった。

(4) 北京大学歴史学系との学術交流

2010 年に本研究所から羽田正教授が北京大学を訪問して第一回講演が行なわれ、北京大学歴史系からは牛大勇教授、包茂紅副教授が本研究所を訪れ、講演会が開催されて以来、北京大学歴史系との間で、研究者の交流や書籍の交換、ホームページ上の交流など、様々な学術交流を推進してきている。

(5) 国際総合日本学ネットワーク(GJS: Global Japan Studies)

国際総合日本学ネットワーク (Global Japan Studies) は、世界各地より日本研究を行う研究者が多く集まる本学の環境のなかで、日本研究を国際的な視点から研究し、教育に還元することのできるネットワーク作りを目指して構築された。本学における日本関連の研究者ネットワークの形成、研究情報の発信、横断型教育プログラムの開発などの方法などさまざまな活動を行っているが、特に、本研究所には日本を含めたアジア研究を行う訪問研究員が常に多く在籍しているため、研究者ネットワークの形成と研究情報の発信については、本研究所を中心に 2014 年 3 月のキックオフ会合以来、今年度はさまざまな講演会やセミナーを開催してきた。現在、横断型教育プログラムの開発については法学部を責任部局とし、国際本部がこれを全面的にサポートする形で準備が進められている。本学には、部局横断型組織として、すでに日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) が活動しており、国際総合日本学ネットワークも ASNET と同様、関係者の連携と協力によって、積極的に活動を展開していくことを目指している。

●GJS 講演会

2014.06.05 第 1 回「日本史から“普遍”を考える—“忘れ得ぬ他者”概念によるナショナリズム理解の試み」

講演者：三谷博教授 (本学総合文化研究科)

2014.10.17 第 2 回「日本におけるロシア文学受容—そのいくつかの特徴について」

講演者：沼野充義教授 (本学文学部・大学院人文社会系研究科)

2015.01.14 第 3 回「English East India Company in Japan and its place within Nanban Studies / 南蛮文化研究におけるイギリス東インド会社の役割の再検討」

- 講演者：Prof. Timon Screech (Professor, SOAS, University of London)
- 2015.01.23 第4回 "Changing Attitudes Toward Japanese Modernity"
講演者：Peter Nosco (Professor, University of British Columbia, Visiting Professor at International Christian University)
- 2015.01.23 第5回 "Pleasure and Pain of an Indigenous Psychologist: A personal history of struggle in international academia"
講演者：山口勸教授 (本学文学部・大学院人文社会系研究科)
- 2015.03.09 第6回 「ネットワークとしてのアジア グローバリゼーションと地域研究」
講演者：プラセンジット・ドゥアラ教授 (シンガポール国立大学アジア研究所・所長)

●GJS セミナー

- 2014.07.10 第1回 「19世紀日本における南画とジェンダー」
- 2014.07.24 第2回 「盗賊たちの栄誉—『自来也説話』におけるテキストの革命」
- 2014.10.23 第3回 「矢代幸雄と美術史における場の問題」
- 2014.12.11 第4回 「禁じられた啓蒙：間・東アジア比較の視点から再読する李光洙『無情』」
- 2014.12.18 第5回 (第107回東文研・ASNET 共催セミナー) 「日本の前で中国を演じる近世琉球—大英図書館蔵『琉球奏楽図』を巡って／Ryūkyū Play-ing China against Japan: Paintings of Theatrical Diplomacy in the British Library」
- 2015.01.08 第6回 (第109回東文研・ASNET 共催セミナー) "Knowledge is a Polyglot: Japan and China in the Global Competition for Terminologies"
- 2015.01.15 第7回 (第110回東文研・ASNET 共催セミナー) "Diary of a Poor Bannerman: Surviving Day-to-Day in Qing Beijing in the Early Nineteenth Century"
- 2015.01.22 第8回 (第111回東文研・ASNET 共催セミナー) 「末法における親鸞の希望／Shinran's Hope in the Age of Mappō」

(6)フランス社会科学高等研究院(EHESS) CNRS(フランス国立科学研究センター)

EHESS は、1975年に新しく整備された世界的に有名な人文社会科学研究の拠点である。雑誌 *Annales* の出版に関わり、特に、歴史学の分野ではアナル学派と呼ばれる一群の著名な歴史家を輩出してきたことでも知られている。

本研究所は、2013年度に EHESS と新たに学術交流協定を結び、年に1～2名程度の研究者を相互に派遣し合うことを決めた。2014年度には、本研究所から安富歩教授が EHESS を訪問し、EHESS からは Xavier Paules 准教授が本研究所を訪れ、研究報告を行うなどして研究交流を進めた。

(7)成均館大学校東アジア学術院・京都大学人文科学研究所・東京大学東洋文化研究所共催学術シンポジウム

本研究所は、2010年度から成均館大学校東アジア学術院及び京都大学人文科学研究所と共催で学術シンポジウムを開催している。2012年1月に京都大学人文科学研究所で開催された後、2012年度～2014年度の内容は以下の通りである。

【2012年度】第3回学術シンポジウム「東アジアの『記憶』」

日時：2013年1月25日

場所：東京大学東洋文化研究所

プログラム：

10:00～10:20 開会式

大木康（東京大学）

宮寫博史（成均館大学校）

10:20～12:00 セッション1 司会：板倉聖哲（東京大学）

発表者：宣承慧（成均館大学校）「記憶の再構築：李王家美術館における日本の美意識」

コメンテーター：稲本泰生（京都大学）

発表者：高木博志（京都大学）「近代天皇制と古都京都——起源とイメージ」

コメンテーター：鄭鍾賢（成均館大学校）

13:30～15:10 セッション2 司会：宮寫博史（成均館大学校）

発表者：小野寺史郎（京都大学）「近代中国における国恥記念」

コメンテーター：池本幸生（東京大学）

発表者：真鍋祐子（東京大学）「韓国現代史と記念日の創造」

コメンテーター：山崎岳（京都大学）

15:30～17:10 セッション3 司会：金文京（京都大学）

発表者：李賢鮮（東京大学）「記憶の再生産—シンボルとしての在日朝鮮人一世の記憶」

コメンテーター：宮寫博史（成均館大学校）

発表者：高英姫（成均館大学校）「20世紀中国映画のなかの文革」

コメンテーター：名和克郎（東京大学）

17:10～17:30 閉会式

岩井茂樹（京都大学）

【2013年度】第4回学術シンポジウム「東アジアから世界史を見る/考える」

日時：2014年1月24日

場所：京都大学人文科学研究所

プログラム：

10:00 開会挨拶 司会：金文京

大木康（東京大学）

シン・スンウン（成均館大学校）

第1部「前近代の東アジアから見た世界」

10：10 山崎岳（京都大学）「海賊と東アジア」

討論 コ・ウンミ（成均館大学校）

10：50 黒田明伸（東京大学）「小農、市場、そして貨幣：東アジア史からの分業論再構築」

討論 村上衛（京都大学）

11：40 金慶浩（成均館大学校）「二千年前 楽浪古墳から発掘された簡牘資料 平壤貞柏洞

36号古墳から出土した「戸口簿」と『論語』を中心に」

討論 小寺敦（東京大学）

第2部「近代東アジアと世界」

司会：水野直樹

13：30 羽田正（東京大学）「東アジアと世界史」

討論 岩井茂樹（京都大学）

14：10 籠谷直人（京都大学）「19世紀の東アジア経済—東アジアにおける自由貿易原則の浸透」

討論 宮寫博史（成均館大学校）

15：00 チョン・ウテク（成均館大学校）「境界と共存の詩人、尹東柱」

討論 大木康（東京大学）

16：00 全体討論

17：00 挨拶

山室信一（京都大学）

宮寫博史（成均館大学校）

【2014年度】第5回シンポジウム「東アジアを思惟する—共通・差異、関係—」

日時：2015年1月23日

場所：成均館大学校 600周年記念館

プログラム：

10:00 開会の挨拶：辛承云（成均館大学校）

第1部発表司会：高銀美(成均館大学校)

10:10 李昤昊(成均館大学校)：儒教の東伝と変容—その東アジア的意味

10:40 矢木毅(京都大学)：朝鮮後期在地社会における流品の構造

11:20 小野容照(京都大学)：東洋青年同志会について—李達思想と運動

11:50 任佑卿(成均館大学校)：アジア脱/冷戦と修交の文化政治学

13:30 卯田宗平(東京大学)：生き方に「東アジア的」はあるのか？—東アジア概念を生態人類学の立場から考える

14:00 後藤絵美(東京大学)：アジアの切り分け方—西アジア研究の蓄積から考える

第2部個別討論・総合討論

14:40 司会：宮嶋博史(成均館大学校)

討論：矢木毅(京都大学)、孫炳圭(成均館大学校)、韓基亨(成均館大学校)、高見澤磨(東京大学)、鄭勝振(成均館大学校)、裴克燮(成均館大学校)

17:00 閉会

(8)東大フォーラム 2013 への参加

東大フォーラムは、本学が優れた学術研究を広く海外に発信するとともに、海外の主要大学等との研究交流・学生交流を進展させることを目的として、世界各地で継続的に開催されてきた。東大フォーラムは、日本と世界の研究者、学生が国の枠組みを越えて密接に対話・研究討議等を行う絶好の機会となっており、異なった立場や学問分野に立つ研究者たちが、多角的、学際的にアプローチしていくことが特色となっている。2013年には、カトリカ大学(チリ)、チリ大学、サンパウロ大学(ブラジル)等の協力のもと、チリ及びブラジルで開催され、本研究所も参加した。その内容は以下のとおりである。

テーマ：アジア研究の最前線

チリ

日時：2013年11月7日・8日

場所：カトリカ大学 Alejandro Silva Classroom, Faculty of Law, Campus Casa Central
プログラム

11月7日

14:00-14:30 The Chinese SOEs Now - Marcos Jamarillo

14:30-15:00 The Chilean Economy - José Díaz

15:30-16:00 Chilean Trade with Asia - Johannes Rehner

16:00-16:30 Coffee break

16:30-17:00 Chilean Strategies about Cultural Adjustment to Commercial Negotiations in China - Claudia Labarca

17:00-17:30 Current Political Trends in South America - Roberto Durán

17:30-17:45 Final remarks of the day

11月8日

9:00-9:30 How to Describe China as a Legal Society - Osamu Takamizawa

9:30-10:00 On the Status Quo of Sociocultural Anthropology in Japanese - Katsuo Nawa

10:00-10:30 Democracy in Happiness - Tadashi Hirai

- 10:30-11:00 Coffee break
 11:00-11:30 Economic Development and Conflicts in East Asia - Yukio Ikemoto
 11:30-12:00 Final remarks of the activities

ブラジル

日時：2013年11月11日・12日

場所：サンパウロ大学 Auditorium ET-3, Naval Engineering Building, Escola Politécnica
 プログラム

11月11日

- 14:30-16:00 Inequality in Japanese society - Yukio Ikemoto
 Violence: Inequality and Poverty - Sergio Franca Adorno de Abreu
 Development Sociology: inequality and Poverty (Public Politics) - Glaucio
 Arbix
 Poverty and Inequality in Brazil: some specificities of rural areas - Ely
 José Mattos

16:00 Coffee Break

- 16:00-17:00 Commentator: Prof. John Cowart Dawsey
 Sociocultural Anthropology Written in Japanese Language: An
 Overview - Katsuo Nawa
 Anthropological Research in Brazil by Japanese Researchers - Hideo
 Kimura
 Anthropology with Emphasis to American Indians - Dominique Tilkin
 Gallois / Beatriz Perrone-Moisés
 Racial Problem in Brazil - Lilia Katri Moritz Schwarcz

- 17:00-18:00 Current Status of Biodiversity Issues in Japan - Relation with
 Subsistence Culture - Shuhei Uda
 Comments on Prof. Uda's Presentation - Jose Guilherme Cantor
 Magnani

11月12日

- 13:30-14:30 Democracy and Happiness - Tadashi Hirai
 Comments on Dr. Hirai's Paper - Flavio Comin
 Social Inclusion in Brazil - Eunice Aparecida de Jesus Prudente
 14:30-15:30 Periodization of Modern Japanese History of Law: An Attempt of
 Comparative Modern Law History in East Asia - Osamu Takamizawa
 Brazilian Codification Work in the 19th Century and Negotiation
 towards Celebration of Diplomatic Relation with Japan - Masato

Ninomiya

登壇者

- 池本幸生 東洋文化研究所 教授
高見澤磨 東洋文化研究所 教授
名和克郎 東洋文化研究所 准教授
卯田宗平 ASNET(東洋文化研究所) 講師
平位匡 東洋文化研究所 特任研究員
Marcos Jaramillo (カトリカ大学、チリ)
José Díaz (カトリカ大学、チリ)
Johannes Rehner (カトリカ大学、チリ)
Claudia Labarca (カトリカ大学、チリ)
Roberto Durán (カトリカ大学、チリ)
Sergio Franca Adorno de Abreu Dean & Professor - FFLCH, USP
John Cowart Dawsey Professor (FFLCH), USP
Dominique Tilkin Gallois Professor (FFLCH), USP
Jose Guilherme Cantor Magnani Coordinator - Urban Anthropology Center, USP
Masato Ninomiya Professor (Law School), USP
Beatriz Perrone-Moisés Professor (FFLCH), USP
Eunice Aparecida de Jesus Prudente Professor (Law School), USP
Lilia Katri Moritz Schwarcz Professor (FFLCH), USP
Glaucio Antonio Truzzi Arbix FINEP
Ely Jose Mattos Pontifícia Universidade Católica do Rio Grande do Sul - Porto Alegre
Flavio Comim Federal University of Rio Grande do Sul, Porto Alegre

(9)外国人研究員等の受け入れ

1) 外国人特別研究員

氏名	研究課題	受入期間
Andrew Robert Cook	アジアとグローバリゼーションについての2つのテーマ：(a) 東南アジア大陸部におけるレジームの持続性と農業変革。(b) 1970年代以降の国際システムにおけるグローバル商品をめぐる総合商社の展開	2012/4/1 ～2014/3/31
Birgit Magdalena Tremml-Werner	東・東南アジア港町における異文化交流と「外交」活動	2013/4/5 ～2015/12/4
Kevin Joseph O'Brien	変化する中国の政治と社会	2013/6/19 ～2013/7/2
Phillip Emmanuel Bloom	水・陸・雲—中世東アジアにおける文化的コンティンジェンシーと儀礼の美術	2013/8/2 ～2014/7/25
Lee, Ju-Ling	The Japanese Body between Borders (1870s-1945)	2014/10/1 ～2016/9/30

2) 訪問研究員

氏名	研究課題	受入期間
Ursula Weiss	魂の脱植民地化の観点から見たユング分析心理学	2011/4/6 ～2012/4/5
Guo Zhenyuan	(1)米国のアジア太平洋戦略の調整と日中関係 (2)日中関係における台湾問題の動向	2012/3/13 ～2012/4/9
Karl Gustafsson	日本の戦争記憶の変化—近年創立された平和記念館	2012/4/2 ～2012/4/15
Yuan Chen	アジアの仮面パフォーマンスにおける権力関係研究	2012/2/6 ～2012/5/4
Beaud ep. Kobayashi Sylvie	中国儼戯の人類学的研究 (關索戲—中国の仮面劇「漢族」という民族性の演出)	2010/6/1 ～2012/5/31
Daniel Alan Barish	清末民初日中交流 (文化、教育、留学、旅行)	2012/6/18 ～2012/7/9

Ozan Arslan	オスマン朝と明治日本の近代化比較	2012/6/15 ～2012/7/14
Su, Shuo-Bin	東アジアの都市文化--都市観光とそのまなざし研究（戦前に日本人が台湾都市への海外旅行、旅行雑誌になかの写真と絵画、再現したものとして台湾イメージについて）	2012/7/1 ～2012/7/30
Aaron M. Rio	日本中世絵画史に於ける中国古代の詩人達 →日本中世絵画史における中国古代史人のイメージ	2010/8/1 ～2012/7/31
Yen Kao Shu	清朝知識人の政治参与と仏教思想	2012/2/1 ～2012/7/31
Thida Tin	Myanmar -Japan Economic co-operation: Investment Sector (since 1988)	2012/6/18 ～2012/8/15
Wu, Zhen	大陸渡来の芸能と中世祭祀	2012/7/18 ～2012/8/17
Wang Yuanchong	主権と宗藩のあいだで：朝鮮問題に関する日清交渉、1873-1895	2011/8/22 ～2012/8/21
Michael Dylan Foster	アジアにおける「来訪神」および「異人」に関する民俗学的研究	2011/12/22 ～2012/8/21
Shirane Seiji	植民地台湾と日本の南方帝国主義, 1895年-1945年	2011/9/26 ～2012/8/31
Cai dunda	関野貞の中国内における調査活動	2011/12/15 ～2012/8/31
Jennifer Thea Gordon	Theoty of religious and political leadership among the Shi'ite thologians after the Ocltation	2012/5/16 ～2012/8/31
Lee, Ju-Ling	Constructing of the colonial identity Taiwan through postcards (1895-1945)	2012/6/1 ～2012/8/31
Zheng, Xinxian	清朝時代の日中関係史	2012/8/11 ～2012/8/31
Yan Yang	山水屏風とやまと絵の研究史	2012/6/1 ～2012/9/1
Song Shengquan	周作人の女性観と日本留学経験の与えた影響、周作人の日中古典文学の翻訳に関する研究	2011/8/1 ～2012/9/14
Megan Elizabeth Hill	浅草における音風景	2011/9/16 ～2012/9/15

Chattopadhyaya, Brajadulal	初期中世インドにおける変化の性質	2012/9/23 ~2012/9/30
Li, Xingming	中国美術史、美術考古	2012/10/2 ~2012/11/10
Sun, Yinggang	中古宗教社会史、隋唐史および国際中国学	2012/10/2 ~2012/11/10
Mahmoud Al- Qaysi	Liberal Democratic Party and the Rebuild of Japan 1955-1976	2012/11/2 ~2012/12/30
Victoria Lee	Synthetic Fermentation and Applied Biology in Japan and East Asia at the First of the Twentieth Century	2011/6/15 ~2012/12/31
Daniel Trambaiolo	Violent Remedies: Vomits, Sweats and Purges in Tokugawa Medicine	2012/11/28 ~2013/1/18
Park, Joon-Shik	中国進出企業の日韓比較	2013/1/7 ~2013/2/6
Marc Flandreau	19 世紀における為替銀行の研究・横濱正金銀行の経営 史を中心として	2013/1/20 ~2013/2/6
Wu, Zhen	大陸渡来の芸能と中世祭祀	2013/1/17 ~2013/2/6
Ulrich Brandenburg	The idea of Japan's conversion to Islam from a global perspective, 1890-1914	2012/11/16 ~2013/2/13
Thomas Wilkins	日本の安全保障の新たな位置付け	2012/5/22 ~2013/2/24
Melissa McCormick	室町時代の白描絵巻と女房文化の関係	2013/1/11 ~2013/6/17
Yukio Mizuta Lippit	室町時代の水墨画と画賛の研究	2013/1/11 ~2013/6/17
Kevin Joseph O'Brien	変化する中国の政治と社会	2013/6/19 ~2013/7/2
Kim, Gyewon	Framing the Ancient: Photography and the "Art of Kyong-ju" in Japan and Korea	2013/7/3 ~2013/7/20
後藤 雅	19 世紀末の日本における「文学」概念の生成と展開	2013/5/20 ~2013/7/20
Nadin Heé	アジアの海洋資源に関する知識と地域的紛争及び協力 との関係	2013/7/4 ~2013/8/4

Daniel Hedinger	グローバルヒストリーの文脈で考える第二次世界大戦	2013/7/4 ～2013/8/4
Elijah Jordan Greenstein	The overseas Chinese in Japan's ports, 19th and 20th centuries	2013/7/23 ～2013/8/14
Wang, Hongzen	中国とベトナムの労働事情に関する比較研究	2013/8/9 ～2013/8/26
Vimalin Rujivacharakul	East of the Orient, West of the Ocean: Ito Chuta's Pictorial Diaries	2013/3/15 ～2013/8/31
Marshall Craig	Envisioning China, Korea, and Japan in the Imjin War, 1592-1598.	2012/4/1 ～2013/8/31
Wang, Kuo- Liang	銭曾とその蔵書の研究-『也是園書目』『読書敏求記』を中心として	2013/8/26 ～2013/9/8
Xu Qingyong	人民調解制度研究	2012/9/15 ～2013/9/14
Yang Yiyue	中日親族立法の変遷の比較研究-親属容隠を切り口として	2012/9/15 ～2013/9/14
Federico Marcon	1. 『自然』概念の比較思想史 2. 日本近世の貨幣史	2013/6/15 ～2013/9/15
Paul Kreitman	Fertile Archipelago - Political Ecology of a Japanese Paddy Field and its Periphery, 1830-1945	2012/8/13 ～2013/10/12
Makoto Harris Takao	イエズス会による改宗実践と感情表現: 近代日本の場合	2013/11/1 ～2013/11/29
I Lo-fen	東亜古代文学經典興藝文互動 東アジアにおける文学上の經典と芸術作品との相互関係	2013/11/18 ～2013/11/29
Liu, Zhen	佛教梵語寫本	2013/11/7 ～2013/12/17
Vimalin Rujivacharakul	East of the Orient, West of the Ocean: Ito Chuta's Pictorial Diaries	2013/12/16 ～2014/1/3
Liu, Chia-Hsin	中日漢文世説体作品の比較研究	2013/1/14 ～2014/1/13
Zhu, Lili	五山禅僧の描いた現代中国	2013/1/23 ～2014/1/23
Lee, Won-Deog	日本の対北朝鮮外交の決定要因に関する研究	2013/2/9 ～2014/2/8

Deng, Fei	宋代墓葬芸術における復古と倣古	2014/1/4 ～2014/2/10
Xu, Chun	Cultures of Disaster: Shifting Conceptions of Natural Hazards in Late Imperial China	2013/12/16 ～2014/2/28
Wang, Xiaofan	中日近代におけるベンサム功利主義政治思想の受容に関する比較研究	2013/3/22 ～2014/3/21
直野 温子	近代上座部仏教圏東南アジア大陸部における、地方部（非都市部）の健康、癒しと宗教の関連についての考察 “Rural Health, Healing and Religious influence in Modern Theravada Buddhist Southeast Asia”	2012/8/1 ～2014/3/31
Yang, Qin	現代中国における少数民族の紛争と司法---貴州省少数民族紛争の解決を事例に	2013/4/1 ～2014/3/31
Marten Soderblom Saarela	The Manchu Language and Linguistic Technologies in Qing China	2014/4/13 ～2014/5/10
Andrew Robert Cock	Two topics on Asia and globalization: (a) Regime endurance and agrarian change in mainland Southeast Asia; (b) The rise of global commodity traders in the post 1970s international system.	2011/7/1 ～2014/5/31
Wang, Yingjin	日中台三角関係に関する研究	2014/4/1 ～2014/6/30
Ekaterina Svirina	ロシア帝国東部における貨幣と取引	2014/6/1 ～2014/6/30
Benjamin Abraham Elman	中国清代の科学・学術の東アジア各国への影響	2014/4/1 ～2014/6/30
Rachel Saunders	東アジアにおける鎌倉時代絵巻 (Pilgrimage and Poetry in the Genjo Sanzo-e)	2011/10/4 ～2014/7/1
Safaa Nour	日本におけるフェミニズム思想の展開“比較研究”	2013/5/20 ～2014/7/19
Qinyuan Lei	Kyōto gakuha in the Context of Socio-Political Debates in Inter-war Japan	2014/6/1 ～2014/7/23
Phillip Emmanuel Bloom	Water, Land, and Clouds: Cultural Contingency and Liturgical Art in Medieval East Asia 水・陸・雲—中世東アジアにおける文化的コンティンジェンシーと儀礼の美術	2013/8/2 ～2014/7/25

若松 由理香	奥原晴湖(1837-1913)—近代日本における南画とジェンダー	2013/8/2 ~2014/7/25
Kim, Gyewon	Looking to the North: Reframing "Hokkaido Photography"	2014/7/14 ~2014/7/26
Lu, Shao-li	The History of Pesticide in Modern Taiwan	2014/7/15 ~2014/7/31
Elijah Jordan Greenstein	The 19th and 20th Century Japanese Merchant Marine in Maritime Asia and the World	2014/6/11 ~2014/8/8
Kara Miriam Abramson	新疆における宗教管理と「遵規守約承諾書」制度	2012/6/4 ~2014/8/10
Geng, Jing	現代都市における民間信仰に関する調査と研究 —上海と東京を事例に—	2013/10/21 ~2014/8/28
Kevin Patrick Mulholland	18、9 世紀 大阪の商業出版	2013/9/1 ~2014/8/31
David Leheny	現代日本の政治言説をめぐる動向	2014/6/1 ~2014/8/31
Wang Zhanyang	日中両国の相互理解と関係改善の方法	2014/7/31 ~2014/8/31
Han, Xiao	中日土地立法モデルの変遷の比較研究 — 中国の典権と日本の質権制度の視角から	2013/9/17 ~2014/9/16
Jewellord T. Nem Singh	Building Effective States in Southeast Asia: Resource Exploitation and the Environment	2014/8/24 ~2014/9/19
Wang, Ru Juan	南宋後期における中国禅文学の日本への伝播—禅林「五山」を中心にして	2013/9/26 ~2014/9/25
Zhao, Ying	English Merchants and the Establishment of the Network of East Asian Port Cities in the 19th Centuries	2013/9/28 ~2014/9/28
Amy Hwang	牟益『擣衣図』——詩・画の性質・物質・資質——	2013/9/30 ~2014/9/30
Georges Depeyrot	19 世紀末銀価下落のアジア・日本における問題	2013/10/16 ~2014/10/15
Michael Facius	20 世紀前半の日本における多様な「近世」—概念と記憶	2014/8/19 ~2014/11/14

Kang, Baocheng	中国演劇史と日本にある中国戯曲	2014/8/25 ~2014/11/24
Natalia Pashkeeva	YMCA 運動の概念・組織・行動様式のユーラシア各地への移転と受容	2014/9/5 ~2014/11/27
Dolf-Alexander Neuhaus	19 世紀末から 20 世紀前半における韓国人留学生と日本人プロテスタント	2014/9/17 ~2014/12/12
Andrea Giorgio Tosato	The monetary links between England and the Empire in the XVIII and XIX centuries	2014/9/15 ~2014/12/14
Lisa Hellman	18 世紀の広州における外国人の生活	2014/9/15 ~2014/12/15
Xavier Paules	How did opium smoking and Chinese gambling games cross boundaries (nineteenth-twentieth centuries)?	2014/11/20 ~2014/12/20
Xu, Peng	ジェンダーとジャンル：明末における「伝奇」の勃興 Gender and Genre: The Rise of <i>Chuanqi</i> Drama in Late Ming China	2015/1/4 ~2015/1/13
Zhang, Jiajia	The Cultural Interaction among the East Asian Countries during the 14-15th Century	2014/12/13 ~2015/1/21
Dunlap, Rika	The Aesthetics of Hope: Hope as an Imaginative Power in Japanese and Western Philosophy	2014/10/1 ~2015/1/27
Duan, Zhiqiang	Reading, Collection and dissemination of banned books in the 19th century China	2015/1/6 ~2015/2/16
Wu, Zhen	清代民国『西廂記』のテキスト研究	2015/1/26 ~2015/2/27
Jaekyom Shim	Song for the Masses: Popular Music and Cold War Subjectivity in Postwar Japan and South Korea from a Global Perspective	2014/8/1 ~2015/3/31
Oak Soe San	The Role of Foreign Aid in Development Cooperation: Analyzing Japan's Foreign Aid policy towards Myanmar	2014/9/26 ~2015/2/28
Yuan, Jing	日本主流社会の対中心理	2015/2/22 ~2015/4/19
Thorsten Pattberg	Japanese words in the English language –the what, why, and how many could still be adopted in the near future. The focus is on political and cultural	2014/6/1 ~2016/5/31

	terminologies. Japanese translations of Chinese (Confucian) key concepts of 圣人 shengren and 君子 junzi in Confucius' The Analects (论语)	
Konrad Kalicki	日本と台湾における外国人労働者政策に関する研究	2014/10/1 ~2015/9/30
Yan, Liyuan	中国近代条約の実践：国際法共同体への歩み	2014/10/22 ~2015/10/22
Sun, Dilu	東洋文化研究所蔵中国演劇・小説文献についての研究	2014/11/5 ~2015/11/4
中野 嘉子	戦後、トランスナショナルな人の動きで、日本のモノやイメージがどう広がり、形を変え、定着していったかをオーラル・ヒストリーと文書で追う。具体的には 1)日本航空の着物サービスが導入された経緯 2)日本食が香港で広がった経緯	2015/1/1 ~2015/12/31
Birgit Magdalena Tremml-Werner	東・東南アジア港町における異文化交流と「外交」活動	2013/4/5 ~2015/12/4
李 文明	「西洋化比較」：江戸幕府の官立洋学・洋務についての研究	2015/3/20 ~2016/3/19
張 厚泉	グローバル・ヒストリーの視点から見た日中近代史の比較研究	2014/4/1 ~2016/3/31
Lee, Ju-Ling	The Japanese Body between Borders (1870s-1945)	2014/10/1 ~2016/9/30
Steffensen, Kenn Nakata	戦時中京都学派の政治哲学	2015/1/1 ~2016/12/31

7. 図書室

本研究所は、アジア諸地域の政治・経済・歴史・文学・芸術・哲学・宗教などさまざまな分野にわたる図書資料を収集している。言語も、日本語や欧米諸国語はもちろん、中国語、朝鮮語、アラビア語、タイ語、ペルシア語、トルコ語、デーヴァナーガリー文字で書かれる諸語、インドネシア語など、多様であることを特徴とする。

(1)蔵書の沿革

創設当初は東京帝国大学附属図書館蔵書から若干の移管を受けて出発した。1943年、北京在住の大木幹一氏から中国法制史関連の漢籍を中心とする書籍の寄贈を受け（大木文庫）、蔵書は飛躍的に充実した。1967年には外務省より旧東方文化学院東京研究所蔵書（そのうち漢籍は、中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書を含む）の移管を受けた。その後も購入・寄贈により蔵書を充実させてきた。

(2)アジア研究図書館

アジア研究図書館は、本学新図書館計画の柱の一つで、学内に分散所蔵されているアジア関連資料を総合図書館と本研究所に集中することにより、利用者への利便性を高め、アジア研究の拠点となることを目的に計画されている。総合図書館では4階フロア（開架式）と地下自動化書庫（閉架式）に図書・雑誌類を収蔵し、本研究所には漢籍類を置く分室の設置が検討されている。2014年に附属図書館に設立された研究部門であるU-PARL（アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門）に本研究所からは教員1名が兼務教員として参加し、アジア研究図書館設置に向けての活動を行っている。

(3)貴重図書の保存・複製

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものである。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任がある。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵している（2015年3月現在）。

現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めている。こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文影像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文をインターネットから閲覧できるようになった。2007年度－2008年度には「雙紅堂文庫全文影像資料庫」も追加された（<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>）。

本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても次のとおり進められている。

2012年～2014年に刊行された影印・復刻本

1.

書名:影印宋刊元明遞修本儀禮經傳通解正續編 / (宋)朱熹著 ; 黄榦編

(重歸文献 : 影印經學要籍善本叢刊)

出版:北京 : 北京大學出版社, 2012.6

請求記号:経;礼:通礼:1.75-1~3

収録資料 : 儀禮經傳通解二十三卷集傳集註十四卷【貴重:9】

儀礼経傳通解残一卷 (宋本中庸章句)【貴重:83】

2.

書名:日本東京大學東洋文化研究所雙紅堂文庫藏稀見中國鈔本曲本彙刊 / 黄士忠, (日)大木康主編

(海外藏珍稀中國戲曲俗曲文獻彙刊 / 黄仕忠, (日)大木康主編 ; 第2種)

出版:桂林 : 廣西師範大學出版社, 2013.10

請求記号:集;詞曲:南北:514-1~32

3.

書名:東京大學東洋文化研究所藏程甲本紅樓夢(上)・(下) / [曹雪芹, 高鶚著]

出版:東京 : 汲古書院, 2013.12

請求記号:集;詞曲:稗官:1655-1~2

4.

書名:東京大學東洋文化研究所藏程乙本紅樓夢(上)・(下) / [曹雪芹, 高鶚著]. 嬌紅記 / [宋遠著]

出版:東京 : 汲古書院, 2014.10

請求記号:集;詞曲:稗官:1657-1~2

5.

書名:戦前・戦中期アジア研究資料 ; 7. 中国占領地の社会調査 ; II / 近現代資料刊行会企画編集

出版:東京 : 近現代資料刊行会, 2013.1-

1-9. 華北鉞山の調査

請求記号: E104:479:4,6,7,9

収録資料 : 井陘炭田開發方策竝調査資料【E104:140】ほか3点

19-27. 華中の商工業慣行調査

請求記号: E104:480:2,5,9

収録資料: 牙工制度【E104:97:a】ほか6点

37-45. 占領地の統治と支配

請求記号: E104:482:1,3,6~9

収録資料: 天津市治安維持會施政工作報告【CD6:0720】ほか15点

6.

書名: 戦前期モンゴル社会関係実態調査資料集成. 満洲国関連機関調査報告 1

出版: 東京: 近現代資料刊行会, 2013.10-

請求記号: G54:14:6,7,9,11

収録資料: 興安西省奈曼旗阿魯科爾沁旗実態調査統計篇【G90:8:1】ほか6点

(4) 図書の利用状況

2012年度～2014年度開室日数・閲覧者数

	2012年度	2013年度	2014年度
開室日(日)	229	229	229
学内閲覧者(名)	2,077	1,988	2,168
学外閲覧者(名)	1,170	1,363	1,606

◆蔵書数(2015年3月現在)

	図書(冊数)**	雑誌(タイトル数)
和・中・朝	497,696	6,781
洋*	186,866	3,098
合計	684,562	9,879

* アラビア語、ペルシア語、サンスクリット含む

**製本雑誌を含む

◆受入数

年度	図書（冊数）			雑誌（タイトル数）			新聞（タイトル数）		
	2012	2013	2014	2012	2013	2014	2012	2013	2014
和	629	649	484	479	441	429	1	1	1
中	3,008	4,958	1,459	457	413	402	3	3	3
朝	108	104	332	72	67	67	0	0	0
洋	2,315	1,352	1,828	302	268	263	1	1	1
合計	6,060	7,063	4,103	1,310	1,189	1,161	5	5	5

◆本学オンライン蔵書目録（OPAC）言語別所蔵レコード数（図書）（2015年3月現在）

*データは本文の言語から抽出

中国語	211,524	タイ語	2,610	マイティリー語	156
英語	75,303	オランダ語	2,263	スペイン語	153
日本語	63,851	インドネシア語	1,486	パーリ語	137
韓国・朝鮮語	13,546	トルコ語	1,465	ラテン語	106
アラビア語	6,716	ネパール語	954	ベトナム語	91
フランス語	5,572	オスマントルコ語	693	ベンガル語	71
ドイツ語	5,007	ヒンディー語	447	満州語	64
ペルシャ語	4,191	チベット語	446	タミル語	61
ロシア語	2,943	イタリア語	266	その他	1,472
サンスクリット語	2,620	モンゴル語	184		
				合計	404,398

◆本学オンライン蔵書目録（OPAC）言語別所蔵タイトル数（雑誌）（2015年3月現在）

*データは本文の言語から抽出

中国語	3,549	オスマントルコ語	155	ペルシャ語	41
日本語	2,700	ドイツ語	110	スペイン語	23
英語	1,719	ロシア語	100	ネパール語	15
韓国・朝鮮語	532	オランダ語	76	イタリア語	14
トルコ語	365	アラビア語	51	ベトナム語	13
フランス語	225	インドネシア語	48	その他	143
				合計	9,879

◆所蔵図書コレクションの追加

【現代台湾文庫】

現代台湾の政治・軍事・安全保障に関わる貴重資料（書籍及び檔案）を2013年から公開している。2015年現在、約1,600冊（1,427タイトル）をOPACに入力済みであり、今後も追加公開される予定である。1950-70年代台湾における中国国民党政権の独裁統治や、中国大陆に対する軍事作戦や心理・宣伝戦に関連する資料などが主であるが、他では見られない初公開の貴重資料がある。

【近藤文庫】

お茶の水女子大学名誉教授近藤光男氏より譲り受けた四部及び叢書にわたる漢籍約200点、1,200冊。2012年～2013年に受け入れた。清朝漢学関連書を中心とし、とりわけ清人の別集に富む。江藩『漢学師承記』は十五種の版本を擁し、汪中『述学』は汪喜孫の自筆題記を有するなど、貴重な本を多く含んでいる。

【坂本文庫】

坂本勉慶應義塾大学名誉教授旧蔵のペルシャ史、トルコ史に関する基本資料約600冊。ペルシャ語の図書を多く含む。

【鈴木敬文庫】

本学名誉教授鈴木敬氏の中国美術関連を中心とした漢籍類約900冊。氏は在任時、既に漢籍の一部を寄贈され、氏の逝去（2007年10月）後、遺族により加えて寄贈された。氏の蔵書は、本研究所の文庫の他、歴史関連の基本書が本学の駒場図書館及び東京文化財研究所に、叢書類が成城大学に、日本美術関連の書籍が台湾大学藝術史研究所にそれぞれ寄贈されている。

【永尾文庫】

財団法人民族学振興会旧蔵の主に中国の歴史、文学等に関する図書約2,000冊。漢籍も多く含む。

【日本ネパール協会旧蔵資料】

社団法人日本ネパール協会旧蔵の主に1950年代から1971年までにネパールで蒐集されたネパール語、英語の図書、資料約1,700冊。

8. アウトリーチ活動

(1)公開講座

第12回「アジアの文」

日時：2012年11月10日（土） 13:30-17:15

講師：小寺敦 「中国古代簡牘資料研究の現状」

古井龍介 「碑文の語る南アジアの「文」：重層性と多様性」

医学部教育研究棟鉄門記念講堂で開催され、総数103名の参加があり、活発な質疑応答がなされた。

第13回「アジアの流」

日時：2013年10月19日（土） 10:00-11:30、13:30-15:00

講師：（午前の部） Michael Schiltz 「1897年における日本の金本位制実施決定に関する歴史的一考察～「原罪」と海軍拡張をめぐる政策形成過程を中心として」

（午後の部） 井戸美里 「屏風絵にみる〈波〉の風景」

今回より本学ホームカミングデイと同日開催のため、卒業生を含め午前の部は63名、午後の部は73名の参加があった。公開講座の様子は [ustream](#) で同時配信され、リアルタイムで約40件の視聴数があり、10月22日16時までの合計視聴数は130件となった。

第14回「アジアの眼」

日時：2014年10月18日（土） 10:00-11:30、13:30-15:00

講師：（午前の部） 卯田宗平 「飛ばねえカワウは、ただのカワウだー 一鵜飼い漁から現代中国をみてみようー」

（午後の部） 青山和佳 「神さまはいますかー キリスト教から現代フィリピンをみてみようー」

本学ホームカミングデイと同時開催のため、当日参加の卒業生を含め午前の部は61名、午後の部は82名の参加があった。例年に比べ、高校生、本学大学院生から毎年参加の常連の方まで、幅広い年齢層の方々の受講があった。

(2)1階ロビー展示

1階ロビーにおいてパネル展示及び写真展を開催した。

パネル展示

池本幸生 「ベトナム・コーヒーの光と陰」

Michael Schiltz 「研究者の企画書：横濱正金銀行プロジェクトの概要」

卯田宗平 「フィールドワークによって人びとの「当たり前」を問い直し、人間の本質に迫る」

後藤絵美「ムスリム女性はヴェールをまとわなければならないの？」

井戸美里「<波>の表象」

東京大学東洋文化研究所概要

東京大学東洋文化研究所所蔵図書・造形資料紹介

(3) 高校生のためのオープンキャンパス

本学では夏に高校生のためのオープンキャンパスを開催しているが、その一環として本研究所でも高校生向けのイベントを行なっている。2012年8月7日と2013年8月8日には、池本幸生教授が中心となって「コーヒーを通して世界を見よう！」を開催し、2012年には200名、2013年には350名を越える高校生が本研究所を訪れた。それぞれの年にベトナムのコーヒーを用いて、ベトナム風のアイスコーヒーを試飲してもらった。同時に教員の研究を紹介する「パネル展示」が行われた。

2014年には8月6日に特別企画「ベトナム・コーヒーを飲もう！」と開催し、パネル展示、研究紹介ビデオの放映及び教員著書の展示も行い、320名を越える高校生が訪れた。翌7日はパネル展示、ビデオ放映、教員著作の展示のみを行い、230名の高校生が訪れた。この日の午前には奈良県の西大和学園高校（SGH、スーパーグローバル・ハイスクール指定校）の生徒21名が池本幸生教授からベトナムの貧困問題についての講義を受け、午後には茨城県立並木中等教育学校、茨城県立竹園高等学校、鹿児島玉龍高等学校から合計6名の高校生が本研究所を訪れ、池本幸生教授からアジアの格差と貧困についての講義を受けた。

(4) 東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～

本学では高校生向けに『東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～』を行っている。本研究所には2013年8月7日に群馬県立太田女子高等学校から7名の生徒と引率の先生1名が来られ、池本幸生教授が本研究所の研究活動全般について簡単に説明した後、「アジアの経済と文化」というテーマで模擬講義を行った。

2013年12月21日の午前には栃木高等学校と沼津東高等学校の生徒11名、午後には秋田高等学校と水戸第一高等学校の生徒14名（女子8名を含む）が本研究所を訪れた。池本幸生教授が本研究所の研究活動全般について紹介をした後、模擬授業を行った。

(5) コーヒーサロン

池本幸生教授が中心となって、サステナブル・コーヒーの普及を通して国際協力に貢献するために、コーヒー全般に関わるテーマを一般向けに分かりやすく講演会を行っている。

9. 東洋学研究情報センター

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる本研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設された。現在の東洋学研究情報センターは、旧東洋学文研センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、従来からの文献資料学分野、新設された造形資料学分野、さらには2009年度から増設されたアジア社会・情報分野の3分野から「アジア資料学」の確立を目指している。また、2010年度に共同利用・共同研究拠点の認定を受け、国内外の大学及びその他の研究機関研究者との共同研究を進め、蓄積されてきたアジア諸資料の共同利用を推進している。

アジア研究の比較資料、造形、社会・情報からなる3分野の資料の収集と管理、及びそれらの資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施している。

アジア研究情報 Gateway

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページである。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報のほか、「論集～アジア学の最前線」には各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指している。

アジア・バロメーター

<https://www.asiabarometer.org/ja/index>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクト。2003年から2008年にかけてアジア全域で行われた世論調査を整理・蓄積し、これを利用した研究成果を刊行・発表している。2009年度でようやく統一的なデータベースが完成し、各種プロジェクトを通じて成果の刊行が期待されている。

漢籍整理長期研修

全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施している。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目録法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されている。1980年の開始以来、87機関、268名が受講した。

(2012年度) 2012年6月4日～8日、9月3日～7日 8名受講

(2013年度) 2013年6月10日～14日、9月2日～6日 10名受講

(2014年度) 2014年6月9日～13日、9月8日～12日 9名受講

アジア・アフリカ学術基盤形成事業

「アジア比較社会研究フロンティア」

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/aasplatform/main.html>

東洋学研究情報センターが 2010 年度に共同利用・共同研究拠点化されたのを契機に、2009 年に新設されたアジア社会・情報分野を基盤にして、高麗大学校（韓国）や中国社会科学院（中国）、中央研究院（台湾）、シンガポール国立大学（シンガポール）を相手国拠点機関に、従来データベースの欠如ゆえに本格的に展開されることの少なかったアジアを対象にした比較社会学的研究を進めていく 3 年プロジェクト「アジア比較社会研究のフロンティア」をスタートさせた。同プロジェクトは、2010 年度日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に採択され、現在進みつつある東アジア域内での社会学研究者の交流を加速させ、アジア社会学の可能性をめぐってさまざまな検討を加えることを目的している。その具体的な研究成果やイベントなどは、逐次ホームページで紹介されている。

2014.02.27 本学大学院博士課程教育リーディングプログラム・多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)「移動・境界」ユニット主催・本研究所東洋学研究情報センター共催による国際ワークショップ

(1) 東洋学研究情報センターシンポジウム

2014.07.17 “The Rise of Younger Generation in Contemporary China: Challenges and Prospects”

2014.07.15 「東アジアにおける実景表現—比較の視点から」

2014.01.22 「東アジア絵画史の可能性—朝鮮王朝の絵画を起点として」

2015.02.26 “In Defense of Cultural Diversity of Asia: Analysis of Integrated Dataset of Asian Student Survey”

(2) 東洋学研究情報センターセミナー

2014.06.25 「映画から見る中東社会の変容研究会（『太陽の男たち』）」

2014.07.08 「映画から見る中東社会の変容研究会（『金曜日の午後に』）」

2014.11.12 「映画から見る中東社会の変容研究会（『酔っ払った馬の時間』）」

2014.12.08 「映画から見る中東社会の変容研究会（『明日になれば』）」

2015.02.11 「映画から見る中東社会の変容研究会（『ガーダーパレスチナの詩』）」

2015.02.17 「東京大学東洋文化研究所『現代台湾文庫』—その資料的価値と可能性」

(3) 共同利用・共同研究拠点 共同研究課題(公募)採択一覧

○アジアの工芸の<現在> 工芸の人類学の基礎研究 (平成 22-23 年度)

申請者 神戸大学大学院国際文化学研究所・教授 窪田幸子

- 国際的な米価高騰とインドシナ半島の稲作の変容に関する農業経済史(平成 22-23 年度)
申請者 東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授 宮田敏之
- 関野貞による東アジア文化財写真の整理と分析(平成 23-24 年度)
申請者 東京大学大学院工学系研究科・教授 藤井恵介
- 新しいアジア像構築の試み:アジア・バロメーターの再分析プロジェクト(平成 23-24 年度)
申請者 東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営センター・特任助教 岸保行
- 日本漢籍集散の文化史的研究ー「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試みー(平成 24-25 年度)
申請者 慶応義塾大学附属研究所斯道文庫・准教授 住吉 朋彦
- チベット美術の情報プラットフォームの構築と公開(平成 24-25 年度)
申請者 金沢大学・教授 森 雅秀
- 関野貞・竹島卓一による中国史跡調査写真に関する基礎的研究(平成 25 年度)
申請者 国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部・調査研究課長 田良島 哲
- 政治的リスクと人の移動:中国大国化をめぐる国際共同研究(平成 25-26 年度)
申請者 慶應義塾大学総合政策学部・准教授 加茂 具樹
- 中世寺院における宋代仏教文化受容の統合的研究ー泉涌寺流を中心とした宋代仏教の相対化への試み(平成 26-27 年度)
申請者 宗教法人御寺泉涌寺宝物館「心照殿」・学芸員 西谷 功
- 日本所在漢籍に見える東アジア典籍流伝の歴史的研究ー宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来調査を中心としてー(平成 26-27 年度)
申請者 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 高橋 智
- 広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成のための研究(平成 26-27 年度)
申請者 宇部工業高等専門学校・准教授 赤迫 照子
- 関野貞・竹島卓一による中国史跡調査写真に関する史料学的研究(平成 26 年度)
申請者 国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部・調査研究課長 田良島 哲

10. 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（ASNET）

「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク（Network for Education and Research on Asia）」（通称 ASNET）は、日本を含むアジアを対象とする研究者が部局の枠を超えて集まり、新しい教育や研究を推進するために設立された本学の機構である。

本研究所は、2001年にASNET（AsianStudiesNetwork）として設立された時から事務局を担い、2005年に国際連携本部 ASNET 推進室に改組された後も支援を行ってきた。そして2010年に本学の機構へと発展したのを機に事務担当部局となり、本研究所からは池本幸生教授と後藤絵美助教がそれぞれ副ネットワーク長と兼任教員として参加している。

ASNET の教育活動としては、2006年度から本学の大学院生向けにアジア教育を実施し、2009年度には全学の大学院横断型教育プログラム『日本・アジア学』を開始した。この教育プログラムは、アジアについて部局や分野を越えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院生が、所属する研究科の教育カリキュラムに加えて履修するものである。本研究所からの参加は次の通りである。

2012年度 池本幸生、卯田宗平、菅豊、長澤榮治、羽田正、松田康博、真鍋祐子（計7名）

2013年度 池本幸生、卯田宗平、菅豊、高橋昭雄、長澤榮治、羽田正、松田康博、真鍋祐子（計8名）

2014年度 李賢鮮、池本幸生、卯田宗平、菅豊、園田茂人、高橋昭雄、田中明彦、長澤榮治、羽田正、松田康博、真鍋祐子、Michael Schiltz（計12名）

研究活動としては、シンポジウムやセミナーを開催する他、2010年5月から本研究所とASNETとの共催で毎週木曜日の午後5時から本研究所でセミナーを開催している。この共催セミナーは、主に本学に所属し、アジア研究に携わる若手研究者等に研究発表の場を提供するとともに、若手研究者同士の交流を促進する目的で開始され、2015年2月までに113回開催している。

ASNETは、日本学術振興会の『アジア・アフリカ学術基盤形成事業』として「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」（2011年度-2013年度）を実施し、日本とタイ、ラオス、カンボジア、ベトナムの研究者と交流ネットワークを築き、「貧困」をテーマに共同研究やセミナーを実施した。

2012年度冬学期にはグレーター東大塾『新しいアジアの形を構想する』を実施した。本講座では、インド、インドネシア、ベトナム、ミャンマーを取り上げ、講師として本研究所からは羽田正、池本幸生、高橋昭雄、田中明彦の各教授が参加した。

東文研・ASNET 共催セミナー

第48回 "Monitoring Cross-Straits Information: Japanese Censorship of Chinese Language Publications in Colonial Taiwan" (2012/5/10 Seiji Shirane)

- 第 49 回 “The Chosŏn Model” and the Reconstruction of “the Heavenly Dynasty” of the Qing, 1637—1761 (2012/5/17 王元崇)
- 第 50 回 「イランにおける現代美術—美術館が映し出す継続性」 (2012/5/24 寺田悠紀)
- 第 51 回 「アラビア語著作から読み解く西アフリカのイスラーム」 (2012/5/31 荻谷康太)
- 第 52 回 "The sociological context at the origins of the Guan Suo Opera in nineteenth century Yunnan (China)" (2012/6/7 BEAUD Sylvie)
- 第 53 回 「36 答申にみる都市河川廃止論」 (2012/6/14 中村晋一郎)
- 第 54 回 「抗う市長—パレスチナ被占領地における抵抗運動の一局面」 (2012/6/21 鈴木啓之)
- 第 55 回 "The Cambodian System of Capitalism(カンボジアの資本主義システム)" (2012/6/28 Andrew Cock)
- 第 56 回 "The Literary Circles of the Early Republican Period and Literature Revolution : A Case Study of the Emergence of Chinese Women' s Fiction" (2012/7/5 宋声泉)
- 第 57 回 "Korean Unification and the Future of Regional Security Order" (2012/10/11 Thomas Wilkins)
- 第 58 回 "Chinese industrialization as viewed from the Japanese economic sector, 1910-1940" (2012/10/18 Joyman Lee)
- 第 59 回 (チャーニー特任教授着任セミナー) "Village warfare in the Burma Pacification Campaign" (2012/11/1 Michael Walter Charney)
- 第 60 回 「「インド洋世界」を超えて：19 世紀インド洋西海域史研究のために」 (2012/11/15 片倉鎮郎)
- 第 61 回 「フィンランドの親族介護者支援にみる福祉国家の論理と範疇」 (2012/11/22 高橋絵里香)
- 第 62 回 「中国のムスリムとユーラシアの近代：20 世紀前半における「回」概念を手がかりにして」 (2012/12/6 山崎典子)
- 第 63 回 「日米同盟の制度化—日本政府の同盟戦略と制度化の論理—」 (2013/1/17 吉田真吾)
- 第 64 回 「伝統を売る人々—地方都市小売業における商行為の伝統化—」 (2013/1/31 塚原伸治)
- 第 65 回 「東洋文化研究所・ASNET での 3 年間を振り返って」 (2013/2/21 安田佳代)
- 第 66 回 鵜飼い鑑賞のテクニク (入門編) (2013/4/25 卯田宗平)
- 第 67 回 日韓歴史摩擦の政治学 (2013/5/9 李元徳)
- 第 68 回 他力思想への視座～植木等のスーダラ節 (2013/5/16 山本伸裕)
- 第 69 回 リックライダーの夢は現在…(2013/5/23 藤岡洋)
- 第 70 回 中国の「冥婚」—生者と死者のかかわり (2013/6/6 許慶永)

- 第 71 回 小さな事件から大きな問題を考える—外交史の可能性／How to answer big questions with micro-historical studies: Another plea for a new diplomatic history (2013/6/13 ビルギット・トレムル)
- 第 72 回 誰が国をつくるのか？何のためにつくるのか？ (2013/6/20 佐藤尚平)
- 第 73 回 ある朝鮮人の日記からみた豊臣秀吉の半島侵／Chinese, Korean, and Japanese Identity in 16th Century:a Korean diarist's view of Hideyoshi's invasion (2013/6/27 マーシャル・クレイグ)
- 第 74 回 日本中世の風俗画における図像の引用と変容 (2013/7/4 井戸美里)
- 第 75 回 インドネシア政治の中の華人／Chinese in Indonesian Politics (2013/7/4 松村智雄)
- 第 76 回 「宗教国家」の内側で—ヴェールをめぐる裁判にみるエジプトの政教関係／Within a “Religious State” : Religion and Politics in Contemporary Egypt Understood through Veiling Cases (2013/9/12 後藤絵美)
- 第 77 回 アジアを知る—インドネシアのドキュメンタリー映画『オトコと鳩』から／Knowing Asia: Through Indonesian Documentary Film MANDOVE (2013/10/3 特別企画)
- 第 78 回 日中戦争期における三峡ダム構想—大谷光瑞とジョン・ルシアン・サヴェージの役割を中心に／Ōtani Kōzui, John Lucian Savage and the Wartime Origins of the Three Gorges Dam (2013/10/17 ポール・クライトマン)
- 第 79 回 アラブ古典音楽の聴き方入門—記号論で聴き解くアレポの伝統 (2013/10/24 飯野りさ)
- 第 80 回 語り出す絵画—14 世紀の日本の絵巻にみる玄奘三蔵の物語をめぐる／Talking Pictures: "The Life of Xuanzang" in a Medieval Japanese Narrative Handscroll (2013/10/31 レイチェル・サンダース)
- 第 81 回 江戸時代における『世説新語補』について (2013/11/7 劉家幸)
- 第 82 回 「フェミニズム」を語る—英米・日本・エジプトの視点を中心に／Talking about "Feminism" focusing on U.K, USA, Japan, and Egypt (2013/11/21 サファール・ヌール)
- 第 83 回 「かわいい」化するアジアの現代宗教／"Kawaii" in the Contemporary Asian Religions (2013/12/5 松山洋平)
- 第 84 回 遣明使の見た都市—寧波／遣明使眼中的明代城市—宁波／NingBo :A Chinese City Depicted by Envoys of Muromachi Japan (2013/12/12 朱莉麗)
- 第 85 回 裁くことと裁かないことの民族誌：インドネシアの地方裁判所から考える／To judge or not to judge: Ethnography of a District Court in Indonesia (2013/1/23 高野さやか)
- 第 86 回 “自存” と “統合” のあいだで—カンボジア資本主義の近現代史／The Tension

- between Self-sufficiency and Integration in Cambodia's Modern History
(2014/2/6 アンドリュー・コック)
- 第 87 回 食糧産業から見る中国経済 (2014/2/20 張馨元)
- 第 88 回 苗族の紛争及び解決—中国貴州苗族事例を主に (2014/2/27 楊琴)
- 第 89 回 ボルネオ焼畑民の生計戦略／Livelihood strategies of swiddeners in Borneo island (2014/5/8 寺内大左 Daisuke Terauchi)
- 第 90 回 東アジアのビエンナーレと陶磁器展／A critical reflection on Ceramics Biennales in East Asia (2014/5/15 ウェンディ・ガース Wendy A. GERS)
- 第 91 回 中国初期文人画を再考する／A New History of Early Chinese Literati Painting (2014/5/22 エイミー・ホアン Amy C. Hwang)
- 第 92 回 地域文化の読み取り方—Deep play としての闘牛／Play Deeply! : How to Learn Merciful Bullfight as Regional Culture (2014/5/29 菅豊 Yutaka Suga)
- 第 93 回 いかにして伝記を著すか：14 世紀コプト聖人伝の場合／The compilation of hagiographies in fourteenth-century Coptic society (2014/6/5 辻明日香 Asuka Tsuji)
- 第 94 回 宋代士大夫たちの禅悟—蘇東坡の悟道を中心に／The Zen Practices of the Scholar-officials in Song Dynasty: Focusing on So-Syoku (2014/6/12 王汝娟 Wang Rujuan)
- 第 95 回 新疆学の位置づけ / Situating Xinjiang Studies (2014/6/19 キャラ・エイブラムソン Kara Abramson)
- 第 96 回 清朝の「京報」と外国人読者—1870 年代の世界的大飢饉を中心として／The Peking Gazette and Its Foreign Readers: Focusing on the Great Famine in 1870s (2014/7/3 趙瑩 Zhao Ying)
- 第 97 回 日中「近代化」の意味と変遷—グローバルヒストリーの視点で / The meaning of "modernization" and its changes in Japan and China: On the perspective of global history (2014/7/17 張厚泉 Zhang Houquan)
- 第 98 回 劣化からみるデジタルコンテンツ / what about "From 1 to 0? Data Preservation and Accessibility in the Age of Information Ubiquity" (2014/7/24 藤岡洋 Hujioka Hiroshi)
- 第 99 回 (GJS セミナー第 2 回) 盗賊たちの榮譽—『自来也説話』におけるテキストの革命／Honor Among Thieves: The Textual Evolution of Jiraiya monogatari (2014/7/24 ケヴィン・ムルホランド Kevin Mulholland)
- ※Global Japanese Studies との共催
- 第 100 回 ベトナム研究の魅力 (2014/10/9 古田元夫 Motoo Furuta)
- 第 101 回 私立学校はなぜ潰れるのか？—移行経済期ベトナムにおける公・私関係の再編成 (2014/10/16 伊藤未帆 Miho Ito)

- 第 102 回 (GJS セミナー第 3 回) 矢代幸雄と美術史における場の問題／Yashiro's Details and the Problem of Place in Art History (2014/10/23 Mia M. Mochizuki)
- 第 103 回 バイリンガル児童のことば—ウルドゥー語引用のリアル／Quoting in Urdu: Bilingual conversation of Pakistani children in Japan (2014/10/30 山下里香 Rika Yamashita)
- 第 104 回 地域の研究と「地域研究」—東京大学におけるその誕生と今後の行方／Studying Certain Areas or “the Area Studies” at the University of Tokyo (2014/11/13 後藤絵美 Emi Goto)
- 第 105 回 東西思想の邂逅—18 世紀在華イエズス会士の報告を中心に／Encounter between Eastern and Western Ideas: Jesuit Missionaries in 18th-Century China (2014/11/20 新居洋子 Yoko Nii)
- 第 106 回 見えない女性たち：18 世紀広州における社会関係と権力構造／Invisible women: social relations and power in 18th century Canton (2014/12/4 リサ・ヘルマン Lisa Hellman)
- 第 107 回 (GJS セミナー第 4 回) 禁じられた啓蒙：間-東アジア比較の視点から再読する李光洙『無情』／Forbidden Enlightenment: Yi Kwangsu's Mujöng from a Trans-East Asian Comparative Perspective (2014/12/11 橋本悟 Satoru Hashimoto)
- 第 108 回 (GJS セミナー第 5 回) 日本の前で中国を演じる近世琉球—大英図書館蔵『琉球奏楽図』を巡って／Ryūkyū Play-ing China against Japan: Paintings of Theatrical Diplomacy in the British Library (2014/12/18 パトリック・シュウェマー Patrick Schwemmer)
- 第 109 回 (GJS セミナー第 6 回) Knowledge is a Polyglot Japan and China in the Global Competition for Terminologies (2015/1/8 トステン・パトバーク Thorsten Pattberg)
- 第 110 回 (GJS セミナー第 7 回) Diary of a Poor Bannerman: Surviving Day-to-Day in Qing Beijing in the Early Nineteenth Century (2015/1/15 Bingyu Zheng)
- 第 111 回 (GJS セミナー第 8 回) 仏教終末論と希望—末法における親鸞の希望／Buddhist Eschatology and Hope: Shinran's Hope in the Age of /Mappō/ (2015/1/22 ダンラップ梨佳 Rika Dunlap)
- 第 112 回 日本の対ミャンマー政府開発援助—政策変容の過程について／The Changing Nature of Japan's ODA Policy towards Myanmar since 1988 (2015/1/29 オー・ソウ・サン Oak Soe San)
- 第 113 回 中国フード・レジーム—1950～70 年代「南糧北調」の再考／China's Food Regime: To Reconsider the South-to-North Grain Diversion in the 1950-70s (2015/2/5 張馨元 Xinyuan Zhang)

1 1. 日本学術振興会特別研究員の受け入れ

(1) DC1

氏名	研究課題	受入期間	
		開始	終了
片倉 鎮郎	近世・近代移行期のインド洋海域における国家・外交・通商：ブー・サイド朝を中心に	2010/4/1	2013/3/31
鈴木 啓之	パレスチナ被占領地における動員構造の社会的検討：インティファダ以前を中心に	2012/4/1	2015/3/31
Dipesh Kharel	日本におけるネパール人移民労働者のケーススタディー	2013/4/1	2015/3/31

(2) DC2

氏名	研究課題	受入期間	
		開始	終了
山下 真吾	15・16世紀オスマン朝の歴史叙述に見られる「興隆」と「没落」の解釈と評価	2012/4/1	2014/3/31
寺田 悠紀	イランにおける「近代」の受容と反発—テヘラン現代美術館の変遷が映し出すもの—	2012/4/1	2014/3/31
佐治 奈通子	オスマン朝と周辺諸地域における鉱産資源をとりまく人・モノ・資本の移動	2013/4/1	2015/2/28
竹村 和朗	現代エジプトの沙漠開発と私的土地所有権	2013/4/1	2015/3/31

(3) PD

氏名	研究課題	受入期間	
		開始	終了
吉田 真吾	日米同盟の制度化：その歴史的展開と因果メカニズム	2010/4/1	2013/3/31
内藤 まりこ	七夕伝説をめぐる物語文化圏の研究	2010/4/1	2013/3/31
門田(高橋)絵里香	フィンランドの家族介護とイエ・親族—福祉国家における老いの人類学的研究—	2011/4/1	2013/3/31
塚原 伸治	社会的・歴史的に拘束される商行為と経営戦略に関する現代民俗学的研究	2011/4/1	2014/3/31

湯川 拓	ASEANにおける規範の変容とその国内的要因	2011/4/1	2013/9/30
平位 匡	人間開発と幸福：人間開発の広範な概念把握へ向けた幸福の客観的考察	2011/4/1	2014/3/31
諫早 庸一	13 - 14世紀ペルシア語文化圏における時間計測の精密化について	2011/4/1	2014/11/30
高野 さやか	慣習法概念の再定位：インドネシアにおける「法的なるもの」の歴史・教育・実践の分析	2013/4/1	2016/3/31
松山 洋平	多文化共生に対するイスラームの思想的基盤：非イスラーム地域における信仰論	2013/4/1	2016/3/31
辻 明日香	エジプトにおけるイスラームの変容過程：古代エジプトやキリスト教信仰の影響を中心に	2013/4/1	2017/3/31
山下 里香	宗教コミュニティにおける多言語使用：スタイルシフティングの視点から	2014/4/1	2017/3/31

(4) SPD

氏名	研究課題	受入期間	
		開始	終了
佐藤 尚平	ペルシャ湾岸諸国の近代化とイギリス帝国	2013/4/1	2013/9/30

12. 財政

(1) 財政

(単位：千円)

	2012年度	2013年度	2014年度
大学運営費	167,594	162,918	158,186
特定事業費	8,931	8,931	8,070
科学研究費補助金	105,502	99,100	83,190
受託研究・受託事業	9,731	4,750	16,000
その他外部資金	3,900	3,783	2,150
寄附金	3,800	2,130	2,860
間接経費	12,266	10,989	11,571
合計	311,724	292,601	282,027
前年度比(2012年度=100)	100	94	90

(2) 科学研究費

(単位：千円)

研究費種目	2012年度		2013年度		2014年度	
	交付決定額	件数	交付決定額	件数	交付決定額	件数
新学術領域	0	0	0	0	0	0
基盤研究S	18,250	2	19,200	2	0	0
基盤研究A	29,110	9	26,600	10	33,650	10
基盤研究B	31,250	17	26,550	15	26,740	19
基盤研究C	4,400	8	3,850	6	6,300	9
挑戦的萌芽研究	130	1	0	0	0	0
若手研究A	0	0	0	0	1,300	1
若手研究B	2,200	3	2,300	3	2,500	3
研究活動スタート支援	800	1	2,000	2	2,200	2
特別研究員奨励費 (SPD、PD、DC、RPD)	8,862	11	14,800	14	8,500	8
特別研究員奨励費 (外国人特別研究員)	800	1	1,500	2	100	1
特別成果公開促進費	9,700	4	2,300	1	1,900	2
合計	105,502	57	99,100	55	83,190	55
前年度比(2012年度=100)	100		94		79	

※直接経費および分担金のみを計上

1 3. 情報・広報室（ネットワーク関係）

本研究所のコンピュータ・ネットワーク・システム（以下「情報システム」という）を適切に管理・運用するとともに、本研究所の各種情報を効果的に発信するための広報活動に従事し、その発展に寄与することを目的として、2013年に設置された。情報システムの保守面についての主な柱は次のとおりである。

1. 研究所基幹ネットワークの構築・管理・運用
2. 教員、研究員の端末のネットワークセキュリティ管理・運用援助
3. 各種データベースの保守運用

広報活動の保守面としては主にホームページ運用が挙げられる。

情報システムの発展面については、

1. 各研究分野の特性を鑑みつつデジタル資料を活かした研究ネットワークの構築
2. 保守運用状態から展開を導くデータベース活用の方法論ならびに実践例の確立
3. 本研究所を訪れる国内外に研究者間の人的研究ネットワーク確立の可能性の模索を主な柱として考えている。

1 4. 画像技術室

画像技術室では、考古、美術品、書籍、文書等の撮影やフィルム、ガラス乾板等のデジタル化を行っている。また、本研究所の広報用の写真撮影も行っている。

その他に、本研究所1階ロビーにおける写真展示を2012年6月と2015年3月の2回行った。また、本研究所ホームページには、本学本郷キャンパス内で撮影した季節の写真などを展示するPhoto Galleryを設けている。

(URLは、<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/img/PhotoGallery/>)

1 5. 刊行物一覧

(1) 東洋文化研究所研究報告

65. 平勢隆郎『「八紘」とは何か』 2012
66. 長澤榮治『アラブ革命の遺産 エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム』 2012

(2) 東洋文化研究所叢刊

26. 鈴木董『オスマン帝国史の諸相』 2012
27. 長沢榮治『エジプトの自画像：ナイルの思想と地域研究』 2013

28.安田佳代『国際政治のなかの国際保健事業：国際連盟保健機構から世界保健機関、ユニセフへ』2014

29.卯田宗平『鵜飼いと現代中国：人と動物、国家のエスノグラフィー』2014

(3)東アジア部門美術研究分野報告

『中國繪畫總合圖録 三編』

第一巻 アメリカ・カナダ篇 I *2013

第二巻 アメリカ・カナダ篇 II *2014

(4)東洋文化研究所紀要

第162冊

大野公賀『護生画集』解題(1)：豊子愷の仏教帰依から第一集まで

中西竜也, 森本一夫, 黒岩高「17・18世紀交替期の中国古行派イスラーム：開封・朱仙鎮のアラビア語碑文の検討から」

小長谷英代「「フェスティバル」におけるアメリカ的「公共文化」の系譜とスミソニアン」
池田一人「ビルマのキリスト教徒カレンをめぐる民族知識の形成史：カレン知の生成と『ブアカニョウの歴史』の位置づけについて」

田中公明『秘密集会』における勝義の曼荼羅について：Nāgabodhiの『安立次第論』第4章
サンスクリット写本ローマ字化テキスト」

衣川賢次「臨濟録テキストの系譜」

Yukawa Taku “Analyzing the Institutional and Normative Architecture of ASEAN :
Reconsidering the Concept of the "ASEAN Way"”

丘山新教授略歴・主要著作目録

第163冊

原宗子「古代中国における樹木への認識の変遷：簡帛資料等を中心に」

藤井守男「ホラーサーン派神秘主義 *Taşawwuf-i Khurāsān* の言語観：「内的言語 *Kalām Nafsī*」の観点からする神秘主義言説の基層構造の考察のための試論」

榊和良「ヨーガの実践とペルシア語訳『ゴーラクシャシャタカ』」

種村隆元「Śūnyasamādhivajra 著作の葬儀マニュアル *Mṛtasugatiniyojana*: サンスクリット語校訂テキストおよび註」

加藤雄三「マーキュリー号事件始末：英国汽船による舟山漁場の警護と上海高等法院開設前の英国領事裁判」

Kataoka, Kei “A Critical Edition of Bhaṭṭa Jayanta’s *Nyāyakalikā* (Part 1)”

永ノ尾信悟教授略歴・主要著作目録

小川裕充教授履歴・主要著作目録

第 164 冊

森平雅彦「高麗・朝鮮時代における対日拠点の変遷：事元期の対日警戒態勢を軸として」

田中公明『秘密集会』「聖者流」における修道論

落合雪野「茶外の茶：嗜好品と医薬品のはざままで」

熊遠報「18世紀における北京の都市景観と住民の生活世界：康熙六旬『万寿盛典図』を中心に」

衣川賢次『祖堂集』の基礎方言

陳志勤「文化選擇和“地方”的再生産：“泛中國文化”的建構」

笠井直美「吳郡寶翰樓書目」

Chard, Robert L. “Zhu Shunshui’s Plans for the Confucian Ancestral Shrines (*Zongmiao* 宗廟) in Kaga Domain”

Suga, Yutaka “The Substituted Forest : Political and Social Effects on Japan’s Spaces of Worship”

大野公賀准教授 略歴・著作目録

第 165 冊

山内文登「東アジアの文書権力と音声メディアの植民地近代的編制：漢文脈の政治文化と帝国日本の朝鮮レコード検閲」

森まり子「建国期のイスラエル内閣閣議議事録 史料紹介と予備的考察（一）：『人民執行部議事録一九四八年四月一八日～五月一三日』に見る統治権力確立過程とアラブ問題」

吉川雅之「レグ編 *Lexilogus* に記される閩南語音の表記と体系」

李英美 「朝鮮総督府中枢院における韓国・朝鮮の慣習調査報告書に関する書誌学的考察：米国カリフォルニア大学バークレー校 (UCB)・the C. V. Starr East Asian Library 所蔵資料を中心に」

Kataoka, Kei “Sucaritamīśra’s Critique of *Apoha* : A Critical Edition of *Kāśikā* ad *Ślokavārttika apoha* v.1”

第 166 冊

渡邊義浩『抱朴子』の歴史認識と王導の江東政策

廣瀬玲子「回復される均衡：元雜劇「緋衣夢」試論」

森平雅彦「高麗・宋間における使船航路の選択とその背景」

田中公明「オリッサ州ウダヤギリ II 出土の石刻陀羅尼について」

西田真之「近代中国における妾の法的諸問題をめぐる考察」

李英美「朝鮮総督府中枢院における韓国・朝鮮の慣習調査事業と調査報告書に関する研究：米国ハワイ大学マノア校(UH Manoa)・Hamilton Library の Korean Locked Press

所蔵資料の紹介と分析を中心に (1)」

衣川賢次「感興のことば：唐末五代轉型期の禪宗における悟道論の探究」

Chard, Robert L., “Patterns of Confucian Cultural Transmission as Reflected in the Self-Perception of Zhu Shunshui in Japan”

第 167 冊

小寺敦「『左傳』における「後」について」

竹村英二「元～清の『尚書』研究と十八世紀日本儒者の『尚書』原典批判：中井履軒『七經雕題畧（書）』、同収「雕題附言（書）」を題材に」

土屋太祐「『一夜碧巖』第一則訳注」

大野公賀「豊子愷の描いた桃源譚—『赤心国』」

森まり子「建国期のイスラエル内閣閣議議事録 史料紹介と予備的考察 (二)：『暫定政府会合議事録』第一巻 (一九四八年五月一六日～五月三〇日) に見るイスラエル国家の性格及び諸制度をめぐる論争とアラブ問題」

青木健「アーザル・カイヴァーン学派研究 *Dāstān-e Mōbedān Mōbed Dāddukht* の写本蒐集と翻訳校訂」

加藤雄三「升科 ‘Shengko’, Shengkoing: 上海フランス租界における黄浦江沿岸埋立地の取得問題」

Kataoka, Kei “A Critical Edition of *Kāśikā ad Ślokavārttika apoha* vv. 2–94”

高橋 昭雄「ミャンマー・パテインの精米所経営と市場」

松井 健教授 略歴・著作目録

(5) 東洋文化

第 92 号 (2012 年 3 月) 特集 魂の脱植民地化 (3) 「呪縛」からの脱却・「箱」の外に出る
勇氣

安富歩・深尾葉子「はじめに」

<第 1 部 魂の脱植民地化の思想>

安富歩「人間社会の秩序の基盤としての学習：儒家とサイバネティックス」

山本伸裕「『精神主義』の挫折：真宗ルネサンスのために」

Ursula Weiss, “The Gate of Effortless Practice”

<第 2 部 私を含む研究—異文化との出会いのなかで—>

真鍋祐子「封殺された「言葉」を解き放つ：コリア研究がはらむハラズメント性について」

中村平「台湾先住民族タイヤルと私の遡行の旅：植民暴力の記憶の呪縛」

辻明日香「呪いから赦しへ：エジプトのコプト教会を研究する」

<第 3 部 自らを通じて社会へ>

竹端寛「枠組み外しの旅：宿命論的呪縛から真の<明晰>に向かって」

富田啓一「スローライフ掛川の活動精神とその表れ：気持ち良さの所在について考える」
深尾葉子・原田愛子・梶田由胤「地域と環境を再生するコミュニケーションの渦：徳島県上
勝町と滋賀県沖島に見る魂の脱植民地化過程」
深尾葉子「フクシマ・ディアスポラ：ゆがめられた言説が生む苦悩と葛藤」

第93号（2012年12月） 特集 民俗学の新しい沃野に向けて

菅豊 特集にあたって

■アカデミック民俗学

菅豊「民俗学の悲劇—アカデミック民俗学の世界史的展望から」

■政治神話

室井康成「希求される大統領像—韓国における〈政治神話〉の生成とその民俗的要因—」

■共同体

加賀谷真梨「プロセスとしての〈共同体〉—沖縄・波照間島の「戦争マラリア」をめぐる
語りを事例に—」

■経営と伝統

塚原伸治「「家族／経営」という困難—「伝統」がもたらす不調和と揺らぎをめぐる—」

■ジャンル

西村真志葉「中国民俗学のジャンルを巡る考察—新たなジャンル研究へ向けて—」

■村落と公共性

陳志勤「村落开发与公共性重构—三门源村水资源利用的过去与现在—」

■災害民俗学

谷口陽子「危機管理と災害対応の実践の民俗学に向けて」

■民俗文化財

俵木悟「文化財／文化遺産をめぐる重層的な関係と、民俗学の可能性」

■宮本常一

川森博司「当事者の声と民俗誌—日本民俗学のもうひとつの可能性—」

■新しい野の学問

菅豊「民俗学の喜劇—「新しい野の学問」世界に向けて—」

第94号（2014年3月） 特集名：「繁栄と自立のディレンマ—ポスト民主化台湾の国際政治経済学—」 編集責任 松田康博

松田康博「特集にあたって—ポスト民主化時代台湾の国際政治経済学を目指して—」

若林正丈「現代台湾の「中華民国」—例外国民国家の形成と国家性—」

松本充豊「台湾の半大統領制における政策決定—「兩岸経済協力枠組み協定（ECFA）」の事

例を中心に―

小笠原欣幸「馬英九の博士論文から読み解く日台漁業交渉」

福田円「ポスト民主化台湾と日本―関係の制度化と緊密化―」

佐藤幸人「東アジア経済の変動と日台ビジネスアライアンス」

黄偉修「馬英九政権の大陸政策決定過程における与党・中国国民党の役割―国共プラットフォームを事例として―」

高原明生「中台関係の安定期における日中関係の展開」

松田康博「馬英九政権下の中台関係（2008-2013）―経済的依存から政治的依存へ？―」

第95号（2015年3月） 特集 魂の脱植民地化（4）―異界から立ち上がる秩序―

編集責任 安富歩

安富歩・深尾葉子「はじめに」

安富歩『『論語』の「道」とは何か』

深尾葉子「大神から害獣へ―ニホンオオカミの絶滅と「異界」の喪失・魂の脱植民地化という視点から」

竹端寛「『合理性のレンズ』からの自由―「ゴミ屋敷」を巡る「悪循環」からの脱出にむけて」

安富歩「異界についての一考察」

竹端寛「村上春樹と「内なる異界」―『ノルウェイの森』を通じて」

Ursula Weiss “Sacrifice: Some Remarks on the Bunraku Play *Sugawara Denju Tenarai Kagami*”

Ursula Weiss “The *Towazugatari*, Lady Nijo’s Autobiography: A Series of Selfies in Search of Identity”

香田芳樹「ヤーコブ・ベーム、あるいは吹き飛ぶ門」

小石川真実「『境界性人格障害』患者に於ける魂の植民地化と脱植民地化」

(6) International Journal of Asian Studies

Vol. 9, No. 2 (July 2012)

Script without Buddhism: Burmese Influence on the Tay (Shan) Script of Mäng² Maaw² as Seen in a Chinese Scroll Painting of 1407

CHRISTIAN DANIELS

Transplanting the Flower of Civilization: The "Peony Girl" and Japan's 1874 Expedition to Taiwan

MATTEW FRALEIGH

Selling a Healthy Lifestyle in Late Qing Tianjin: Commercial Advertisements for *Weisheng* Products in the *Dagong Bao*, 1902-1911

JUANJUAN PENG

Review article

Emotion and the Language of Intimacy in Ming China: The *Shan'ge* of Feng Menglong

ANNE E. McLAREN

Book reviews

Anālayo, A Comparative Study of the Majjhima-nikāya

RODERICK S. BUCKNELL

Tyrell Haberkorn, *Revolution Interrupted: Farmers, Students, Law, and Violence in Northern Thailand.*

SATAPORN ROENGTAM

Mara Patessio, *Women and Public Life in Early Meiji Japan: The Development of the Feminist Movement.*

ANN WALTHALL

Remco E. Breuker, *Establishing a Pluralist Society in Medieval Korea, 918–1170: History, Ideology and Identity in the Koryŏ Dynasty*

KENNETH R. ROBINSON

Thomas Harrison, *Writing Ancient Persia*

TAKUJI ABE

Mark Driscoll, *Absolute Erotic, Absolute Grotesque: The Living, Dead, and Undead in Japan's Imperialism, 1895–1945*

KERIM YASAR

Albert Welter, *Yongming Yanshou's Conception of Chan in the Zongjing Lu: A Special Transmission within the Scriptures*

MORTEN SCHLÜTTER

Ogawa Takashi 小川 隆, *Goroku no shisōshi: Chūgoku Zen no kenkyū 語録の思想史——中国禪の研究*

ALBERT WELTER

Elizabeth Morrison, *Power of Patriarchs: Qisong and Lineage in Chinese Buddhism*

JASON AVI PROTASS

Paul Kocot Nietupski, *Labrang Monastery: A Tibetan Buddhist Community on the Inner Asian Borderlands, 1709–1958*

KENSAKU OKAWA

Eric Hayot, *The Hypothetical Mandarin: Sympathy, Modernity, and Chinese Pain*

LILY CHANG

Julia C. Bullock, *The Other Women's Lib: Gender and Body in Japanese Women's Fiction*

NORIKO J. HORIGUCHI

Vol. 10, No. 1 (January 2013)

Transformations of Thăng Long: Space and Time, Power and Belief

JOHN K. WHITEMORE

Exiled to the Ancestral Land: The Resettlement, Stratification and Assimilation of the Refugee from Vietnam in China

XIAORONG HAN

Cultural Construction and a New Ethnic Group Movement: The Case of the Sakizaya in Eastern Taiwan

SHIUN-WEY HUANG

Review article

War, Capital, and Wages: A New Economic Theory of "The Great Divergence"

Jack A. GOLDSTONE

Book reviews

Andrew Goss, *The Floracrats: State-Sponsored Science and the Failure of the Enlightenment in Indonesia*

PETER BOOMGAAD

Pierre-Yves Manguin, A. Mani, and Geoff Wade, eds., *Early Interactions between South and Southeast Asia: Reflections on Cross-Cultural Exchange*

TORU AOYAMA

Kei Kataoka, *Kumārila on Truth, Omniscience and Killing. A Critical Edition of Mīmāṃsā-Ślokavārttika ad 1.1.2 (Codanāsūtra)*

ELISA FRESCHI

Jon Thompson, Daniel Shaffer and Pirjetta Mildh eds., *Carpets and Textiles in the Iranian World 1400–1700*

YUMIKO KAMADA

Sebuh David Aslanian, *From the Indian Ocean to the Mediterranean: The Global Networks of Armenian Merchants from New Julfa*

SUSHICHL CHAUDHURY

Moshe Idel, *Saturn's Jews: On the Witches' Sabbath and Sabbateanism*

SHINICHI YAMAMOTO

Fran Martin, *Backward Glances: Contemporary Chinese Cultures and the Female Homoerotic Imaginary*

PATRICIA SIEBER

Stephen Aris, *Eurasian Regionalism: The Shanghai Cooperation Organisation*

DAN CHEN

Watanabe Hiroshi 渡辺 浩, *Nihon seiji shisōshi: 17–19 seiki* 日本政治思想史—十七~十九世紀

W.J. BOOT

Bettina Gramlich-Oka and Gregory Smits, eds., *Economic Thought in Early Modern Japan*

STEVEN BRYAN

Janis Mimura, *Planning for Empire: Reform Bureaucrats and the Japanese Wartime State*

STEVEN BRYAN

Jun Uchida, *Brokers of Empire: Japanese Settler Colonialism in Korea, 1876–1945*

MICHAEL SCHILTZ

Vol. 10, No. 2 (July 2013)

Insanity and Parricide in Late Imperial China (Eighteenth-Twentieth Centuries)

LUCA GABBIANI

Sexual Healing: Regulating Male Sexuality in Edo-Period Books on 'Nurturing Life'

ANGELIKA KOCH

Constructing Cultural Difference in Manchukuo: Stories of Gu Ding and Ushijima Haruko

JUNKO AGNEW

Review article

Domesticating Imperialism: The Fashioning of Political Identity in Southeast Asia

SIMON PHILPOTT

Book reviews

Michael J. Franklin, *Orientalist Jones: Sir William Jones, Poet, Lawyer, and Linguist, 1746–1794.*

ROSANE ROCHE

Rosane Rocher and Ludo Rocher, *The Making of Western Indology: Henry Thomas Colebrooke and the East India Company*

MARK FLANDREAU

Ian Holliday, *Burma Redux: Global Justice and the Quest for Political Reform in Myanmar*

MICHAEL W. CHARNEY

Morten Schlütter and Stephen F. Teiser, eds., *Readings of the Platform Sūtra*

JASON AVI PROTASS

Noriko J. Horiguchi, *Women Adrift: The Literature of Japan's Imperial Body*

JU-LING LEE

Michael Schiltz, *The Money Doctors from Japan: Finance, Imperialism, and the Building of the Yen Bloc 1895–1937*

MASANAO ITOH

Billy K. L. So and Ramon H. Myers, eds., *The Treaty Port Economy in Modern China: Empirical Studies of Institutional Change and Economic Performance*

NIV HORESH

Christian Lange and Maribel Fierro, eds., *Public Violence in Islamic Societies: Power, Discipline and the Construction of the Public Sphere, 7th–19th Centuries CE*

FAISAL CHAUDHRY

Osama W. Abi-Mershed, *Apostles of Modernity. Saint-Simonians and the Civilizing Mission in Algeria*

PATRICIA M. LORCIN

Michael K. Walonen. *Writing Tangier in the Postcolonial Transition: Space and Power in Expatriate and North African Literature*

ZIAD BENTAHAR

Vol. 11, No.1 (January 2014)

Commercial Islam in Indonesia: How Television Producers Mediate Religiosity among National Audiences

GARETH BARKIN

The Rise of Gentry Power on the China-Burma Frontier since the 1870s: The Case of the Peng Family in Mianning, Southeast Yunnan

JIANXIONG MA

Histories in Stone: Stelae Commemorating the Suppression of the Musin Rebellion and Contested Factional Histories

ANDREW DAVID JACKSON

State of the field

Revisiting the *Kankō Chōsa* Villages: A Review of Chinese and Japanese Studies of North China Rural Society

LINDA GROVE

Book reviews

Peter Skilling, Jason A. Carbine, Claudio Cicuzza, and Santi Pakdeekham, *How Theravāda Is Theravāda? Exploring Buddhist Identities*

KATE CROSBY

David Shulman, *More than Real: A History of the Imagination in South India*

SHONALEEKA KAUL

Nico Slate, *Colored Cosmopolitanism: The Shared Struggle for Freedom in the United State and India*

SANA AIYAR

Rachael Hutchinson, *Nagai Kafū's Occidentalism: Defining the Japanese Self*

G. CLINTON GODART

**Fujihara Tatsushi 藤原辰史, *Ine no Daitōakyōeiken: Teikoku Nihon no 'Midori no kakumei'*
稲の大東亜共栄圏：帝国日本の〈緑の革命〉**

TAE-HO KIM

Matthias L. Richter, *The Embodied Text: Establishing Textual Identity Early Chinese Manuscripts*

ATSUSHI KOTERA

Jonathan Saha, *Law, Disorder and the Colonial State: Corruption in Burma c. 1900*

ATSUKO NAONO

William S. Rodney, *Edwardian London through Japanese Eyes: The Art and Writings of Yoshio Markino, 1897-1915*

W.F. VANDE WALLE

Kazuo Morimoto, ed., *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*

GABRIELE VOM BRUCK

Valerie Hansen, *The Silk Road: A New History*

MASAHARU ARAKAWA

John W. Dower, *Ways of Forgetting, Ways of Remembering: Japan in the Modern World*

ALEXIS DUDDEN

Haruko Wakabayashi, *The Seven Tengu Scrolls: Evil and the Rhetoric of Legitimacy in Medieval Japanese Buddhism*

BRIAN RUPPERT

Vol. 11, No.2 (July 2014)

The Kokurūkai (Black Dragon Society) and the Rise of Nationalism, Pan-Asianism, and Militarism in Japan, 1901-1925

SVEN SAALER

Decentralised Governance as Sites for Self-Formation: A Comparison of Practice of Welfare Distribution in Telangana, India, and Central Lombok, Indonesia

TANYA JAKIMOW

Mahjong and Urban Life: Individual Rights, Collective Interests, and City Image in Post-Mao China

DI WANG

Book reviews

Arnold E. Franklin, *This Noble House: Jewish Descendants of King David in the Medieval*

Islamic East

KAZUO MORIMOTO

Michael Radich, *How Ajātaśatru Was Refomed: The Domestication of “Ajase” and Stories in Buddhist History*

JUAN WU

Julie E. Hughes, *Animal Kingdoms: Hunting, the Environment, and Power in the Indian Princely States*

ROHAN D’SOUZA

Sophal Ear, *Aid Dependence in Cambodia: How Foreign Assistance Undermines Democracy*

ANDREW COCK

Billy So, ed., *Economic History of Lower Yangzi Delta in Late Imperial China: Connecting Money, Markets and Institutions*

KOJIRO TAGUCHI

Robert J. Shepherd, *Faith in Heritage: Displacement, Development, and Religious Tourism in Contemporary China*

TIM OAKES

Wenkai He, *Paths toward the Modern Fiscal State: England, Japan, and China*

BRIAN K. TURNER

Sun Joo Kim, *Voice from the North: Resurrecting Regional Identity through the Life and Work of Yi Sihang(1672-1736)*

SOOCHANG OH

Satō Jin 佐藤 仁, ‘Motazaru kuni’ no shigen ron: Jizoku kanō na kokudo o meguru mō hitotsu no chi 「持たざる国」の資源論— 持続可能な国土をめぐるもう一つの知

AARON STEPHEN MOORE

Daqin Yang, *Technology of Empire: Telecommunications and Japanese Expansion in Asia, 1883-1945*

MARK METZLER

Yukiko Koshiro, *Imperial Eclipse: Japan’s Strategic Thinking about Continental Asia before August 1945*

ANDREW HALL

Vol. 12, No.1 (January 2015)

Ambonese Muslim Jihadists, Islamic Identity, and the History of Christian-Muslim Rivalry in the Moluccas, Eastern Indonesia

SUMANTO AL QURTUBY

Merchants, Mandarins, and the Railway: Institutional Failure and the Wusong Railway, 1874-1877

HSIEN-CHUN WANG

The Policing of a South Chinese County, 1929-1949

VENUS VIANA

From Ancestral Tong to Joint-Stock Company: The Transformation of the Yip Kwong Tai Tong in South China, 1830s-1960s

STAPHANIE PO-YIN CHUNG

Book reviews

Zara Fleming and J. Lkhagvademchig Shastri eds., *Mongolian Buddhist Art: Masterpieces from the Museums of Mongolia. Volume I, Parts 1-2: Thangkas, Appliqués and Embroideries*

URANCHIMEG TSULTEMIN

Ji Meng and Atsuko Ukai eds., *Translation, History and Arts: New Horizons in Asian Interdisciplinary Humanities Research*

SARA LAVIOSA

Charles Holcombe, *A History of East Asia: from the Origins of Civilization to the Twenty-First Century*

STEFAN HALKOWSKI SMITH

Georgios T. Halkias, *Luminous Bliss: A Religious History of Pure Land Literature in Tibet*

VESNA A. WALLACE

Ulbe Bosma, *The Sugar Plantation in India and Indonesia: Industrial Production, 1770–2010*

HIROYOSHI KANO

Masatoshi A. Konishi, *Hāth-Kāghaz: History of Handmade Paper in South Asia*

RYOUSUKE FURUI

Martin Saxer, *Manufacturing Tibetan Medicine: The Creation of an Industry and the Moral Economy of Tibetanness*

DAWN COLLINS

Noriko Aso, *Public Properties: Museums in Imperial Japan*

GYEWOM KIM

Adam Clulow, *The Company and the Shogun: The Dutch Encounter with Tokugawa Japan*

BRIGHT TREMML-WERNER

R. S. Sugirtharajah, *The Bible and Asia: From the Pre-Christian Era to the Postcolonial Age*

YOSHIHISA YAMAMOTO

資 料

1. 主要所蔵図書コレクション

No.	文庫名	旧蔵者	内容
1	荒木文庫	荒木茂 元女子学習院 教授	ペルシャ関係洋書 1,112 冊
2	伊藤文庫	伊藤義教 京都大学名誉 教授	古代・中世イラン研究関係書 849 冊
3	今堀文庫	今堀誠二 広島大学名誉 教授	近現代中国の社会史資料、華僑史資料。漢籍 300 点、中国書 2,000 冊、文書資料 500 点
4	江上文庫	江上波夫 東京大学名誉 教授	歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書 2,550 点。
5	大木文庫	大木幹一氏	中国法制関係書 3,168 部 (45,452 冊)
6	上村文庫	上村勝彦 東京大学教授	インド古典研究関係書 658 冊
7	清野文庫	清野謙次氏	人類学・考古学関係の洋書 750 冊
8	倉石文庫	倉石武四郎 東京大学名誉 教授	漢籍約 4,300 点及び和書 3,300 冊、現代中国書 2,300 冊
9	下中文庫	下中弥三郎氏	戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種、及び戦後出版の東洋関係洋書 130 冊
10	夕嵐草堂文庫	前野直彬 東京大学名誉 教授	小説類漢籍約 500 点 4,400 冊
11	雙紅堂文庫	長澤規矩也 元法政大学教授	明清時代の戯曲小説類約 3,000 冊
12	滝川勉文庫	滝川勉 元筑波大学及び 日本大学教授	フィリピンを中心に東南アジア各国の経済、政治、社会、歴史、文化に関する研究書と資料
13	仁井田文庫	仁井田陞 東京大学名誉 教授	中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本

14	山崎文庫	山崎利男 東京大学名誉 教授	主にインド古代史とインド法制史の文献約 490 点
15	両紅軒文庫	伊藤漱平 東京大学教授	明末清初の文人李漁の諸作品及び清代の小説 「紅樓夢」を中心に、作品の版本・研究所・翻 訳を網羅している。
16	我妻文庫	我妻栄 東京大学名誉 教授	アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
17	オスマン語・トルコ語年 鑑定期刊行物コレクショ ン		トルコにおいてオスマン語及び現代トルコ語で 刊行された年鑑類・定期刊行物
18	オランダ植民地省公文書 索引及びジャワ官報 (Javasche courant, Bataviasche courant)		オランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書 (1850 年～1921 年) の索引及びインドネシア のオランダ植民地政府が 1928 年～1939 年公布 した官報のマイクロフィッシュ
19	乾隆版大蔵経		中国最後の木版大蔵経。1657 部の仏教典籍。全 724 函 (毎函 10 冊)、大清三蔵聖教目録一函 (5 冊 子部・釋家・彙刻・50)
20	清朝建築図様	東方文化学院 東京研究所	清朝末期の様式雷による营造関係図様
21	タイ語文献コレクション	友杉孝 東京大学名誉 教授	東南アジア歴史・地理を中心とした、2,728 冊の タイ語文献
22	田中則雄氏旧蔵書	田中則雄氏	インドネシアに関するオランダ語を中心とする 洋書文献コレクション
23	中国西北文献叢書		中国西北地方 (陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆 など) の歴史・地理・民俗・文学等の基本文 献。203 冊
24	中国第一歴史档案館所蔵 清代档案資料		中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部。 マイクロフィルム
25	帝国学士院東亜諸民族調 査室旧蔵書	帝国学士院東亜 諸民族調査室	西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献。 和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊
26	東京銀行調査部旧蔵資料	東京銀行調査部	和漢書・資料類約 18,000 冊
27	東方文化学院旧蔵書	東方文化学院 東京研究所	和漢洋合わせて 103,587 冊

28	西アジア関連写本集成		ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語写本のマイクロフィッシュ
29	東アジア宗族社会史関係資料		朝鮮族譜集成 494 冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料 2,263 冊
30	文淵閣本四庫全書影印本		清代以前の中国の古典文献。全 1,501 冊
31	松本忠雄氏旧蔵書	松本忠雄氏	近代中国関係漢洋書、雑誌など約 3,000 冊
32	南アジア伝導教団資料集成		18 世紀末から 20 世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等のマイクロフィッシュ
33	安田文庫旧蔵『論語』コレクション	安田弘氏	安田文庫旧蔵の『論語』各種和刻本 9 点、他 2 点
34	矢吹慶輝氏旧蔵書	矢吹慶輝氏	英仏独のマニ教の文献、仏教遺跡の発掘報告書約 360 冊
35	The Daiber Collection I	ハンス・ダイバー氏	イスラームの宗教、思想、歴史の写本 367 点
36	The Daiber Collection II	ハンス・ダイバー氏	Daiber Collection I を補完。12 世紀から 20 世紀初頭のアラビア語写本 120 点
37	Indonesian Monographs		独立後インドネシアの社会科学関係出版物 3,258 点のマイクロフィッシュ
38	Müteferrika collection		1727 年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍 17 点
39	Ouseley Collection	G. Ouseley 卿	17 世紀から 19 世紀のヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記、ペルシャ文学作品。60 点、全 106 冊
40	現代台湾文庫		現代台湾の政治・軍事・安全保障に関わる貴重資料（書籍及び檔案）。1950 年-70 年代台湾における中国国民党政権の独裁統治や、中国大陸に対する 軍事作戦や心理・宣伝戦に関連する資料などが主であるが、他では見られない初公開の貴重資料がある。
41	近藤文庫	近藤光男 お茶の水女子 大学名誉教授	四部及び叢書にわたる漢籍約 200 点、1,200 冊。清朝漢学関連書を中心とし、とりわけ清人の別集に富む。江藩『漢学師承記』は十五種の版本を擁し、汪中『述学』は汪喜孫の自筆題記を有するなど、貴重な本を多く含んでいる。

42	坂本文庫	坂本勉 慶應義塾大学名 誉教授	ペルシャ史、トルコ史に関する基本資料約 600 冊。ペルシャ語の図書を多く含む。
43	鈴木敬文庫	鈴木敬 東京大学名誉 教授	中国美術関連を中心にした漢籍類約 900 冊
44	永尾文庫	財団法人民族学 振興会	主に中国の歴史、文学等に関する図書約 2,000 冊。漢籍も多く含む。
45	日本ネパール協会旧蔵資料	社団法人日本 ネパール協会	主に 1950 年代から 1971 年までにネパールで蒐集されたネパール語、英語の図書、資料約 2,800 点

2. 主要所蔵資料

[殷代甲骨]

本研究所所蔵甲骨は、次の三部分からなる。第一は、故河井仙郎氏旧蔵の 1,708 片で、1979 年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧蔵の 393 片で、1979 年に購入した。第三は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された 2 片である。合計 2,103 片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東洋文化研究所報告 1983 年）として刊行された。

[中国古銭・銭范]

旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約 1,250 点の古銭と、10 点の銭の范模を含む。

[中国考古資料]

上記の甲骨、古銭以外に、瓦当約 110 点、鏡、戈、戟、鏹などの青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

[中国絵画資料（原版・焼付写真・カラースライド・デジタル画像等）]

米国、カナダ、欧州、アジアの美術館、個人蒐集家が所蔵する中国絵画、及び日本現存の中国絵画に関するものが主体で、その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した台北故宮博物院所蔵中国美術作品の焼付写真、東京国立文化財研究所原版からの羅漢・十王国の焼付写真等があり、現在約 20 万点にのぼる。「東洋学文献センター叢刊」として 10 冊の目録が 1977 年～83 年、1992 年～98 年の両度にわたって刊行され、図録は東京大学出版会より

『中国絵画総合図録』（全5巻）が1982年～83年、『同 続編』（全4巻）が1998年～2001年の両度にわたって刊行された。現在、『同 三編』の出版を準備中である。

[中国清代・民国期の文書資料]

17世紀から20世紀に及ぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、宝応、鳳山などの土地文書を中心とし、その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は、1983年～86年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（閲覧準備中。）

[内蒙古出土学術資料]

江上波夫名誉教授が戦前に内モンゴルで発掘・採集した資料約1万点が、1983年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが、圧倒的多数は未発表のものである。

[インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリー及びインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で、写真、実測図などが主なものである。1959年度～62年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第1巻（1967年）、第2巻（1969年）、第3巻（1970年）が刊行された。

[西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として、1956年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡14か所を発掘・調査した結果、収集したもの。その数は数万点に達し、大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。1958年から1984年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20冊が刊行されている。

3. 歴代受賞者

(1)文化勲章

江上 波夫 1991 年
山本 達郎 1998 年
中根 千枝 2001 年

(2)文化功勞者

辻 直四郎 1978 年 (併)
江上 波夫 1983 年
山本 達郎 1986 年 (併)
川野 重任 1993 年
中根 千枝 1993 年
板垣 雄三 2003 年
斯波 義信 2006 年

(3)学士院賞

仁井田 陞 1934 年
宇野 圓空 1942 年
山本 達郎 1952 年 (併)
周藤 吉之 1956 年
福島 正夫 1963 年
鎌田 茂雄 1976 年
荒 松雄 1978 年
池田 温 1983 年
鈴木 敬 1985 年
田仲 一成 1993 年

4. 歴代所長

桑田 芳蔵 1941. 11. 26 — 1943. 3. 31
宇野 圓空 1943. 4. 1 — 1946. 10. 5
戸田 貞三 1946. 10. 6 — 1947. 9. 30
辻 直四郎 1947. 10. 1 — 1954. 3. 31
仁井田 陞 1954. 4. 1 — 1958. 7. 10
飯塚 浩二 1958. 7. 11 — 1960. 7. 9

結城 令聞	1960. 7. 10	—	1962. 7. 9	
江上 波夫	1962. 7. 10	—	1964. 7. 9	
飯塚 浩二	1964. 7. 10	—	1965. 2. 28	
小口 偉一	1965. 3. 1	—	1966. 3. 31	
川野 重任	1966. 4. 1	—	1968. 3. 31	
小口 偉一	1968. 4. 1	—	1970. 3. 31	
泉 靖一	1970. 4. 1	—	1970. 11. 15	
川野 重任	1970. 11. 16	—	1970. 12. 17	(事務取扱)
鈴木 敬	1970. 12. 18	—	1972. 3. 31	
荒 松雄	1972. 4. 1	—	1973. 3. 31	
窪 徳忠	1973. 4. 1	—	1974. 3. 31	
佐伯 有一	1974. 4. 1	—	1976. 3. 31	
大野 盛雄	1976. 4. 1	—	1978. 3. 31	
深井 晋司	1978. 4. 1	—	1980. 3. 31	
中根 千枝	1980. 4. 1	—	1982. 3. 31	
大野 盛雄	1982. 4. 1	—	1984. 3. 31	
尾上 兼英	1984. 4. 1	—	1986. 3. 31	
山崎 利男	1986. 4. 1	—	1988. 3. 31	
斯波 義信	1988. 4. 1	—	1990. 3. 31	
池田 温	1990. 4. 1	—	1992. 3. 31	
松谷 敏雄	1992. 4. 1	—	1994. 3. 31	
後藤 明	1994. 4. 1	—	1996. 3. 31	
濱下 武志	1996. 4. 1	—	1998. 3. 31	
原 洋之介	1998. 4. 1	—	2002. 3. 31	
田中 明彦	2002. 4. 1	—	2006. 3. 31	
関本 照夫	2006. 4. 1	—	2009. 3. 31	
羽田 正	2009. 4. 1	—	2012. 3. 31	
大木 康	2012. 4. 1	—	2014. 7. 24	
菅 豊	2014. 7. 24	—	2014. 9. 4	(事務代理)
高見澤 磨	2014. 9. 4	—	現在	

歴代副所長

羽田 正	2004. 4. 2	—	2006. 3. 31
鎌田 繁	2006. 4. 1	—	2008. 3. 31
長澤 榮治	2008. 4. 1	—	2009. 3. 31
大木 康	2009. 4. 1	—	2011. 3. 31

池本 幸生	2011. 4. 1 — 2013. 3.31
長澤 榮治	2013. 4. 1 — 2014. 3.31
菅 豊	2014. 4. 1 — 2016. 3.31

5. 名誉教授

	称号授与	
中根 千枝	1987.5	
尾上 兼英	1988.5	
山崎 利男	1990.5	
板垣 雄三	1991.5	
池田 温	1992.5	
山田 三郎	1992.5	
田仲 一成	1993.5	
友杉 孝	1993.5	
松丸 道雄	1995.5	
松谷 敏雄	1997.5	
蜂屋 邦夫	1999.5	
岡本 サエ	2001.5	
後藤 明	2002.5	
濱下 武志	2004.5	
猪口 孝	2005.5	
柳澤 悠	2005.5	
原 洋之介	2006.5	(2002.4 : 情報学環に配置換)
関本 照夫	2010.6	
中里 成章	2010.6	
宮脇 博史	2010.6	
尾崎 文昭	2012.6	
加納 啓良	2012.6	
鈴木 董	2012.6	
永ノ尾信悟	2013.6	
小川 裕充	2013.6	
松井 健	2015.6	

6. 歴代事務長

在職期間

山高 力三	1941.11.27	—	1942.9.30
根本 喜蔵	1942.10.1	—	1944.7.9
長内太郎吉	1944.7.10	—	1954.7.15
工藤松之助	1954.7.16	—	1963.10.31
宮本 健	1963.11.1	—	1969.2.28
新井 康次	1969.3.1	—	1974.3.31
斎藤 益	1974.4.1	—	1977.6.30
三浦 皓守	1977.7.1	—	1981.3.31
伊東秀三郎	1981.4.1	—	1983.3.31
岡部 藤男	1983.4.1	—	1986.3.31
木内 義一	1986.4.1	—	1990.3.31
江澤 兵治	1990.4.1	—	1992.6.1
石川 純男	1992.6.1	—	1995.3.31
千葉 勝志	1995.4.1	—	1997.3.31
小林 邦男	1997.4.1	—	1999.3.31
石井 金夫	1999.4.1	—	2001.3.31
柿沼 肇	2001.4.1	—	2004.3.31
小川 勝美	2004.4.1	—	2006.9.30
佐沼 繁治	2006.10.1	—	2009.3.31
武田 達明	2009.4.1	—	2012.3.31
石井 好和	2012.4.1	—	2013.3.31
松井 潤一	2013.4.1	—	現在

7. 教職員の異動

(2012年度)

特任教授	Charney Michael Walter	2012.4.1 付け採用
委嘱教授	田中 明彦	2012.4.1 付け委嘱
准教授	李 賢鮮	2012.4.1 付け採用
助教	安田 佳代	2012.4.1 付け採用
准教授	Chard Robert Lawrence	2012.9.30 付け任期満了退職
特任准教授	大野 公賀	2012.9.30 付け辞職

客員教授	Chard Robert Lawrence	2012.10.1 付け委嘱
准教授	中島 隆博	2012.10.1 付け配置換(大学院総合文化研究科より)
准教授	大野 公賀	2012.10.1 付け採用
教授	板倉 聖哲	2013.1.1 付け昇任
特任助教	井戸 美里	2013.1.1 付け採用
教授	永ノ尾 信悟	2013.3.31 付け定年退職
教授	小川 裕充	2013.3.31 付け定年退職
准教授	大野 公賀	2013.3.31 付け辞職
助教	安田 佳代	2013.3.31 付け辞職

事務長	石井 好和	2012.4.1 付け配置換 (転入)
主査 (図書コーディネーター)	石川 一樹	2012.4.1 付け配置換 (転入)
係長 (研究支援担当)	酒井 恵美	2012.4.1 付け配置換 (転入)
係長 (研究支援担当)	山下 英明	2012.4.1 付け配置換 (転入)
専門職員 (整理・サービス担当)	吉井 初己	2012.4.1 付け配置換 (転入)
係長 (整理・サービス担当)	大川 直子	2012.4.1 付け配置換
事務長	石井 好和	2013.4.1 付け配置換 (転出)
係長 (総務担当)	齋藤 泰徳	2013.4.1 付け配置換 (転出)
係長 (会計担当)	村上 靖朋	2013.4.1 付け配置換 (転出)

(2013 年度)

委嘱教授	田中 明彦	2013.4.1 付け委嘱
客員教授	Chard Robert Lawrence	2013.4.1 付け委嘱
助教	後藤 絵美	2013.4.1 付け採用
助教	張 馨元	2013.10.1 付け採用
助教	藤岡 洋	2013.10.1 付け採用
教授	名和 克郎	2013.10.16 付け昇任
特任教授	Charney Michael Walter	2014.3.31 付け任期満了退職
事務長	松井 潤一	2013.4.1 付け配置換 (転入)
係長 (総務担当)	宮本 威信	2013.4.1 付け配置換 (転入)
係長 (会計担当)	清水 雅弘	2013.4.1 付け配置換 (転入)
一般職員 (総務担当)	杉本 美穂	2013.4.16 付け採用 (臨時)
一般職員 (整理・サービス担当)	大堀明日香	2014.4.1 付け配置換 (転出)

(2014年度)

教授	中島 隆博	2014.4.1	付け昇任
委嘱教授	田中 明彦	2014.4.1	付け委嘱
客員教授	Chard Robert Lawrence	2014.4.1	付け委嘱
准教授	青山 和佳	2014.4.1	付け採用 (転入)
准教授	鍾 以江	2014.4.1	付け採用
教授	大木 康	2014.4.1	付け配置換 東アジア (第二) →センター
教授	平勢隆郎	2014.4.1	付け配置換 東アジア (第一) →センター
特任教授	Elman Benjamin Abraham	2014.7.1	付け採用
教授	佐藤 仁	2014.9.1	付け昇任
特任教授	Elman Benjamin Abraham	2015.1.31	付け任期満了退職
教授	松井 健	2015.3.31	付け定年退職
主任 (研究支援担当)	秋山 真紀	2014.7.1	付け出向 (転出)
一般職員 (総務担当)	杉本 美穂	2014.5.7	付け任期満了退職
主任 (研究支援担当)	西村 純子	2014.7.1	付け配置換 (転入)
副事務長	高橋 博行	2015.3.31	付け定年退職
係長 (資料受入担当)	須永 雅子	2015.3.31	付け定年退職

東京大学
東洋文化研究所
活動報告書 改訂PDF版
2012年度～2014年度（平成24年度～26年度）

2015年11月発行

発行者 東京大学東洋文化研究所
Institute for Advanced Studies on Asia
The University of Tokyo
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL 03-5841-5833
FAX 03-5841-5898
URL <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

印刷所 たつみ印刷株式会社
〒366-0029 埼玉県深谷市上敷免 28-2

